

科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也, 小林 基
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01453a1, L科: LL01355a1, D科・S科: IL01362a1, P科: YL01418a2, J科: JL01364a1, W科: WL01343a1, N科: NL01344a1		

授業概要・目的	<p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。</p> <p>授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。</p> <p>またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。</p> <p>この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。</p>
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 1限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題：北河内地域の概要について調べる（1時間） 事後課題：授業の進め方について確認する（1時間）
2	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
3	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
4	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
5	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
6	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
7	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
8	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
9	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
10	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
11	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
12	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
13	ワークショップ 1限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2時間）
14	ワークショップ 2限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2時間）
15	ワークショップ 3限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事後課題：授業で学んだことを復習する（2時間）

関連科目 ソーシャルイノベーション副専攻科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個人課題の評価 (40%)、グループごとのルーブリック評価 (30%)、グループワークの成果物 (30%) グループワークを行うため、毎回の出席が前提となります。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	増田知也 (法学部・法律学科) 寝屋川キャンパス 11号館10階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名 (英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01454a1, L科: LL01356a1, D科・S科: IL01363a1, P科: YL01419a2, J科: JL01365a1, W科: WL01344a1, N科: NL01345a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点のようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。</li> <li>2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことと、Well-beingを理解する。</li> <li>3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。</li> <li>4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを發揮する自らの職業観を確立する。</li> </ol> <p>なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-8.9</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身につける必要性を学ぶ。</li> <li>2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。</li> <li>3) Well-beingを理解し、実践するよう努める。</li> </ol>			
授業方法と留意点	<p>第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。</p> <p>また、座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行うこともある。</p>			
科目学習の効果(資格)	<p>最終的に、初歩的なビジネスプランを立てることができる。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。</li> <li>・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。</li> <li>・自己紹介後、グループ形成をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 自己紹介の原案を考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: 「ビジネスのイメージは?」というテーマでルールを守って自由に書くこと(2時間)</li> </ul>
	2	ビジネスの定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスとは何かを考察する。</li> <li>・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる(2時間)</li> </ul>
	3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。</li> <li>・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: NPOについて調べること(2時間)</li> <li>・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること(2時間)</li> </ul>
	4	ビジネス環境をとらえる① ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化の明暗について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること(2時間)</li> <li>・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
	5	ビジネス環境をとらえる② ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること(2時間)</li> </ul>
	6	ビジネス現場をとらえる ー オフィスからワークプレイスへー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
	7	ビジネス実務能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた 1 個条書きにすること(2時間)</li> <li>・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
	8	ビジネス実務の基本①ー 仕事の進め方ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。</li> <li>・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと(2時間)</li> <li>・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと(2時間)</li> </ul>
	9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: CSRについて調べ、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
	10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみること(2時間)</li> </ul>
	11	自己実現とキャリアプランニング ー セルフマネジメントと自己啓発ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。</li> <li>・社会の中における自己を位置づける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ・テキストの指定箇所(pp.164-174)を熟読し、ノートにまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通じた自己意識をレポートにまとめる。</li> </ul>

				と (2時間)
	12	ビジネス実務の基本④ービジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンスー	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDCA サイクルを理解する。</li> <li>マーケティングとコストの関係について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：業界内の2社のCMを比較し、その特徴をノートにまとめること (2時間)</li> <li>事後学修：次回のグループワークのために、3つのNPOの資料(スライド12~13)をしっかりと読み込むこと (2時間)</li> </ul>
	13	ビジネスプラン①ー起業への意識と「寄付の教室」ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄付行為の意味を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：寄付の意味を考え、まとめること (2時間)</li> <li>事後学修：寄付行為を行う基準を考えること (2時間)</li> </ul>
	14	ビジネスプラン②ープレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>作成したビジネスプランに基づいて発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：各自がテーマを見つけ、企画書を作成し、発表練習すること (2時間)</li> <li>事後学修：ビジネスプランの再考をする (2時間)</li> </ul>
	15	ビジネスプラン②ープレゼンテーション発表と授業の総まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>イノベーションの意味を再考する。</li> <li>VUCAの時代において、新たなビジネスの創出について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：この授業の学びをまとめること (2時間)</li> <li>事後学修を：新たな発見をすること (2時間)</li> </ul>
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリング	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。</li> <li>毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンを繰り返す予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。</li> </ul>			
学生へのメッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の研究室等	石井研究室 (寝屋川キャンパス、7号館5階)			
備考	<p>予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。</p> <p>学生のワークの進捗状況により、内容が前後することもある。</p>			

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まづさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約1時間)
	15	まとめ	全体のまとめを通じて、身近な犯罪を未然に防ぐには何が必要か結論を探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約1時間)
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。			
学生へのメッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 9階 中沼研究室			
備考	講義毎回の課題正解の提示などは Teams を通じて行う。			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01361a1～JT01365a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式、出席率80%以上を成績評価の対象とする。
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

評価方法 期末レポート (80%)、中間レポート (20%)

(基準)	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 8 階 武居教授室
備考	



科目名	教養刑事法	科目名 (英文)	Introduction to Criminal Law
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01361a1～JT01365a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的にみて大学生活を通じて学生による犯罪現象が散見される。</li> <li>・たとえば、保護責任者遺棄致死事案（サークル仲間の酩酊学生放置）、あるいは、未成年者誘拐や児童福祉法違反（SNS上での出会い）、職業安定法違反（バイトでの風俗あっせん）、ストーカー行為規制法違反（25通程度のメッセージ送信）、偽造と詐欺（定期券改ざん・闇バイトを通じた各種犯罪への関与）、偽計業務妨害（カンニング・飲食店備品に対する悪戯・バズリを狙う悪質動画作成）の事案など枚挙にいとまがない。</li> <li>・これらの犯罪は、おそらく大学生本人は犯罪だと思って実行したものでないであろう。しかし、こうした犯罪知識を身につけておかなければ知らぬ間に罪人とされ、実名報道により学生本人の将来の芽を摘み取ることになりかねない。</li> <li>・他方、これらの犯罪の被害者になりかねない学生も相当数いるであろう。犯罪被害者になったとき、迅速な対処法が被害を軽減するが、こうした知識を身につける機会が全学生にあまりない。</li> </ul> <p>本講座では、「転ばぬ先の杖」として学生時代に身につけておくべき犯罪とその被害対処法を提供し、全学生に安全な学生生活と社会人となった後も有用な刑事法教育を提供することを目的とする。</p>
---------	--

到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・刑法の謙抑性、罪刑法定主義、犯罪の成立要件および刑罰制度について説明できる</li> <li>・薬物犯罪をはじめとする学生にとくに身近な犯罪現象の内容について説明できる</li> <li>・犯罪被害者となった場合の対処方法について説明できる</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>
------	--

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。</li> <li>・本講義は、ICTツールとしてMicrosoft社のteamsを用いる。</li> <li>・課題提示や資料配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。</li> <li>・教員から一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。</li> <li>・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。</li> </ul>
----------	---

科目学習の効果（資格）	・身近な刑事法の問題を理解できる
-------------	------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 刑法とは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方と文献紹介</li> <li>・刑法の意義</li> <li>・刑法の機能</li> <li>・刑法学とは何か</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
2	刑法の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典学派と近代学派</li> <li>・わが国の刑法思想</li> <li>・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか）</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
3	刑法の解釈	<ul style="list-style-type: none"> <li>・罪刑法定主義</li> <li>・刑法の法源</li> <li>・刑法の解釈</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
4	犯罪の基本概念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪の成立要件</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
5	薬物犯罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚せい剤取締法</li> <li>・大麻取締法</li> <li>・向精神薬取締法</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
6	カンニング行為と偽計業務妨害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪大入試問題漏洩事件</li> <li>・明治大学替え玉入試事件</li> <li>・京大2次試験問題ヤフー知恵袋漏洩事件</li> <li>・大学入試共通テスト問題漏洩事件</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
7	飲み会と保護責任者遺棄罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲み会において生じうる犯罪現象</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
8	定期券の偽造と詐欺罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
9	ストーカー行為規制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーカーにならないために</li> <li>・ストーカーの被害者にならないために</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
10	DVとデートDV	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVの類型</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
11	性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種性犯罪</li> <li>・家出と各種誘拐罪</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
12	少年犯罪と「特定少年」制度の発足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少年法の厳罰化</li> <li>・20歳未満の実名報道</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
13	犯罪被害者救済①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・告訴と被害届</li> <li>・証拠保全の重要性</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
14	犯罪被害者救済②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害者に対する種々の救済制度</li> <li>・被害者の実名報道と被害者バッシング問題</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>

	15	まとめ	これまでの講義内容の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門刑事法（第8版）	三井誠	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
評価方法 （基準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度5%+課題の得点95%）。定期試験は実施しない。</li> </ul>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。</li> <li>・刑事事件に関心なる人はぜひ受講してください。</li> <li>・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11号館10階 小野教授室			
備考	<p>本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。</p> <p>オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャンネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。</p>			

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	1. 韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて授業を進める。 2. 授業は、①講義、②Moodleを通じたレジュメの配信および課題等の提出、という2つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 授業進捗の調整によって、授業の進行スケジュールに変更が生じる可能性がある。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果 (資格)	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 (「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。)	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (1)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (2)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	第I部 相互信頼から相互不信へ	第4章 「小春日和」の時代 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	第II部 対立激化への展開	第4章 「小春日和」の時代 (2) 第5章 領土問題の相克と定着化 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	第II部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化 (2) 第6章 民主党政権と李明博政権 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	第II部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	第II部 対立激化への展開	第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	第II部 対立激化への展開	第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	第II部 対立激化への展開	第8章 文在寅政権の転換	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
15	「平成時代の日韓関係」から何が見えるのか	韓国現代史と現代韓国社会 (講義のまとめと補遺)	[事前学習] 提示する資料を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 提示した資料を参照しながら、テキス

				トを読み返しておくこと（目安時間：60分）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国愛憎	木村幹	中公新書
	2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
	3			
評価方法 (基準)	定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 (課題の提示および提出は、Moodleを通じて行なう。)			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7号館4階 田中研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。</li> <li>・なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。</li> </ul>			

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 史一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>自分が歩みたい人生の実現を、人生100年にも迫り長期化する老後を、お金の面から支えるには、早くから長期的な資産形成に取り組み、単に「貯める (貯蓄)」だけではなく、貯めたお金を上手に「殖やす (投資)」ことが必要です。また、投資は「自己責任」が原則であり、取引にかかわるリスクやトラブルから自己防衛するための知識も重要です。</p> <p>早ければ社会人になってすぐ、自分で自分の年金 (確定拠出年金) の運用を始めなければなりません。何で、どのように運用するか...決められますか? 若年層の長期的資産形成を促すため、NISA 制度も改正されるなど政府の取り組みも本格化しています。経済的に自立し、将来の夢の実現のためにも、金融に関する知識や情報を正しく理解し、各自の生活設計に合う適切な取引を選択し、実践するスキルや判断力 (=金融リテラシー) を若いうちから身につけておくことが必要です。</p> <p>本講義では、社会人としても知っておくべき金融・経済に関する理解を深めるとともに、資産形成のために必要な基礎知識の習得を目指します。</p>
到達目標	<p>ライフステージの重要な意思決定の場面で、的確な行動やより良い判断へと導くリテラシーを養うことを目標に、金融やその背景となる経済知識について、基礎的な内容から実務の入口までをわかりやすく解説します。</p> <p>具体的には</p> <p>①金融や市場のさまざまな働きを知り、社会や自分との関わりについて理解を深めることができる</p> <p>②金融リテラシーを習得し、自ら主体的に判断し活用していく能力が身につく</p> <p>③自己のライフプランに基づく資金計画を作成し、課題を発見して適切な解決策を考えることができる</p> <p>以上を到達目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>基本的に対面による講義形式で授業を進めます。各回のテーマ毎にレジュメを配布します。</p> <p>授業では、重要と思われるところを積極的に聴き取りメモをとり、「なぜ」と自分の頭で考える訓練をしてください。</p> <p>また、日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。</p> <p>なお課題への参加や提出物は期限を厳守してください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>日々、刻々と変わるマーケットを理解し、中長期の経済トレンドを理解することができるようになります。</p> <p>金融商品の基礎知識を取得することにより、少なからず将来の資産形成に役立つことでしょう。</p> <p>また、ファイナンシャルプランナー資格 (民間資格) や、ファイナンシャル・プランニング技能士 (国家資格) の資格取得にも役立ちます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス/金融知力リテラシーの必要性	講義内容と成績評価等について説明した後、これからの時代、「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
2	金融・経済の基礎①	是非とも知っておいていただきたい金融と経済の基本について説明します。また、マーケットの視点で注目度の高い経済統計などの話もします。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
3	金融・経済の基礎②	物価と金利の関係や、金融政策や財政政策など経済と金融のかかわり、そして世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
4	ライフプランニング①	ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる。
5	ライフプランニング②	ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説し、具体的な作成手順を説明します	課題①として、大学卒業後のライフイベントを設定し、キャッシュフロー表を作成してもらいます。(注) 課題内容を変更する可能性もあります。
6	金融商品の基礎/貯蓄型商品	金融商品の特性について説明した後、預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	課題②として、授業テーマに先行して、株式投資ゲームの参加要項について案内します。
7	リスクとリターン	投資は利益 (リターン) をあげることを目的とする行為ですが、必ずリスクを伴います。このリスクとリターンの関係や、リスクの低減手法、いわゆるリスクマネジメントについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
8	株式の基礎①	株式投資の魅力とリスクについて説明します。また、実際の取引の仕組みや、株式投資を行う際に留意点などについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
9	株式の基礎②	株価の要因について説明します。また、株価のファンダメンタルズ分析手法や、株価チャート、テクニカル分析の基礎についても紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
10	債券の基礎①	債券とは何かから始め、多岐にわたる種類や特徴・リスクを説明します。また、利回りや「格付け」についても学びます。	財務省のHPで20年度予算の概要を確認
11	債券の基礎②	債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してもらいます。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
12	投資信託について	皆さんにとって最も身近になる金融商品です。投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
13	外為市場・外貨建て商品につ	外国為替市場の仕組みや取引について	日経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持

		いて	解説した後、代表的な外貨建て商品をリスクも併せて紹介します。	って頂きたい。
	14	証券化商・デリバティブ／セーフティネット	派生商品の概要について紹介します。そのあと、預金者および投資家を保護するための法令等について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
	15	講義のまとめ	これまでの講義を振り返り、ポイントを整理します。定期試験対策としての位置づけでもあります。	必ずレジュメを復習し、理解できるようにしてください。
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 : 60% 課題① キャッシュフロー表の作成 : 25% 課題② 株式投資ゲームの参加 : 10% 講義への取り組み姿勢 : 5% (注) 履修学生が多大会場、課題① キャッシュフロー表の作成を、他の課題に変更する可能性があります。			
学生への メッセージ	長年の実務経験をベースに、より実践的かつ現実的な話を、体験談も踏まえて分かりやすくお伝えしたいと思っています。 皆さんのこれからの時代は、金融・経済の知識、そして金融商品の知識があるのとないのとでは、将来の人生設計が大きく変わる可能性があります。是非、資産形成について一緒に学んでいきましょう。 なお、授業計画は変更される場合があります			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 3号館 1階 (教務課) 寝屋川キャンパス 7号館 2階 (非常勤講師室)			
備考	オフィスアワー : 授業の前後に対応します。 その他、質問等は メールもしくはMoodleのメッセージを利用してください。 この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。			

科目名	SDGs で読み解く淀川流域	科目名 (英文)	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石田 裕子, 赤澤 春彦, 朝田 康禎, 郭 進, 加嶋 章博, 久保 貞也, 小林 健治, 後藤 和子, 鳥谷部 壤, 中塚 華奈, 増田 知也, 八木 紀一郎
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs (2030 年までの世界の目標) との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来とSDGs	科目全体のガイダンス (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第1章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第2章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第4章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第7章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第6章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第8章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第9章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
9	淀川流域での学生活動	学生の活動が地域に与える影響とはなにか? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 久保貞也)	事前: 教科書[コラム③p. 154]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
10	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第11章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
11	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第10章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
12	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第12章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
13	産業連関分析	淀川流域における3市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第13章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
14	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第14章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第15章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs で読み解く淀川流域 近畿の水源地から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壤 編著	昭和堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 第2回目~15回目までの授業内で実施される理解度確認 (クイズ or 簡単な小レポートなど) (いずれも5点満点、14回分で計70点) と、期末のレポート (30点) の合計100点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、

	いずれか1つを選択し、A4で2枚程度のレポート作成に取り組む。
学生へのメッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいるSDGsについて、身近な地域を素材と一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはず。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1号館3階 都市環境工学科 石田研究室 寝屋川キャンパス 1号館7階 経済学部 後藤研究室、郭研究室、朝田研究室
備考	SDGsの17の目標とその内容は次の通り。SDG1（貧困をなくそう）、SDG2（飢餓をゼロに）、SDG3（すべての人に健康と福祉を）、SDG4（質の高い教育をみんなに）、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG6（安全な水とトイレを世界中に）、SDG7（エネルギーをみんなにそしてクリーンに）、SDG8（働きがいも経済成長も）、SDG9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）、SDG11（住み続けられるまちづくりを）、SDG12（つくる責任 つかう責任）、SDG13（気候変動に具体的な対策を）、SDG14（海の豊かさを守ろう）、SDG15（陸の豊かさを守ろう）、SDG16（平和と公正をすべての人に）、SDG17（パートナーシップで目標を達成しよう）。



科目名	データサイエンス実践	科目名 (英文)	Practical Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也, 朝田 康禎, 植杉 大, 片田 喜章, 橋本 はる美, 牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

**授業概要・目的**  
 これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。

**到達目標**  
 この講義の到達目標は以下の通りである。  
 (1) 現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる  
 (2) データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている  
 (3) インターンシップや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる

**授業方法と留意点**  
 本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。

**科目学習の効果 (資格)**  
 社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスが必要とされる理由 (オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、Society 5.0 時代のデータの価値について S科 久保教授	事前の学修進捗度 学修ノートの作成
2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S科 久保教授	データサイエンスの事例を調べる 学修ノートの作成
3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S科 牧野准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 S科 橋本准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S科 橋本准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
6	オープンデータの収集と活用	RESAS (地域経済分析システム) によるオープンデータの分析 W科 植杉教授	RESAS の操作 学修ノートの作成
7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W科 朝田准教授	オープンデータの事例を調べる 学修ノートの作成
8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア (SPSS) によるデータ整理 S科 牧野准教授	統計学に関する予習・復習 学修ノートの作成
9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S科 牧野准教授	学修ノートの作成
10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S科 牧野准教授	学修ノートの作成
11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S科 牧野准教授	GoogleForms について調べる 学修ノートの作成
12	研究につながるデータ分析	実践的な分析手法の活用 S科 牧野准教授	学修ノートの作成
13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E科 片田准教授	学修ノートの作成
14	広告効果のデータ分析	FileMaker Pro によるフィールドワークノートづくり S科 久保教授	FileMaker の事例について調べる 学修ノートの作成
15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション (ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) S科 久保教授	ELSI について調べる 学修ノートの整理 事後の学修進捗度

**関連科目** データサイエンス展開

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
		1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
		1		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業での課題 70%、事前事後の学修進展度(アンケート) 15%、学修ノート 15%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。 授業への遅刻は実習参加の妨げになるため十分注意してください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11号館7階 久保教授室、牧野准教授室、11号館8階 橋本准教授室、1号館7階 植杉教授室、朝田准教授室、1号館4階 片田准教授室
備考	

科目名	ジェンダーとダイバーシティ	科目名 (英文)	Gender and Diversity
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点を理解することが期待される。</p> <p>1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知り、ジェンダー視点で俯瞰する。  2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことから、ジェンダーの基本的理解はもちろん、主な思潮を通して社会を読む。  3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。  4) 日常生活やビジネスの場面でのコミュニケーションの必要性を理解し、アサーティブコミュニケーションの理論を知る。</p> <p>SDGs-5</p>
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって、さまざまな社会現象に対する発言に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダイバーシティの世界へようこそ</li> <li>政策提言へ向けて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: ダイバーシティに関して、調べること (1時間)</li> <li>事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3時間)</li> </ul>
2	ダイバーシティと境界線	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウチとソトの感覚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について箇条書きにしておくこと (2時間)</li> <li>事後学修: SDGs # 5がなぜ日本に問われているのか、その理由について、具体的な数字を入れてレポートを書くこと (2時間)</li> </ul>
3	ジェンダー視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>フェミニズム×女性学+男性学=人間学</li> <li>ジェンダーギャップ指数</li> <li>シモーン・ド・ボーボワール</li> <li>性別役割分業観</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること (2時間)</li> <li>事後学修: 日本が抱える問題 について、具体的な数字を入れてレポートを書くこと (2時間)</li> </ul>
4	日本の近代化	<ul style="list-style-type: none"> <li>大正期の白樺派と女権拡張運動</li> <li>明治の落とし物</li> <li>第5次男女共同参画基本計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2時間)</li> <li>事後学修: 第五次男女共同参画基本計画を読み、興味関心をもった項目についてレポートを書くこと (2時間)</li> </ul>
5	国際統計比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェンダーギャップ、ジェンダーエンパワメント指数などのデータから日本をみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2時間)</li> <li>事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2時間)</li> </ul>
6	性役割の形成①	<ul style="list-style-type: none"> <li>性役割と発達段階における「刷り込み」</li> <li>性自認</li> <li>GIDと SOGI と人権</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2時間)</li> <li>事後学修: テキスト P40~52 と、授業を受けて理解できたことなどをまとめたレポートを作成 (2時間)</li> </ul>
7	性役割の形成②	<ul style="list-style-type: none"> <li>性自認と家族</li> <li>親役割</li> <li>性的指向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: ハラスメントの事例を一つ探し、具体的内容をレポートする 準備をすること (2時間)</li> <li>事後学修: 結婚と母性信仰に関して、レポートを作成 (2時間)</li> </ul>
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>6名の女性に関するグループワークとプレゼン</li> <li>セクシュアリティ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 6名の女性に関するプレゼン (2時間)</li> <li>事後学修: 6名の女性から学んだことのレポート作成 (2時間)</li> </ul>
9	ワークライフバランスとビジネス組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェンダーマネジメント</li> <li>働き方改革</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2時間)</li> <li>事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2時間)</li> </ul>
10	アサーティブコミュニケーション①	<ul style="list-style-type: none"> <li>アサーティブとは何か</li> <li>世界中でアサーティブネスが用いられる理由</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: アサーティブネスについて調べること (2時間)</li> <li>事後学修: アサーティブネススキルを用いて問題解決事例を考える (2時間)</li> </ul>
11	アサーティブコミュニケーション②	<ul style="list-style-type: none"> <li>スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2時間)</li> <li>事後学修: ワークシート#11 (2時間)</li> </ul>
12	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>リプロの正しい意味を理解する</li> <li>リプロの歴史と現状の課題を確認する</li> <li>DV、デート DV について現状を理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: リプロの意味と現状を調べる (2時間)</li> <li>事後学修: ワークシート#12 (2時間)</li> </ul>
13	DV とデート DV	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業比較から政策提言へ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: DV とデート DV に関してレポートを作成 (2時間)</li> <li>事後学修: ワークシート#13 (2時間)</li> </ul>

	14	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>政策提言プレゼンテーション</li> <li>自由討議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）</li> <li>事後学修各プレゼンテーションについての報告書作成（2時間）</li> </ul>
	15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：まとめのワークシート（2時間）</li> <li>事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）</li> </ul>
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
評価方法 (基準)	グループワーク（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	みなさんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	石井研究室（寝屋川キャンパス、7号館5階）			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 受講生のワークの進捗状況や社会現象の発生に応じて内容が前後することもある。			

科目名	データサイエンス展開	科目名 (英文)	Data Science Applications
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	諏訪 晴彦・石井 三恵・伊藤 譲・後藤 一章・瀬川 智広・横山 喬之・米本 涼
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	IT・インターネットの利用が日常化し人とのつながりが増えるとともに、デジタル情報やデータの影響を受ける場面が飛躍的に増加している。今後のデジタル駆動社会においては情報化・デジタル化の特徴を理解した上で、生活を豊かにしていく「データリテラシー」を身に付けていることが必要となっている。本科目では、政策、衣食住、ものづくり、イベント広告、まちづくりの広範な分野における数理・データサイエンス・AIとデジタル技術の実践例を通じて、これらが社会や産業、日常生活の基盤になりつつあることを学ぶ。また、高度情報社会において、データを駆使し諸問題を解決する、また価値を創造する人材の素養を涵養する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIが、Society5.0 (データ駆動型社会) やインダストリー4.0の基盤となっていること、それが自らの生活と密接に結びつくことを理解し説明できる。 (2) 数理・データサイエンス・AIが対象とする「データの活用領域」は広範にわたり「社会で活用されているデータ」が社会や日常生活の課題解決に不可欠であることを理解し説明できる。 (3) 数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域の知見と組み合わせることにより、価値創出するものであることを理解し説明できる。 (4)
授業方法と留意点	・産官学のさまざまな分野の講師によるオムニバス形式である (12回分)。 (外部から講師を招聘するため、日程やテーマが変更となることがある。) ・事前学習として、関連動画を視聴 (もしくは資料を精読) し興味や関心、講師への質問をレポートとしてまとめる。 ・事後学習では授業で理解したことをまとめ、到達目標の(1)から(4)の達成度を自己分析・評価する。 ・事前事後学習のレポートはすべて ICT ツールを利用する。
科目学習の効果 (資格)	・AI・データサイエンスの実際を様々な分野の実務家や研究者から学ぶことで、視野を広め、今後の自身のキャリア形成や就職活動に役立てることができる。 ・数理・データサイエンス・AIの関連資格への興味を拡大することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大学人としてのデータサイエンス	本講義の目的と概要 オリエンテーション グループワークの概説	事後学修: レポート (1時間)
2	データ駆動社会	・Society5.0 概論 ・オープンデータ活用 ・デジタルトランスフォーメーション (DX)	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
3	サイバーセキュリティ	サイバー攻撃と防御の最前線、データ駆動や AI による最先端のセキュリティ技術を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
4	食サービス×データサイエンス	食品産業におけるデータ分析やデータサイエンスの活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
5	ものづくり×データサイエンス	ものづくりの設計や製造現場におけるデータサイエンスや AI 技術の活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
6	イベント×データサイエンス	イベント企画におけるデジタル技術の活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
7	数理・データサイエンス・AIを知る	・数理・データサイエンス・AI のメリット・デメリットをグループワークで学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
8	広告×データサイエンス	広告業界における SNS マーケティングなどデジタル技術・データサイエンスの活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
9	言語×データサイエンス	言語とデータ化、テキストマイニングの仕組みと技術を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
10	まちづくり×データサイエンス	地方創生など新たなまちづくりにおけるデータ分析の活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
11	ヘルスケア×データサイエンス	医薬品開発やヘルスケアにおけるデータサイエンスの活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
12	スポーツ×データサイエンス	選手のコンディションや戦況分析などスポーツ科学におけるデータ分析の活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
13	衣料×データサイエンス	顧客のニーズに即応する衣料品開発と製造におけるデータサイエンスの活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
14	政策×データサイエンス	サイバー空間における大規模人口シミュレーション技術を用いた選挙や年金などの制度設計を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
15	社会人としてのデータサイエンス	社会人として身につけておくべき DX 思考、情報倫理、協働姿勢などをグループワークで学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)

関連科目	情報系科目すべて		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前学習およびグループワーク課題 30%、事後課題レポート 70%で評価する。			
学生への メッセージ	社会で注目されている AI・データサイエンス活用の最前線で活躍している講師陣から学んでください。社会に対する視野を広げることができ、就職活動においても選択肢を増やすことになり有利です。			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】1号館 4F 諏訪教授室、7号館 3F 石井教授室、1号館 3F 伊藤教授室			
備考	米本研究室 (7号館 5階)			

科目名	コンピュータビジョン入門	科目名 (英文)	Introduction to Computer Vision
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博, 新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	われわれの視覚機能をコンピュータを使って実現する分野がコンピュータビジョンである。外界から入力される画像や映像から物体認識をしたり、状況を理解させたりすることをプログラムで実現するものである。このためにプログラミングの基礎から始めて、各種の画像処理の手法をプログラム作成を通じて学ぶ。さらに機械学習の初歩的な課題に取り組み、その仕組みを知ることを目的とする。
到達目標	プログラミングの基礎スキルを獲得し、それに基づいて各種の画像処理手法や機械学習の仕組みを学び、自分でプログラミングする素養を身につけること。
授業方法と留意点	毎回、パソコンを使用してプログラムを作成します。初歩的なプログラムの作成から始めて、徐々にステップアップします。欠席した場合には自分でフォローアップしないといけないので注意が必要です。
科目学習の効果 (資格)	基本的なプログラムの作成を通してプログラミングを学び、基本情報処理試験の基礎技能を養います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	python 入門 (1)	演算とリスト	授業内容の予習 課題の完成
3	python 入門 (2)	制御構造と論理演算	授業内容の予習 課題の完成
4	python 入門 (3)	関数	授業内容の予習 課題の完成
5	python 入門 (4)	その他	授業内容の予習 課題の完成
6	OpenCV プラグラミング (1)	画像入力装置と静止画・動画フォーマット デジタル画像と配列	授業内容の予習 課題の完成
7	OpenCV プラグラミング (2)	色空間 濃淡変換	授業内容の予習 課題の完成
8	OpenCV プラグラミング (3)	フィルタ処理	授業内容の予習 課題の完成
9	OpenCV プラグラミング (4)	2値画像処理	授業内容の予習 課題の完成
10	OpenCV プラグラミング (5)	複数画像の利用	授業内容の予習 課題の完成
11	OpenCV プラグラミング (6)	幾何学変換	授業内容の予習 課題の完成
12	OpenCV プラグラミング (7)	距離画像処理	授業内容の予習 課題の完成
13	OpenCV プラグラミング (8)	特徴抽出と機械学習	授業内容の予習 課題の完成
14	機械学習プログラミング (1)	ディープラーニング	授業内容の予習 課題の完成
15	機械学習プログラミング (2)	最終プロジェクト	授業内容の予習 課題の完成

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	OpenCVによる画像処理入門 (改訂第3版)	小枝, 上田, 中村	講談社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業内課題 (60%)、プロジェクト課題 (40%)
学生へのメッセージ	われわれの視覚情報処理を知ることは、脳のしくみを知ることにつながります。プログラミングは創造的な活動のひとつです。文系理系に関わらず、興味のある人の参加を待っています。
担当者の研究室等備考	寺内研究室 (寝屋川キャンパス、11号館10階)、新居研究室 (寝屋川キャンパス、7号館5階)

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙、大川 謙蔵、大塚 正人、尾山 廣、佐藤 大作、白鳥 武、村瀬 憲昭
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01361a1~JT01365a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、法学、経済学、環境工学、建築学、農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め、獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます。このような流れを通じて、大学生として必要な、SDGs を理解するための教養 (特に、社会、経済、環境等) を身につけ、その知識をもとに考え、自分の意見を持ち、討議ができるようになります。
到達目標	(1) 世界の目標 SDGs (2030 年までの世界の目標) について学び、説明と討議をすることができる。 (2) 現代世界の課題について知り、SDGs との関係の説明をすることができる。 (3) 課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4) 自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使します。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、グループワークにより課題に取り組みます。授業の最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料の管理状態も評価対象です。
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後 : CHAP1 を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か①	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	SDGs とは何か②	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
4	SDGs とは何か③	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
5	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1 : 目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動とは <a href="https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw">https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw</a>
6	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1 : 目標 14, 15 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動の対策 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPzJE">https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPzJE</a>
7	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1 : 目標 2, 3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2 : 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
8	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2 : 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後 : 第 1 回レポート
9	地球共生デザインを考える I : 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) の ABD サマリを作成する。 事前 2 : 【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 A-カナダ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまとめてみる。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
10	地球共生デザインを考える II : 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : 目標 : 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) の ADB サマリを作成する 事前 2 : 前回も使った【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 B-日本のアイヌ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまと



				めてみる。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えてPPT1枚にまとめること。																
	11	日本の国際貢献と法整備支援1	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前1：目標6、9、13を学び、ABDサマリを作成する。 事前2：以下のWeb記事を読み、法制度と法整備の必要性について、の概要を把握しておくこと。 <a href="https://www.moj.go.jp/housouken/houso_lta_lta.html">https://www.moj.go.jp/housouken/houso_lta_lta.html</a>																
	12	日本の国際貢献と法整備支援2	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前1：目標16、11、10を学び、ABDサマリを作成する。 事前2：以下のWeb記事の初めの段落と第三の「私見」を読み、当時の社会状況を理解しておくこと。 <a href="https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf">https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf</a>																
	13	持続可能な企業経営とESG投資1	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前：CHAP4を学び、ABDサマリを作成する。																
	14	持続可能な企業経営とESG投資2	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前：CHAP5を学び、ABDサマリを作成する。																
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17の復習 事後：第2回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)</td> <td>バウンド</td> <td>技術評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)	バウンド	技術評論社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)	バウンド	技術評論社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解度確認クイズ(個人:10%)</li> <li>事前・事後学習課題・ABDサマリ(個人:15%)</li> <li>取組み姿勢(チーム:20%)</li> <li>成果発表・プレゼンテーション1回(チーム:10%)</li> <li>振り返りシート(個人:20%)、レポート2回(個人:20%)、授業資料管理(個人:5%)</li> </ul> <p>※以上の合計で60%以上の学生を合格とする。また、出席率80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。</p>																			
学生への メッセージ	授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	<b>【枚方キャンパス】</b> 大塚教授(薬学部1号館5F) <b>【寝屋川キャンパス】</b> 村瀬准教授(1号館7F)、伊藤教授(1号館3F)、尾山教授(理工学部1号館9F)、白鳥准教授(12号館7階)、佐藤准教授(1号館3F)、大川准教授(11号館9F)																			
備考	この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。期末試験はないので、毎回の提出物と授業中の取り組み姿勢が重要です。																			

科目名	まちづくり入門	科目名 (英文)	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	熊谷 樹一郎, 池内 淳子, 伊藤 譲, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 加嶋 章博, 久保 貞也, 中塚 華奈, 野長瀬 裕二, 野村 佳子, 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

**授業概要・目的**  
 これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動が続いている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。

**到達目標**  
 (1) まちづくりの課題を多面的に理解できる  
 (2) 大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する  
 (3) 主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている

**授業方法と留意点**  
 本授業ではまちづくりに関係する多様な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。

**科目学習の効果 (資格)**  
 学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる姿勢を理解する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大学がまちづくりに関わる意義 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)	オリエンテーション 都市計画とまちづくり 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	事前: シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後: 授業担当者から指示する
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方市駅周辺開発室 部長 大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)	都心とまちづくり 大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻 嘉名 光市 教授	授業担当者から指示する
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)	グループ発表 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	授業担当者から指示する
5	民間団体が関わるまちづくり (1)	産業とまちづくり 経済学部 野長瀬教授	授業担当者から指示する
6	民間団体が関わるまちづくり (2)	商業とまちづくり 経営学部 久保准教授	授業担当者から指示する
7	民間団体が関わるまちづくり (3)	空き家とまちづくり 理工学部住環境デザイン学科 稲地准教授	授業担当者から指示する
8	民間団体が関わるまちづくり (4)	観光とまちづくり 経済学部 野村教授	授業担当者から指示する
9	民間団体が関わるまちづくり (5)	グループ発表 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	授業担当者から指示する
10	市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)	まちづくりの担い手としての市民 法学部 増田講師	授業担当者から指示する
11	市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)	福祉とまちづくり 現代社会学部 上野山講師	授業担当者から指示する
12	市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)	都市農業とまちづくり 農学部 中塚准教授	授業担当者から指示する
13	市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)	歴史・文化とまちづくり 理工学部建築学科 加嶋教授	授業担当者から指示する
14	市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)	防災とまちづくり 理工学部建築学科 池内教授	授業担当者から指示する
15	大学生がまちづくりに関わる役割	グループ発表 C科 熊谷教授	事前: これまでの講義の振り返り 事後: 振り返りレポート

**関連科目**

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

**評価方法 (基準)**  
 原則として、各回の事後レポートがすべて提出されていることも評価の前提となります。グループワークを通じた発表を含む授業中の課題 (60%)、事後レポートの採点結果 (40%) とした上で、総合評価されます。

**学生へのメッセージ**  
 ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。

**担当者の研究室等**  
 寝屋川キャンパス・1号館4階 熊谷教授室



科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)	科目名 (英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。</li> <li>派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。</li> <li>派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。</li> <li>事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。</li> <li>グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。</li> <li>年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>事前授業①</td><td>留学に向けての動機付け</td><td>なし</td></tr> <tr><td>2</td><td>事前授業②</td><td>参加者間で仲間意識を作る</td><td>レポート提出</td></tr> <tr><td>3</td><td>現地実習</td><td>詳細は説明会、事前授業時に提示</td><td>現地講師の指示により</td></tr> <tr><td>4</td><td>事後授業</td><td>留学での学びのふりかえり</td><td>レポート提出</td></tr> <tr><td>5</td><td>成果報告会</td><td>留学での成果を披露</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし	2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出	3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により	4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出	5	成果報告会	留学での成果を披露		6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし																																																																
2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出																																																																
3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により																																																																
4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出																																																																
5	成果報告会	留学での成果を披露																																																																	
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)																																																																		
学生へのメッセージ	参加した学生は多くのことを得て帰国しています。ある程度まとまった期間海外に行けるのは今のうちかもしれません。新しいチャレンジとして、この機会をぜひ活用してください。																																																																		
担当者の研究室等	鎌田講師室(寝屋川キャンパス2号館2階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名 (英文)	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	フーオミッド* サジヤト*
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

**授業概要・目的**

This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論 (入門). This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values. This course will also be using collaborative online international learning (COIL) to learn together with students in different countries.

- 到達目標**
1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures.
  2. Increase knowledge of both historical and recent global events.
  3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen.
  4. Acquire pr

**授業方法と留意点**

This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The course will also challenge students to rethink about their inherent ideas and values that are tied to their cultural environment. Additionally, building from the contents students should have learned from グローバル・シチズンシップ論 (入門), students will communicate their ideas with students abroad to expand their knowledge about global citizenship.

\*本科目の履修申請にあたっては以下の事項に留意すること。

- 本格目はグローバル・シチズンシップ副専攻を履修している2年次以上の学生を主な対象としているが、寝屋川キャンパスの2年次以上の学生であれば履修申込が可能である。
- 全て英語で実施される科目なので、履修者には少なくともTOEIC500点程度の英語力をあらかじめ備えていることが期待される。履修申請時には現在所持しているTOEICスコア等、自身の英語力を自己申告する必要がある。グローバル・シチズンシップ副専攻の履修者以外の学生については、履修の可否について選考が行われる場合がある。
- 本科目の開講曜日、時限は、履修登録後に登録済学生の各所属学部での時間割に配慮しつつ調整、決定されるので、平日の5限または6限といった遅い時間帯の開講となる可能性がある。
- そのほか、履修に関する留意事項について不明の点があれば2号館2階グローバル教育センター(旧・国際交流センター)に相談すること。

**科目学習の効果(資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
5	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
6	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
7	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
8	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)

	9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
	10	Economic justice	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
	11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues																
	12	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
	13	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
	14	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
	15	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (入門)																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の際は教員まで連絡して下さい】</td> <td>Julie Knutson</td> <td>Nomad Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の際は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の際は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Presentations: 40%																			
学生へのメッセージ	Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other.  We will be doing online exchanges with students in different countries in this course. This will be an interesting collaboration, so let's look forward to learn																			
担当者の研究室等	教員室1 (2号館2階)																			
備考																				

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用)	科目名 (英文)	Overseas Study for Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン (地球市民) の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目を履修する学生は「グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)」または同等の科目を履修済でなければならない。履修者は、グローバル教育センターが主催する海外派遣プログラムのいずれかに参加し、これまでの副専攻および各学部での学びを生かした応用レベルの活動を行う。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この科目での学びを GCMP の集大成とする成果報告を行い、各学部での卒業研究や進路決定に活用することが期待される。</p> <p>なお、事前に承認された活動 (例: 協定校への長期留学を利用した社会貢献プロジェクト) の成果報告をもって本科目の単位を認定する場合がある。</p>
---------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有し、当該の派遣プログラムの主題となる社会課題との関連を説明できる。</li> <li>当該の派遣プログラムの主題となる社会課題について、課題の概要と解決への取り組みを実体験に基づいて説明できる。また、日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。</li> <li>派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通を行い、相互理解と信頼関係を築く。</li> <li>異なる言語、文化が混在するチームで課題に取り組み、必要</li> </ul>
------	---

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合 (アルバイト、旅行等) による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。</li> <li>年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。</li> </ul>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前授業評価 30%	(規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合)		
	現地活動評価 40%	(現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合)		
	事後授業評価 30%	(成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)		
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	鎌田講師室 (寝屋川キャンパス 2号館 2階)			
備考				



科目名	大学教養基礎Ⅱ	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	上野山 裕士, 森 亜貴
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	摂南大学のなかでもとくに文系学科における学びについて、対話、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング手法を用いて理解を深める。大学教養基礎Ⅱでは、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びを取り上げる。この講義を通じて履修者は、摂南大学における学修方法を体得するとともに、学修者自身の関心事を明確にすることが期待される。
到達目標	①摂南大学、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びの概要を理解し、その特徴を説明することができる。 ②アクティブ・ラーニング手法の体験を通じて、摂南大学における主体的な学びの手法を理解し、実践することができる。 ③自らの学術的な関心事を口頭および文章を用いて表現することができる。
授業方法と留意点	PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、グループでの対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどのアクティブ・ラーニング手法を積極的に取り入れた授業を実施する。受講生には、それらに主体的に参画することを求める。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明、グループの決定、本講義における学びの方法について対話的に考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 本講義における学びの方法を復習する
2	経営学部における学びについて (オンデマンド)	経営学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 経営学部について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
3	農学部 (食農ビジネス学科) における学びについて (オンデマンド)	農学部 (食農ビジネス学科) 教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 農学部 (食農ビジネス学科) について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
4	現代社会学部における学びについて (オンデマンド)	現代社会学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 現代社会学部について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
5	経営学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
6	経営学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
7	農学部 (食農ビジネス学科) における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
8	農学部 (食農ビジネス学科) における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
9	現代社会学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
10	現代社会学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
11	プレゼンテーションに向けたポスター作成	グループとして学びのテーマを1つ選定し、発表用のポスターを作成する	【事前】 ポスター作成に向けた準備 【事後】 ポスター発表会に向けた準備
12	ポスター発表会、ふりかえり①	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
13	ポスター発表会、ふりかえり②	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	学びレポートの作成 (オンデマンド)	グループで取り上げたテーマのなかからさらに学術的関心事を絞り込み、文献等を用いてレポートを作成する	【事前】 レポート作成に向けた情報収集 【事後】 レポート記載内容のふりかえり
15	レポートに対するフィードバック (オンデマンド)	受講生から提出された学びレポートを踏まえた総括的講義	【事前】 各学部における学びの内容の復習 【事後】 授業全体のふりかえり

関連科目	大学教養基礎Ⅰ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	グループワークおよびポスター発表会への参画度合い (ピア評価; 15%)、グループで作成するポスター (25%) のほか、個人で作成する事前学
------	---

(基準)	修シート (30%)、学びレポート (20%)、ふりかえりシート (10%) の内容を総合的に評価し、60%以上を合格とする。評価にあたっては、成果物の内容に加えて、ルーブリック表などを用いた担当教員による評価、プロジェクトメンバーによるピア評価を積極的に取り入れる。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	【寝屋川キャンパス】 3号館3階 上野山研究室 2号館2階 ラーニングセンター
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義ではオンデマンド授業と対面授業を実施します。対面授業は、2024年9月3日(火)、4日(水)の1限～5限に開講し、履修者はこの対面授業にすべての時間、出席することが必須となります。</li> <li>・講義の性質上、履修者は、ファシリテーターとしての基礎的な素養を身につけていることが期待されます。</li> <li>・本講義では授業準備やふりかえりなど、事前事後学修に60時間程度取り組んでいただきます。</li> </ul>

科目名	ポジティブ行動支援の基礎・基本	科目名 (英文)	Basic of Positive Behavior Support
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的  
平成 28 年 6 月に「発達障害者支援法」が一部改正され、「発達障害者の支援は社会的障壁の除去に資すること」を旨として行われなければならないこととされた。言うまでもなく周りの人間の意識こそが一番の障壁となる。この学修を通して、発達障害のある人やその周辺の人たちの困まっている状況を理解し、適切な支援・配慮ができるようになることでその障壁を少しでも取り除く原動力になろう。そのためにはまず知ることが大切だ。教職課程を履修している学生だけでなく、興味・関心のあるすべての学生の参加を待っている。

到達目標  
①ポジティブ行動支援の概要と実践事例を理解する  
②応用行動分析理論の考え方を理解し、実際の生活に生かす  
③発達障害のある人やその周辺の人たちの困まっている状況を理解し、適切な支援・配慮について学ぶ  
④「友達や家族の良い行動」に着目し、適切な支援・配慮ができるようになる  
⑤「自分自身の良い行動」に着目し、自己有能感・自己有用感を培う

授業方法と留意点  
①授業は対面式で行う。ICT ツールは Teams を使用する  
②グループワークを取り入れるので積極的に自分の経験や意見を発表すること  
③教科書は特に指定しないが、参考図書は随時紹介する。積極的に活用すること。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ポジティブな行動支援を学ぶ意義と本授業のガイダンス	ポジティブ行動支援を学ぶ意義を理解する 授業の進め方や評価方法等について知る	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
2	ポジティブな行動支援とは	ポジティブな支援とネガティブな支援の違いについて、実際に学校現場等で行われている指導の事例を基に理解する	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
3	ポジティブな人間関係づくり	同じ場で学ぶ学生同士でできるポジティブ行動支援を考え、演習を行う	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
4	応用行動分析の基礎 1	ポジティブ行動支援の基礎となる応用行動分析の考え方を学ぶ	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
5	応用行動分析の基礎 2	事例を基に、応用行動分析の理論をもとにその支援方法を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
6	コミュニケーションが苦手なこだわりの強い生徒へのポジティブ行動支援 1	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
7	コミュニケーションが苦手なこだわりの強い生徒へのポジティブ行動支援 2	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
8	落ち着きがなかったり、不注意で失敗することが多かったりする生徒へのポジティブ行動支援	事例を基に、主に ADHD の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
9	傷付きやすい人へのポジティブ行動支援	事例を基に、主にいわゆる「繊細さん」について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
10	保護者と良い関係が結ばなかったと思う人へのポジティブ行動支援 1	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
11	保護者と良い関係が結ばなかったと思う人へのポジティブ行動支援 2	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
12	大人の発達障害へのポジティブ行動支援 1	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
13	大人の発達障害へのポジティブ行動支援 2	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
14	障害を持つ子の保護者とポジティブ行動支援	障害を持つ子の保護者の話を聴き、自分にできそうなポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
15	まとめ	この講義全体を振り返り、自分にできるポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)

関連科目  
心理を扱った科目及び教職科目全般と関連を持つ。ただしこれらの予備知識は必要としない。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめてのポジティブ行動支援	松山康成	明治図書
	2	保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック	三田地真実他	金剛出版
	3			
評価方法 (基準)	授業の出席・積極的参加 60% レポート40%			
学生への メッセージ	本講座を履修し、一緒に学修することで、実際の生活に役立つ知識・技能を身につけ、「共に幸せになる幸せ」を実感しましょう。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階 松浦研究室			
備考				

科目名	人間関係論 (ファシリテータートレーニング)	科目名 (英文)	Human Relations Approach (Facilitator Training)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	「ラボラトリー方式の体験学習」という人間関係に関わる実習（グループ活動）を行い、その体験から自分自身と他者との関わり、人間関係の持ち方、自分自身について気づき、学ぶ授業です。実習後はその体験をふりかえり、次の学びにどう生かすかを考え、次の実習に生かしていきます。体験から得た学びに関する理論に関する講義（小講義）もあります。
到達目標	・体験を通し、自分自身の人間関係の持ち方、他者への関わり方、自分自身について気づく ・体験から気づいた点を生かし、グループ関係をよりよく保つための働きかけができる
授業方法と留意点	実習（グループ活動）とそのふりかえり、ディスカッション、講義 体験（実習）からの学びが中心ですので、出席と参加度を重視します

科目学習の効果（資格）	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 体験学習の体験	授業についての説明 体験学習についての説明 ミニ実習	
2	体験学習①	情報誌を使った実習とふりかえり	授業での学びをまとめる
3	体験学習のサイクル	講義	この授業での自身の目標を決める 学んだことをまとめる
4	体験学習②	コミュニケーションに関する実習	体験での学びをまとめる
5	コミュニケーションについて	講義	学んだことをまとめる
6	体験学習③	「聴く」実習	体験での学びをまとめる
7	ジョハリの窓とフィードバックについて	講義	学んだことをまとめる
8	体験学習④	コンセンサス実習① (正解のある課題)	体験での学びをまとめる
9	グループにおける合意形成について	講義	学んだことをまとめる
10	体験学習⑤	コンセンサス実習② (正解のない課題)	体験での学びをまとめる
11	体験学習⑥	POPO (グループを観察する)	体験での学びをまとめる
12	ファシリテーション、リーダーシップについて	講義	学んだことをまとめる
13	体験学習⑦	活動的な実習	体験での学びをまとめる
14	ふりかえり	これまでの授業で学んだことをグループごとにふりかえる	ミニレポート
15	まとめ	授業全体のまとめ、ふりかえり 今後はどう生かすか	

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間関係トレーニング	津村俊充・山口真人編	ナカニシヤ出版
2	プロセスエデュケーション	津村俊充	金子書房
3			

評価方法（基準）	実習参加態度（30%）、課題（20%）、期末レポート（50%）
学生へのメッセージ	さまざまな活動を通し、自分自身について、これからの生き方について考えるきっかけになる授業だと思います。自ら学び、学び方を学ぶ授業です。いつもと違う自分を試してみたい、何かチャレンジしてみたいという人にはおすすめです。
担当者の研究室等	教員室2（寝屋川キャンパス2号館2階）
備考	

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂口 有崇, 加野 佑弥, 中澤 芽衣, 松本 恭幸
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1357a1, W科: WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABDの体験	事前学習:『おとなの教養』序章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門:第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第一章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門:第三章 人類の旅程	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読む(1.5時間以上)
4	教養入門:第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門:第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
6	教養入門:中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(1時間以上) 事後学習:第1回レポート(0.5時間以上)
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsとは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGsとは何か、指定した資料を調べる(1.5時間以上)
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsを考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGsとは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:UNAIとは何かを調べる(1.0時間以上) 事後学習:第2回レポート(0.5時間以上)
10	自分を知る教養:岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養:第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養:第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養:第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(1時間以上) 事後学習:第3回レポート

	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	(0.5時間以上) 事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (1.5時間以上)
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み・ディスカッション 15%</li> <li>・プレゼン相互評価・グループポスター 15%</li> <li>・レポート 15%</li> <li>・振り返りシート・個人ポスター・メモ 20%</li> <li>・クイズ 15%</li> <li>・事前学習シート 15%</li> <li>・ファイリング 5%</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部、学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 坂口有芸 (7号館5F)、加野 佑弥 (7号館5F)、中澤芽衣 (3号館3F)、松本恭幸 (3号館3F)			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	新居 英志, 加野 佑弥, 坂口 有芸, 森 亜貴, 米本 涼
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1		

**授業概要・目的**  
この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。  
本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。

- 到達目標**
- (1) 大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。
  - (2) ABDによる読書法の基礎（要約、プレゼンテーション、対話）を身に付けている。
  - (3) 自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。
  - (4) チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。
  - (5) わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。
  - (6) テーマにそった対話（感想、質疑応答）を行うことができる。
  - (7) 自主学習の習慣を身に付けている。

**授業方法と留意点**  
授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。

**科目学習の効果 (資格)**  
大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。 ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説 (教科書、ABD とは) 協働学習 (p. 18-47: 要約, プレゼン, 対話), 振り返りシート	『おとなの教養2』序章を読み, 事前学習シートを作成する。
2	私たちはいま、どこにいるのか？ 第一章「AI とビッグデータ」	チーム分け, 役割分担, 確認試験 解説 (振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書第一章を読み, 事前学習シートを作成する。
3	私たちはいま、どこにいるのか？ 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説 (事前学習シート), 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み, 事前学習シートを作成する。
4	私たちはいま、どこにいるのか？ 第三章「想像の共同体」	解説 (事前学習シート), 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 投票と表彰, 振り返りシート	教科書第三章を読み, 事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う (2時間程度)
5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表1回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答, 評価 振り返りシート	教科書第四章～第六章を読み, 事前学習シートを作成する。 事後学習: 第1回レポート
6	説明力を鍛えるヒント: 第一章「間違いだらけの数学観」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	『数学的思考法』第一章を読み, 事前学習シートを作成する。
7	説明力を鍛えるヒント: 第二章「試行錯誤という思考法」	QFT (質問づくり) 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み, 事前学習シートを作成する。
8	説明力を鍛えるヒント: 第三章「数学的思考のヒント」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第三章を読み, 事前学習シートを作成する。
9	説明力を鍛えるヒント: 第四章「論理的な説明の鍵」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第四章を読み, 事前学習シートを作成する。
10	説明力を鍛えるヒント 中間発表2回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答, 評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う (2時間程度) 事後学習: 第2回レポート
11	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	『星の王子さま』1~10章を読み, 事前学習シート (要約, 感想) を作成する (2時間程度)
12	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書 11~20章を読み, 事前学習シートを作成する
13	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説, 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書 21~27章を読み, 事前学習シートを作成する
14	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説, 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話)	教科書あとがきを読み, 事前学習シートを作成する



			QFT (中間発表のテーマ出し) 振り返りシート																	
	15	教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う (2時間程度)  事後学習：第3回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養2</td> <td>池上彰</td> <td>NHK出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>数学的思考法—説明力を鍛えるヒント</td> <td>芳沢 光雄</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養2	池上彰	NHK出版	2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	3	数学的思考法—説明力を鍛えるヒント	芳沢 光雄	講談社現代新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	おとなの教養2	池上彰	NHK出版																	
2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫																	
3	数学的思考法—説明力を鍛えるヒント	芳沢 光雄	講談社現代新書																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み 15%</li> <li>・プレゼン 15%</li> <li>・レポート 20%</li> <li>・振り返りシート 15%</li> <li>・クイズ 15%</li> <li>・事前学習シート 15%</li> <li>・ファイリング 5%</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 坂口有芸(7号館5F)、新居英志(7号館5F)、森亜貴(2号館2Fラーニングセンター)、加野佑弥(7号館5階)、米本研究室(7号館5階)																			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。																			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういった経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聞き理解を深めます。特に苦手な学生は予習・復習を確実にを行い、疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 (文章読解) 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)

学生へのメッセージ 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得して行ってください。

担当者の研究室等備考 寝屋川キャンパス 7号館3階 全学教育機構

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠・森 亜貴
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験 (SPI や玉手箱等の総合適性検査) 対応力をつけるために、予習・復習を確実にし疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと (目安: 30分)・実力テストを復習しておくこと (目安: 30分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 (文章読解) 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと (目安: 2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)

学生へのメッセージ 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の研究室等 寝屋川キャンパス 7号館3階 全学教育機構

備考

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験 (SPI や玉手箱等の総合適性検査) 対応力をつけるために、予習・復習を確実にを行い疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと (目安: 30分)・実力テストを復習しておくこと (目安: 30分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 (文章読解) 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと (目安: 2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)

学生へのメッセージ 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得して行ってください。

担当者の研究室等 寝屋川キャンパス 7号館3階 全学教育機構

備考

科目名	成人看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	稲垣 美紀, 稲垣 範子, 竹下 裕子, 長沢 美和子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN3039a0		

授業概要・目的	周手術期にある対象を全人的にとらえ、理論と実践を結びつけた看護活動を展開する能力を養う。 急性期看護の臨床経験のある教員が、臨地実習指導者と協働して指導を行う。
到達目標	1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助的関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別の特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 術前・術中・術後の基本的な看護技術を原理・原則に基づき、安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることがで
授業方法と留意点	本実習は、2年後期の成人看護学援助論Ⅰ（急性）、3年前期の成人看護学援助論Ⅱ（急性）での学修を活かして、臨地で受け持ち患者に対して看護実践を行います。既習科目の資料や教科書を復習し、大切に保管してください。実習計画については、オリエンテーションで具体的に説明します。オリエンテーションをきいて、しっかりと事前学習を行って、実習に参加してください。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験に必須の科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	実習病棟および受け持ち患者を想定した知識の理解	事前 オリエンテーション 学内オリエンテーション	【事前】一般的な周術期患者の看護に必要な知識・実習病棟や受け持ち患者に必要な知識の整理、技術演習 【事後】実習後の追加・修正
2	実習病棟および受け持ち患者を想定した看護展開の理解	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した情報収集項目の整理、病態関連図の作成 【事後】実習後の追加・修正
3	実習病棟および受け持ち患者を想定した看護実践の理解	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した看護技術ワークシートの記載 【事後】実習後の追加・修正
4	受け持ち患者に沿った看護問題の明確化、看護目標の設定、看護計画・実践・評価	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した看護計画の立案、評価 【事後】実習後の追加・修正
5	実習の成果の発表 自己課題の明確化	臨地実習成果発表会 学内成果発表会	【事前】自己課題シート、成果発表会資料の作成 【事後】実習後の追加・修正
6	詳細な予定や事前・事後課題の説明は、各オリエンテーションで、担当教員より個別に説明します。		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ（急性）、成人看護学援助論Ⅱ（急性）

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） ルーブリック評価表を用いて、評価を行います。評価表は、オリエンテーションで説明します。

学生へのメッセージ 失敗を恐れず、しっかりと報告・連絡・相談を行って、積極的に実習できることを期待しています。不明なことや不安なことがあれば、遠慮なく教員にたずねてください。

担当者の研究室等 7号館3階 稲垣美紀研究室

備考

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	森谷 利香・志戸岡 恵子・松本 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3039a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 臨地実習としての看護実践を通して以下について学習し、慢性疾患を持つ対象への看護に関する基礎的能力を身に着ける。 本科目は担当教員の実務経験に基づき実践的教育を行う。</p> <p>【目的】 慢性疾患の発病初期、急性増悪期、終末期といった様々な経過にある、主に成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実に向けて対象が治療に伴う療養生活に主体的に取り組むことができるよう援助する看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p>																																																																
到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 慢性疾患を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。</li> <li>2) 対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。</li> <li>3) 対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。</li> <li>4) 対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。</li> <li>5) 対象とその家族が直面</li> </ol>																																																																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習グループは原則として1グループ5名編成とする。</li> <li>2) 実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。</li> <li>3) 実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。</li> <li>4) 原則として臨地に出向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。</li> <li>5) カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。</li> <li>6) 実習中に指定された記録物を作成する。すべての記録物は、期日を厳守して提出する。</li> <li>7) 実習を通して、自己の課題を明確にする。</li> <li>8) 実習を通じた学びを振り返り、発表することで、学びを共有する。</li> </ol> </li> <li>2. 実習期間・病棟実習時間 期間...3週間 病棟実習時間...原則として9時～16時(うち1時間を休憩とする)</li> <li>3. 実習施設 独立行政法人 地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター 関西電力病院 住友病院</li> </ol>																																																																
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験に関係する科目です。																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>別途説明します。</td><td>別途説明します。</td><td>別途説明します。</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	別途説明します。	別途説明します。	別途説明します。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	別途説明します。	別途説明します。	別途説明します。																																																														
2																																																																	
3																																																																	
4																																																																	
5																																																																	
6																																																																	
7																																																																	
8																																																																	
9																																																																	
10																																																																	
11																																																																	
12																																																																	
13																																																																	
14																																																																	
15																																																																	
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ(慢性)、成人看護学援助論Ⅱ(慢性)、疾病・治療Ⅰ～Ⅲ等																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																																																																
学生へのメッセージ	この実習は慢性的な健康問題をもつ対象への看護の実際を学ぶ機会となります。まずは関連する科目の学習が重要です。それらを基盤として、実習で応用することで理解を深めるとともに技術を習得しましょう。																																																																
担当者の	研究室29 森谷																																																																

研究室等	
備考	

科目名	哲学	科目名 (英文)	Philosophy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1403a2		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまうがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけでなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出くわることになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人間は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において登場する問題と考え方のいくつかを学びます。
到達目標	1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ (DP1)
授業方法と留意点	配布資料を教科書として用いる。 授業終わりにコメントを提出してもらい (方法は初回授業で指示する)、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果 (資格)	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方や評価基準等を確認する	予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える (30分)
2	なぜ「哲学」をするのか?	古代ギリシアの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
3	「知る」とは何か?	プラトンの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
4	「絶対に疑えないもの」は何か?	デカルトの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
5	物事を「経験」するとはどういうことか?	ロックの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
6	世界は本当に「存在」するの か?	バークリの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
7	実は「私」しか存在してい ないのではないか?	独我論を学ぶ	予習：主題となる議論について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
8	「理性」はどこまで考えられ るのか?	カントの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
9	「自由」とは何か?	近代哲学における自由概念の変遷を学 ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
10	存在しないものに「感情」を 抱くか?	フィクションについての考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
11	どうすれば「人間の生きる世 界」を観察することができる のか?	フッサールの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
12	「言葉」は「意味」を伝える ためだけのものか?	サールの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
13	「他者」とはどういうもの か?	レヴィナスの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
14	「客観性」とはどのようなこ とか?	正しさの多様性について考える	予習：主題となる議論について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
15	まとめ	講義全体を振り返り、哲学の意義を考え る	予習・復習：講義ノートを見直す (計1時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>観念論ってなに? オックスフォードより愛をこめて</td> <td>富田恭彦</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	観念論ってなに? オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	観念論ってなに? オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書														
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業内課題80%、毎回の授業コメント20%の割合で評価する。																



学生へのメッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性（生きている間にできること）が広がります。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室で対応する。

科目名	経済学	科目名 (英文)	Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	王 秀芳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01411a2		

授業概要・目的	本講義では、経済や経済学を初めて学ぶ人あるいは経済学の基礎知識を身に付けたいという人を対象として、経済や経済学の基本から、ミクロ経済学およびマクロ経済学の理論の基礎までを取り上げて、経済や経済学に関する基本的知識を修得します。
到達目標	受講者が経済学の基本的概念と考え方を習得し、世の中の経済問題や、日ごろの経済記事と経済ニュースを理解できることを到達目標とします。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業は基本的に、Review (前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容 (ポイントについて解説)、練習問題 (内容に対応する課題) の形式で進めていきます。</li> <li>Moodle (授業支援システム) を利用して資料の配布・課題提出等を行います。</li> </ul>

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	需要の理論と消費者行動の理論	消費者の消費行動、需要曲線、消費者余剰などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
3	供給の理論と需要曲線と弾力性	供給者 (生産者) 行動、供給曲線、利潤最大化、生産者余剰などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
4	市場の理論	市場の効率性、完全競争、社会的余剰、市場の失敗などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
5	市場の失敗	外部効果、公共財、情報の非対称性、独占市場などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
6	中間まとめ及び GDP (国内総生産)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間まとめ (ミクロ経済学の総まとめ及び小テスト)</li> <li>GDP の概念、実質 DGP と名目 GDP、GDP 統計などについて解説します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
7	消費と貯蓄、投資	消費関数、消費性向、投資関数、投資の限界効率などについて解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
8	政府の支出及び総需要の経済学	資源配分の改善、所得の再分配、総需要均衡所得 乗数効果などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
9	金融市場の分析	貨幣の定義、貨幣の役割、貨幣創造、貨幣需要関数 金融政策の基本などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
10	IS-LM モデル	IS 曲線と LM 曲線の導出、IS 曲線と LM 曲線のシフト、財政・金融政策などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
11	IS-LM モデルを使った分析	失業、有効需要、財政・金融政策、グラウディング・アウト、流動性の罫などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
12	物価の分析	貨幣数量説、総需要曲線、総供給曲線、サプライショックなどについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
13	国際経済 (開放マクロ経済)	輸出と輸入、比較優位と貿易利益、国際分業と産業構造の変化などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
14	国際版 IS-LM 分析 (開放マク	為替相場制度、輸出入、国際資本移動及	事前学習では前回までの講義内容をノート等で確

		ロ経済学)	びマンデル＝フレミング・モデルについて解説します。	認・見直しを行っておくこと (30 分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1 時間)。
	15	講義全体の総括及び確認テスト	・第 1 回から第 1 4 回までの授業内容の総まとめ ・第 1 回から第 1 4 回までの授業内容に関する確認テスト	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30 分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1 時間)。
関連科目	医療経済論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ミクロ経済学の基礎	小川光／家森信善	中央経済社
	2	マクロ経済学の基礎	家森信善	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内課題 50%、小テスト及び確認テスト 50%</li> <li>ただし再受験の学生はレポート 100%で評価します。</li> </ul>			
学生へのメッセージ	講義では出来る限り平易に解説していきます。講義を毎回受講し、熱心に学ぶ姿勢をもったやる気のある受講生を望みます。			
担当者の研究室等				
備考				

科目名	臨床医療実践演習	科目名 (英文)	Clinical Medical Practice
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2507a3		

授業概要・目的	チーム医療を推進するために、多職種および地域医療機関などにおける協働や連携に関して、現状を把握し、今後のあり方を考察する。本科目では、多職種との連携、役割と機能への理解を深めるため、チーム医療の行われる実践の場での活動例や体験などを基に、実践的に修得する。
到達目標	ここでは、さまざまな年齢層や生活の背景をもった人が集まるコミュニティに活動の場を広げ、住民主体の健康づくりにおける支援策を検討する。また、コミュニケーション合意形成のプロセス等、住民と協働しチーム医療活動について、より発展的な学習を目指す。 1. 地域医療を展開するために必要とされる基本的な知識を獲得する。 ①モデル地区が抱える地域医療の課題を理解し、地域における健康に関する課題に対し介入方法を考案する。 ②地域で暮らす様々な健康レベルにある人、その家族の生活について理解する。 ③地域社会を健康の視点から捉える方法を理解する。 ④地域で暮らす人々の健康を支える資源・システムを理解する。 ⑤ヘルスプロモーションの理念および地域の健康を推進する方策を理解する。 2. パートナリシップを形成する基本的態度を獲得する。
授業方法と留意点	事前・事後学習をもとにグループ内でのディスカッションを経て提言をまとめていく。2015年度から関わりのある松塚地区をモデル地区として、保健医療福祉について考える。演習の中に講義を盛り込み、フィールドワークを通して健康づくり活動の実践を行うため、学生主体の能動的学習が主な授業方法となる。この科目は、農学部食品栄養学科の学生と合同で行う。
科目学習の効果 (資格)	地域の活性化、地域医療、健康寿命の延伸に関わる活動に参加することは、医療従事者の役割の広がりや体感することとなり、住民の健康づくり活動のPDCAサイクルを身につけることに寄与する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	科目オリエンテーションと概要説明 アクティブエイジングとヘルスプロモーション、健康学習の理論と方法 栄養改善に向けた具体的な取り組み例の紹介	講義形式 左記の概念についてレディネスを想起する	事前:左記の概念についてまとめる(0.5時間) 事後:講義の内容を理解し、事前学習のものに追加する(0.5時間)
2	松塚地区の地域医療とチーム医療の取り組み(公助、共助(互助)、自助) 地域診断について	演習形式 統計資料を基に、松塚地区の健康概況を学ぶ 地域診断の重要性、地域診断を行うための地区踏査の方法について学ぶ	事前:松塚地区の人口動態、衛生統計資料を収集する(0.5時間) 事後:地域診断方法について復習し、地区踏査の視点をまとめておく(0.5時間)
3	地区踏査の実施	実践 松塚地区の地区踏査を行う 交野市社会福祉協議会、松塚地区地区長、松の実カフェ運営者といった方々とディスカッションを行う。	事後:地区踏査の視点に沿って、まとめる。写真、資料などの選択をする
4	地区踏査の実施	実践 松塚地区の地区踏査を行う 交野市社会福祉協議会、松塚地区地区長、松の実カフェ運営者といった方々とディスカッションを行う。	事後:地区踏査の視点に沿って、まとめる。写真、資料などの選択をする
5	地区踏査の整理	演習形式 地区踏査の内容をマップにする。既存資料やインタビューで得た内容を合体し松塚地区の地域診断を明らかにする	事後:時間内にマップ作りができなかった場合は、グループで作成する(1時間)
6	地区踏査の発表	実践 地域診断の結果について、松塚地区の方々にプレゼンテーションを行う	事前:発表の資料、役割を決めプレゼンできるようにしておく(1時間)
7	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの企画-	演習形式 健康教育・学習において効果的な媒体の学習を行う 松塚地区の地域診断を基に、また、現在の健康トピックスを検討しテーマを決め、健康だよりの1ページ分を企画・作成する既存の媒体の検討	事前:①健康教育・学習の効果的媒体作成について学習しておく(0.5時間) ②既存の健康だよりの資料を集めておく(0.5時間) ?健康に関するトピックスについて案をもちよる(1時間) 事後:グループ課題を自己で行う(1時間)
8	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの作成-	演習形式 健康教育・学習において効果的な媒体の学習を行う 松塚地区の地域診断を基に、また、現在の健康トピックスを検討しテーマを決め、健康だよりの1ページ分を企画・作成する既存の媒体の検討	事後:グループ課題を自己で行う(1時間)
9	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(1)	演習形式 松塚区民祭りでのアクティブエイジング健康チェックの企画を立案する P.Pモデルを用いてニーズを分析し、企画書、指導案を作成していく	事前:①昨年の状況について情報を収集しておく。 ②企画案に必要な項目を学習する(0.5時間) 事後:グループ課題を行う(0.5時間)
10	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(2)	演習形式 松塚区民祭りでのアクティブエイジング健康チェックの企画を立案する P.Pモデルを用いてニーズを分析し、企	事後:グループ課題を行う(1時間)

			画書、指導案を作成していく	
	11	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康 チェック- 企画(3)	同上 関係機関、関係者、ボランティア学生との 打ち合わせに参加する アンケートの作成	事後:企画書、スケジュール、役割、アンケートを 指定期日までに作成する(1時間)
	12	アクティブエイジング健康 チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打 ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5時 間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にして おく(0.5時間)
	13	アクティブエイジング健康 チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打 ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5時 間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にして おく(0.5時間)
	14	アクティブエイジング健康 チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打 ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5時 間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にして おく(0.5時間)
	15	アクティブエイジング健康 チェックの評価	演習形式 当日の全体の状況、アンケート集計結果 から健康チェックの評価を行う アンケートについては、事前に入力し図 表に表しておく 健康認識、健康状況、昨年からの改善な どから健康チェックの意義・改善点につ いて提言する	事後:レポートを期日までに作成し提出する(1時 間)
関連科目	各領域別看護学、公衆衛生看護学、公衆衛生学、公衆栄養学、臨床栄養学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	健康行動と健康教育-理論、研究、実践-	Karen Glanz 編 曾根智史訳	医学書院
	2	新しい健康教育	日本健康教育士養成機構編著	保健同人社
	3	住民の主体的組織活動の展開	中村裕美子	医学書院
評価方法 (基準)	企画書、指導案、作品、実践レポートについて60%、地域活動の実践状況について40%の評価を行う。			
学生への メッセージ	この科目は、学生の能動的学習が中心です。松塚地区の概況やそこに暮らす人々の健康・生活・思考に興味関心を抱き、健康増進へ向けての課題を多職種や住民の方々と検討していきたいと考えています。実習で身につけてきた知識・技術・態度を十分に発揮して、チーム医療の本来の在り方や地域包括ケアの在り方について実践を踏まえて考えていきましょう。地域での健康増進活動に関心のある方はぜひ受講ください。住民の方々の思いを聴きこれからの実践に活かせるよう共に考えていきたいと思ひます。			
担当者の 研究室等	山本 十三代 研究室5 小川 宣子 研究室10 百木 和 8号館研究室219 畦西 克己 8号館研究室220			
備考				

科目名	保健医療福祉行政論	科目名 (英文)	Health and Welfare Administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 十三代, 松田 千登勢
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6△		
科目ナンバリング	NDN1019a0		

授業概要・目的	人口の少子高齢化、健康格差の拡大、震災などによる生活変化への対応など、日本国内の社会のあり方が大きく変わりつつあり、人々の生活の安心・安定を支える社会の仕組みも変わる必要に迫られている。将来、保健医療専門職として社会で活躍する上で必要不可欠な社会保障を中心に、根拠法を含む保健医療福祉行政とその制度の歴史の変遷と概要、仕組みについて、講義を通じて学び、理解を深める。また、日本の公衆衛生の向上と発展の視点から、今後あるべき保健医療福祉行政や、保健・医療・福祉の連携、専門職の役割について、講義を通じて考察する。
到達目標	1. 保健医療福祉行政の概要について理解できる。 2. 保健医療福祉行政の歴史の変遷について理解できる。 3. 社会福祉制度について理解できる。 4. 社会保障制度について理解できる。 5. 保健医療福祉行政とその制度・仕組み、制度ごとの関係や違いについて理解できる。 6. 今後の保健医療福祉行政の方向性や、専門職の連携と役割について考察できる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義中心にmoodle、Teamsを用いて行う。教科書は必ず持参すること。授業の内容によっては資料も配布する。また視聴覚教材の活用、時事ニュースなどの引用、事例をを交えた形で授業を進める。講義終了後は、講義資料やノートの整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、調べるなどした上で、次の授業時間を活用して質問するなど、主体的に学習にとりくむ。
科目学習の効果 (資格)	社会保障制度と福祉の動向を知ることにより、看護の対象者への支援について幅広く考えることができる。 保健師・助産師・看護師国家試験においても社会保障制度の出題は増加しているため、試験対策としても知識習得をしていく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	保健医療福祉行政の概要と変遷 (1)	社会福祉・社会保障とは何か 社会保障の仕組み・機能・歴史 保健医療福祉の財源	事前: テキスト p42 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
2	保健医療福祉行政の概要と変遷 (2)	社会福祉の担い手と役割 社会福祉の実践方法 社会資源の活用方法	事前: テキスト p43~p76 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
3	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <子ども・家庭と福祉>	子ども・家庭福祉の理念と目的 子育て支援・少子化対策に関する施策 児童虐待・母子保健に関する施策	事前: テキスト p80~p96 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
4	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <障害児・者と福祉>	障害者を守る法律の概要 障害者を支援するサービス体系 自立支援医療 障害者雇用および支援	事前: テキスト p98~p110 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
5	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <難病対策>	難病対策の取り組み、改革の内容 難病患者に対する医療等に関する法律	事前: テキスト p111~p119 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
6	社会福祉の制度 <生活保護>	公的扶助制度 生活保護における生活保障 給付の要件と保護基準、見直し	事前: テキスト p136~p149 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
7	社会福祉の制度 <地域福祉>	地域福祉の定義と理念 地域福祉計画 保健・医療と福祉の連携	事前: テキスト p152~p161 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
8	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <高齢者と福祉>	高齢者保健福祉施策の社会的背景、目的、理念、経緯 老人福祉法による高齢者支援 今後の課題 高齢者の権利擁護と虐待防止	事前: テキスト p120~p133 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
9	社会保障制度 <医療保険制度>	医療保険制度の沿革、しくみ 高齢者医療制度 医療保険制度の課題	事前: テキスト p171~p186 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得ておくこと (30分以上)。 事後: 授業内容を整理しておくこと (1時間)。
10	社会保障制度 <年金制度>	公的年金制度の意義としくみ 沿革、概要、給付 企業年金などの概要 課題	事前: テキスト p164~p170 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
11	社会保障制度 <雇用保険と労災保険>	雇用保険制度の役割、しくみ、課題 労災保険制度の概要、給付 業務災害、通勤災害の認定	事前: テキスト p200~p210 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
12	社会保障制度	制度創設の背景	事前: テキスト p187~p199 まで熟読する。さらに

		<介護保険 (1) >	介護保険制度の概要(意義、しくみ、実施体制と財源)	授業テーマに関する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
	13	社会保障制度 <介護保険 (2) >	介護サービスの利用 介護サービスの内容	事前：授業テーマに関する事柄について最新情報を臨む (30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
	14	社会保障制度 <介護保険 (3) >	介護保険制度の見直しと課題	事前：授業テーマに関する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
	15	保健医療福祉行政の計画と評価	地方自治体の保健医療福祉計画 地方自治体の計画策定 計画の推進と管理・評価	授業テーマに関する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
関連科目	公衆衛生学、医療経済論、各領域の看護学概論				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	【電子】ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障(3)：社会福祉と社会保障 第4版		増田 雅暢 編集	メディカ出版
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2023/2024 (第70巻第9号)			一般財団法人 厚生労働統計協会
	2	国民の福祉と介護の動向 2023/2024 (第70巻第10号)			一般財団法人 厚生労働統計協会
	3				
評価方法 (基準)	授業ごとのミニレポートの提出と期末試験期間中に定期試験を行い総合して評価を行う。				
学生への メッセージ	授業では、保健医療福祉行政論を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義します。看護師、保健師、助産師の国家試験の出題率も高い内容であるため、予習復習をしっかりと行うと同時に、社会保障制度や社会福祉制度に関する日々のニュースに関心を持って、国の動きに着目していきましょう。				
担当者の 研究室等	山本十三代 7号館3階 研究室5 松田千登勢 7号館3階 研究室6				
備考	本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業の座席は指定とします。追加の文献や資料などは授業中に紹介します。				

科目名	看護管理学	科目名 (英文)	Nursing Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	神谷 美紀子, 撫養 真紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP6○, DP7◎		
科目ナンバリング	NDN3031a0		

授業概要・目的	<p>看護管理の視点から、組織・人材、社会・行政、情報、経済・経営、安全などに関する基本的な知識を学び、医療・看護の質の向上に向けた効果的で効率的な看護管理のあり方を検討する。具体的には、医療チームの一員として多職種との連携と看護職の専門性、看護職としてのキャリア形成、自身の健康管理などを学習する。さらに、看護管理の目的は、看護活動によって人々の健康と幸福に貢献することであり、看護管理からみた看護職の倫理、医療安全を患者・家族と協働し組織として取り組む方法などについて学ぶ。</p> <p>授業では、組織における看護管理の実務経験がある看護管理者が、自らの看護管理の経験を活かしてヘルスケア組織における効果的・効率的な運営などの講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>4回/ 神谷 美紀子 (第1回・第6回・第7回・第8回)</p> <p>4回/ 撫養 真紀子 (第2回・第3回・第4回・第5回)</p>
---------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護に関する制度・政策から病院などの組織のあり方と病棟管理までをシステムとして理解することができる。</li> <li>2. 看護管理に関する諸理論と看護実践のあり方を説明できる。</li> <li>3. 医療・看護の質向上において、看護管理のあり方や重要性が理解できる。</li> <li>4. 看護専門職としてキャリア形成に向けて必要なことが考察できる。</li> </ol>
------	--

授業方法と留意点	<p>授業形式は講義中心であるが、少人数でのグループ討議も取り入れ学びを深める。これまでの実習で経験したことと、看護管理を結び付けて考察する。</p> <p>教科書と配布されたプリントを使用して講義を行うため、事前に必ず指定の最新版の教科書を準備すること。事前・事後学習課題の欄に、各回の内容に該当するテキストページを書いているので、テキストを読み予習をして授業に参加する。テキストページの記載がない場合、授業テーマと内容・方法の欄の内容について予習を行う(事前・事後の学習時間: 2時間程度)。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	<p>看護管理は、どのような場においても対象を中心に看護サービスを提供するために必要な学修である。</p> <p>より良い看護の提供を創造できる看護職になるために自律的な成長への課題を見出すことができる。</p> <p>看護師国家試験受験のための必須科目でもある。</p>
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	病院における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護管理の基盤となる知識</li> <li>・看護マネジメントの基本</li> <li>・看護の質と安全</li> <li>・看護と病院経営</li> </ul>	<p>事前学習: 統合実習で実習する医療施設かまたは過去に実習した医療施設における看護体制、チーム間の連携、医療や看護および安全との関係について調べ、該当する教科書 (p76~121) の内容を読んでおく。(1時間)</p> <p>事後学習: 本日の講義及びグループワークの内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習における学びの根拠を整理する。(1時間)</p>
2	看護管理の基本となるもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護管理とは</li> <li>・看護管理の基盤となる知識</li> <li>・看護管理のプロセス</li> </ul>	<p>事前課題: 教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書 p15-157)。統合実習で受けた病院看護管理者の講義や実習の学びを振り返っておく(1時間)。</p> <p>事後課題: 講義内容に該当する教科書の部分を読み復習する。授業終了後に示す課題についてレポートを作成する(1時間)。</p>
3	看護活動を取りまく法律・制度と労務管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護管理に関する法律</li> <li>・保健医療福祉政策と最近の動向</li> <li>・看護と専門機関・職能団体</li> </ul>	<p>事前学習: 教科書の該当箇所(教科書 p286-319)を熟読し授業に参加する。特に、保健師助産師看護師法と看護職の労働管理・労働安全衛生法及び看護職の働き方(日本看護協会)を調べておく(1時間)。</p> <p>事後学習: 本日の講義内容に該当する教科書の部分を読みなおす。また日本看護協会や厚生労働省のホームページを閲覧し、看護職のよりよい労働環境について整理する(1時間)。</p>
4	看護職とキャリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人になる</li> <li>・看護の教育体系</li> <li>・看護職としてのキャリア</li> </ul>	<p>事前学習: 教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書 p256-283)。冒頭でキャリアについて小グループでの演習を行うので、自らのキャリアについて考えてくる(1時間)。</p> <p>事後学習: 自己の描くキャリアデザインの実現のためにはどのような課題があるのか考え整理する。授業終了後に示す課題についてレポートを作成する(1時間)。</p>
5	看護管理に求められる能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セルフマネジメント</li> <li>・人とかかわるためのスキル</li> <li>・集団に働きかけるスキル</li> <li>・グループワーク、ディスカッション</li> </ul>	<p>事前学習: 教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書 p236-253)。人・集団に関わるために必要なスキルを考えてくる(1時間)。</p> <p>事後学習: 本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み自己の行動傾向として必要なスキルについて考え整理する。授業終了後に示す課題についてレポートを作成する(1時間)。</p>
6	看護の質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護管理と倫理</li> <li>・医療安全</li> <li>・医療・看護の質と評価</li> </ul>	<p>事前課題: 医療施設における看護の質を高めるための取り組み、評価の具体例についてインターネットを利用して調べ、自分の考えを整理しておく(1時間)。</p> <p>事後課題: 看護の質を高めるために、新人看護師の自分にできることについて、授業でのディスカッションや発表等をもとにレポートを作成する(1時間)。</p>
7	病院のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院・医療機関の組織と機能</li> </ul>	<p>事前学習: 本日の内容に該当する教科書 (p160-203,</p>



			<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事故と安全管理</li> <li>・災害対応</li> <li>・病院機能評価</li> </ul>	216-234)の内容を読んでおく。(1時間) 事後学習:本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する(1時間)。
	8	病院、施設における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護管理のスキル</li> <li>・組織の理解</li> <li>・看護と経営</li> <li>・看護活動を取りまく法律・制度</li> </ul>	事前学習:臨地実習で学修した管理について振り返っておく。(1時間) 事後学習:本日の講義内容に該当する教科書の部分(p206-213)を読み実習での学びの根拠を整理する(1時間)。
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目	保健医療福祉行政論、看護関係法規、看護学概論、各領域の看護学概論、看護倫理、実習科目全般、キャリアデザイン			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナースが・グラフィック 看護の統合と実践(1)看護管理 第5版	吉田千文他	メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜提示する		
	2			
	3			
評価方法(基準)	最終の課題レポートおよび授業での小課題の内容を総合して評価する。最終の課題レポートと小課題の割合については、講義において示す。			
学生へのメッセージ	看護管理は管理者だけが行うものではありません。チームの一員として一人一人が自分の果たす役割を認識したうえで、メンバーシップ・リーダーシップを発揮できるように取り組むこと。主体的に参加し、自己の考えを述べ、ディスカッションにより多様な考えを受止め、視野を広げられることを期待します。講義では教科書を使用します。教科書は国家試験勉強及び就職後にも読む機会がありますので、必ず準備してください。			
担当者の研究室等				
備考	質問等があれば、講義を担当した教員まで連絡をください。撫養先生の場合、メールアドレス(makiko_muya@cnas.u-hyogo.ac.jp)に連絡をください。オフィスアワーは授業実施後です。			

科目名	看護倫理	科目名 (英文)	Nursing Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP5△, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	NDN3064a0		

授業概要・目的	あらゆる対象や看護場面で遭遇する倫理的諸問題に対する感受性を高め、倫理原則や理論を用いて、倫理問題の解決に向けた姿勢を育む。担当責任者である鎌田は、臨床で看護師としての6年の実践経験をもとに、具体的な事例に対する倫理原則や理論を用いたアプローチ方法および、倫理的な姿勢について教授する。
到達目標	1. 倫理理論、倫理原則、諸概念について理解する。 2. 倫理問題に関わる人々の立場や背景を理解し、考慮できる。 3. あらゆる側面から倫理的に判断する素地を身に付ける
授業方法と留意点	臨地実習で各学生が体験した倫理場面を取り上げ、課題を見出し、倫理課題のアプローチ法に基づき個人およびグループ間で検討します。3, 4年生の臨地実習で経験した気になる事例や場면을想起しておいて下さい。授業はグループ作業を多く取り入れていますので、しっかり話し合い協力して進めて下さい。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護倫理の基礎	・倫理とは ・倫理原則 ・倫理的な姿勢とは ・意思決定のプロセス	事前:基礎看護学概論で学習した看護倫理にかかる概念について、復習しておく。(1時間) 事後:実習での倫理課題の場面を再構成する(1時間)
2	倫理課題へのアプローチ法	・看護における倫理 ・4分割法を用いた倫理課題へのアプローチ法について	事前:個々の事例の整理(1時間) 事後:看護の倫理的課題を明確にする(1時間)
3	倫理課題へのアプローチの実際	・具体的な事例を用いて、倫理課題の分析 ・倫理カンファレンスの進め方について	事前:事例の看護倫理について自己の考えをまとめる(1時間) 事後:自己の事例について、倫理的課題を分析する(1時間)
4	事例検討	・各学生が関わった事例の倫理課題についてグループで検討する	事前:事例の倫理課題についてグループワーク(1時間) 事後:グループワークのレポート作成(1時間)
5	事例検討内容の発表	・検討の内容をプレゼンテーションし共有する	事前:プレゼン資料の作成(1時間) 事後:グループワークのまとめ個人ワーク個人ワーク作成(1時間)
6	薬害被害者の体験	・薬害の被害者から実体験を聞き、医療行為に対する自己の姿勢を考える	事前:薬害被害について(1時間) 事後:授業を受けて感じたこと、考えたことをレポートにまとめる(1時間)
7	子ども虐待と倫理	・子どもの権利侵害としての虐待 ・わが国の子ども虐待の現状 ・親権 ・しつけと体罰	事前:子ども虐待について(1時間) 事後:子ども虐待に対する看護職の役割について考える(1時間)
8	子ども虐待と倫理 臨時試験	・多視点から子ども虐待の現状を理解し、看護を考える	事前, 事後:全授業のまとめ(各1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 生命倫理、看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論、母性看護学概論、助産学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、在宅看護学概論、全看護学実習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	臨床倫理ベーシックレッスン	石垣靖子他	日本看護協会
2	看護倫理-見ているものが違うから起こること-	吉田みつ子, 川島みどり	医学書院
3	医療倫理学のABC	井部俊子監修	メジカルフレンド社

評価方法 (基準)	課題 20%、臨時試験 80%
学生へのメッセージ	臨地実習では、看護倫理の授業を意識し、倫理的な感受性を高めて下さい。外部講師への依頼の関係でシラバス内容および順番が変更する可能性があります。
担当者の研究室等	7号館3階 鎌田研究室 17
備考	・実習で経験した事例をもとに倫理的な視点から振り返り、グループディスカッションを通じて事例を検討を行う。

科目名	看護教育学	科目名 (英文)	Nursing Education
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP5△, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	NDN3065a0		

授業概要・目的	看護師育成のための基礎理論、教育制度とその歴史の変遷について知り、看護基礎教育の基礎的知識を得る。臨床における現任教育や研修の具体的方法など、継続教育の実際や方法論、キャリア開発支援について学修する。また、授業づくりの基本を学び、作成した指導案を元に短時間の授業または演習の展開を行う体験を通して、看護学教育のための基礎的能力を培う。
到達目標	1. 看護師育成のための基礎理論について説明することができる。 2. 看護教育制度の歴史の変遷と教育の課題について説明することができる。 3. 継続教育の実際と特徴、キャリア発達とキャリア開発支援について述べるができる。 4. 看護基礎教育の目標と教育内容、評価等に関する基礎的知識について説明できる。 5. 看護学生を対象とした指導案または事例課題を作成し、短時間の授業・演習を計画できる。 6. 授業の実践を評価し、効果的な授業実施のための課題について考えを述べるができる。
授業方法と留意点	配布資料を中心として授業を進める。最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料を適宜追加する。また、具体的な教育場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。また、教育者と学習者への関わり方、倫理的配慮についてグループワークまたはディスカッションを通して学びを共有する。
科目学習の効果 (資格)	これまで自身が受けてきた看護基礎教育全般と今後の継続教育に関わる科目です。現在、自身が学んでいる看護学教育の歴史、学習に関する理論・方法、評価などの基礎的知識と、今後行われる現任教育に関して学びます。教育側が何を考え、何を大切にしているのかを客観的に知り、学びに変えてゆくことは大きな意味をもちます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	看護基礎教育の現状と課題	・オリエンテーション ・看護教育制度と歴史の変遷 ・看護基礎教育の現状と課題	事前課題: 授業に関連するトピックについて書籍等を調べ予習をすること。(1時間程度) 事後課題: 配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
	2	看護師育成の基盤となる理論とキャリア開発	・看護師育成のための教育の特徴 ・臨床における現任教育 ・キャリア開発の組織的支援	事前課題: 授業に関連するトピックについて書籍等を調べ予習をすること。(1時間程度) 事後課題: 配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
	3	授業づくりの基礎知識	・授業計画の立案と指導案の作成方法	事前課題: 授業に関連するトピックについて書籍等を調べ予習をすること。(1時間程度) 事後課題: 配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
	4	指導案の作成①	・実施する授業または演習の指導案を作成する。	事前課題: 授業に関連するトピックについて書籍等を調べ予習をすること。(1時間程度) 事後課題: 指導案に関連する内容を自己学習し、模擬授業の準備を行う。(1時間程度)
	5	指導案の作成②	・実施する授業または演習の指導案を作成する。	事前課題: 授業に関連するトピックについて書籍等を調べ予習をすること。(1時間程度) 事後課題: 指導案に関連する内容を自己学習し、模擬授業の準備を行う。(1時間程度)
	6	模擬授業の展開	・指導案に基づき、短時間の授業または演習を展開する。	事前課題: 模擬授業の準備を行う。(1時間程度) 事後課題: 模擬授業を振り返り、評価を行う。(1時間程度)
	7	模擬授業の展開	・指導案に基づき、短時間の授業または演習を展開する。	事前課題: 模擬授業の準備を行う。(1時間程度) 事後課題: 模擬授業を振り返り、評価を行う。(1時間程度)
	8	授業評価と振り返り	・実践した授業を振り返り、評価と効果的な授業展開のための課題を発表し、ディスカッションを行う。	事前課題: 授業の振り返りと評価について発表の準備を行う (1時間程度) 事後課題: ディスカッションを通して学びをまとめる (1時間程度)
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				

関連科目 看護学概論、看護関係法規その他これまでに学んだ全ての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護のための教育学	中井 俊樹 / 小林 忠資	医学書院
	2	看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う	クレグ美鈴 / 池西悦子	南江堂
	3	看護の学びを支える授業デザインワークブック	目黒悟 / 永井睦子	メヂカルフレンド社

評価方法 (基準) 指導案 (30%)、課題レポート (30%)、プレゼンテーション (30%)、ディスカッション・授業態度等 (10%)  
原則、全講義を出席していること。  
※原則的に上記を予定しているが、進捗や感染状況等により評価方法を変更することがある。

学生への これまで自身が受けてきた教育とこれから受ける教育の理論的背景や教育者の意図を俯瞰的にとらえることは、自身に向き合うだけでなく、人

メッセージ	として成長することにもつながります。この科目で得た基礎的知識は、これからの継続教育のなかで看護専門職としてのよりよい学びや成長の一助になると考えます。
担当者の研究室等	7号館3階 研究室1 (佐久間)
備考	授業資料は授業内で配布し、参考となる資料・書籍等を必要に応じて提示する。

科目名	国際看護学	科目名 (英文)	International Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	近藤 麻理
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP5△, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2066a0		

授業概要・目的	世界の人々の健康問題について理解を深め、国際看護活動の現状と課題及び意義について学び、看護を行う上で身につけておきたい国際的な視野を養う。海外での看護活動をめざす学生だけでなく、日本の看護現場でも必要な異文化の理解とグローバル化、国際化の中で求められる国際看護や国際協力のあり方に関する自分の意見を持てるようにする。
到達目標	(1) グローバル・ヘルスの変遷とグローバル看護の概念および現状と課題について説明できる。 (2) 日本社会が多文化共生を目指すうえで、異文化・多文化における看護の実際と課題について説明できる。 (3) 看護の国際的活動におけるその地域の社会制度や文化と、看護の課題について説明できる。 (4) 世界の人々の健康問題と国際協力における看護の役割について説明できる。
授業方法と留意点	この授業は対面で、テキストを用いた講義やディスカッションの形式を用います。そのためテキストは、必ず毎回準備してください。そして、講義期間中は、世界のニュースなどに耳を傾け、それらに日々関心をもってふれるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	日本社会が多文化共生を目指すうえで、医療・保健・看護の分野においても異文化・多文化の理解は必要不可欠であり、看護専門職としての支援について幅広く考えることができるようになる。また、看護職としてのキャリアの活躍の場の可能性を広く捉えることができ、選択肢が広がる。さらに国家試験においても、試験対策としての知識習得ともなる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	国際看護のすすめ —看護の対象は人間である—	グローバル化における日本の現状をどのようにとらえ、国際的な視点から看護を見つめなおし、これからの未来につなげていくかを広く考える。	事前: テキストを読んでくる (テキスト P2~10) と同時に、関係する資料を調べて読み予習する (1 時間)。 事後: P9 の”考えてみましょう”を調べてみる。授業内容を整理し、理解を深める (1 時間)。
2	異文化への理解	多様な文化の理解には、まず多様な人々の生活を知ることであり、人を尊重する看護とは何かを、異文化への看護の対応を通して考える。	事前: テキスト P11~19 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (1 時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (1 時間)。
3	日本の国際協力 —私たちは世界とつながっている—	日本の ODA や世界への支援について知り、世界の健康課題への支援と看護の役割を考える。	事前: テキスト P20-28 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (1 時間)。 事後: P24 ~26 の”考えてみましょう”を考えてみる。授業内容を整理し、理解を深める (1 時間)。
4	人間の安全保障と国際機関 —MDGs から SDGs へ—	国際協力の仕組みを知り国際機関が果たす役割と人々の生活にどのような影響をもたらしているか考える。	事前: テキスト P29~37 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (1 時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (1 時間)。
5	プライマリヘルスケア —自分の命と健康を自分で守ること—	プライマリヘルスケアの理念を知り、住民一人一人が自分の命を守ることの大切さとその仕組みを考える。	事前: 教科書 P38~44 を読み、分からない言葉を調べる (1 時間)。 事後: 世界の健康問題の課題を調べる。授業内容を振り返り整理する (1 時間)。
6	国際移動する看護師 —職場の同僚は日本人だけです—	EPA 看護師候補者を知り、看護職の国際移動や労働について関心を持ち、受け入れ国と送る国での影響を考える。	事前: テキスト P46~51 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (1 時間)。 事後: 授業内容を整理し、ミニレポートをまとめる (1 時間)。
7	性の多様性—LGBT への理解—	LGBTQ などを知り看護師としての対応を理解する。さらに、世界の女性がおかれている現実と困難な状況を知り看護にできることを考える。	事前: 教科書 P52-57 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する。(1 時間)。 事後: 授業内容を振り返り、整理する (1 時間)。
8	紛争と難民—日本とは無関係な事でしょうか?— そして、看護の倫理性	世界の紛争や難民について知り、国際機関の役割も含めて理解する。紛争などの状況で健康が脅かされることを理解し、看護の役割を考える。また、看護の倫理性についても考える (P129-132)。	事前: 教科書 P58-66 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する。(1 時間)。 事後: 教科書 P124-128 を読み、メディア・リテラシーについて考える。すべての講義を振り返り、課題レポートを作成する (2 時間)。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 公衆衛生学、保健医療福祉行政論、その他各領域の看護学概論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知って考えて実践する国際看護	近藤麻理	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	戦争倫理学	加藤尚武	筑摩書房
2	国際保健医療学	日本国際保健医療学会	杏林書院	
3	入門 人間の安全保障	長 有紀枝	中公新書	

評価方法 (基準) 授業の各回で提示するミニレポートなどの提出物 40%、最後の課題レポートの提出物 60%、以上より総合的に評価する。

学生へのメッセージ ・本科目は、海外で看護実践者として実務経験を有しこの科目のテキストを作成した非常勤講師が担当します。授業ではそれらの経験を踏まえ、事例も積極的に取り入れます。授業では、テキストを使用しますので必ず毎回持参してください。

担当者の 研究室等	
備考	追加の文献や資料などは、授業中に紹介します。

科目名	災害看護論	科目名 (英文)	Nursing in Disaster
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	稲垣 美紀, 西上 あゆみ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6◎		
科目ナンバリング	NDN2067a0		

授業概要・目的	災害看護を行うためには、災害に関する看護独自の知識や技術を用いることや他の専門分野と協力して活動していくことが必要である。この活動を行うためにまず災害について理解し、さらに災害サイクルに応じた人々への影響、災害時に特徴的な看護課題や看護ニーズを学ぶ。災害時に、先遣隊で災害地での活動経験のある教員が担当します。
到達目標	1) 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解することができる 2) 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響について説明することができる 3) 災害サイクルに応じた看護活動を説明することができる 4) 災害をもたらす人々へのこころの影響とそのケアについて説明することができる 5) 個人の備えを含め、看護師としての具体的な備えを理解することができる
授業方法と留意点	本講義では教科書・資料を用いて行います。新聞、テレビ等のマスメディアで取り上げられている災害看護に関する問題について情報収集しておいてください。
科目学習の効果 (資格)	講義を通して災害看護の基礎を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	災害とは 災害看護とは	1) 災害の定義と分類・特性 2) 災害サイクルと各期の特徴 3) 災害看護の定義 4) 災害時のニーズアセスメント 5) 災害時に特徴的な健康問題	事前:教科書の1章、2章を読んでおく 事後:授業の振り返り (各30分)
2	災害急性期の看護	1) 災害医療システム 2) 初動期の医療救護活動 3) トリアージ 4) 災害訓練	事前:教科書の3章、4章、5章を読んでおく 事後:授業の振り返り (各30分)
3	災害中・長期の看護 こころのケア	1) 避難所における看護活動 2) 中・長期における健康問題 3) 被災者の心理 4) 災害時のストレス反応やPTSD 5) 被災者のメンタルケア	事前:教科書の6章、7章を読んでおく 事後:授業の振り返り (各30分)
4	要援護者へのケア	1) 災害時に子どもに起こること 2) 災害時に妊産婦に起こること 3) 災害時に慢性疾患患者に起こること 4) 災害時に高齢者に起こること	事前:教科書の8章を読んでおく 事後:授業の振り返り (各30分)
5	災害への備え	1) 自己防災 2) 病院防災 3) 地域防災 4) ネットワークの構築	事前:教科書のコラム、教科書の9章に目を通し、備えについて考えておく 事後:授業の振り返り (各30分)
6	救援活動(国内・国際)	1) 災害に対する国内の体制 2) 災害に対する国際的な体制 3) 支援活動 4) 救護者へのケア	事前:教科書の10章を読んでおく 事後:授業の振り返り (各30分)
7	災害時の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討する。	事前・事後学習:興味のある対象者の災害看護について学習し、まとめる。(各1時間)
8	災害時の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討し、発表する	事前・事後学習:学習した内容を提出する。(各1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	看護学概論を含む看護科目
------	--------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(3): 災害看護	酒井明子	メディカ出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	災害看護学・国際看護学	西上あゆみ・神崎初美	放送大学教育振興会
2	災害看護	三澤寿美・太田晴美	学研
3	避難所・仮設住宅の看護ケア	黒田裕子・神崎初美	日本看護協会出版会

評価方法 (基準)	レポート32%、テスト68%で評価する
学生へのメッセージ	提出物は期限を厳守して下さい。日頃から災害に関するニュース記事などに興味を持って、より災害看護に対する考え方や理解が深められるようにしておいて下さい。授業時間内の積極的な質問を歓迎します。授業後についてはメールを頂ければ、その都度対応いたします。
担当者の研究室等	





科目名	看護の探求	科目名 (英文)	The Quest for Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	田中 結華
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN3069a0		

授業概要・目的	学生が興味をもつ看護実践や自己の課題に対して、ワークショップ形式等でより良い看護実践について探求する。看護実践への探求心を培い、看護師として卒業後のキャリアの発展および自らの成長につなげる。
到達目標	1) 看護実践に関するテーマを選択し、その内容について探求することができる。 2) 探求の成果から卒業後の自らの目標を明確にできる
授業方法と留意点	看護実践に関するテーマについて、少人数で文献学修やフィールドワーク、PBL型学習等を行う。 各領域から提示する学修テーマからいずれかを選ぶ。 学生が主体的に授業内容を検討し、学外施設での演習等を希望する場合は教員と相談し、施設と調整のうえで実施する。 ※担当領域の学修テーマや方法は別途周知する。 日程は、各領域で提示する。
科目学習の効果 (資格)	4年生として看護師のさらなる専門性を探求する科目です。専門性の高いテーマを、フィールドワークや学会参加なども通して学びます。将来のキャリアとして考えているテーマや成長につながるテーマを見出し、取り組んで下さい。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、テーマに沿った活動	オリエンテーションを受け、担当領域の教員の指導の下、それぞれの看護の探究テーマに合わせて活動する。	担当領域の教員の指示に従い、事前・事後学習課題を行う。
	2	テーマに沿った活動	担当領域の教員の指導の下、それぞれの看護の探究テーマに合わせて活動する。	担当領域の教員の指示に従い、事前・事後学習課題を行う。
	3	テーマに沿った活動	担当領域の教員の指導の下、それぞれの看護の探究テーマに合わせて活動する。	担当領域の教員の指示に従い、事前・事後学習課題を行う。
	4	テーマに沿った活動	担当領域の教員の指導の下、それぞれの看護の探究テーマに合わせて活動する。	担当領域の教員の指示に従い、事前・事後学習課題を行う。
	5	テーマに沿った活動	担当領域の教員の指導の下、それぞれの看護の探究テーマに合わせて活動する。	担当領域の教員の指示に従い、事前・事後学習課題を行う。
	6	テーマに沿った活動	担当領域の教員の指導の下、それぞれの看護の探究テーマに合わせて活動する。	担当領域の教員の指示に従い、事前・事後学習課題を行う。
	7	テーマに沿った活動	担当領域の教員の指導の下、それぞれの看護の探究テーマに合わせて活動する。	担当領域の教員の指示に従い、事前・事後学習課題を行う。
	8	テーマに沿った活動、まとめ	担当領域の教員の指導の下、それぞれの看護の探究テーマに合わせて活動する。学びをまとめる。	担当領域の教員の指示に従い、事前・事後学習課題を行う。
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	専門科目すべてが関連する。
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	評価表に基づき各領域の学修内容と課題により評価する。
-----------	----------------------------

学生へのメッセージ	4年間の看護実践の中で興味・関心をもっと掘り下げたいと思ったことはありませんか？ 皆さんがいままで学んだ看護実践の専門性をさらに焦点をしばって、少人数で、先進的なこと、興味がもてること、さらに専門職の発展につながるテーマを各領域で取り上げています。 就職活動の中でも、こんなことを大学で学んだ！とアピールポイントになるでしょう。将来やってみたい専門領域に参加するのも良いと思います。教務ガイダンスで各領域のテーマや先輩の学びの例を紹介致しますので、ぜひ履修して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	責任者は研究室9田中です。
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	総合看護学演習	科目名 (英文)	Seminar in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美, 足立 安正, 池田 友美, 神谷 美紀子, 小堀 栄子, 志戸岡 恵子, 竹下 裕子, 田中 結華, 名草 みどり, 松田 千登勢, 山口 太郎, 山本 智津子, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN4071a0		

授業概要・目的	患者の症状や徴候から緊急性に気づき、患者の苦痛を軽減するための支援に結びつける思考過程は、日々の看護に重要である。臨床推論の重要性とアセスメントに必要な思考過程を対象者の特徴を踏まえて学修する。「今、患者に何が起きているのか」を整理し、看護師としてなすべきことの方針を立てるための思考過程である臨床推論の力を培う。
到達目標	1. 症状や徴候を生機能的にアセスメントすることができる。 2. 妊産褥婦、患児、成人患者、老年患者、精神患者、在宅療養者、地域生活者等、の特徴をアセスメントし、患者の症状や徴候から苦痛を軽減する支援方法を考えることができる。
授業方法と留意点	各単元をオムニバス形式で複数の教員が担当します。授業形式は対面での講義形式および演習形式等、各担当教員によって異なりますので、各教員の指示に従って下さい。また、質問や欠席等の連絡も当該授業の担当者に直接連絡して下さい。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家資格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	臨床推論とは	・臨床推論とは ・急変時の観察と判断の基本 ・急変時に求められるフィジカルアセスメント	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う
2	アセスメントに必要な人体の構造と機能および薬理の理解	・呼吸器の機能と構造の基本 ・循環器の機能と構造の基本 ・排泄の機能と構造の基本 ・薬物治療中の患者の観察と判断	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う
3	アセスメントに必要な疫学	・状態をアセスメントする上で必要なデータの分析	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う
4	急変や緊急度を見極めるフィジカルアセスメント	・呼吸から緊急度の判断 ・脈拍から緊急度の判断 ・血圧から緊急度の判断 ・体温から緊急度の判断 ・意識レベルから緊急度の判断	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う
5	フィジカルアセスメントから見極める看護	・呼吸苦への対応 ・血圧変動への対応 ・体温変化への対応 ・排泄不良への対応 ・意識レベル低下への対応	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う
6	急性期にある成人患者の症状や徴候のアセスメント	・急性期に遭遇する症状や徴候を示す成人患者の事例をもとに、緊急性を判断し、対応を考える。	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う
7	慢性期にある成人患者の症状や徴候のアセスメント	・慢性期に遭遇する症状や徴候を示す成人患者の事例をもとに、緊急性を判断し、対応を考える。	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う
8	老年期にある患者の症状や徴候のアセスメント1	・高齢患者によくみられる症状や徴候を示す事例をもとに、緊急性を判断し、対応を考える。	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う
9	老年期にある患者の症状や徴候のアセスメント2	・高齢患者によくみられる症状や徴候を示す事例をもとに、緊急性を判断し、対応を考える。	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う
10	小児期にある患児の症状や徴候のアセスメント	・子どもによく見られる症状や徴候を示す事例をもとに、緊急性を判断し、対応を考える。	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う
11	妊娠・出産・産褥期にある対象の症状や徴候のアセスメント	・妊娠・出産・産褥期によく見られる症状や徴候を示す事例をもとに、緊急性を判断し、対応を考える。	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う
12	精神疾患の患者の症状や徴候のアセスメント	・精神疾患をもつ患者によく見られる症状や徴候を示す事例をもとに、緊急性を判断し、対応を考える。	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う
13	在宅療養中の対象者の症状や徴候のアセスメント	・在宅療養中の対象者によく見られる症状や徴候を示す事例をもとに、緊急性を判断し、対応を考える。	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う
14	地域で生活する対象者の訴えへのアセスメント	・地域で生活する対象者の訴えをもとに、ケアの必要性や必要な支援を考える。	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う
15	活用できる法律や社会資源のアセスメント	・事例の問題解決のために活用できる法律や社会資源を検討する。	授業テーマに沿って担当者から指示された事前事後学習を1時間行う

関連科目	全専門基礎科目、全専門科目
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業中に資料を配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	バイタルサインからの臨床推論	山内豊明	医学書院
	2	病棟ナースの臨床推論	増山純二・苑田裕樹	医学書院
	3			
評価方法 (基準)	定期試験で評価する			
学生への メッセージ	授業内容に関する質問や欠席等の連絡は、当日の担当教員に直接行なって下さい。			
担当者の 研究室等	各単元の担当教員の研究室			
備考	講師の都合により、上記授業順序はこの限りではありません。			

科目名	周産期医学	科目名 (英文)	Perinatal Medicine
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	井田 歩美. 入江 眞理. 河田 興. 北野 美月. 齊藤 三佳. 但馬 まり子. 坪倉 弘晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3074a0		

授業概要・目的	最新の周産期医療現場で必須の知識を修得し、異常に対する診断および治療法を理解する。 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。演習では、超音波診断法、会陰切開および縫合術や新生児蘇生 (NCPR) を学ぶ。
到達目標	1. 周産期医療で必須の知識を修得する。 2. 異常に対する診断および治療法を理解する。 3. 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。 4. 演習では、超音波診断法、会陰切開および縫合術と新生児蘇生 (NCPR) を習得する。
授業方法と留意点	産科：集中講義の形での授業になるため、知識や技能の修得や定着のために時間を割くことが難しい。事前の学習が必須であるため、必ず事前課題の確認を行うこと。 新生児科：テキストおよび配布するプリント等により授業を行います。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験に合格するとともに、実際の現場で異常を察知し対応できるための知識ならびに手技・手法を身につける。 ※2 コマは新生児蘇生法 NCPR (B コース) 講習会に該当し、テスト合格により、修了認定証は取得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	産科合併症と合併妊娠 (1)	妊娠悪阻、切迫流産・早産、前期破水、妊娠性貧血、妊娠高血圧症候群について学ぶ。	事前課題：教科書 1 の第 3 章 (p. 82~144) を読む。(1 時間) 事後：講義の復習 (1 時間)
2	産科合併症と合併妊娠 (2)	妊娠糖尿病、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、多胎妊娠、骨盤位、羊水量の異常、胎児発育不全、過期妊娠、おもな感染症について学ぶ。	事前課題：教科書 1 の第 3 章 (p. 82~144) を読む。(1 時間) 事後課題：講義の復習 (1 時間)
3	分娩期の異常 (1)	分娩の生理と異常：分娩三要素の異常、胎児機能不全、CTG の判読について学ぶ。	事前課題：教科書第 5 章 (p. 148~156)、病気がみえる (p262~303) を読む。(1 時間) 事後課題：講義の復習 (1 時間)
4	分娩期の異常 (2)	分娩の生理と異常：分娩時大量出血、産科ショック、産科 DIC、弛緩出血、羊水塞栓症について学ぶ。	事前課題：教科書 (p. 156~157) 病気がみえる (p304~333) を読む。(1 時間) 事後課題：講義の復習 (1 時間)
5	分娩期の異常 (3)	分娩の生理と異常：子宮内反症、子宮破裂、頸管裂傷、陰道陰裂傷、絨毛膜羊膜炎、子癇発作について学ぶ。	事前課題：教科書 (p. 158~160) 病気がみえる (p. 334~341) を読む。(1 時間) 事後課題：講義の復習 (1 時間)
6	産褥期の異常	産褥期の異常 (子宮復古不全、後期分娩後異常出血、産褥熱、尿路感染症、静脈血栓塞栓症、産褥乳腺炎、乳汁分泌異常、産褥後遺症、産後うつ病) について学ぶ。	事前課題：教科書 2 の p. 304~332 を読み予習をする。(1 時間) 事後課題：講義の復習 (1 時間)
7	周産期を取り巻く状況について (1)	高度生殖補助医療および出生前診断について学ぶ。	事前課題：助産学講座 2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学第 3 章 (p. 84~134)、第 4 章 (p. 136~154) を読む。(1 時間) 事後課題：講義の復習 (1 時間)
8	周産期を取り巻く状況について (2)	無痛分娩の実際 (利点、合併症とその対策、分娩介助等) について学ぶ。	事前課題：配布された資料を読む。(1 時間) 事後課題：講義の復習 (1 時間)
9	周産期における超音波診断法	周産期における超音波診断法について理解し、基礎的な手技を修得する。	事前課題：教科書 1 の p. 354~378 および配布された資料を読む。(1 時間) 事後課題：講義の復習 (1 時間)
10	会陰切開および縫合術	会陰切開と縫合術について理解し、基礎的な手技を修得する。	事前課題：配布された資料を読む。(1 時間) 事後課題：講義の復習 (1 時間)
11	新生児の異常兆候	新生児の異常兆候について学ぶ。	事前課題：配布された資料を読む。(1 時間) 事後課題：講義の復習 (1 時間)
12	新生児の疾患 (1)	呼吸器疾患、分娩外傷、感染症などについて学ぶ。	事前課題：配布された資料を読む。(1 時間) 事後課題：講義の復習 (1 時間)
13	新生児の疾患 (2) ハイリスク新生児とその対応	循環器疾患、消化器疾患、血液疾患などについて、ハイリスク新生児とその対応 (低出生体重児・早産児を含む) について学ぶ。	事前課題：配布された資料を読む。(1 時間) 事後課題：講義の復習 (1 時間)
14	新生児蘇生 NCPR (B コース) (1)	プレテストを受ける。 新生児蘇生法とは、新生児蘇生法に必要な基礎知識、新生児蘇生法の対象、NCPR のアルゴリズムについて学ぶ。	事前課題：教科書 3 の該当部分 (p. 16~121) を読み、予習する。(2 時間) 事後課題：講義の復習
15	新生児蘇生 NCPR (B コース) (2)	演習：新生児蘇生法の実際 (STEP0~7) により、基礎的な手技を修得する。ポストテストを受ける。	事前課題：教科書 3 の該当部分 (p. 16~121) を読み、予習する。(2 時間) 事後：ポストテストに向けての復習

関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論 I, 母性看護学援助論 II, 助産学概論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】助産学講座 6「助産診断・技術学 II [1] 妊娠期」	我部山キヨ子他編集	医学書院
2	【電子】助産学講座 7「助産診断・技術学 II [2] 分娩期・産褥期」	我部山キヨ子他編集	医学書院	
3	【電子】日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト 2020 改訂版	細野茂春	メディカルレビュー社	

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.10 産科 第4版	医療情報科学研究所	メディックメディア
	2	新生児学入門第5版	仁志田博司	医学書院
	3	今日の助産 [第4版]	北川眞理子他編集	南江堂
評価方法 (基準)	授業への参加意欲と Shuttle Card : 20%, 試験 : 80%			
学生への メッセージ	産科 : 集中講義と演習になりますので、密度の高いものにするために事前の準備や知識の整理が必要です。事前課題に取り組む中、あるいは、今までの実習などを通して抱いた疑問をしっかりとって講義に参加してください。 新生児科 : 正しい知識に基づいた自ら考える医療を実践するために、新生児時期の特徴的な疾患と病態を理解し学習しましょう。			
担当者の 研究室等	井田 歩美 (研究室 12), 但馬 まり子 (研究室 20)			
備考				

科目名	助産診断・技術学 I	科目名 (英文)	Midwifery Diagnostics and Technique I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	井田 歩美・入江 眞理・北野 美月・但馬 まり子・名草 みどり・三浦 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3075a0		

授業概要・目的	妊娠期の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理について学習する。妊娠時期の診断、妊娠経過の診断、妊婦の心理・社会的側面の診断、状況に応じたケアについて学習する。また、流早産・胎内死亡など心理的危機に直面した妊婦と家族のケアやハイリスク妊婦と家族のケアと助産師の役割について学習する。
到達目標	1. 妊娠期の助産診断の特徴について理解できる。 2. 妊娠期の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化について理解できる。 3. 正常および異常妊婦の妊娠経過と適応過程についてアセスメントし、助産診断できる。 4. 助産診断に基づき、必要な助産計画を立案できる。 5. 妊婦の家族も含めた支援について考えることができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って、講義とグループワークにて進める。グループワークでは、指定教科書や配布資料以外にも活用できる資料を見つけて利用すること。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得のための必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習	事後学習
1	助産診断・技術学の概要 助産過程、助産診断および助産技術学の概要	助産診断・技術学の概要を学ぶ。 助産過程、助産診断および助産技術学の概要について理解できる。	事前学習：教科書 1 (p. 2~40) と授業資料を読む。(1 時間)	事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
2	マタニティ診断の概要	マタニティ診断の概要を学ぶ。『マタニティ各期における助産診断指標に沿った基礎知識』の活用	事前学習：教科書 1 (p. 42~79) を読み授業資料を整理する。(1 時間)	※準備確認のテストを実施 事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
3	妊娠の生理と正常妊娠期の経過	妊娠に伴う母体の変化と胎児の発生・成長・発達について学ぶ。	事前学習：教科書 1 (p. 42~79) を読み授業資料を整理する。(1 時間)	※準備確認のテストを実施 事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
4	妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメント	妊娠期の心理状態と妊婦・夫婦・家族にとっての社会的変化およびそれらに対する妊婦の適応状態を把握するためのアセスメントについて学ぶ。	事前学習：教科書 2 (p. 28~56, p. 76~89) を読む。(1 時間)	事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
5	妊娠期のフィジカルアセスメント	妊婦のフィジカルアセスメントを実施するために必要な情報収集と診断技術について学ぶ。	事前学習：教科書 1 (p. 160~196) を読み授業資料を整理する。(1 時間)	※準備確認のテストを実施 事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
6	妊娠期の助産過程の展開 (1)	妊娠期の助産診断の特徴と診断類型について学ぶ。(経過診断)	事前学習：教科書 1 (p. 146~159), 実践マタニティ診断 (p. 30~93) を読む。(1 時間)	事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
7	妊娠期の助産過程の展開 (2)	妊娠期の助産診断の特徴と診断類型について学ぶ。(健康生活診断)	事前学習：教科書 1 (p. 5~7, p. 146~159), 実践マタニティ診断 (p. 30~93) を読む。(1 時間)	事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
8	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常 (1)	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。	事前/事後学習：グループで助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする。(各 2 時間)	
9	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常 (2)	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。	事前/事後学習：グループで助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする。(各 2 時間)	
10	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常 (3)	展開した助産過程の発表およびグループ討議を行う。	事前学習：グループで助産過程を展開し、発表資料として提出する。(1 時間)	事後学習：グループ討議の内容を受けて展開した助産過程を見直し、修正後最終提出する。(1 時間)
11	妊娠期の異常・ハイリスク妊娠 (1)	妊娠期におこる可能性のある病態について学ぶ。	事前学習：教科書 1 (p. 296~349) を読み、授業資料を整理する。(1 時間)	※準備確認のテストを実施 事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
12	妊娠期の異常・ハイリスク妊娠 (2)	合併症を有する妊婦の妊娠経過について学ぶ。	事前学習：教科書 1 (p. 296~349) を読み、授業資料を整理する。(1 時間)	※準備確認のテストを実施 事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
13	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク (1)	事例を用いた助産過程の展開を通して助産過程のプロセスについて学ぶ。 リスクに応じた適切な管理、妊婦と家族がセルフケア能力を持つための支援、必要な生活習慣の変容についての指導や利用できる社会資源・制度について考える。	事前/事後学習：グループで助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする。(各 2 時間)	
14	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク (2)	事例を用いた助産過程の展開を通して助産過程のプロセスについて学ぶ。 リスクに応じた適切な管理、妊婦と家族がセルフケア能力を持つための支援、必要な生活習慣の変容についての指導や利用できる社会資源・制度について考える。	事前/事後学習：グループで助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする。(各 2 時間)	

	15	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク(3)	展開した助産過程の発表およびグループ討議を行う。	事前学習：グループで助産過程を展開し、発表資料として提出する。(1時間) 事後学習：グループ討議の内容を受けて展開した助産過程を見直し、修正後最終提出する。(1時間)																
関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習，周産期医学，助産学概論，助産診断・技術学Ⅱ，助産診断・技術学Ⅲ，助産技術学演習Ⅰ，助産技術学演習Ⅱ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【電子】助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 医学書院</td> <td>我部山キヨ子他編集</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>実践マタニティ診断第4版</td> <td>日本助産診断・実践研究会編集</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>今日の助産〔第4版〕</td> <td>北川眞理子他編集</td> <td>南江堂</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子】助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 医学書院	我部山キヨ子他編集	医学書院	2	実践マタニティ診断第4版	日本助産診断・実践研究会編集	医学書院	3	今日の助産〔第4版〕	北川眞理子他編集	南江堂
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	【電子】助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 医学書院	我部山キヨ子他編集	医学書院																	
2	実践マタニティ診断第4版	日本助産診断・実践研究会編集	医学書院																	
3	今日の助産〔第4版〕	北川眞理子他編集	南江堂																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【電子】助産学講座 2 基礎助産学〔2〕母子の基礎科学</td> <td>我部山キヨ子他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>【電子】助産学講座 3 基礎助産学〔3〕母子の健康科学</td> <td>我部山キヨ子他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023 日本産科婦人科学会</td> <td>日本産科婦人科学会</td> <td>日本産科婦人科学会</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子】助産学講座 2 基礎助産学〔2〕母子の基礎科学	我部山キヨ子他	医学書院	2	【電子】助産学講座 3 基礎助産学〔3〕母子の健康科学	我部山キヨ子他	医学書院	3	産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023 日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	【電子】助産学講座 2 基礎助産学〔2〕母子の基礎科学	我部山キヨ子他	医学書院																	
2	【電子】助産学講座 3 基礎助産学〔3〕母子の健康科学	我部山キヨ子他	医学書院																	
3	産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023 日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会																	
評価方法(基準)	定期試験：70%，提出課題：30%																			
学生へのメッセージ	看護基礎教育(母性看護学)における学習内容を習得していることを前提に進めます。助産学実習での実践につながるような授業を行います。助産学実習で活用できるよう、資料や自己学習ノートを整理しまとめておいてください。また、グループワークが円滑に進むよう各自が役割を果たし、積極的に取り組んでください。																			
担当者の研究室等	井田 歩美(研究室12)																			
備考																				

科目名	助産診断・技術学Ⅱ	科目名 (英文)	Midwifery Diagnostics and Technique II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	但馬 まり子, 井田 歩美, 入江 眞理, 北野 美月, 名草 みどり, 三浦 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3076a0		

授業概要・目的	<p>(概要)</p> <p>産婦の安全・安楽な分娩のために必要な助産診断とケアを実践するための基本を学び、分娩開始・分娩経過の診断、リスクの査定、産婦の心理・社会的側面の診断ができ、状況に応じたケアが実践できる知識と技術の基本について学ぶ。また、分娩進行に伴う異常の発生予測と予防的行動、異常発生時の観察と対処について学習し、産婦のケアと助産師の役割について考える。また講義時にはCG動画を用いて、分娩のメカニズムを学習する。助産診断は分娩経過に合わせて事例を用い、思考過程に沿って助産診断を学習する。</p> <p>(目的)</p> <p>分娩期の助産診断の特徴と、正常分娩の経過に伴う助産診断、および異常分娩の経過の理解とケア計画について理解できる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる</li> <li>2. 産婦・胎児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる</li> <li>3. 分娩期の経過と適応過程について助産診断ができる</li> <li>4. 助産診断に基づき、必要な助産目標・計画を立案できる</li> <li>5. 異常分娩の経過とケア計画について理解できる</li> </ol>
授業方法と留意点	資料、テキスト、DVD、PowerPoint を用いて授業を実施します。助産診断過程の展開は、講義終了後に課題が出ます。次回の講義までに完成させないといけません。また個人の理解度を確認するため、適宜課題の提出を求めます。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	分娩期の助産診断 (1)	分娩期の助産診断の特徴と診断類型診断に必要な知識 (分娩時期、分娩開始、分娩経過、破水の診断、分娩3要素、分娩機転)	事前課題: 実践マタニティ診断テキストと助産診断技術学Ⅱ (医学書院) の該当ページ、資料を読んてくる (2時間) 事後課題: 本日の知識の復習 (2時間)
2	分娩期の助産診断 (2)	分娩が母体及び胎児に及ぼす影響	事前課題: 実践マタニティ診断テキストと助産診断技術学Ⅱ (医学書院) の該当ページ、資料を読んてくる (2時間) 事後課題: 本日の知識の復習 (2時間)
3	分娩期の助産診断 (3)	分娩に影響を及ぼす対象の背景と妊娠経過のアセスメント	事前課題: 実践マタニティ診断テキストと助産診断技術学Ⅱ (医学書院) の該当ページ、資料を読んてくる (2時間) 事後課題: 本日の知識の復習 (2時間)
4	分娩期の助産診断 (4)	分娩予測に必要な知識と方法 予測の種類、経膈分娩可否の条件 予測の方法 (分娩曲線の利用) 産婦の精神状態が分娩に及ぼす影響	事前課題: 実践マタニティ診断テキストと助産診断技術学Ⅱ (医学書院) の該当ページ、資料を読んてくる (2時間) 事後課題: 本日の知識の復習 (2時間)
5	分娩期の助産診断 (5)	入院判断に必要な知識と助産目標・計画 入院時に必要な知識と助産目標・助産計画 初期診断に必要な知識と方法	事前課題: 実践マタニティ診断テキストと助産診断技術学Ⅱ (医学書院) の該当ページ、資料を読んてくる (2時間) 事後課題: 本日の知識の復習 (2時間)
6	分娩期の助産診断 (6)	分娩第1期 (潜伏期) の助産診断と助産目標・助産計画 CTG判読に必要な知識	事前課題: 実践マタニティ診断テキストと助産診断技術学Ⅱ (医学書院)、図説CTGテキストの該当ページ、資料を読んてくる (2時間) 事後課題: 記録用紙の完成 (2時間)
7	分娩期の助産診断 (7)	分娩第1期 (活動期) の助産診断と助産目標・助産計画 CTG判読に必要な知識	事前課題: 実践マタニティ診断テキストと助産診断技術学Ⅱ (医学書院)、図説CTGテキストの該当ページ、資料を読んてくる (2時間) 事後課題: 記録用紙の完成 (2時間)
8	分娩期の助産診断 (8)	分娩第1期 (極期) の助産診断と助産目標・助産計画 CTG判読に必要な知識	事前課題: 実践マタニティ診断テキストと助産診断技術学Ⅱ (医学書院)、図説CTGテキストの該当ページ、資料を読んてくる (2時間) 事後課題: 記録用紙の完成 (2時間)
9	分娩期の助産診断 (9)	分娩第2期の助産診断と助産目標・助産計画	事前課題: 実践マタニティ診断テキストと助産診断技術学Ⅱ (医学書院) の該当ページ、資料を読んてくる (2時間) 事後課題: 記録用紙の完成 (2時間)
10	分娩期の助産診断 (10)	分娩第2期の助産診断と助産目標・助産計画	事前課題: 実践マタニティ診断テキストと助産診断技術学Ⅱ (医学書院) の該当ページ、資料を読んてくる (2時間) 事後課題: 記録用紙の完成 (2時間)
11	分娩期の助産診断 (11)	分娩第3期・第4期の助産診断と助産目標・助産計画	事前課題: 実践マタニティ診断テキストと助産診断技術学Ⅱ (医学書院) の該当ページ、資料を読んてくる (2時間) 事後課題: 記録用紙の完成 (2時間)
12	分娩経過の異常とケア計画 (1)	弛緩出血、微弱陣痛に対するケア計画	事前課題: 助産診断技術学Ⅱ (医学書院) 該当ページ、資料を読んてくる (2時間) 事後課題: 本日の知識の復習 (2時間)
13	分娩経過の異常とケア計画 (2)	緊急帝王切開の判断とケア計画	事前課題: 助産診断技術学Ⅱ (医学書院) 該当ページ、資料を読んてくる (2時間) 事後課題: 本日の知識の復習 (2時間)
14	分娩期の事例を用いた助産過程の展開 (1)	展開した助産過程の発表およびグループ討議を行う。	事前課題: 助産過程展開記録を事前に完成させ提出 (2時間) 事後課題: ディスカッション時のアドバイスを追加する (2時間)



	15	分娩期の事例を用いた助産過程の展開（2）	展開した助産過程の発表およびグループ討議を行う。	事前課題：助産過程展開記録を事前に完成させ提出（2時間） 事後課題：ディスカッション時のアドバイスを追加し、記録を最終提出する（2時間）
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習、周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断技術学演習、助産学実習、助産管理論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕 分娩期・産褥期	我部山キヨ子 他	医学書院
	2	図説CTGテキスト	中井章人	MEDICAL VIEW
	3	実践マタニティ診断	日本助産診断実践学会	医学書院
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	産科診療ガイドライン—産科編 2020—	日本産婦人科学会	日本産婦人科学会
	2	母体急変時の初期対応第2版	日本母体救命システム普及協議会	メディカ出版
	3	病気がみえる 10 産科	井上裕美他	MEDIC MEDIA
評価方法 (基準)	定期試験 70% プレゼンテーション、助産過程の展開・助産診断と助産計画の課題 30%			
学生への メッセージ	学生は講義時に提示された課題を通して知識の確認を行い、助産学実習や助産師国家試験対策のための資料や要点をまとめておきましょう。助産過程の展開は指示されたところまで必ず期限内に完成させるようにしましょう。分娩期の知識が分娩介助技術を習得するうえで必要な知識となります。			
担当者の 研究室等	7号館3階 但馬（研究室20）			
備考	講義時の資料や助産過程展開資料は助産学実習で活用します。			

科目名	助産診断・技術学Ⅲ	科目名 (英文)	Midwifery Diagnostics and Technique III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	入江 眞理, 井田 歩美, 北野 美月, 但馬 まり子, 名草 みどり, 三浦 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3077a0		

授業概要・目的	<p>(概要)          褥婦・新生児経過の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理を学習する。分娩想起や褥婦の心理・社会的側面の診断、褥婦の復古促進や母子の愛着形成促進のためのケアが実践できるよう学習する。そして、母子とその家族を包括したケアの展開をめざし、新しい役割や家族システムの変化への支援を行うための知識・技術の基礎を学習する。また、新生児は正常な適応過程が診断でき、状況に応じたケアを学習する。</p> <p>(目的)          産褥・新生児期の助産診断の特徴と経過の助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる。</p> <p>この科目は、助産師としての実務経験をもつ教員が担当します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>産褥・新生児期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる。</li> <li>褥婦・新生児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる。</li> <li>助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる。</li> <li>助産診断に基づいて個別指導案を立案できる。</li> </ol>
授業方法と留意点	講義を聴き、各自レポート作成ののち、グループワークおよび発表、ディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	助産学実習に直接つながる科目であり、助産師国家試験受験資格取得にかかわる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	産褥期の助産過程の展開 正常産褥期の助産診断	産褥期における助産診断の特徴と助産過程の展開における理論・方法について学ぶ。 正常な産褥経過の身体的・心理的・社会的側面に関する助産診断について学ぶ。	事前課題：助産診断・技術学Ⅱ [2] (第6版) 第9章「産褥期の生理」第10章「産褥期の助産診断」を一読してくる。(1時間) 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 (1時間)
2	産褥の事例を用いた助産過程の展開(1)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の情報整理を行う。	事前課題：マタニティ診断ガイドブック「産褥期のマタニティ診断」を一読する。(30分) 事後課題：事例の情報整理をする。 (1時間)
3	母乳栄養確立および母子関係・家族形成過程の助産診断と援助	産褥期の進行性変化の助産診断および母乳育児を促進するための援助を学ぶ。母子関係形成・育児行動取得・家族形成に向けた援助を学ぶ。	事前課題：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] (第6版) 第11章「褥婦への支援」第14章「乳房管理」を一読してくる。 (1時間) 事後課題：事例のアセスメントをする。 (1時間)
4	産褥の事例を用いた助産過程の展開(2)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例のアセスメントと助産診断を行う。	事前課題：マタニティ診断ガイドブック「産褥期のマタニティ診断」を一読する。(30分) 事後課題：事例の情報整理、アセスメントと助産診断をする。 指導を受けた内容について、各自、加筆・修正を行う。 (1時間)
5	ハイリスク褥婦の助産診断と援助	ハイリスク褥婦の助産診断と必要な援助について学ぶ。	事前課題：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] (第6版) 第12章「産褥期の異常・偶発疾患」第13章「ハイリスク・異常褥婦へのアセスメントと支援」を一読してくる。 (1時間) 事後課題：学習した内容を整理する。 (1時間)
6	産褥の事例を用いた助産過程の展開(3)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画を立案する。	事前課題：指導を受けた内容について、各自、加筆・修正を行う。 (1時間) 事後課題：事例の助産計画を立案する。 (1時間)
7	産褥の事例を用いた助産過程の展開(4)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案する。	事前課題：指導を受けた内容について、各自、加筆・修正を行う。 (1時間) 事後課題：事例の個別指導内容を立案する。 (1時間)
8	産褥の事例を用いた助産過程の展開(5)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案する。	事前課題：指導を受けた内容について、各自、加筆・修正を行う。 (1時間) 事後課題：事例の個別指導内容を立案する。 (1時間)
9	新生児期の助産過程の展開 正常新生児の助産診断	新生児の胎外生活への適応過程と生後1か月までの生理的变化について学ぶ。 新生児期における助産診断の特徴と助産過程の展開における理論・方法について学ぶ。	事前課題：『助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] (第6版) 第1章「新生児・乳幼児ケアの基本」第2章「新生時期のアセスメントとケア」を一読してくる。 事後課題：学習した内容を整理する。 (各1時間)
10	新生児の事例を用いた助産過程の展開(1)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の情報整理について学ぶ。	事前課題：マタニティ診断ガイドブック「新生時期のマタニティ診断」を一読する。(1時間) 事後課題：各自、新生児の助産過程の展開を進める。

				(情報整理) (1時間)																
	11	新生児の事例を用いた助産過程の展開(2)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例のアセスメント、助産診断について学ぶ。	事前課題:指導を受けた内容について、各自、加筆・修正を行う。(1時間) 事後課題:各自、新生児の助産過程の展開を進める。(情報整理・アセスメント・助産診断) (1時間)																
	12	新生児の事例を用いた助産過程の展開(3)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導の立案について学ぶ。	事前課題:指導を受けた内容について、各自、加筆・修正を行う。(1時間) 事後課題:各自、新生児の助産過程の展開を進める。(助産計画の立案) (1時間)																
	13	新生児の事例を用いた助産過程の展開(4)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導の立案について学ぶ。	事前課題:指導を受けた内容について、各自、加筆・修正を行う。(1時間) 事後課題:各自、新生児の助産過程の展開を進める。(個別保健指導の立案) (1時間)																
	14	発表とまとめ(1)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行う。	事前課題:発表資料をまとめ、発表準備を行う。(2時間) 事後課題:最終提出に向けて、加筆・修正を行う。(1時間)																
	15	発表とまとめ(2)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行う。	事前課題:発表資料をまとめ、発表準備を行う。(2時間) 事後課題:最終提出に向けて、加筆・修正を行う。(1時間)																
関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学実習, 小児看護学概論, 小児看護学援助論Ⅰ, 小児看護学援助論Ⅱ, 地域看護学, 家族看護学, 精神看護学援助論Ⅰ, 周産期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学Ⅰ, 助産診断・技術学Ⅱ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【電子】助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期</td> <td>石井邦子編</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>【電子】助産学講座 3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学</td> <td>我部山キヨ子編</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>【電子】助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期</td> <td>我部山キヨ子編</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子】助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期	石井邦子編	医学書院	2	【電子】助産学講座 3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学	我部山キヨ子編	医学書院	3	【電子】助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期	我部山キヨ子編	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	【電子】助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期	石井邦子編	医学書院																	
2	【電子】助産学講座 3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学	我部山キヨ子編	医学書院																	
3	【電子】助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期	我部山キヨ子編	医学書院																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新生児学入門第4版</td> <td>仁志田博司著</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>助産学講座 4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学</td> <td>我部山キヨ子編</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新生児学入門第4版	仁志田博司著	医学書院	2	助産学講座 4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学	我部山キヨ子編	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新生児学入門第4版	仁志田博司著	医学書院																	
2	助産学講座 4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学	我部山キヨ子編	医学書院																	
3																				
評価方法(基準)	課題への取り組み(各自レポート作成、グループワークおよびディスカッション参加状況、発表準備)30% 筆記試験70%																			
学生へのメッセージ	産褥・新生児期における助産過程を展開して必要な助産ケアを導きだし、個別指導案の作成を行います。助産技術学演習Ⅰでの個別・集団指導の実施につながる科目となりますので、積極的に取り組まれることを期待しています。																			
担当者の研究室等	入江真理(研究室14)																			
備考	助産過程の展開、および保健指導内容は助産学実習Ⅰで活用します。																			

科目名	助産技術学演習 I	科目名 (英文)	Practice in Midwifery Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	入江 眞理, 井田 歩美, 北野 美月, 但馬 まり子, 名草 みどり, 三浦 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3078a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 助産診断・技術学の履修内容をもとに、妊娠各期および産褥期健康教育の準備・計画・実施・評価の過程とその方法について学ぶ。</p> <p>【目的】 健康教育について学び、妊娠期および産褥期に必要な健康教育を展開できるようになる。</p> <p>本科目は、助産師として臨床での実務経験を持つ教員が担当します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期および産褥期の健康教育の目的・目標を理解し、説明できる。</li> <li>2. 健康教育に必要な教育技術を理解し、説明できる。</li> <li>3. 個別・集団それぞれを対象とした健康教育の特徴や利点・欠点を踏まえ、健康教育を企画することができる。</li> <li>4. 企画した健康教育をロールプレイにて実施し、評価することができる。</li> <li>5. 妊婦および褥婦の運動と助産ケアについて理解できる。</li> </ol>
授業方法と留意点	演習を中心に行う。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得に必要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	健康教育を実施するための基礎知識 妊娠期から産後退院までに必要な健康教育	健康教育の目的、企画書および指導案の立案方法、実施に必要な知識について学ぶ。 個人および集団を対象とした健康教育について学ぶ。	事前：①カウンセリング論での学習内容を想起する。②教科書1 (p.78~126) を読む。(1時間) 事後：妊娠各期の保健指導項目を整理する。
2	妊娠期の健康教育：集団指導 (1)	妊娠期の集団を対象とした健康教育 (マタニティクラス) の展開について理解し、実施に向けての準備を行う。	事前：教科書1 (p.148~159) を読む。(1時間) 事後：妊婦を対象とした健康教育の内容を設定し、企画書を作成、実施準備をする。(2時間)
3	妊娠期の健康教育：集団別指導 (2)	妊娠期の集団を対象とした健康教育 (マタニティクラス) の展開について理解し、実施に向けての準備を行う。	事前：教科書1 (p.148~159) を読む。(1時間) 事後：妊婦を対象とした健康教育の内容を設定し、企画書を作成、実施準備をする。(2時間)
4	妊娠期の健康教育：集団指導 (3)	発表1：ロールプレイによるマタニティクラス (30分) の実施・討議を行う。	事前：各グループで集団指導の企画書を完成させ、実施練習を行い指定日時に企画書を提出する。(各3時間) 事後：企画及び実施の評価をまとめて指定日時に提出する。(1時間)
5	妊娠期の健康教育：集団指導 (4)	発表2：ロールプレイによる両親学級 (30分) の実施・討議を行う。	事前：各グループで集団指導の企画書を完成させ、実施練習を行い指定日時に企画書を提出する。(各3時間) 事後：企画及び実施の評価をまとめて指定日時に提出する。(1時間)
6	妊娠期の健康教育：集団指導 (5)	発表1.2の振り返りと評価を行う。	事前：各グループで集団指導の企画および実施の評価をまとめて提出する。(1時間) 事後：企画および実施の追加修正、課題をまとめて指定日時に提出する。(2時間)
7	産褥期の健康教育：個別指導 (1)	個人を対象とした健康教育の展開について理解し、実施に向けての準備を行う。	事前：教科書1 (p.128~142) を読む。(1時間) 事後：褥婦を対象とした個別指導のテーマを設定し、企画書を作成、実施準備をする。(2時間)
8	産褥期の健康教育：個別指導 (2)	産褥期の個別を対象とした健康教育の展開について作成した指導案を見直し、実施に向けての準備を行う。	事前：個人指導の企画書を完成させ、実施練習を行い指定日時に企画書を提出する。(3時間) 事後：企画した指導案の追加修正を行い実施に向けて完成させ指定日時に提出する。(1時間)
9	産褥期の健康教育：個別指導 (3)	発表3：ロールプレイによる産褥期健康教育 (個別) の実施・討議を行う。	事前：個人指導の企画書を完成させ、実施練習を行い指定日時に企画書を提出する。(3時間) 事後：企画および実施の評価をまとめて指定日時に提出する。(1時間)
10	産褥期の健康教育：個別指導 (4)	発表4：ロールプレイによる産褥期健康教育 (個別) の実施・討議を行う。	事前：個人指導の企画書を完成させ、実施練習を行い指定日時に企画書を提出する。(3時間) 事後：企画および実施の評価をまとめて指定日時に提出する。(1時間)
11	育児における健康教育：個別指導 (1)	発表5：ロールプレイによる沐浴指導 (個別) の実施・討議を行う。	事前：各グループで個別指導の企画書を完成させ、実施練習を行い指定日時に企画書を提出する。(3時間) 事後：企画および実施の評価をまとめて指定日時に提出する。(1時間)
12	家族計画指導 (1)	発表3.4.5の振り返りと評価を行う。	事前：各グループで個別指導の企画および実施の評価をまとめて提出する。(1時間) 事後：企画および実施の追加修正、課題をまとめて指定日時に提出する。(2時間)
13	家族計画指導 (1)	講義：家族計画指導における基礎知識について理解し、家族計画指導案の作成の実際を学ぶ。	事前課題：助産診断・技術学I第7章を読む。(1時間) 事後課題：事例の家族計画指導案を作成する。(1時間)
14	妊婦および褥婦の運動の実際 (1)	演習：マタニティピクス、アフターピクスの実際を体験し、妊婦および褥婦の運	事前学習：教科書3 (p.116~169) を読んでくる。 事後学習：講義、演習内容、助産ケアについて整理

			動の意義を学ぶ。	する。 (前後、各1時間)																
	15	妊婦および褥婦の運動の実 際(2)	演習：マタニティピクス、アフターピク スの実際を体験し、妊婦および褥婦の運 動の意義を学ぶ。	事前学習：教科書3 (p.116~169) を読んでくる。 事後学習：講義、演習内容、助産ケアについて整理 する。 (前後、各1時間)																
関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学実習, 小児看護学概論, 小児看護学援助論Ⅰ, 小児看護学援助論Ⅱ, 地域看護学, 家族看護学, 精神看護学援助論Ⅰ, 周産期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学Ⅰ, 助産診断・技術学Ⅱ, 助産診断・技術学Ⅲ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【電子】助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ</td> <td>堀内成子他編集</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>UNICEF/WHO 赤ちゃんにやさしい母乳育児支援ガイ ド ベーシック・コース「母乳育児成功のための10 か条の実践」</td> <td>BFHI 2009 翻訳編集委員会</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>【電子】助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康 科学</td> <td>我部山キヨ子他編集</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子】助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ	堀内成子他編集	医学書院	2	UNICEF/WHO 赤ちゃんにやさしい母乳育児支援ガイ ド ベーシック・コース「母乳育児成功のための10 か条の実践」	BFHI 2009 翻訳編集委員会	医学書院	3	【電子】助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康 科学	我部山キヨ子他編集	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	【電子】助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ	堀内成子他編集	医学書院																	
2	UNICEF/WHO 赤ちゃんにやさしい母乳育児支援ガイ ド ベーシック・コース「母乳育児成功のための10 か条の実践」	BFHI 2009 翻訳編集委員会	医学書院																	
3	【電子】助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康 科学	我部山キヨ子他編集	医学書院																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今日の助産 改訂[第4版]</td> <td>北川眞理子他編集</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>最新産科学異常編 改訂第22版</td> <td>荒木勤</td> <td>東京文光堂本郷</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今日の助産 改訂[第4版]	北川眞理子他編集	南江堂	2	最新産科学異常編 改訂第22版	荒木勤	東京文光堂本郷	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	今日の助産 改訂[第4版]	北川眞理子他編集	南江堂																	
2	最新産科学異常編 改訂第22版	荒木勤	東京文光堂本郷																	
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 30% 指定された課題の提出、発表等 70%																			
学生への メッセージ	助産学実習の準備になる科目です。個人の自主的な学習およびグループワークによるチームワークやメンバーシップを発揮して主体的に課題に取り組みましょう。																			
担当者の 研究室等	入江眞理 (研究室14)																			
備考	課題である各指導案は、主に助産学実習Ⅰで活用します。																			

科目名	助産技術学演習Ⅱ	科目名 (英文)	Practice in Midwifery Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	但馬 まり子, 井田 歩美, 入江 眞理, 北野 美月, 名草 みどり, 三浦 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3079a0		

授業概要・目的	(概要) 助産師としてケアを提供するために必要な知識、技術、態度について助産診断・技術学の履修内容をもとに、演習を通して統合できる能力を養う。 目的：分娩介助技術および出生時の新生児ケア技術を学習する。
到達目標	1. 分娩期の知識と助産診断をもとに援助を実施できる。 2. 分娩介助技術と正常新生児のフィジカルイグザミネーションを習得できる。 3. 対象者へのケアの提供に対する責任と敬意をもった態度で援助ができる。 4. 分娩期の異常について知識を習得し、異常時の対処ができる。
授業方法と留意点	演習を主に行う。分娩介助、出生直後の新生児のケアに必要な知識と技術を習得するための演習を行う。分娩介助技術は練習することで上達する。授業時間内での練習には限りがあるため、自主的練習を促す。授業内での技術演習は一人一人の到達度を確認しながら行う。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験および助産学実習に関わる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	分娩介助技術演習 (1)	分娩第1期のケア ・分娩介助の意義と原理 ・分娩体位と介助法	事前課題：講義までに分娩経過のビデオ視聴とテキスト P88～94 まで目を通す。(30分) 事後課題：本日の復習 (30分)
2	分娩介助技術演習 (2)	・分娩介助手順と根拠	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す (1時間) 事後課題：なし
3	分娩介助技術演習 (3)	・肛門保護 ・会陰保護 ・児頭娩出 ・前在・後在肩甲の娩出法 ・体幹の娩出	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す (1時間) 事後課題：なし
4	分娩介助技術演習 (4)	・肛門保護 ・会陰保護 ・児頭娩出 ・前在・後在肩甲の娩出法 ・体幹の娩出	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す (1時間) 事後課題：なし
5	分娩介助技術演習 (5)	・出生直後の新生児の介助 ・臍帯切断の方法 ・臍帯血採取 ・胎盤娩出・胎盤計測 ・軟産道精査 ・会陰裂傷と縫合	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す (1時間) 事後課題：なし
6	分娩介助技術演習 (6)	・出生直後の新生児の介助 ・臍帯切断の方法 ・臍帯血採取 ・胎盤娩出・胎盤計測 ・軟産道精査 ・会陰裂傷と縫合	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す (1時間) 事後課題：なし
7	分娩介助技術演習 (7)	・人工破膜の実施 ・臍帯巻絡の解除法 ・会陰切開時の対処法	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す (1時間) 事後課題：なし
8	分娩介助技術演習 (8)	・分娩介助の一連の流れの復習・グループに分かれて実践	事前課題：なし 事後課題：本で行った技術を練習する (1時間)
9	分娩介助技術演習 (9)	・分娩介助の一連の流れの復習・グループに分かれて実践	事前課題：なし 事後課題：本で行った技術を練習する (1時間)
10	分娩介助技術演習 (10)	・出生直後の新生児のケア ・保育器収容中の児のケア	事前課題：資料の予習 (1時間) 事後課題：なし
11	異常分娩時の対処 (1)	・胎児機能不全の対処 ・肩甲難産時の体位と介助 ・骨盤位分娩の介助 ・吸引分娩時の介助	事前課題：なし 事後課題：資料を見て実施技術の振り返り (1時間)
12	異常分娩時の対処 (2)	・胎児機能不全の対処 ・肩甲難産時の体位と介助 ・骨盤位分娩の介助 ・吸引分娩時の介助	事前課題：なし 事後課題：実施技術の振り返り (1時間)
13	異常分娩時の対処 (3)	・異常出血時の対処 シナリオを用いてシミュレーションと討議	事前課題：なし 事後課題：資料を見て実施技術の振り返り (1時間)
14	分娩介助技術演習 (11)	事例を用いて一連の分娩介助技術習得状況の評価	事前課題：シナリオを読み、事前に課題を仕上げてくる。(30分) 事後課題：トレーニング後の評価 (30分)
15	分娩介助技術演習 (12)	事例を用いて一連の分娩介助技術習得状況の評価	事前課題：シナリオを読み、事前に課題を仕上げてくる。(30分) 事後課題：トレーニング後の評価 (30分)

関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学実習, 小児看護学概論, 小児看護学援助論Ⅰ, 小児看護学援助論Ⅱ, 地域看護学, 家族看護学, 精神看護学援助論Ⅰ, 周産期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学Ⅰ, 助産診断・技術学Ⅱ, 助産診断・技術学Ⅲ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕 分娩期・産褥期	我部山キヨ子 他	医学書院
	2	【電子】助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕 新生児・乳幼児期	石井邦子 他	医学書院
	3	産婦人科診療ガイドライン産科編 2020	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今日の助産 改訂第4版	北川眞理子・内山和美 編集	南江堂
	2	病気が見える Vol10 産科第4版	医療情報科学研究所	MEDIC MEDIA
	3	写真でわかる助産技術アドバンス	平澤美恵子・村上睦子監修	インターメディカ
評価方法 (基準)	定期試験 80% 提出物 20% 分娩介助評価表を用いて技術到達度を評価します。決められた評価点に達しない場合は再チェックを受けなければならない。			
学生への メッセージ	分娩介助技術は助産学実習の実施項目です。助産学実習では10例の分娩介助を実践しなければいけません。実習に出たときに自信を持って介助ができるようにしっかり学内で練習しましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階 但馬(研究室20)			
備考	分娩介助技術は助産学実習で10例の分娩介助時に活用します。			

科目名	助産管理論	科目名 (英文)	Midwifery Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	井田 歩美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3080a0		

授業概要・目的	助産管理の基本および運用に必要な基本概念（法的根拠やその内容、管理の原則）を理解し、管理者が果たす役割、助産における危機管理について学ぶ。また、周産期管理システム（母体搬送システム、新生児搬送等）を理解する。
到達目標	1. 助産管理の基本および助産管理業務のプロセスと方法について理解する。 2. 助産業務に必要な関係法規および助産師の法的責任と義務について理解する。 3. 周産期医療体制、チーム医療と職種間・地域の連携について理解する。 4. 助産における医療安全と危機管理について理解する。 5. 助産業務の行われる場に応じた管理について必要な基礎的知識を得る。 6. 助産所の管理・運営、助産所管理に関する法規について理解する。
授業方法と留意点	実際の事例を通して、産科医療の特徴を学び、助産の場面での管理の在り方を考えていきます。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得のための必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	助産管理の基本と助産業務管理	助産管理の基本, 助産業務管理のプロセスと方法, 医療経済について学ぶ。	事前学習: 教科書1 (p. 2~33) を読んでくる。 事後学習: 講義内容を整理する。 (前後, 各1時間)
2	関係法規と助産師の義務・責任	関係法規, 助産師の法的責任と義務, 助産業務ガイドラインについて学ぶ。	事前学習: 教科書1 (p. 36~70) を読んでくる。 事後学習: 講義内容を整理する。 (前後, 各1時間)
3	周産期医療体制と地域連携	周産期医療体制, チーム医療と職種間・地域の連携について学ぶ。	事前学習: 教科書1 (p. 72~91) を読んでくる。 事後学習: 講義内容を整理する。 (前後, 各1時間)
4	助産における医療安全と危機管理(1)	安全対策と医療事故防止について学ぶ。	事前学習: 教科書1 (p. 94~101) を読んでくる。 事後学習: 講義内容を整理する。 (前後, 各1時間)
5	助産における医療安全と危機管理(2)	災害対策について学ぶ。	事前学習: 教科書1 (p. 102~112) を読んでくる。 事後学習: 講義内容を整理する。 (前後, 各1時間)
6	場に応じた助産業務管理(1)	周産期病棟・混合病棟の管理について学ぶ。	事前学習: 教科書1 (p. 114~127) を読んでくる。 事後学習: 講義内容を整理する。 (前後, 各1時間)
7	場に応じた助産業務管理(2)	院内助産・院内助産院の管理, 助産師外来の管理について学ぶ。	事前学習: 教科書1 (p. 128~147) を読んでくる。 事後学習: 講義内容を整理する。 (前後, 各1時間)
8	助産所における助産業務管理	助産所の管理・運営について学ぶ。 講師: あん助産院院長	事前学習: 教科書1 (p. 150~166) を読んでくる。 事後学習: 講義内容を整理する。 (前後, 各1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 助産学概論, 周産期医学, 助産診断・技術学Ⅰ～Ⅲ, 助産技術学演習Ⅰ・Ⅱ, 母性看護学実習
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	【電子】助産学講座10 助産管理	我部山キヨ子他編集	医学書院
2	助産業務ガイドライン	日本助産師会	日本助産師会
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	母子保健の主なる統計 令和6年刊行	公益財団法人母子衛生研究会 編集	公益財団法人母子衛生研究会
2			
3			

評価方法 (基準)	試験: 80%, グループワーク・個別課題等: 10%, ShuttleCard等学習意欲: 10%
学生へのメッセージ	周産期の母子や家族に対して、産婦の主体性を担保しつつ、助産師業務ガイドラインの理解を深め、遵守しつつ安全な助産ケアや管理の在り方について考えていきましょう。
担当者の研究室等	井田 (研究室12)
備考	



科目名	公衆衛生看護学演習Ⅱ	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Method and Practice II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	足立 安正, 櫻井 知賀, 富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3088a0		

授業概要・目的	ディプロマ・ポリシーで求められる「広く多元的に情報を収集し、科学的根拠に基づき、問題を解決できる能力を身につけている。(問題解決力)」の到達に向けて、本科目では、「地域の人々の生活と健康を多角的・総合的にアセスメントする」「地域の潜在的・顕在的な健康課題を明確にする」ことを目的に、情報処理演習室を利用しながらグループ演習に取り組む。 保健師としての実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護活動の実例を踏まえ、地域診断の実際を紹介しながら授業・演習を進行する。
到達目標	(1) 地域で生活する人々について、身体的・精神的・社会文化的な側面から生活と健康に関する情報を収集できる。 (2) 人々の生活の場である地域について、物理的・社会的な側面から生活と健康に関する情報を収集できる。 (3) 収集した情報を統合してアセスメントし、集団・地域の特性を明確にできる。 (4) 顕在化している健康課題を明確にできる。 (5) 潜在化している健康課題を明確にし、今後起こりうる健康課題を予測できる。
授業方法と留意点	情報処理演習室等を使用しながらグループで情報の収集やアセスメント、ディスカッションを行う。そのため、課題には主体的に取り組むとともに、グループメンバーと協調しながら進めていく必要がある。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や支援技術についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地域診断の考え方と方法	講義 地域診断の目的と展開 情報収集と分析	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
2	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
3	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
4	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
5	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
6	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
7	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
8	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
9	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
10	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
11	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
12	地域特性の文章化	演習 情報の分析と統合 グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
13	地域特性の文章化	演習 情報の分析と統合 グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
14	地域の潜在的・顕在的な健康課題の明確化	演習 情報の分析と統合、診断 グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
15	地域の潜在的・顕在的な健康課題の明確化	演習 情報の分析と統合、診断	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、

		グループワーク	進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)	
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆衛生看護学.jp データ更新版第5版	鳩野洋子、神庭純子	インターメディカル
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 保健師業務要覧 (最新版)	井伊久美子, 勝又浜子, 森永裕美子, 荒木田美香子, 坂本真理子, 村嶋幸代	日本看護協会
	2	国民衛生の動向 2023/2024	厚生労働統計協会	一般財団法人 厚生労働統計協会
	3			
評価方法 (基準)	課題の提出物(グループ) 50%、グループワーク評価(調整力・貢献度など) 20%、レポート(個人) 30% 欠席、遅刻および授業態度が不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。			
学生へのメッセージ	保健師の支援技術を演習形式で学んでいきます。集中講義でまた、グループワークも多く行いますので、自身の心身の体調管理には十分に気をつけて、毎回出席できるようにしてください。多職種連携のもと様々な住民への健康保持・増進等を支援する保健師において、自らが心身の健康管理に努めることや、人々とのコミュニケーションとそれによる良好な関係の形成は、基本的かつ重要な能力です。そのため、学生間のグループワークでコミュニケーションを通して調和を保ち良好な人間関係を形成することはもとより、日ごろから多様な人々とのコミュニケーシ			
担当者の研究室等	富永真己 7号館3階 7研究室 足立安正 7号館3階 22研究室 櫻井千賀 7号館3階 共同研究室			
備考				

科目名	公衆衛生看護学実習 I	科目名 (英文)	Public Health Nursing Practicum I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	富永 真己, 足立 安正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN4089a0		

授業概要・目的	地域で生活している人々に対する理解を深め、生活の場で展開される公衆衛生看護活動の実際を理解し、その展開に必要な知識・技術・態度を学ぶ。 実務経験をもつ教員が、都道府県・市町村の保健所・保健センターの実習指導者とともに担当し、地域診断の展開を中心に、保健師活動の実際を経験しながら学習する。
到達目標	1. 地域の環境とそこで暮らす人々の生活・健康との関係を多角的にアセスメントし、地域の特性を考慮することができる。 2. 保健行政システムに対する理解を深め、保健所・保健センターで実施される保健事業の目的や法的根拠、展開プロセスを理解できる。 3. 保健所・保健センターの保健師の主要な業務と支援技術について、体験を通して理解できる。 4. 保健師活動の展開に必要な基本的態度を培うことができる。
授業方法と留意点	保健所・保健センターでの実習を行う。 看護学臨地実習要綱をよく読み理解したうえで、公衆衛生看護学実習 I 要綱で示している実習目的・目標を達成できるように努める。 事前学習を十分に行うとともに、自己の目標を設定するなど積極的・主体的な学習態度で実習に臨む。 グループメンバーと協調しながら実習に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	自治体で働く保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。 保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論 I、公衆衛生看護学活動論 II、公衆衛生看護学演習 I、公衆衛生看護学演習 IIをはじめとしたその他の専門科目すべてが関連する。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公衆衛生看護学.jp データ更新版第5版	鳩野洋子, 神庭純子	インターメディカル
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国民衛生の動向 2023/2024	厚生労働統計協会	一般財団法人 厚生労働統計協会
2	新版 保健師業務要覧 (最新版)	井伊久美子, 勝又浜子, 森永裕美子, 荒木田美香子, 坂本真理子, 村嶋幸代	日本看護協会出版
3			

評価方法 (基準) 事前準備、実習記録、実習態度、実習目標の達成状況を総合して評価する。なお、実習はすべて出席が原則であり、欠席・遅刻・早退は減点対象となることがある。

学生へのメッセージ 臨地実習では、大阪府下の自治体で活躍する保健師の活動の実際を自分の目で見て学習し、指導を受けることできる貴重な機会です。自己の学習目標を明確にして実習に取り組んでください。実習はすべての出席が原則で、実習は住民への健康に関する支援を行う専門職として臨みます。そ

	のことから自らの心身の体調管理には十分に留意してください。また個人・グループで臨む保健事業では、指導者や関係者、住民に対し礼儀正しく、敬意を払うとともに、学生間では調和を保ち協調性とともに積極性をもって実習に臨んでください。住民への健康保持・増進等を
担当者の 研究室等	富永真己 7号館 7研究室 足立安正 7号館 22研究室 櫻井知賀 7号館 研究室
備考	

科目名	公衆衛生看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Public Health Nursing Practicum II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	富永 真己, 足立 安正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN4090a0		

授業概要・目的  
人間の権利や価値観、生涯発達の視点を踏まえたうえで、地域の特性と地域住民の生活を理解し、地域で生活する人々の健康課題を総合的に捉え、課題解決に向けたヘルスケアシステム構築のために必要な知識・技術・態度を習得することで、保健師に求められる基礎的能力を養う。実務経験をもつ教員が、都道府県・市町村の保健所・保健センターの実習指導者とともに担当し、地域診断の展開を中心に、保健師活動の実際を経験しながら学習する。

到達目標  
1. 保健所・保健センターの機能と活動および保健師の活動方法を理解できる。  
2. 地域の人々の生活、文化および健康などを取り巻く環境を多角的にアセスメントすることで地域の特性を理解し、顕在化・潜在化している健康課題を見出すことができる。  
3. 地域の健康課題を解決するための支援計画を立案し、計画を実施・評価できる。  
4. 健康課題解決のための社会資源をアセスメントできる。  
5. 対象の生活や特性に応じた公衆衛生看護活動を展開できる。  
6. 公衆衛生看護管理の実際について理解できる。  
7. 主体的・継続的に学

授業方法と留意点  
保健所・保健センターでの実習を行う。  
看護学臨地実習要綱をよく読み理解したうえで、公衆衛生看護学実習Ⅱ要綱で示している実習目的・目標を達成できるように努める。  
事前学習を十分に行うとともに、自己の目標を設定するなど積極的・主体的な学習態度で実習に臨む。  
グループメンバーと協調しながら実習に取り組む。

科目学習の効果(資格)  
自治体で働く保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。  
保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目  
公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅱをはじめとして、その他の専門科目すべてが関連する。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公衆衛生看護学.jp データ更新版第5版	鳩野洋子, 神庭純子	インターメディカル
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国民衛生の動向 2022/2023	厚生労働統計協会	一般財団法人 厚生労働統計協会
2	新版 保健師業務要覧 第4版 2022年版	井伊久美子, 勝又浜子, 森永裕美子, 荒木田美香子, 坂本真理子, 村嶋幸代	日本看護協会出版
3			

評価方法  
事前学習、実習記録・レポート、実習態度や取り組み、実習目標の達成状況を総合して評価する。なお、実習はすべて出席が原則である。欠席・

(基準)	遅刻・早退は減点対象となることがある。
学生へのメッセージ	臨地実習では、大阪府下の自治体で活躍する保健師の活動の実際を自分の目で見て学習し、指導を受けることできる貴重な機会です。自己の学習目標を明確にして実習に取り組んでください。実習はすべての出席が原則で、実習は住民への健康に関する支援を行う専門職として臨みます。そのことから自らの心身の体調管理には十分に留意してください。また個人・グループで臨む保健事業では、指導者や関係者、住民に対し礼儀正しく、敬意を払うとともに、学生間では調和を保ち協調性とともに積極性をもって実習に臨んでください。住民への健康保持・増進等を
担当者の研究室等	富永真己 7号館 7研究室 足立安正 7号館 22研究室 櫻井知賀 7号館 研究室
備考	

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS02317a1		

授業概要・目的	<p>みなさんはボランティア活動についてどのようなイメージをもっておられるでしょうか。学校で授業の一環として地域の清掃を行ったり募金活動をしたりするのはボランティア活動と言えるでしょうか。チャリティー番組にタレントが報酬を得て出演するのもボランティア活動でしょうか。</p> <p>商業的なイベントで多額の報酬を受け取る人がいる一方で、専門的な知識や経験、資格や免許を有する人たちには〈やりがい〉〈思い出づくり〉あるいは〈社会貢献〉といった名のもとに無償のボランティアが求められることに批判の声があります。これとは逆に、NPO (非営利団体) の職員が報酬を受け取っていることや NPO に寄付したものがそのまま困っている人たちへの支援にまわされず経費として使用されることについて批判する人たちもいます。こうした問題について、みなさんはいまどのような理解をされているでしょうか。</p> <p>ひとことでボランティア活動と言っても、地域の清掃や通学路の見守りといった身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動について考える上で基本となることばを学修します。</p>
---------	--

到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる  (2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる  (3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業は進められます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、たんに授業に出席するだけでなく教員からの問いかけに積極的に応答することが求められます。</p> <p>成績評価の対象となる授業内課題 (リフレクション課題) は原則として毎週提出し、次の授業の冒頭で提出された内容をスクリーンに映しながら口頭でフィードバックが行われます。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法、基準についても確認します。	<p>事前学習：シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習する</p>
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、および歴史について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
3	なぜボランティアが必要なのか？	ボランティアの必要性について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
4	支え合いによって成り立つ社会——市民社会論	支え合いによって成り立つ社会、市民社会について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
5	NPO、NGO	NPO、NGO とは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はど	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞

			のようなものなのか学修します。	にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
6	社会制度とボランティア活動		社会制度が NPO、NGO の活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
7	グループワーク（1）——国内外の NGO 団体について調査		5人前後のグループに分かれ、国内外の NGO 団体について調査します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
8	グループワーク（2）——国内外の NGO 団体について発表の準備		前回に引き続き、各グループで担当するテーマについて発表の準備をします。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
9	グループワーク（3）——国内外の NGO 団体について発表		グループで調査した内容にしたがって、国内外の NGO 団体がどのような活動を行っているのか紹介します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
10	災害とボランティア		災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
11	医療福祉ボランティア		医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
12	マイノリティとボランティア活動		マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)



				事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	14	文化ボランティア、その他のボランティア	文化ボランティア、およびその他のボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	15	まとめ、全体のふり返り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題(リアクションペーパー)15%、グループワーク20%、期末レポート65%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の 研究室等	メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。			

科目名	英語V	科目名(英文)	English V
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー(DP)	DP6◎		
科目ナンバリング	NCA1334a1		

**授業概要・目的**  
 本授業では、米国の看護学専門誌(American Journal of Nursing)のコラム欄の医療や看護実践に関するエッセイを学習教材とし、医療や看護実践に関わる用語や表現を学び、看護や科学に関する英文を読解できる能力を養う。同時に、音声教材を用いて、聞き取りや音読、さらに簡単な意見交換を通し、スピーキング能力を養う。  
 この科目の目的は、英語圏の医療現場の看護師のストーリーを通して、医療の実践の場で看護師として必要な英語の基本的知識を学び、実用的な英語力を身につける。同時にグローバル化が進む医療現場において、看護師としての心得を学び、生涯にわたって学習する習慣を身につける。

- 到達目標**
- 1) 医療、看護、科学等に関する英語の代表的な用語や表現を列挙し、その内容を説明できる。
  - 2) 医療や看護実践に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。
  - 3) 医療や看護実践に関し英語で読まれる内容を、正しく聞き取り、また発音することができる。
  - 4) 英語圏の医療現場の看護実践の例を通して、看護師として必要な心得を説明することができる。
  - 5) 医療や看護実践に関し、英語で書かれた情報を収集し、調べることができる。

**授業方法と留意点**  
 教科書を用いて授業を進行し、課題を出すため、必ず教科書を購入し、毎回の授業で辞書(電子辞書も可)とともに持参して下さい。また、CD教材を用いて聞き取りや音読、2名1組で意見交換を行うことがあります。そのため、必ず予習・復習(要提出)をしてください。

**科目学習の効果(資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(1)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)
2	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(2)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)
3	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(3)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)
4	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(4)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)
5	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(5)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)
6	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(6)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)
7	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(7)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)
8	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(8)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)
9	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(9)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)
10	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(10)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)
11	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(11)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)
12	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(12)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)
13	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(13)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)
14	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(14)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)
15	医療と看護に関する英語エッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit(15)	医療や看護実践に関する英語エッセイの読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	予習:授業のUnitのエッセイを音読し、単語や慣用句を調べる(1時間)。 復習:授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う(1時間)。(要提出)

	ッセイの読解と聞き取り・発音練習、意見交換 Unit (15)	の読解と聞き取り、発音練習を行う。さらに、2~3人1組で意見交換を行い、考えや思い等を英語で発表し合う。	用句を調べる (1時間)。 復習: 授業で用いたUnitを復習し、Exerciseを次の授業までに行う (1時間)。(要提出)	
関連科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護師たちのリフレクション: 医療現場のストーリーで学ぶ英語	Yoshifumi Tanaka	三修社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業の参加度・発表 (20%) および授業後に課す宿題の提出と成績 (80%) で総合的に評価します。なお、出席、受講態度不良の者については20点を限度に減点することがあります。			
学生へのメッセージ	本科目は、アドバンス型の英語の授業で、看護職としてより実践的な英語を学びます。そのため、予習・復習は必ず必要です。英語が好きな学生は、ぜひ積極的に授業に参加して下さい。			
担当者の研究室等	7号館3階 富永研究室			
備考				

科目名	先端医療演習	科目名 (英文)	Advanced Healthcare Practice
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	竹下 裕子・志戸岡 恵子・宮本 征一・矢野 浩二郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2339a1		

授業概要・目的	医療の高度化・複雑化及び医療の質や安全性の向上に伴い、多職種によるチーム医療が様々な臨床で実践されている。その中で、看護学と工学の新たな科学的知見に基づく考えや技術の導入が求められている。本科目では、人間工学、建築環境工学、情報科学の基礎知識を学修し、看護学と工学の融合について考える。
到達目標	1) 人間工学の定義、目的を説明できる 2) 建築環境工学の定義、目的を説明できる 3) 情報科学の定義、目的を説明できる 4) 看護学における工学の役割が理解できる 5) これからの看護学と工学の融合について考察できる
授業方法と留意点	講義と施設の見学を通して、人間工学、建築環境工学、機械工学の基礎を理解しやすいように解説する。施設の見学後は、学生間で学びの共有ができるよう発表の時間を設ける。講義、施設見学、グループワークの一連の学習により、看護における工学の役割について理解する。授業日程は、別途スケジュールを提示します。
科目学習の効果 (資格)	本科目は、看護学と工学の融合した学問の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	人間工学の基礎 (1)	人間工学の定義、臨床における人間工学の活用について調べる	事前学習：人間工学について調べる (30分) 事後学習：さらに深く学習したいことについて調べる (30分)
3	人間工学の基礎 (2)	人間工学の定義、臨床における人間工学の活用について調べてことを発表する	事前学習：発表資料作成のための情報・資料収集 (30分) 事後学習：発表資料を仕上げ提出する (30分)
4	建築環境工学の基礎 (1)	建築環境工学の定義	事前学習：建築環境工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
5	建築環境工学の基礎 (2)	臨床における建築環境工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている建築環境工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
6	機械工学の基礎 (1)	機械工学の定義	事前学習：機械工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
7	機械工学の基礎 (2)	臨床における機械工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている機械工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
8	建築環境工学の実際 (1)	建築環境工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (30分) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (30分)
9	建築環境工学の実際 (2)	建築環境工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (30分) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (30分)
10	建築環境工学の実際 (3)	建築環境工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (30分) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (30分)
11	機械工学の実際 (1)	機械工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (30分) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (30分)
12	機械工学の実際 (2)	機械工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (30分) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (30分)
13	機械工学の実際 (3)	機械工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (30分) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (30分)
14	看護学における工学の理解	これまでの学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合について考察する	事前学習：発表資料作成のための情報・資料収集 (30分) 事後学習：発表資料作成 (30分)
15	看護学と工学のこれから	看護学と工学のこれからについて考察した内容を発表する	事前学習：発表資料作成 (30分) 事後学習：発表資料を仕上げ提出する (30分)

関連科目 これまで履修した専門科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護理工学	真田弘美・森武俊 編	東京大学出版会
2				

	3		
評価方法 (基準)	施設見学への参加、課題への取り組み（ディスカッション、質問）、課題レポートや発表資料の提出内容により100%総合的に評価する。したがって、課題は指定された期日までに忘れず提出をしてください。		
学生への メッセージ	担当される先生方は、温熱環境工学、情報生命科学におけるエキスパートで、この科目は看護学と工学の融合という新しい学問領域になります。施設見学と講義を通して、担当の先生方から学んだことを基に、学生間でのディスカッションを行い、みなさんからの斬新なアイデアが創出されることを期待しています。		
担当者の 研究室等	7号館3階 志戸岡（研究室21）		
備考			

科目名	地域医療実践演習	科目名 (英文)	Community Healthcare Practice
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	山本 十三代, 畦西 克己, 小川 宣子, 百木 和
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA3340a1		

授業概要・目的	チーム医療を推進するために、多職種および地域医療機関などにおける協働や連携に関して、現状を把握し、今後のあり方を考察する。本科目では、多職種との連携、役割と機能への理解を深めるため、チーム医療の行われる実践の場での活動例や体験などを基に、実践的に修得する。
到達目標	ここでは、さまざまな年齢層や生活の背景をもった人が集まるコミュニティに活動の場を広げ、住民主体の健康づくりにおける支援策を検討する。また、コミュニケーション合意形成のプロセス等、住民と協働しチーム医療活動について、より発展的な学習を目指す。 1. 地域医療を展開するために必要とされる基本的な知識を獲得する。 ①モデル地区が抱える地域医療の課題を理解し、地域における健康に関する課題に対し介入方法を考案する。 ②地域で暮らす様々な健康レベルにある人、その家族の生活について理解する。 ③地域社会を健康の視点から捉える方法を理解する。 ④地域で暮らす人々の健康を支える資源・システムを理解する。 ⑤ヘルスプロモーションの理念および地域の健康を推進する方策を理解する。 2. パートナリシップを形成する基本的態度を獲得する。
授業方法と留意点	事前・事後学習をもとにグループ内でのディスカッションを経て提言をまとめていく。2015年度から関わりのある松塚地区をモデル地区として、保健医療福祉について考える。演習の中に講義を盛り込み、フィールドワークを通して健康づくり活動の実践を行うため、学生主体の能動的学習が主な授業方法となる。この科目は、農学部食品栄養学科の学生と合同で行う。
科目学習の効果 (資格)	地域の活性化、地域医療、健康寿命の延伸に関わる活動に参加することは、医療従事者の役割の広がりや体感することとなり、住民の健康づくり活動のPDCAサイクルを身につけることに寄与する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	松塚地区の地域医療とチーム医療の取り組み(公助、共助(互助)、自助) 地域診断について	演習形式 統計資料を基に、松塚地区の健康概況を学ぶ 地域診断の重要性、地域診断を行うための地区踏査の方法について学ぶ	事前:松塚地区の人口動態、衛生統計資料を収集する(0.5時間) 事後:地域診断方法について復習し、地区踏査の視点をまとめておく(0.5時間)
3	地区踏査の実施	実践 松塚地区の地区踏査を行う 交野市社会福祉協議会、松塚地区地区長、松の実カフェ運営者といった方々とディスカッションを行う。	事後:地区踏査の視点に沿って、まとめる。写真、資料などの選択をする
4	地区踏査の実施	実践 松塚地区の地区踏査を行う 交野市社会福祉協議会、松塚地区地区長、松の実カフェ運営者といった方々とディスカッションを行う。	事後:地区踏査の視点に沿って、まとめる。写真、資料などの選択をする
5	地区踏査の整理	演習形式 地区踏査の内容をマップにする。既存資料やインタビューで得た内容を合体し松塚地区の地域診断を明らかにする	事後:時間内にマップ作りができなかった場合は、グループで作成する(1時間)
6	地区踏査の発表	実践 地域診断の結果について、松塚地区の方々にプレゼンテーションを行う	事前:発表の資料、役割を決めプレゼンできるようにしておく(1時間)
7	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの企画-	演習形式 健康教育・学習において効果的な媒体の学習を行う 松塚地区の地域診断を基に、また、現在の健康トピックスを検討しテーマを決め、健康だよりの1ページ分を企画・作成する既存の媒体の検討	事前:①健康教育・学習の効果的媒体作成について学習しておく(0.5時間) ②既存の健康だよりの資料を集めておく(0.5時間) ?健康に関するトピックスについて案をもちよる(1時間) 事後:グループ課題を自己で行う(1時間)
8	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの作成-	演習形式 健康教育・学習において効果的な媒体の学習を行う 松塚地区の地域診断を基に、また、現在の健康トピックスを検討しテーマを決め、健康だよりの1ページ分を企画・作成する既存の媒体の検討	事後:グループ課題を自己で行う(1時間)
9	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(1)	演習形式 松塚区民祭りでのアクティブエイジング健康チェックの企画を立案する P.Pモデルを用いてニーズを分析し、企画書、指導案を作成していく	事前:①昨年の状況について情報を収集しておく。 ②企画案に必要な項目を学習する(0.5時間) 事後:グループ課題を行う(0.5時間)
10	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(2)	演習形式 松塚区民祭りでのアクティブエイジング健康チェックの企画を立案する P.Pモデルを用いてニーズを分析し、企	事後:グループ課題を行う(1時間)

			画書、指導案を作成していく	
	11	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康 チェック- 企画(3)	同上 関係機関、関係者、ボランティア学生との 打ち合わせに参加する アンケートの作成	事後:企画書、スケジュール、役割、アンケートを 指定期日までに作成する(1時間)
	12	アクティブエイジング健康 チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打 ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5時 間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にして おく(0.5時間)
	13	アクティブエイジング健康 チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打 ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5時 間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にして おく(0.5時間)
	14	アクティブエイジング健康 チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打 ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5時 間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にして おく(0.5時間)
	15	アクティブエイジング健康 チェックの評価	演習形式 当日の全体の状況、アンケート集計結果 から健康チェックの評価を行う アンケートについては、事前に入力し図 表に表しておく 健康認識、健康状況、昨年からの改善な どから健康チェックの意義・改善点につ いて提言する	事後:レポートを期日までに作成し提出する(1時 間)
関連科目	各領域別看護学、公衆衛生看護学、公衆衛生学、公衆栄養学、臨床栄養学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	健康行動と健康教育-理論、研究、実践-	Karen Glanz 編 曾根智史訳	医学書院
	2	新しい健康教育	日本健康教育士養成機構編著	保健同人社
	3	住民の主体的組織活動の展開	中村裕美子	医学書院
評価方法 (基準)	企画書、指導案、作品、実践レポートについて60%、地域活動の実践状況について40%の評価を行う。			
学生への メッセージ	この科目は、学生の能動的学習が中心です。松塚地区の概況やそこに暮らす人々の健康・生活・思考に興味関心を抱き、健康増進へ向けての課題を多職種や住民の方々と検討していきたいと考えています。実習で身につけてきた知識・技術・態度を十分に発揮して、チーム医療の本来の在り方や地域包括ケアの在り方について実践を踏まえて考えていきましょう。地域での健康増進活動に関心のある方はぜひ受講ください。住民の方々の思いを聴きこれからの実践に活かせるよう共に考えていきたいと思ひます。			
担当者の 研究室等	山本 十三代 研究室5 小川 宣子 研究室10 百木 和 8号館研究室219 畦西 克己 8号館研究室220			
備考				

科目名	人体の構造と機能 I	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 太郎, 川田 浩一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1001a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護実践の土台となる人体の構造と機能について説明できる。</li> <li>人体の恒常性とその維持について、構造と機能の面から説明できる。</li> <li>人体の構造と機能について、臨床で活用可能な知識として説明できる。</li> <li>各器官系の時間的経過における変化を説明できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	授業方法は講義を中心として、問題等を用いた演習形式学習や課題を実施する。普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	細胞と組織 体を構成するしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>人体を構成する4種類の主な元素と数種類の微量元素を挙げるができる。</li> <li>元素の原子記号を表記できる。</li> <li>核の構造と核膜、染色体、染色質(クロマチン)の機能を説明できる。</li> <li>細胞膜の構造と機能(膜を介した物質の移動)を述べるができる。</li> <li>細胞内小器官の名称と機能を説明できる。</li> <li>体細胞の分裂と生殖細胞の分裂(減数分裂)について説明できる。</li> <li>4種の主要な組織(上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)について、その特徴を述べることができる。</li> <li>各組織が存在する人体の部位を</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
3	血液 物質を運搬するしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>血漿と血清の違いを説明できる。</li> <li>血球と血漿の成分を挙げるができる。</li> <li>血球の名称と機能を説明できる。</li> <li>造血に関わるサイトカインを挙げるができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
4	血液 物質を運搬するしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>止血のメカニズムを説明できる。</li> <li>ABO式、Rh式の血液型について説明できる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
5	免疫系 異物を認識、記憶して排除するしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>獲得免疫系と自然免疫系について、それぞれ説明できる。</li> <li>免疫反応を起こす細胞の特徴と機能について説明できる。</li> <li>抗体の構造と機能について説明できる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
6	免疫系 異物を認識、記憶して排除するしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>感染症に対する免疫系の細胞の反応について説明できる。</li> <li>アレルギーについて説明できる。特に、IgEが関与するアレルギー(アナフィラキシー)について詳細に説明できる。</li> <li>代表的な自己免疫疾患を三つ挙げ、その発症機序を説明できる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
7	循環器系 体のすみずみまで血液を送るしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>心臓の位置と各部位の名称を挙げるができる。</li> <li>血液が体内を循環する経路を、心臓を中心に述べることができる。</li> <li>肺循環と体循環の特徴を説明できる。</li> <li>心臓を栄養する血管を挙げるができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。



			<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓の刺激伝導系の名称を説明できる。</li> <li>・心周期と心音、心電図の関係を述べることができる</li> </ul>	
8	循環器系 体のすみずみまで血液を送るしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・心拍数と1回拍出量を調節する因子を挙げることができる。</li> <li>・動脈と静脈の血管の構造と機能を説明できる。</li> <li>・主要な動脈と静脈の名称を述べることができる。</li> <li>・主要な動脈と静脈の名称を述べることができる。</li> <li>・脳、門脈、胎児の循環系について説明できる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</p>	
9	循環器系 体のすみずみまで血液を送るしくみ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・血圧と脈拍の定義を述べるができる。</li> <li>・血圧を調整する因子を挙げることができる。</li> <li>・体表面から脈拍に触れる部位と触れる血管名を挙げることができる。</li> <li>・リンパの静脈への流入経路が左右非対称である点を説明できる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</p>	
10	呼吸器系 酸素を取り入れて二酸化炭素を排出するしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・鼻や口から入る空気が肺に至るまでに通過する呼吸器官を挙げることができる。</li> <li>・呼吸器系の加温・加湿・清浄化 (感染防御) 機構を述べることができる。</li> <li>・胸腔における胸膜と肺の位置関係が説明できる。</li> <li>・肺胞の構造を述べるができる。</li> <li>・吸息に関する筋と神経を説明できる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</p>	
11	呼吸器系 酸素を取り入れて二酸化炭素を排出するしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・スパイロメーターで測定する肺気量分画の意味を説明できる。</li> <li>・肺活量、%肺活量、1秒間努力呼気容量、1秒率の臨床応用について述べるができる。</li> <li>・外呼吸、内呼吸を説明できる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</p>	
12	泌尿器系 尿をつくるしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・ネフロン構造を述べることができる。</li> <li>・糸球体の濾過と尿細管の再吸収、分泌により尿が生成される過程を述べることができる。</li> <li>・尿に含まれる物質を挙げることができる。</li> <li>・無尿、乏尿、多尿を定義することができる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</p>	
13	泌尿器系 尿をつくるしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・アルドステロンが腎臓に及ぼす影響について説明できる。</li> <li>□排尿の機構を述べることができる。</li> <li>・尿道の構造について男性と女性の差 (長さ) と括約筋を説明できる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</p>	
14	内分泌系 内部の環境を整えるしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・ホルモンの定義と作用するしくみを説明できる。</li> <li>・どのようなフィードバック機構がホルモン分泌にみられるかを、例を挙げて説明できる。</li> <li>・下垂体から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。</li> <li>・松果体から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。</li> <li>・甲状腺から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</p>	
15	内分泌系 内部の環境を整えるしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・上皮小体から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。</li> <li>・副腎皮質と副腎髄質から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。</li> <li>・ステロイド生合成の概略を説明できる。</li> <li>・卵巣と精巣から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。</li> <li>・消化管から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</p>	
関連科目	人体の構造と機能Ⅱ、Ⅲ			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学（電子教科書）	林正健二 編	株式会社メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>総括評価の内訳を 40%：山口（第 1-6 回講義担当）、60%：川田（第 7-15 回講義担当）とし、山口担当分は、定期試験（70%）および課題（30%）で評価し、川田担当分は、定期試験（50%）および課題（50%）で評価する。 合計点 100 点満点中 60 点以上で合格とする。 再受験科目となる学生は、定期試験（100%）で評価し、100 点満点中 60 点以上で合格とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>授業のまとめノートの作成や課題を通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。</p>			
担当者の 研究室等	<p>川田浩一 1 号館 3 階 機能形態学研究室 山口太郎 1 号館 6 階 薬理学研究室</p>			
備考	<p>講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。</p>			

科目名	人体の構造と機能Ⅱ	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 太郎, 川田 浩一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1002a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護実践の土台となる人体の構造と機能について説明できる。</li> <li>人体の恒常性とその維持について、構造と機能の面から説明できる。</li> <li>人体の構造と機能について、臨床で活用可能な知識として説明できる。</li> <li>各器官系の時間的経過における変化を説明できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	授業方法は、講義を中心として問題等を用いた演習形式の学習や課題を実施します。普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ②	以下を目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>大脳、間脳、脳幹、小脳を区別し、各々の機能を述べるができる。</li> <li>脊髄の機能と構造を述べるができる。</li> <li>髄膜の構造を述べるができる。</li> <li>脳脊髄液の産生とその機能を説明できる。</li> <li>脊髄伝導路について説明できる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
3	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ③	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>12 の脳神経の名称を挙げ、その働きを述べるができる。</li> <li>交感神経と副交感神経の構造と機能を説明できる。</li> <li>レム睡眠、ノンレム睡眠について述べるができる。</li> <li>サーカディアンリズムを説明できる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
4	感覚系 外部から情報を取り入れるしくみ①	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>眼球の構造を述べるができる。</li> <li>杆体と錐体の機能的な違いを説明できる。</li> <li>屈折、正視、近視、遠視、老視、盲点、眼圧を説明できる。</li> <li>対光反射のしくみを述べるができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
5	感覚系 外部から情報を取り入れるしくみ②	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>外耳、中耳、内耳の構造と機能を述べるができる。</li> <li>静的および動的平衡覚を説明できる。</li> <li>嗅覚と味覚の受容器を説明できる。</li> <li>皮膚感覚の受容器を挙げることができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
6	皮膚と膜 体や臓器を守るしくみ①	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>表皮・真皮・皮下組織の構造を説明できる。</li> <li>毛・爪・脂腺・汗腺が皮膚の機能にどのように関与しているかを説明できる。</li> <li>体温の調節機構を述べるができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
7	皮膚と膜 体や臓器を守るしくみ②	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>漿膜のある部位を挙げ、その構造と機能を説明できる。</li> <li>粘膜と皮膚が連続している部位を挙げることができる。</li> <li>滑膜や滑液包のある部位を挙げ、その役割を説明できる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
8	生殖器系 子孫を残すしくみ①	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>卵巣の機能を述べるができる。</li> <li>卵管、子宮、膣と膀胱、直腸との位置関係を説明できる。</li> <li>卵胞、黄体、卵子発生を説明できる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・排卵の時期を述べることができる。</li> <li>・月経周期に伴う子宮内膜の変化、下垂体前葉ホルモンおよび卵巣ホルモンの変化を述べることができる。</li> <li>・排卵の機序、受精と受精卵の着床を説明できる。</li> <li>・妊娠による母体の変化を述べるができる。</li> <li>・分娩の開始から終了までを3期に分けて説明できる。</li> </ul>	
9	生殖系系 子孫を残すしくみ②		以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・精子の産生後、射精されるまでの経路を述べるができる。</li> <li>・精巣の特殊な細胞の名称を挙げ、それらの機能を述べるができる。</li> <li>・男性の付属生殖腺の名称、開口部、および分泌物の役割を説明できる。</li> <li>・陰嚢が精巣の温度調節において果たす役割とそのために必要な機能を述べるができる。</li> <li>・陰茎の構造を説明できる。</li> <li>・精子の形成過程を説明できる。</li> <li>・男性ホルモンの機能を述べるができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
10	消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ①		以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・食欲の調節機構 (抑制因子と増進因子) を説明できる。</li> <li>・唾液の成分と機能を説明できる。</li> <li>・歯の構造を述べ、乳歯と永久歯の名称を挙げることができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
11	消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ②		以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・嚥下の機構を述べるができる。</li> <li>・胃、小腸、大腸の構造名を挙げることができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
12	消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ③		以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・消化管や付属腺から分泌される消化酵素の名称と、各々が作用する物質を説明することができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
13	骨格系 体を支えるしくみ		以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・骨格系の機能を三つ以上挙げることができる。</li> <li>・カルシウム代謝と骨の役割を述べるができる。</li> <li>・骨芽細胞と破骨細胞の働きを述べるができる。</li> <li>・頭蓋の骨の名称を挙げることができる。</li> <li>・泉門について説明できる。</li> <li>・脊柱を構成する椎骨の名称を挙げることができる。</li> <li>・椎間板の働きを説明できる。</li> <li>・上肢と下肢の骨の名称を挙げることができる。</li> <li>・骨盤の形の性差を述べるができる。</li> <li>・3種類の関節の名称を挙げることができる。</li> <li>・屈曲、伸展、外転、内転、回内、回外の言葉</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
14	筋系 体を動かすしくみ①		以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3種類の筋組織の特徴、存在する臓器名を述べるができる。</li> <li>・骨格筋の収縮に関連して、活動電位、等張性収縮、等尺性収縮を説明することができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
15	筋系 体を動かすしくみ②		以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・神経筋接合部とアセチルコリンの作用を説明できる。</li> <li>・体表面に近い主要な筋の名称を、顔面、頭部、胸部、腹部、背部、上肢、下肢について述べるができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。

関連科目 人体の構造と機能Ⅰ、Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学 (電子教科書)	林正健二 編	株式会社メディカ出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>総括評価の内訳を60%：山口（第1-9回講義担当）、40%：川田（第10-15回講義担当）とし、山口担当分は、定期試験（70%）および課題（30%）で評価し、川田担当分は、定期試験（50%）および課題（50%）で評価する。  合計点100点満点中60点以上で合格とする。  再受験科目となる学生は、定期試験（100%）で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。</p>			
担当者の 研究室等	<p>川田浩一 1号館3階 機能形態学研究室  山口太郎 1号館6階 薬理学研究室</p>			
備考	<p>講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。</p>			

科目名	人体の構造と機能Ⅲ	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	尾中 勇祐
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1003a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」に生じる異常に関して、基礎的な知識を身につけます。 人体の構造と機能ⅠとⅡでは、正常な状態における人体の構造と機能について学びましたが、人体の構造と機能Ⅲでは、異常が起きた時に現れる症状や徴候について、そのそのメカニズムや検査のポイント等について学びます。 臨床で生きる知識を身につけることを目的として授業を行いますので、しっかりと予習復習を行い、授業についてきてください。
到達目標	・臨床でよく遭遇し、かつ重要な症状・徴候について、その原因の理解・分類ができる。 ・それらの症状・徴候の病態生理を理解できる。 ・それらの症状・徴候の問診、検査のポイントが理解できる。 ・それらの症状・徴候の処置、治療の原則が理解できる。
授業方法と留意点	対面授業による講義を行います。オンデマンド動画を予習教材として使用することもあります。 講義後は、Moodleにて演習問題を提示しますので、繰り返し問題を解き、知識の定着を図ってください。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	血行障害、炎症と修復	以下を目標とします。 ・血行障害とは何かを説明できる。 ・血行障害の原因を分類できる。 ・血栓症と塞栓症の違いを説明できる。 ・梗塞とは何かを説明できる。 ・側副循環 (副行循環) とは何か、例を挙げて説明できる。 ・炎症とは何かを説明できる。 ・炎症の原因を分類できる。 ・炎症と修復に関わる細胞と体液性因子について説明できる。 ・炎症と修復の経過を病理学的について説明できる。	予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。
3	免疫および免疫疾患、感染	以下を目標とします。 ・免疫の役割とは何かを説明できる。 ・免疫の働きと調節を説明できる。 ・免疫とその障害である免疫疾患を分類できる。 ・免疫疾患の成り立ちを説明できる。 ・現在行われている免疫疾患の治療の原則について説明できる。 ・感染の成立とその修復機転について説明できる。 ・感染の原因となる微生物について説明できる。 ・交叉感染を防ぐための基本 (標準予防策を含む) が説明できる。 ・感染症の治療一般 (抗菌薬を含む) について説明できる。	予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。
4	変性・壊死・萎縮・老化、腫瘍と過形成	以下を目標とします。 ・変性とは何かを説明できる。 ・壊死とは何かを説明できる。 ・凝固壊死と融解壊死の病態の違いを説明できる。 ・アポトーシスとは何かを説明できる。 ・萎縮とは何かを説明でき、具体例を挙げられる。 ・老化とは何かを説明できる。 ・老化に伴う主要臓器の変化について説明できる。 ・がん細胞と正常細胞の違いを説明できる。 ・良性腫瘍と悪性腫瘍、癌腫と肉腫とは	予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>何かを説明できる。</li> <li>・がんの自然史と進展形式について説明できる。</li> <li>・TNM分類とは何か説明できる。</li> <li>・がん治療の種</li> </ul>	
5	先天異常、代謝異常	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・先天異常とは何かを説明できる。</li> <li>・先天異常の原因を分類できる。</li> <li>・DNAと遺伝子と染色体の関係を説明できる。</li> <li>・染色体異常と遺伝性疾患を区別できる。</li> <li>・遺伝形式を説明できる。</li> <li>・遺伝医療の流れを説明できる。</li> <li>・先天異常の看護のポイントを説明できる。</li> <li>・健常者の血糖調節機序の説明ができる。</li> <li>・糖尿病における血糖上昇の理由を説明できる。</li> <li>・高血糖でアシドーシスになる理由を説明できる。</li> <li>・高血糖時のいろいろな症状の発生機序を説明できる。</li> <li>・低血糖の発生機序を説明で</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。</p>
6	徴候と疾患の関係、序論—身体の不調はどう現れるか、咳嗽・喀痰・咯血、呼吸困難、胸痛、不整脈	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の原因を理解し、その分類ができる。</li> <li>・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の病態生理が理解できる。</li> <li>・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の問診・検査のポイントがわかる。</li> <li>・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の対応や対処の原則が理解できる。</li> <li>・咳嗽・喀痰の定義・概念について述べるができる。</li> <li>・咳嗽・喀痰の病因とメカニズムについて述べるができる。</li> <li>・咳嗽・喀痰を引き起こす代表的な疾患を述べるができる。</li> <li>・咳嗽・喀痰の分類を述べるができる</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。</p>
7	チアノーゼ、ショック、腹痛、肥満、やせ	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・チアノーゼとは何か説明できる。</li> <li>・チアノーゼの分類ができる。</li> <li>・チアノーゼを観察する部位がわかる。</li> <li>・ショックとは何かを説明できる。</li> <li>・ショックの原因を分類できる。</li> <li>・ショックの段階を説明できる。</li> <li>・ショック時の観察ポイントを説明できる。</li> <li>・ショックへの対応の流れと治療の原則が説明できる。</li> <li>腹痛の分類と発生機序を説明できる。</li> <li>・体性痛と内臓痛とを鑑別できる。</li> <li>・急性腹症について説明できる。</li> <li>・腹膜刺激症状を説明できる。</li> <li>・腹痛をきたす病態で緊急に外科的手術</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。</p>
8	食欲不振、嚥下障害、嘔気・嘔吐、吐血・下血、便秘、下痢	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・食欲不振とは何かを説明できる。</li> <li>・食欲を調節するしくみを説明できる。</li> <li>・食欲不振の原因を分類し、説明できる。</li> <li>・食欲不振時の観察ポイントを説明できる。</li> <li>・嚥下の各期の名称を挙げ、その説明ができる。</li> <li>・嚥下障害とは何かを説明できる。</li> <li>・嚥下障害に伴うリスクを説明できる。</li> <li>・嚥下の各期に起こりうる障害について観察項目とアセスメントを説明できる。</li> <li>・嚥下の各期の障害に対する基礎・摂食訓練を説明できる。</li> <li>・嘔気・嘔吐とは何かを説明できる。</li> <li>・嘔気・嘔吐の原因と機序を説</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。</p>
9	腹部膨満、腹水、黄疸、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・腹部膨満の原因を五つ挙げることができる。</li> <li>・腹部膨満の原因となる疾患は何かを述べるができる。</li> <li>・腹部膨満を訴える患者の病歴聴取のポイントを説明できる。</li> <li>・身体診察から鼓腸、腹水、肥満を鑑別診断できる。</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹水貯留の原因となる疾患を説明できる。</li> <li>・腹水の性状による分類について説明できる。</li> <li>・フィジカルアセスメントでの腹水貯留所見について説明できる。</li> <li>・腹水貯留の病態生理が説明できる。</li> <li>・ビリルビン代謝について説明できる。</li> <li>・黄疸の原因と分類について説明できる。</li> </ul>	
10	皮膚掻痒、レイノー症状、意識障害、頭痛、痙攣とてんかん	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・皮膚の掻痒の原因を分類できる。</li> <li>・掻痒を伴う主な内科疾患を説明できる。</li> <li>・掻痒の原因を診断するための主な検査を列挙できる。</li> <li>・皮膚掻痒の治療の原則を説明できる。</li> <li>・レイノー症状とは何かを説明できる。</li> <li>・レイノー症状の原因を分類できる。</li> <li>・レイノー症状の治療の原則を説明できる。</li> <li>・意識障害とは何かを説明できる。</li> <li>・意識障害の原因を分類できる。</li> <li>・意識障害の頭蓋内病変と頭蓋外病変の違いを説明できる。</li> <li>・意識障害の評価法を説明でき、意識状態を判定できる。</li> <li>・意識障</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。</p>	
11	運動麻痺、運動失調、歩行障害、嘔声、めまい	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・運動麻痺の種類（筋性麻痺、末梢神経性麻痺、下位運動・上位運動ニューロン性麻痺）を説明できる。</li> <li>・片麻痺、交叉性片麻痺、対麻痺の発生機序を説明できる。</li> <li>・痙性麻痺と弛緩性麻痺の違いを説明できる。</li> <li>・痙縮と固縮の違いを説明できる。</li> <li>・運動皮質、運動前野、補足運動野の機能を簡単に説明できる。</li> <li>・徒手筋力テスト (MMT) を簡単に説明できる。</li> <li>・失行と運動失調の区別を説明できる。</li> <li>・パーキンソン病の振戦と小脳性振戦の違いを説明できる。</li> <li>・指鼻指試験を実施できる。</li> <li>・測定障</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。</p>	
12	視力障害、難聴、耳鳴、味覚障害、嗅覚障害、しびれ	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・視力障害とは何かを説明できる。</li> <li>・視力障害の原因を分類できる。</li> <li>・視力障害の発症機序を説明できる。</li> <li>・視力障害時の観察ポイントを説明できる。</li> <li>・視力障害の治療の原則が説明できる。</li> <li>・難聴とは何かを説明できる。</li> <li>・難聴を障害部位別に分類できる。</li> <li>・程度により難聴を区分できる。</li> <li>・難聴を起こす主な原因疾患を説明できる。</li> <li>・主な聴力検査について説明できる。</li> <li>・耳鳴とは何かを説明できる。</li> <li>・耳鳴の分類ができる。</li> <li>・耳鳴を起こす主な疾患を述べることができる。</li> <li>・主</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。</p>	
13	腰痛、関節症状、発熱・低体温、浮腫、脱水	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・腰痛とは何か説明できる。</li> <li>・腰痛の原因となる腰椎疾患、腰椎以外の疾患をそれぞれ説明できる。</li> <li>・腰痛の主な診断方法について説明ができる。</li> <li>・腰痛の主な治療方法の説明ができる。</li> <li>・関節痛とは何かを説明できる。</li> <li>・関節痛をきたす疾患を列挙できる。</li> <li>・関節痛の観察ポイントを説明できる。</li> <li>・関節痛の治療の原則が説明できる。</li> <li>・発熱とは何かを説明できる。</li> <li>・発熱の原因を分類できる。</li> <li>・発熱の段階を説明できる。</li> <li>・発熱時の観察ポイントを説明できる。</li> <li>・発熱への対応の流れ</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。</p>	
14	排尿異常、尿量異常、尿所見異常、睡眠障害、倦怠感	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・頻尿の定義を説明できる。</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、</p>	



			<ul style="list-style-type: none"> <li>・排尿痛を三つに分類して説明できる。</li> <li>・排出困難（排尿困難）の症状を三つ以上説明できる。</li> <li>・尿失禁を原因により六つに分類できる。</li> <li>・無尿の定義を説明できる。</li> <li>・乏尿の定義と乏尿をきたす三つ機序を説明できる。</li> <li>・多尿を生じる疾患を説明できる。</li> <li>・尿が混濁する原因を二つ説明できる。</li> <li>・尿タンパクが検出される疾患を三つに大別して説明できる。</li> <li>・尿糖陽性が意味することを説明できる。</li> <li>・血尿の原因を三つに区別して説明できる。</li> <li>・睡眠の種類につ</li> </ul>	演習問題に取り組む（1時間）。
15	まとめ	問題演習等を通して本科目範囲の理解を深める。		予習：作成した講義ノートを振り返る（1時間）。 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを作成し、演習問題に取り組む（30時間）。
関連科目	人体の構造と機能 I・II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『ナースィング・グラフィカ 疾病の成り立ち① 病態生理学』	山内豊明	株式会社メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『ナースィング・サブリエイメージできる病態生理学』	ナースィング・サブリエイ編集委員会	株式会社メディカ出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(80%)およびMoodle上の演習問題(20%)の成績を合わせて総括評価とする。			
学生への メッセージ	人体の構造と機能 I、II の知識をベースとして、人体に現れる異常についての講義を行います。 ただ覚えるだけでなく、症状であれば、メカニズムから理解する等、流れを意識することで、知識の定着が早まります。 また、授業中や予習・復習中に出てきた疑問は、必ず解消しながら学習を進めてください。 質問大歓迎です。質問は、授業後に尾中を捕まえる、尾中講師室まで行く、teamsのチャット機能で連絡する等の手段で積極的にお願いします。			
担当者の 研究室等	1号館6階 薬理学研究室			
備考				

科目名	代謝栄養学	科目名 (英文)	Biochemical Nutriology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	竹内 健治
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1005a0		

授業概要・目的	糖質、脂質、タンパク質 (アミノ酸)、ビタミン、ミネラルの五大栄養素を中心に、その構造、性質、役割など生化学的な特徴を理解する。また、摂取した食物の消化、吸収の機序を知り、どのように体内で代謝され生体のエネルギーや構成成分になるのかについて、体内で起こる種々の化学反応とその反応を触媒している酵素の役割を中心に理解する。さらに、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書の内容に沿って、プロジェクター、プリントなどを用いて講義する。
科目学習の効果 (資格)	生物系科目全般の基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	糖質の代謝	糖質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	糖質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
3	栄養素各論「脂質」	栄養素としての脂質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「脂質」の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
4	脂質の代謝	脂質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	脂質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
5	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」	栄養素としてのアミノ酸とタンパク質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
6	アミノ酸とタンパク質の代謝 エネルギー代謝の統合と制御	タンパク質の消化、吸収と、アミノ酸の代謝を理解する。 代謝のバランスが崩れたときに、どのようなことが起こるかを理解する。	アミノ酸とタンパク質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
7	体の中での酵素の役割 代謝異常と疾患	私たちの体温は37℃、pHは中性である。このような緩やかな状況で栄養を代謝できるのは体内に酵素があるおかげである。 遺伝情報に誤りがあると、それが原因で代謝異常がおこることを理解する	酵素の役割の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
8	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」 遺伝情報	ヌクレオチドと核酸の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。 遺伝情報がどのように保存され、どのように次世代へ伝わるのかを理解する。	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」と遺伝情報の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	生物・化学の基礎など生物系科目全般
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能 ②臨床生化学 (電子教科書)	宮澤恵二	メディカ出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テストと課題 (25%)、定期試験 (75%) で評価する。
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	代謝栄養学の観点からみると、健康とは、食物の消化・吸収から代謝、および老廃物の排出という人体の活動が正常に営まれることであり、疾病はこの正常な営みが崩れた場合に起こる。代謝栄養学の知識は、他領域の分野を学習するための基礎であり、それらの習得に役立つことは間違いない。講義時間が少ないため、覚えるだけの部分は授業時間以外の学習で補ってもらおう。講義内容についての質問はいつでも受け付けますので、気軽にたずねて下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館1階統合薬学生物研究室
----------	----------------

備考	小テストはMoodleを使用する。
----	-------------------

科目名	病理学総論	科目名 (英文)	Pathology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	尾崎 清和
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1006a0		

授業概要・目的	病理学とは、病気の原因とその成り立ちを知る学問です。看護師の知識として必要な多くの病気に関して、その原因や成り立ちを学ぶことにより、病気の本質を知ることが目的とします。
到達目標	病気に伴い体の中でどのような変化がおきているのかを理解できる。 主要な病気に関しては、その原因と成り立ちについて説明できる。
授業方法と留意点	対面を基本として、場合により遠隔事業をおこないます。 毎回、前回の授業内容の小テストを実施します。
科目学習の効果 (資格)	病気を正しく認識することにより、より適切な看護を行うことが出来る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	免疫 感染症	細菌やウイルス感染による障害とそれに対抗する防御機構	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	循環障害 代謝障害	循環障害や代謝障害による細胞や臓器の変化	・該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	老化 先天異常	老化や先天異常による細胞や臓器の変化	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	腫瘍	腫瘍とはなにか。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	循環器系の疾患	心臓や血管の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	血液・造血器系の疾患	血液やリンパ系の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	呼吸器系の疾患	肺の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	消化器系の疾患	胃や腸管の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	肝臓膵臓の疾患	肝臓、胆嚢、膵臓 (外分泌) の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	泌尿器系の疾患 生殖器系の疾患	腎臓、卵巣、子宮、前立腺の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	内分泌系の疾患	副腎、甲状腺、膵臓 (内分泌) の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	脳・神経系の疾患	脳、脊髄の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	骨関節系の疾患 筋肉系の疾患	骨、関節、筋肉の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
15	感覚器系の疾患 皮膚の疾患	目、鼻、耳、皮膚の主な病気の原因となりたち	・該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】病理学病理学 疾患の成り立ちと回復の促進 1	大橋 健一	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 期末テスト 50%、毎回の小テスト 50%で評価します。  
2年生で再試験の場合は、期末テストのみで評価します。

学生へのメッセージ 病気は正常から逸脱した状態です。人体の正常な解剖と生理を理解したうえで、この講義を受講することにより、病理の理解が一層深まります。

担当者の研究室等 薬学部 病理学研究室 1号館3階

備考

科目名	感染と防御	科目名 (英文)	Microbiology and Immunology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 潔
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1007a0		

授業概要・目的	それぞれの感染症に特定のウイルスや微生物が関与することを理解するため、代表的な病原体の種類や特徴とそれらが引き起こす症状について学ぶ。また、病原体に対する生体防御機構と予防法や治療法の基礎知識を学ぶことにより、科学的な根拠に基づいて感染症の予防と治療に従事する専門職としての能力を身につける。さらに、分子生物学的・遺伝学的観点から感染と防御について概説することにより、最先端の感染症医療に対応できる能力を身につける。
到達目標	1. 代表的な病原微生物の生物学的特徴、感染経路、代表的な治療法および予防法などについて説明できる。 2. 微生物の検出、取扱い、滅菌と消毒について概説できる。 3. 免疫学の発展と免疫系について説明できる。 4. 感染症の患者や家族などに対して適切な態度で接することができる。
授業方法と留意点	教科書の内容を中心に PowerPoint を用いて解説する。必要に応じて課題を出すので、正誤にかかわらず自らの考えを記すこと。PowerPoint の内容をまとめた PDF 資料を配布するので、講義前に教科書の該当領域と合わせて熟読し、概要を理解すること。また、講義中に重要と思われる内容をマークしたり、必要に応じて書き込みすること。講義後、再度、教科書と資料の内容を確認し、重要な内容をノートにまとめること。ほとんどの講義について、学習内容を確認するための基礎的な小テスト問題を Moodle 内に設定する。小テストには 20 分間程度の制限時間を設定するが、受験期間内 (通常は授業後 2 週間程度) は繰り返し受験可能なので、設定した合格点以上を取れるまで繰り返し取り組むこと。疑問や質問などがあれば研究室に来て確認して欲しい。 なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を変更する場合がある。その際は、別途、teams 等を用いて連絡する。
科目学習の効果 (資格)	目に見えない病原体の存在とそれらの特性を理解することで、一般市民の健康と生命を守るために必要な衛生的知識を修得できる。また、感染防御と感染症治療の基礎を理解することで、感染症患者の治療や院内感染防止に役立つ知識を身につけることができる。感染症が誰にでも起こりうる病気であることを理解することで、感染症の患者やその家族に対する偏見を無くし、献身的に医療に従事する態度を醸成する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション (講義の概要について) 感染症とは何か? 病原体とは何か? 免疫とは何か? 感染症の歴史	対面授業により実施する。講義の方法、資料、注意事項、評価方法について説明する。 様々な病原体によって引き起こされる感染症と、免疫の概念について解説する。	事前学習: 教科書 p. 1-p. 10 を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
2	感染・感染症の機構と種類	対面授業により実施する。 感染はどうやって起こるのか、感染症の種類について、教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習: 教科書 p. 12-p. 43 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
3	病原体の概要と分類 1: 細菌	対面授業により実施する。 病原体 (細菌) の特徴と分類、および疾患との関連について、真菌との相違を含めて教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習: 教科書 p. 130-155, p. 310-318 を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
4	病原体の概要と分類 2: 真菌、ウイルス、原虫、蠕虫 免疫の概念	対面授業により実施する。 病原体 (ウイルス・真菌・原虫・寄生虫・プリオン) の特徴と分類、および疾患との関連について、教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習: 教科書 p. 242-254, p. 310-318, p. 335-338, p. 360-369 を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
5	免疫の概念	対面授業により実施する。 免疫反応に関与する細胞や分子の種類と、それらの働きについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 46-p. 70 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
6	免疫系のネットワーク	対面授業により実施する。 自然免疫と獲得免疫の特徴、および細胞性免疫反応と液性免疫反応の特徴について解説する。	事前学習: 教科書 p. 46-p. 70, p. 77-82 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
7	免疫による感染防御と免疫に基づく疾患	対面授業により実施する。 ワクチン、正常な免疫系に関与する疾患、免疫系の過剰反応や異常によって起こる疾患の特徴について解説する。	事前学習: 教科書 p. 71-76, p. 83-p. 91 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
8	微生物の特徴・微生物検査法	対面授業により実施する。 病原微生物の存在や特性を知る方法について解説する。	事前学習: 教科書 p. 71-76, p. 156-p. 162, p. 255-p. 257 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。

				り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1時間)。
9	感染症の予防	対面授業により実施する。 感染症予防の考え方、予防接種、感染予防対策について解説する。		事前学習：教科書 p.92-p.127 の該当部分を熟読する (1時間)。 事後学習：配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1時間)。
10	滅菌と消毒・化学療法	対面授業により実施する。 病原微生物を除去する方法 (滅菌と消毒)、化学療法の概念、歴史と代表的な抗菌薬・抗ウイルス薬、および薬剤耐性について解説する。		事前学習：教科書 p.96-p.107、p.163-p.175、p.258-261 とプリントの該当部分を熟読する (1時間)。 事後学習：配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1時間)。
11	代表的な細菌感染症-1	対面授業により実施する。 グラム陽性菌による感染症の例として、ブドウ球菌感染症、ボツリヌス症、結核などについて解説する。		事前学習：教科書 p.140-p.155、p.176-p.240 とプリントの該当部分を熟読する (1時間)。 事後学習：配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1時間)。
12	代表的な細菌感染症-2	対面授業により実施する。 グラム陰性菌やその他の細菌による感染症の例として、ペスト、コレラ、大腸菌感染症などについて解説する。		事前学習：教科書 p.140-p.155、p.176-p.240 とプリントの該当部分を熟読する (1時間)。 事後学習：配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1時間)。
13	代表的なウイルス感染症-1	対面授業により実施する。 ウイルス感染症の例として、ヘルペスやインフルエンザを中心に解説する。		事前学習：教科書 p.242-p.307 とプリントの該当部分を熟読する (1時間)。 事後学習：配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1時間)。
14	代表的なウイルス感染症-2	対面授業により実施する。 ウイルス感染症の例として、B型肝炎、後天性免疫不全症候群 (AIDS) を中心に解説する。		事前学習：教科書 p.242-p.307 とプリントの該当部分を熟読する (1時間)。 事後学習：配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1時間)。
15	真菌および原虫・蠕虫の特徴と代表的な真菌感染症、寄生虫感染症	対面授業により実施する。 真菌の病原性と代表的な真菌感染症および原虫感染症の例として、マラリアなどについて解説する。		事前学習：教科書 p.310-p.333 および p.336-p.369 とプリントの該当部分を熟読する (1時間)。 事後学習：配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1時間)。

関連科目 生命科学概論、生物・化学の基礎、公衆衛生学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】わかる、身につく病原体・感染・免疫 (電子教科書)	藤本秀士	南山堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学	増澤俊幸	羊土社
	2	微生物学・感染看護学	岡田忍、小池和子、白澤浩 編	医歯薬出版株式会社
	3	系統看護学講座：微生物学：疾病のなりたちと回復の促進[4] (第13版)	南嶋洋一	医学書院

評価方法 (基準) 観察記録 (不定期に実施する小テストおよび提出物への取り組み：教員による観察、20%)、定期試験 (80%) で評価する (100点満点中60点以上で合格)。

学生へのメッセージ ヒトは多種多様な生物との関わり合いの中で生きている。目に見えないほど小さな生物の中には、ヒトにとって有益なものもあれば、有害なものもある。正常な免疫系は我々の身体を種々の病原体から守る役割を果たしているが、免疫系の異常によって病気が引き起こされる場合もある。ヒトと微生物の関係と免疫の仕組みを理解し、科学的な見地に基づいて感染防御に必要なことは何かを考えられる医療従事者になることを望む。疑問に思ったことがあれば、レポート用紙等へ書きとめ、解決して行く姿勢が重要である。

担当者の研究室等 伊藤 潔 (1号館5階 微生物学研究室)

備考 感染症や免疫系、および微生物について学ぶためには、生物学の基礎的知識が不可欠であり、高校レベルの生物学の知識を有することが必要になります。高校で生物学を履修していない者は、本講義を履修する前に高校の生物学の教科書や教材を参考に自己学習することを勧めます。感染症と防御機構としての免疫は非常に奥が深い分野です。講義では、その一部を解説しますので、各自でさらに深く学習されることを期待します。極めて多くの内容を含むのですべてを覚えるのは大変ですが、各回の講義終了後には少なくとも1つの新しい知識を吸収するという態度が重要です。講義終了後のウイルス感染症に対する知識が、「新型コロナウイルス感染症 COVID-19」という名前と、「マスクを着用することが重要」とい

うことだけでは悲しすぎます。少なくとも1回に1つ以上の知識を獲得してください。

科目名	薬理学総論	科目名 (英文)	Pharmacology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1008a0		

授業概要・目的	薬物療法における看護師の役割として、(1) 誤薬の防止、(2) 治療効果の確認、(3) 有害作用の予防と早期発見、(4) 服薬に対する患者指導、(5) 患者・家族に対する治療の説明、などがある。これらを適切に実行するためには、薬物が生体に及ぼす種々の作用及びその作用機序について詳細に学ぶ必要がある。薬理学総論では、薬物の作用を、分子、細胞、臓器、個体レベルで学習し、上記の役割を実践していく上で必要な薬物の基礎知識を修得する。また、薬物の投薬方法と投薬後の注意点、副作用とその対策、医薬品の取り扱い上の留意点等を総合的に理解し、臨床での実践へ向けた薬物療法の基盤を確かなものとする。																																																																		
到達目標	<p>(1) 薬物療法における看護師の役割について概説できる。</p> <p>(2) 以下の薬理学の基礎知識について説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>薬物が作用するしくみについて</li> <li>薬物を投与した際の体内挙動 (吸収、分布、代謝、排泄) について</li> <li>薬物相互作用について例を挙げて説明できる。</li> <li>薬物の危険性について</li> <li>薬に関連した法律について</li> </ul> <p>(3) 以下の薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自律神経に作用する薬物</li> <li>心臓・血管系に作用する薬物</li> <li>血液・造血管系に作用する薬物</li> <li>呼吸器系に作用する薬</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	授業方法は講義を中心として、問題等を用いた演習形式や中間テストを実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬理学を学ぶにあたって薬理学の基礎 (1)</td> <td>薬理学とはなにか、薬による病気の治療、看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について学習する。薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>薬理学の基礎 (2)</td> <td>薬が作用するしくみ (受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター) について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>薬理学の基礎 (3)</td> <td>薬の体内挙動 (投与経路、吸収、分布、代謝、排泄) について学習する。内容: 薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>自律神経に作用する薬物</td> <td>交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物</td> <td>抗高血圧薬・狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>血液・造血管系に作用する薬物</td> <td>止血薬、抗血栓薬、貧血治療薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>呼吸器系に作用する薬物</td> <td>気管支喘息治療薬、鎮咳薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>消化器系に作用する薬物</td> <td>消化性潰瘍治療薬、制吐薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>腎・泌尿器系に作用する薬物</td> <td>利尿薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>感染症治療に用いられる薬物</td> <td>抗菌薬、抗ウイルス薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>炎症や痛みに対する薬物</td> <td>抗炎症薬、鎮痛薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>がん治療に用いられる薬物</td> <td>抗がん薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>外科手術に用いられる薬物</td> <td>全身麻酔薬、筋弛緩薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>中枢神経系に作用する薬物</td> <td>抗不安薬、抗精神病薬、不眠症治療薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>感覚器疾患治療に用いられる薬物</td> <td>緑内障治療薬、めまい治療薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	薬理学を学ぶにあたって薬理学の基礎 (1)	薬理学とはなにか、薬による病気の治療、看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について学習する。薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	2	薬理学の基礎 (2)	薬が作用するしくみ (受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター) について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	3	薬理学の基礎 (3)	薬の体内挙動 (投与経路、吸収、分布、代謝、排泄) について学習する。内容: 薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	4	自律神経に作用する薬物	交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	5	心臓・血管系に作用する薬物	抗高血圧薬・狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	6	血液・造血管系に作用する薬物	止血薬、抗血栓薬、貧血治療薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	7	呼吸器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬、鎮咳薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	8	消化器系に作用する薬物	消化性潰瘍治療薬、制吐薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	9	腎・泌尿器系に作用する薬物	利尿薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	10	感染症治療に用いられる薬物	抗菌薬、抗ウイルス薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	11	炎症や痛みに対する薬物	抗炎症薬、鎮痛薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	12	がん治療に用いられる薬物	抗がん薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	13	外科手術に用いられる薬物	全身麻酔薬、筋弛緩薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	14	中枢神経系に作用する薬物	抗不安薬、抗精神病薬、不眠症治療薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	15	感覚器疾患治療に用いられる薬物	緑内障治療薬、めまい治療薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	薬理学を学ぶにあたって薬理学の基礎 (1)	薬理学とはなにか、薬による病気の治療、看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について学習する。薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
2	薬理学の基礎 (2)	薬が作用するしくみ (受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター) について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
3	薬理学の基礎 (3)	薬の体内挙動 (投与経路、吸収、分布、代謝、排泄) について学習する。内容: 薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
4	自律神経に作用する薬物	交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
5	心臓・血管系に作用する薬物	抗高血圧薬・狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
6	血液・造血管系に作用する薬物	止血薬、抗血栓薬、貧血治療薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
7	呼吸器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬、鎮咳薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
8	消化器系に作用する薬物	消化性潰瘍治療薬、制吐薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
9	腎・泌尿器系に作用する薬物	利尿薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
10	感染症治療に用いられる薬物	抗菌薬、抗ウイルス薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
11	炎症や痛みに対する薬物	抗炎症薬、鎮痛薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
12	がん治療に用いられる薬物	抗がん薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
13	外科手術に用いられる薬物	全身麻酔薬、筋弛緩薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
14	中枢神経系に作用する薬物	抗不安薬、抗精神病薬、不眠症治療薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
15	感覚器疾患治療に用いられる薬物	緑内障治療薬、めまい治療薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
関連科目	人体の構造と機能、薬物治療学																																																																		

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】NICE 薬理学 (電子教科書)	荻田喜代一ほか	南江堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (70%)、中間テスト (30%) で評価し、100 点満点中 60 点以上で合格とする。 再受験科目となる学生は、定期試験 (100%) で評価し、100 点満点中 60 点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	授業のまとめノートの作成や中間テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。			
担当者の 研究室等	1 号館 6 階 薬理学研究室			
備考	講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。			



科目名	薬物治療学	科目名 (英文)	Pharmacotherapeutics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 将也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1009a0		

授業概要・目的	薬理学総論で修得した薬物の作用機序をもとに、さらに幅を広げ、全身の各種疾患に対して科学的根拠に基づいた薬物治療を行うための実践的な医薬品の使用方法を学ぶ。医療チームの一員として患者の治療に貢献できる看護師となるべく、医薬品を投与した際の患者の管理や観察に必要な知識・技能・態度を身につけることを目的に講義を行う。
到達目標	以下の治療薬について、作用、副作用と看護上の留意点を交えて説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓・血管系疾患治療薬</li> <li>・血液・造血器系疾患治療薬</li> <li>・消化器系疾患治療薬</li> <li>・呼吸器系疾患治療薬</li> <li>・腎臓・尿路・生殖器系疾患治療薬</li> <li>・ホルモン関連薬</li> <li>・代謝系疾患治療薬</li> <li>・抗炎症薬、鎮痛薬</li> <li>・免疫・アレルギー系疾患治療薬</li> <li>・骨・関節系疾患治療薬</li> <li>・抗感染症薬</li> <li>・抗がん薬</li> <li>・中枢神経系疾患治療薬</li> <li>・感覚器・皮膚系疾患治療薬</li> <li>・外科手術で用いられる薬物</li> <li>・救急の際に用いられる</li> </ul>

授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行います。臨床的観点からの薬物治療や新薬の話題を合わせて提供します。事前事後学修のテスト（予習テスト・復習テスト）および講義中の確認テストを毎回の授業で実施する予定です。
----------	---

科目学習の効果（資格）	看護師国家試験
-------------	---------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義の概要 心臓・血管系疾患治療薬（1）	講義の進め方、注意事項、評価方法について説明する。心臓・血管の構造とはたらき、高血圧と治療薬、虚血性心疾患と治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
2	心臓・血管系疾患治療薬（2）	心不全と治療薬、不整脈と治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
3	血液・造血器系疾患治療薬 消化器系疾患治療薬（1）	血液と造血器系、貧血と治療薬、抗血栓薬と止血薬、血液製剤、消化性潰瘍と治療薬、食欲不振・消化不良と治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
4	消化器系疾患治療薬（2） 呼吸器系疾患治療薬	嘔吐と治療薬、下痢・便秘と治療薬、腸疾患と治療薬、肝臓・膵臓疾患と治療薬、呼吸器系のしくみ、気管支喘息と治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸抑制と呼吸刺激薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
5	腎臓・尿路・生殖器系疾患治療薬 ホルモン関連薬（1）	腎臓の構造とはたらき、電解質平衡異常と治療薬、利尿薬、神経因性膀胱と治療薬、前立腺肥大症と治療薬、その他の泌尿器系疾患と治療薬、内分泌系について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
6	ホルモン関連薬（2）	視床下部一下垂体系と関連薬、甲状腺ホルモンと関連薬、副腎皮質ホルモンと関連薬、性ホルモンと関連薬、副甲状腺ホルモンとカルシトニンについて学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
7	代謝系疾患治療薬（1）	糖尿病と治療薬、脂質異常症と治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
8	代謝系疾患治療薬（2） 抗炎症薬・鎮痛薬	高尿酸血症・痛風、抗炎症薬、鎮痛薬、疼痛治療の考え方について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
9	免疫・アレルギー系疾患治療薬 骨・関節系疾患治療薬	免疫のしくみと異常、免疫異常による疾患の治療薬、免疫抑制薬、骨・カルシウム代謝、骨粗鬆症と治療薬、関節リウマチと治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
10	抗感染症薬（1）	感染症と病原微生物、感染症と抗菌薬治療、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、駆虫薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
11	抗感染症薬（2） 抗がん薬（1）	消毒薬、予防接種、がんの基礎知識と治療、抗がん薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
12	抗がん薬（2） 中枢神経系疾患治療薬（1）	抗がん薬、中枢神経系の構造とはたらき、不眠症と治療薬、不安障害と治療薬、統合失調症と治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
13	中枢神経系疾患治療薬（2）	気分障害と治療薬、てんかんと治療薬、パーキンソン病と治療薬について学修	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習して

			する。	ください。
	14	中枢神経系疾患治療薬（3） 感覚器・皮膚系疾患治療薬 外科手術で用いられる薬物 （1）	認知症と治療薬、脳血管障害と治療薬、 皮膚疾患と治療薬、眼疾患と治療薬、耳 疾患と治療薬、全身麻酔薬、局所麻酔薬 について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30 分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習して ください。
	15	外科手術で用いられる薬物 （2） 救急の際に用いられる薬物 中毒と解毒薬 漢方薬 薬物療法における看護のポ イント	筋弛緩薬、造影剤および放射性医薬品、 救急の際に用いられる薬物、中毒、解毒、 漢方薬、薬物療法における看護のポイント について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30 分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習して ください。
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、疾病・治療論Ⅰ、Ⅱ、薬理学総論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】看護学テキストNiCE 薬理学	荻田喜代一 他 編	南江堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	定期試験（70%）、予習テスト+講義中テスト+復習テスト（30%）で評価し、100点満点の60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	私達が日常の生活で利用している薬剤から関心を持つと楽しく授業を受けられると思います。臨床で医師・薬剤師と意見交換が出来るよう、薬物に関する基礎的な知識を身につけましょう。			
担当者の 研究室等	1号館7階 薬効薬理学研究室			
備考	学生は教科書を1年次に購入済			

科目名	病院薬学演習	科目名 (英文)	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	菊田 真穂・小西 麗子・小森 浩二・辻 敏和・長谷部 茂・三田村 しのぶ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1010a0		

授業概要・目的	薬に強い看護師になるために、(模擬) 処方せんを用いた処方解析や薬剤関連の医療事故事例の検討の中で、そのために必要な医薬品の専門知識やリスクマネジメントについて理解・修得することを目指す。
到達目標	医師や薬剤師を含むチーム医療を担える看護師になるために、薬剤に関わる基本的な実務 (技能) を体験し、その技能の根拠となる薬の基本的な専門知識 (「薬が効くとはどういうことか」など) を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義 (3号館もしくは7号館にて実施) とグループワーク (3もしくは5号館にて実施) を行うので実施場所や準備に留意すること。
科目学習の効果 (資格)	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 処方箋の読み方と医薬品管理を理解する。 注射薬の投与量の計算ができる。	講義 (菊田)	講義 (授業) 内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。 講義前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	2	高齢者への薬物治療における注意点を理解する。 消毒薬の計算ができる。	講義 (三田村)	講義前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	3	緩和ケアにおける薬物治療について理解する。	講義 (小西)	講義前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	4	感染症における薬物治療について理解する。	講義 (長谷部)	講義前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	5	周術期における薬物治療について理解する。	講義 (辻)	グループワーク前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	6	薬剤関連の医療事故の事例について考える。 ～医療事故の内容を把握し、問題点を抽出する～	グループワーク (担当者全員)	グループワーク前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	7	薬剤関連の医療事故事例について考える。 ～問題点の解決に向けて、対策を検討する～	グループワーク (担当者全員)	グループワーク前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	8	薬剤関連の医療事故事例についてのプレゼンテーション	プレゼンテーション (担当者全員)	プレゼンテーション前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習 (発表後の振り返り) : 1時間程度
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				

関連科目	薬理学総論、薬物治療学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ④ 疾病の成り立ち－臨床薬理学	古川裕之、赤瀬智子、林正健二	メディカ出版
	2	ナーシンググラフィカ② 臨床生化学	宮澤恵二	メディカ出版
	3			

評価方法 (基準)	受講態度 70%および成果物 30% (発表内容を含む) で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には 20 点を限度に減点することがある。 100 点満点中 60 点以上で合格。
-----------	--

学生へのメッセージ	新型コロナウイルスの感染状況により変更がある場合、別途、連絡する。 薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称をはじめとする多くの専門知識を学ぶことになると思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。
-----------	--

担当者の研究室等	6号館3階 臨床薬学研究室 (辻敏和) 社会薬学研究室 (菊田真穂・長谷部茂) 臨床薬理学研究室 (小森浩二・小西麗子)
----------	---

	医療薬学研究室（三田村しのぶ）
備考	講義前の予習（教科書を読む）：1時間×8回 復習および課題に関連する情報の収集：1時間×8回  なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、連絡する。

科目名	病院薬学演習	科目名 (英文)	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	菊田 真穂・小西 麗子・小森 浩二・辻 敏和・長谷部 茂・三田村 しのぶ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1010a0		

授業概要・目的	薬に強い看護師になるために、(模擬) 処方せんを用いた処方解析や薬剤関連の医療事故事例の検討の中で、そのために必要な医薬品の専門知識やリスクマネジメントについて理解・修得することを目指す。
到達目標	医師や薬剤師を含むチーム医療を担える看護師になるために、薬剤に関わる基本的な実務 (技能) を体験し、その技能の根拠となる薬の基本的な専門知識 (「薬が効くとはどういうことか」など) を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義 (3号館もしくは7号館にて実施) とグループワーク (3もしくは5号館にて実施) を行うので実施場所や準備に留意すること。
科目学習の効果 (資格)	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 処方箋の読み方と医薬品管理を理解する。 注射薬の投与量の計算ができる。	講義 (菊田)	講義 (授業) 内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。 講義前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	2	高齢者への薬物治療における注意点を理解する。 消毒薬の計算ができる。	講義 (三田村)	講義前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	3	緩和ケアにおける薬物治療について理解する。	講義 (小西)	講義前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	4	感染症における薬物治療について理解する。	講義 (長谷部)	講義前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	5	周術期における薬物治療について理解する。	講義 (辻)	グループワーク前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	6	薬剤関連の医療事故の事例について考える。 ～医療事故の内容を把握し、問題点を抽出する～	グループワーク (担当者全員)	グループワーク前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	7	薬剤関連の医療事故事例について考える。 ～問題点の解決に向けて、対策を検討する～	グループワーク (担当者全員)	グループワーク前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	8	薬剤関連の医療事故事例についてのプレゼンテーション	プレゼンテーション (担当者全員)	プレゼンテーション前の予習 (関連図書を読む) : 1時間程度 復習 (発表後の振り返り) : 1時間程度
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	薬理学総論、薬物治療学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ④ 疾病の成り立ち－臨床薬理学	古川裕之、赤瀬智子、林正健二	メディカ出版
	2	ナーシンググラフィカ② 臨床生化学	宮澤恵二	メディカ出版
	3			

評価方法 (基準)	受講態度 70%および成果物 30% (発表内容を含む) で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には 20 点を限度に減点することがある。 100 点満点中 60 点以上で合格。  新型コロナウイルスの感染状況により変更がある場合、別途、連絡する。
-----------	---

学生へのメッセージ	薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称をはじめとする多くの専門知識を学ぶことになると思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等	6号館3階 臨床薬学研究室 (辻敏和) 社会薬学研究室 (菊田真穂・長谷部茂) 臨床薬理学研究室 (小森浩二・小西麗子)
----------	---

	医療薬学研究室（三田村しのぶ）
備考	講義前の予習（教科書を読む）：1時間×8回 復習および課題に関連する情報の収集：1時間×8回  なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、連絡する。

科目名	カウンセリング論	科目名 (英文)	Counseling
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	上田 健斗・吉田 幸平
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN2011a0		

**授業概要・目的**  
「コミュニケーションスキル」は医療者が臨床現場でもっとも使用する技術の1つです。我々が日常で行っているコミュニケーションとは質が異なるため、専門的な技術の知識習得と訓練が必須です。本授業では、カウンセリング理論・技法を学び、専門的なコミュニケーションスキルをグループワークや模擬実践(ロールプレイ)を通して体験的に習得することを目的とします。担当講師は医療現場で活動している現役の臨床心理士・公認心理師2名が担当します。1～10回目の内容については精神科・心療内科領域で活動する講師が担当します。11～15回目の内容については緩和ケア領域で活動する講師が担当します。それぞれの講師が経験した実践例を紹介し、実際のコミュニケーションスキルを学ぶ機会も提供したいと思っております。

**到達目標**  
臨床現場で必須のコミュニケーション技術(傾聴・受容・共感的理解)に加え、専門的で効果的なカウンセリング技術を習得できる。

**授業方法と留意点**  
本授業は、集中講義の形式を採ります。内容は、講義に加えてグループワーク、ロールプレイなどの演習を多く取り入れています。その性質上、遅刻や欠席はワークの進行を困難にするためやむを得ない事情がある場合を除き、原則として遅刻・欠席は認めません。授業日の最後の時間に、毎回レポートを課します。本授業はレポート及びグループワークへの積極的参加を評価対象とするため、必ず提出を求めます。もし提出が困難な場合は、速やかに講師に相談してください。必要な持参物があります。PC、ボイスレコーダー(スマホ可)、イヤホン(準備できれば)。

**科目学習の効果(資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	カウンセリング論総論	カウンセリング・心理療法の理論、グループワーク	講義内容の理解を深めましょう。積極的にグループワークに参加しましょう。
2	基本的なコミュニケーションスキル	信頼関係の構築、傾聴・質問・共感的理解、ロールプレイ	講義内容の理解を深めましょう。積極的にロールプレイに参加しましょう。
3	カウンセリングの実際①	逐語録の検討、グループワーク	講義内容の理解を深めましょう。積極的にグループワークに参加しましょう。
4	カウンセリング事例①	グループワーク、講師による症例提示	講義内容の理解を深めましょう。積極的にグループワークに参加しましょう。
5	振り返り	レポート課題①	予習として、1回～4回の講義資料を再読しておきましょう(1時間)。
6	カウンセリング技法①	レポート課題①の質疑応答、動機づけ面接法	講義内容の理解を深めましょう。
7	カウンセリング技法②	解決志向アプローチ	講義内容の理解を深めましょう。
8	カウンセリングの実際②	ロールプレイ	演習内容を整理し理解を深めましょう。積極的にロールプレイに参加しましょう。
9	カウンセリング事例②	システム論、講師による症例提示	講義内容の理解を深めましょう。
10	振り返り	レポート課題②	予習として、6回～9回の講義資料を再読しておきましょう(1時間)。
11	カウンセリングの実際③	“レポート課題②の質疑応答 緩和ケアチーム、チーム医療、連携・協働”	講義内容の理解を深めましょう。
12	カウンセリング事例③	講師による症例提示	講義内容の理解を深めましょう。
13	カウンセリングの実際④	リフレーミング、転移・逆転移、共感疲労、巻き込まれ、燃え尽き	講義内容の理解を深めましょう。
14	カウンセリング事例④	講師による症例提示	講義内容の理解を深めましょう。
15	振り返り	講義内容の総括 レポート課題③	講義内容を整理し理解を深めましょう。

**関連科目** 精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ・Ⅱ、家族看護学、臨床心理学、心理学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法(基準)**  
レポート70%、授業への積極的な関与30%。  
集中講義形式の為、3日とも当日レポートを課します。  
グループワークを重視するため、積極性も評価の対象とします。

**学生へのメッセージ**  
この講義は、グループワークやロールプレイなどの演習を中心に進めます。すでに持っているご自身の力に加えて、専門的な技術を身につけ、今後の臨床現場においては自身の人間関係に役立つ技術を学んでください。講義を終えた時にはコミュニケーションスキルがみるみる伸びていることに気がつくでしょう。気負わず、楽しみながら受講してください。

**担当者の研究室等** 7号館1階 看護学部

**備考** 授業時間外の質問に対しては、授業当日に連絡先を提示します。

科目名	疾病・治療論 I	科目名 (英文)	Clinical Medicine I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森谷 利香, 巽 千賀夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2⑥, DP7Δ		
科目ナンバリング	NDN1012a0		

授業概要・目的	看護の場において、病気が生じる原因と病態、および治療法を理解することは重要です。循環器（心血管）系と呼吸器系の構造と機能を理解し、各科日常診療の基本となる一般的な循環器疾患の予防、病因、病態 生理、症候、診断と初期対応を中心とした治療を学びます。
到達目標	本科目では、主に呼吸器および循環器疾患に関する理解を深め、これらの疾患を持つ患者さんへの医学診断と対処法、治療法を学び、将来の的確で質の高い看護の実践に役立てます。
授業方法と留意点	対面授業
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験に必須の科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	循環器 2: 心電図・不整脈	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器疾患に関連した検査 (心電図、心エコー、心臓カテーテル検査、血行動態モニタリング、心臓核医学検査、画像検査など) について説明できる。</li> <li>・主な不整脈 (徐脈性不整脈、頻脈性不整脈) の病態生理と、その治療について説明できる。</li> </ul>	授業前教科書の該当章 (第 2、4 章、第 5 章 D) を読んでおく (30 分)。授業後は学んだ内容の復習 (30 分)。
3	循環器 3: 心不全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心不全の病態と分類、診断、症状、検査、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の該当章 (第 5 章 B) を読んでおく (30 分)。授業後は学んだ内容の復習すること (30 分)。
4	循環器 4: 心臓弁膜症・心内膜炎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弁膜症の病態と分類、症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>・心膜炎の病態と分類、診断について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の該当章 (第 5 章 E、F) を読んでおく (30 分)。授業後は学んだ内容の復習 (30 分)。
5	循環器 5: 虚血性心疾患 (冠動脈疾患) - 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定冠動脈疾患 (労作性狭心症、冠攣縮性狭心症) の症状、検査、治療について説明できる。</li> <li>・急性冠症候群 (不安定狭心症、急性心筋梗塞) の症状、検査、治療について説明できる。</li> </ul>	授業前に教科書の該当章 (第 5 章 A) を読んでおく (30 分)。授業後は学んだ内容の復習 (30 分)。
6	循環器 6: 虚血性心疾患 (冠動脈疾患) - 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急性冠症候群 (不安定狭心症、急性心筋梗塞) の症状、検査、治療について説明できる。</li> <li>・冠動脈硬化の危険因子について説明できる。</li> </ul>	授業前に教科書の該当章 (第 5 章 A) を読んでおく (30 分)。授業後は学んだ内容の復習 (30 分)。
7	循環器 7: 心筋疾患・心膜疾患・心臓腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心筋症の病態と分類、治療について説明できる。</li> <li>・心筋炎の症状、診断、治療について説明できる。</li> <li>・心臓の腫瘍の症状、治療について説明できる。</li> </ul>	授業前に教科書の該当章 (第 5 章 G) を読んでおく (30 分)。授業後は学んだ内容の復習すること (30 分)。
8	循環器 8: 血圧異常と血管疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高血圧 (本態性高血圧、二次性高血圧) の分類、診断、治療について説明することができる。</li> <li>・本態性低血圧の診断、治療について説明することができる。</li> <li>・大動脈瘤、大動脈解離の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>・動脈の閉塞性疾患の分類、症状、診断、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の該当章 (第 5 章 C、J) を読んでおく (30 分)。授業後は学んだ内容の復習 (30 分)。
9	呼吸器 1: 呼吸器総論、解剖・生理・検査・症候	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器の構造と、呼吸の生理について説明することができる。</li> <li>・呼吸機能障害に関連した症状 (咳嗽、喀痰、血痰・咯血、胸痛、呼吸困難など) とその病態生理について説明できる。</li> <li>・呼吸器疾患に関連した検査 (画像検査、内視鏡検査、生検など) について説明できる。</li> </ul>	授業前に教科書の該当章 (第 2、3、4 章) を読んでおく (30 分)。授業後は学んだ内容の復習すること (30 分)。
10	呼吸器 2: 呼吸不全・換気異常	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器疾患に関連した検査 (呼吸機能検査など) について説明できる。</li> <li>・呼吸不全の病態生理 (肺泡低換気・ガス交換障害、急性呼吸不全・慢性呼吸不全) について説明することができる。</li> <li>・急性呼吸窮迫症候群、肺性心の症状、検査、治療について理解することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の該当章 (第 4 章、第 5 章 C、E、F) を読んでおく (30 分)。授業後は学んだ内容の復習すること (30 分)。



			<ul style="list-style-type: none"> <li>慢性閉塞性肺疾患の病態、診断、治療について説明することができる。</li> <li>呼吸調整に関する疾患（過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群）の診断、治療について説明することができる。</li> </ul>	
11	呼吸器3：呼吸器感染症		<ul style="list-style-type: none"> <li>かぜと急性気管支炎の症状、治療について説明することができる。</li> <li>インフルエンザの病態、治療について説明することができる。</li> <li>肺炎の病態、検査、治療、分類について説明することができる。</li> <li>結核の病態、検査、診断、治療、分類について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の該当章（第5章 A）を読んでおく（30分）。授業後は学んだ内容の復習すること（30分）。
12	呼吸器4：免疫・アレルギー性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患		<ul style="list-style-type: none"> <li>気管支喘息の病型、診断、治療について説明することができる。</li> <li>気管支拡張症の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>胸膜の疾患（胸膜炎、膿胸、自然気胸など）の病態、症状、治療について説明することができる。</li> <li>縦郭の疾患（縦隔炎、縦隔気腫、縦隔腫瘍など）の病態、症状、治療について説明することができる。</li> <li>横隔膜の疾患（吃逆、横隔膜麻痺、横隔膜ヘルニアなど）病態、症状、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の該当章（第5章 C、I）を読んでおく（30分）。授業後は学んだ内容の復習すること（30分）。
13	呼吸器5：間質性肺疾患・胸膜疾患		<ul style="list-style-type: none"> <li>間質性肺炎の分類、症状、検査、診断、治療について説明することができる。</li> <li>サルコイドーシスの分類、症状、検査、治療について説明することができる。</li> <li>好酸球性肺疾患の分類、症状、検査、治療について説明することができる。</li> <li>過敏性肺炎、塵肺、膠原病に伴う肺病変、薬剤性肺炎、放射線肺炎の病態について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の該当章（第5章 B）を読んでおく（30分）。授業後は学んだ内容の復習すること（30分）。
14	呼吸器6：肺腫瘍		<ul style="list-style-type: none"> <li>肺腫瘍の分類、病態、症状、検査、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の該当章（第5章 G）を読んでおく（30分）。授業後は学んだ内容の復習すること（30分）。
15	呼吸器7：肺循環障害		<ul style="list-style-type: none"> <li>肺血栓塞栓症の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>肺高血圧症の症状、診断、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の該当章（第5章 D）を読んでおく（30分）。授業後は学んだ内容の復習すること（30分）。

関連科目 人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、病理学総論、疾病・治療論Ⅱ、Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】系統看護学講座 成人看護学 循環器 第16版		医学書院
	2	【電子】系統看護学講座 成人看護学 呼吸器 第16版		医学書院
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気が見える Vol.5.循環器		メディックメディア
	2	病気が見える Vol.4.呼吸器		メディックメディア
	3			

評価方法（基準） 定期試験（100％）にて評価

学生へのメッセージ 看護学を学習するうえで必要な基本的知識を習得しますので、しっかり学習しましょう。

担当者の研究室等  
備考

科目名	疾病・治療論Ⅱ	科目名 (英文)	Clinical Medicine II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森谷 利香, 高橋 務, 福地 成晃, 松本 吉弘
ディプロマポリシー (DP)	DP2⑥, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1013a0		

授業概要・目的	看護の場において、病気が生じる原因と病態、および治療法を理解することは重要です。本授業では、看護職者に必要となる様々な病態と診断、治療法を理解します。
到達目標	本科目では、主に消化器疾患、血液疾患、内分泌・代謝疾患、アレルギー疾患、腎・泌尿器疾患に関する理解を深め、これらの疾患を持つ患者さんへの医学診断と対処法、治療法を学び、将来の、的確で質の高い看護の実践に役立てます。
授業方法と留意点	本科目では講義を中心として、医療・看護に必要となる医学に関する基礎的知識を修得します。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	血液 1 血液総論・赤血球の異常・止血機構の異常	<ul style="list-style-type: none"> <li>血液の成分と機能(血液の性状と機能、止血機構と線溶、免疫応答)について説明することができる。</li> <li>造血のしくみ(造血の3要素、血液細胞の分化)について説明することができる。</li> <li>赤血球系の異常(鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血など)の症状、検査、診断、治療について説明することができる。</li> <li>出血性疾患(血友病、播種性血管内凝固)の症状、検査、診断、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の当該章(第2、3章、第4章 A、D)を読んでおく(30分)。授業後は学んだ内容の復習すること(30分)。
2	血液 2 造血器腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> <li>造血器主要の分類、治療の基本理念について説明できる</li> <li>急性白血病の分類、症状、検査、診断、治療について説明することができる</li> <li>骨髄異形成症候群の分類、症状、検査、診断、治療について説明することができる</li> <li>悪性リンパ腫の分類、症状、検査、診断、治療について説明することができる</li> <li>多発性骨髄腫の分類、症状、検査、診断、治療について説明することができる</li> </ul>	授業前に教科書の当該章(第4章 C)を読んでおく(30分)。授業後は学んだ内容の復習すること(30分)。
3	免疫・アレルギー1 免疫総論	<ul style="list-style-type: none"> <li>免疫反応について説明することができる。</li> <li>免疫担当細胞と伝達物質について説明することができる。</li> <li>アレルギーの仕組みについて説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の当該章(第2章)を読んでおく(30分)。授業後は学んだ内容の復習すること(30分)。
4	消化器総論(解剖・生理・症候)と画像検査(内視鏡、CT)、腫瘍性疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化器(食道、胃・十二指腸、直腸・肛門、肝臓、胆道系、膵臓)の構造と機能について説明することができる。</li> <li>食道がんの分類、症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>胃がんの分類、症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>大腸がんの分類、症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>胆嚢・胆管がん、膵がんの分類、症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>肝がんの分類、症状、診断、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の当該章(第2章、第5章 A、B、C、D、E)を読んでおく(30分)。授業後は学んだ内容の復習すること(30分)。
5	食道と胃・十二指腸の疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>胃食道逆流症・逆流性食道炎の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>胃・十二指腸潰瘍の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>胃炎の症状、診断、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の当該章(第5章 B)を読んでおく(30分)。授業後は学んだ内容の復習すること(30分)。
6	腸・腹膜の疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>腸閉塞・イレウスの分類、症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>腸炎(炎症性腸疾患、感染性腸炎)の分類、症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>腹膜炎の分類、症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>虫垂炎の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>痔核・痔瘻の分類、症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>過敏性大腸症候群の、症状、診断、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の当該章(第5章 C)を読んでおく(30分)。授業後は学んだ内容の復習すること(30分)。

			<ul style="list-style-type: none"> <li>消化管憩室の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>腸管ポリ</li> </ul>	
7	免疫・アレルギー2 免疫の異常（アレルギー、免疫不全、アナフィラキシーなど）		<ul style="list-style-type: none"> <li>主なアレルギー性疾患（食物アレルギー、アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎、薬物アレルギーなど）の分類、症状、検査、診断、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の当該章（第4章）を読んでおく（30分）。授業後は学んだ内容の復習すること（30分）。
8	肝臓・胆道・膵臓の疾患		<ul style="list-style-type: none"> <li>肝炎の分類、症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>肝不全の分類、症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>肝硬変の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>胆石症の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>胆嚢炎・胆管炎の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>胆嚢ポリープの症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>膵炎の分類、症状、診断、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の当該章（第5章 D,E）を読んでおく（30分）。授業後は学んだ内容の復習すること（30分）。
9	免疫・アレルギー3 膠原病・自己免疫疾患		<ul style="list-style-type: none"> <li>自己免疫疾患の機序について説明することができる。</li> <li>代表的な膠原病および自己免疫疾患について、症状、診断、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の当該章（第2、5章）を読んでおく（30分）。授業後は学んだ内容の復習すること（30分）。
10	内分泌総論・内分泌（甲状腺・副甲状腺・副腎・視床下部・下垂体）疾患		<ul style="list-style-type: none"> <li>内分泌器官（視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、消化管・膵臓）の構造と機能について説明することができる。</li> <li>視床下部-下垂体前葉系疾患（クッシング病、成長ホルモン産出腫瘍、下垂体機能低下症など）の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>視床下部-下垂体後葉系疾患（尿崩症など）の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>甲状腺疾患（バセドウ病、慢性甲状腺炎、甲状腺機能低下症など）の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>副腎疾患（クッシング症候群、原発性アルドステロ</li> </ul>	授業前に教科書の当該章（第2,5章）を読んでおく（30分）。授業後は学んだ内容の復習すること（30分）。
11	腎・泌尿器疾患1 腎泌尿器疾患総論・症状・検査		<ul style="list-style-type: none"> <li>腎臓・泌尿器の構造と機能について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の当該章（第2章）を読んでおく（30分）。授業後は学んだ内容の復習すること（30分）。
12	腎・泌尿器疾患2 尿路結石症・腫瘍・感染症		<ul style="list-style-type: none"> <li>尿路結石症の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>尿路・性器の主な腫瘍（腎がん、精巣がん、前立腺がん、膀胱がんなど）の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>尿路・性器の感染症（膀胱炎など）の症状、診断、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の当該章（第5章）を読んでおく（30分）。授業後は学んだ内容の復習すること（30分）。
13	腎・泌尿器疾患3 腎不全・腎代替療法		<ul style="list-style-type: none"> <li>腎不全の概要、症状、分類、診断、治療について説明することができる。また腎不全に伴う症状（腎性貧血など）について説明することができる。</li> <li>慢性腎臓病の概要、症状、分類、診断、治療について説明することができる。</li> <li>糸球体腎炎の概要、症状、分類、診断、治療について説明することができる。</li> <li>透析療法・腎移植について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の当該章（第3、4、5章）を読んでおく（30分）。授業後は学んだ内容の復習すること（30分）。
14	糖尿病		<ul style="list-style-type: none"> <li>糖尿病の概要、症状、分類、診断、治療について説明することができる。</li> <li>糖尿病の合併症の症状、診断、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の当該章（第2、5章）を読んでおく（30分）。授業後は学んだ内容の復習すること（30分）。
15	脂質代謝異常・肥満・メタボリック症候群・尿酸代謝異常		<ul style="list-style-type: none"> <li>脂質異常法とメタボリックシンドロームの分類、診断、治療について説明することができる。</li> </ul>	授業前に教科書の当該章（第2、5章）を読んでおく（30分）。授業後は学んだ内容の復習すること（30分）。

関連科目

人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、病理学総論、疾病・治療論Ⅰ・Ⅲ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	備考欄に5冊記入		
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる 1, 3, 5, 6, 8		MEDIC MEDIA
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験にて評価 (100%)			
学生への メッセージ	看護学を学習する上で必要な基本的知識を習得しますので、しっかり学習しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考	①【電子】系統看護学講座 成人看護学 血液 第15版 医学書院 978-4-260-03571-2 ②【電子】系統看護学講座 成人看護学 アレルギー・膠原病・感染症 第15版 医学書院 978-4-260-03858-4 ③【電子】系統看護学講座 成人看護学 消化器 第15版 医学書院 978-4-260-03562-0 ④【電子】系統看護学講座 成人看護学 腎・泌尿器 第16版 医学書院 978-4-260-05314-3 ⑤【電子】系統看護学講座 成人看護学 内分泌 第16版 医学書院 978-4-260-05310-5			

科目名	疾病・治療論Ⅲ	科目名 (英文)	Clinical Medicine III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	森谷 利香, 奥田 眞也, 細野 昇
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1014a0		

授業概要・目的	看護の場において、身体の構造と機能のみならず、病気が発現する原因と機構（病態）を理解することは重要です。本科目では、各種疾病の、原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等「病気の診かたと対処の仕方」について学びます。将来の「共に働く職場チーム」に、的確に、患者さんの病状と時々の経過と、今注意すべき点を説明するための基礎力、建物で言えば、末永く支える土台を作ります。
到達目標	本科目では、主に運動器および脳・神経疾患に関する理解を深め、これらの疾患を持つ患者さんへの医学的診断と対処法、治療法を学び、将来的に確度の高い看護の実践に役立ちます。
授業方法と留意点	下の欄にある授業計画に沿って授業を進めますが、授業内容の短縮、延長・拡大、または、省略が生じ得ます。 講義中心で行います。講義の時間は限られていますので、教科書をすべて網羅することは叶わず、代表的な疾患を中心に講義を行います。このため、教科書の自習は欠かせません。
科目学習の効果 (資格)	医学領域の理解の大切さと、それらに関する知識が増えることの楽しさを学ぶことで、常に成長し続けるプロフェッショナルへの道を支援します。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	疾病・治療論(運動器 整形外科1)	教科書：系統看護学講座 運動器 について共に学びます。	・教科書とは、日本地図のようなもの。全体に目を通し、自分にとって興味ある、または、面白そうなところを見て読んで、そして見たままを一つの風景としても感じてみます (30分間)。 ・授業で理解できた所を含めて全体を復習し、イメージ (文字と図や写真という風景) も含め、記憶に定着させることに楽しく挑戦します (30分間)。
2	疾病・治療論(運動器 整形外科2)	教科書：系統看護学講座 運動器 について共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (30分間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (30分間)。
3	疾病・治療論(運動器 整形外科3)	教科書：系統看護学講座 運動器 について共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (30分間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (30分間)。
4	疾病・治療論(運動器 整形外科4)	教科書：系統看護学講座 運動器 について共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (30分間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (30分間)。
5	疾病・治療論(脳・神経疾患 1)	教科書：系統看護学講座 脳・神経の、脳・神経 (脳・神経総論・症状・検査) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (30分間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (30分間)。
6	疾病・治療論(脳・神経疾患 2)	教科書：系統看護学講座 脳・神経 (脳血管障害・認知症) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (30分間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (30分間)。
7	疾病・治療論(脳・神経疾患 3)	教科書：系統看護学講座 脳・神経 (神経変性疾患・末梢神経疾患・筋疾患) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (30分間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (30分間)。
8	疾病・治療論(脳・神経疾患 4)	教科書：系統看護学講座 脳・神経 (感染症・脳腫瘍・頭部外傷) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (30分間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (30分間)。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 病理学総論、人体の構造と機能、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	【電子】系統看護学講座 成人看護学 脳・神経 第15版		メディックメディア
2	【電子】系統看護学講座 成人看護学 運動器 第15版		メディックメディア
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病気が見える vol.11 運動器・整形外科		メディックメディア
2	病気が見える Vol.7 脳・神経		メディックメディア
3			

評価方法 (基準)	試験にて100%評価します。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	疾病・治療論Ⅳ	科目名 (英文)	Clinical Medicine IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	大橋 敦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1015a0		

授業概要・目的	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。対象の個性 (年齢、疾患の重症度、家庭環境) に応じた看護援助を行うための疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学修する。
到達目標	小児に特有の急性疾患・慢性疾患、手術を必要とする先天性疾患、早産児・低出生体重児などに関する成人とは異なる特殊な病態生理、検査・処置、治療等について理解できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。スライドを中心に講義を行い、スライドと同等の内容が記載されている資料を事前に配付する。事後学習としてミニテストに取り組み、知識の定着に努める。またミニテストの解説動画を Teams に掲載するので、事後学修に活用して頂きたい。受講に際して解剖生理についての基礎的な知識が必要となるので、関連科目について事前学修を十分に行う。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学概論、小児看護学援助論、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	新生児の疾患について	新生児、早産児の生理機能と代表的な疾患を理解する。	事前課題 (2 時間): 講義資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P. 26-38 200-205 374~401 「小児看護学概論/小児保健」P. 97-103 148-162 参考書「小児疾患」P. 123-144 事後課題 (1 時間): ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴
2	小児の呼吸器疾患について	小児の呼吸器生理の特徴と、小児に多い呼吸器疾患を理解する。	事前課題 (2 時間): 講義資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P. 95-101 439~448 参考書「小児疾患」P. 36-38 241-250 事後課題 (1 時間): ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴
3	小児の循環器疾患について	小児の循環器生理の特殊性と先天性心疾患を理解する。	事前課題 (2 時間): 講義資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P. 110-112 450~467 参考書「小児疾患」P. 39-43 251-276 事後課題 (1 時間): ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴
4	小児の血液疾患・悪性新生物について	小児に多い血液疾患、悪性新生物を理解する。	事前課題 (2 時間): 講義資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P. 531~545 「小児疾患」P. 324-354 事後課題 (1 時間): ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴
5	小児の消化器疾患、腎・泌尿器疾患について	小児に多い消化器疾患、腎・泌尿器疾患を理解する。	事前課題 (2 時間): 講義資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P. 84-95 117-119 468~486 487-504 参考書「小児疾患」P. 44-59 277-323 事後課題 (1 時間): ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴
6	小児の神経疾患、染色体異常、発達障害について	小児に多い神経疾患を理解する。染色体異常、発達障害について理解する。	事前課題 (2 時間): 講義資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P. 105-109 366~372 515~530 605~610 参考書「小児疾患」P. 5-23 110-122 171-206 事後課題 (1 時間): ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴
7	小児の内分泌・代謝疾患について	小児に多い内分泌疾患、代謝性疾患を理解する。	事前課題 (2 時間): 講義資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P. 113-116 558~569 参考書「小児疾患」P. 29-35 145-170 事後課題 (1 時間): ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴
8	小児の感染症、免疫・アレルギー、予防接種について	小児に多い感染症、免疫・アレルギー疾患を理解する。予防接種について理解する。	事前課題 (2 時間): 講義資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P. 79-83 546~557 570~578 579~587 「小児看護学概論/小児保健」P. 72-74 参考書「小児疾患」P. 23-28 64-68 207-240 事後課題 (1 時間): ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 人体の構造と機能、疾病治療論、小児看護学概論、小児看護学援助論、小児看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児看護学①小児看護学概論/小児保健	小林京子、高橋孝雄	メヂカルフレンド社
2	小児看護学②健康障害をもつ小児の看護	小林京子、高橋孝雄	メヂカルフレンド社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護学テキスト 病態・治療論 14 小児疾患	真部 淳、松藤 凡、小林京子	南江堂
2	病気がみえる vol. 15 小児科		メディックメディア	

	3		
評価方法 (基準)	合否判定は期末試験で判定する。筆記試験100点満点の60点以上で合格とする。		
学生への メッセージ	疾病・治療論IVでは非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶にとどまらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学修を深めて下さい。ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴により知識の定着をはかり、次年度の実習に役立てて下さい。		
担当者の 研究室等			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Teams に提示した講義資料を事前に読んでおくこと (2 時間)</li> <li>・ 授業ごとに Teams に設定しているミニテストを実施すること (30 分)</li> <li>・ ミニテストの解説動画を視聴すること (1 時間)</li> </ul>		



科目名	疾病・治療論V	科目名 (英文)	Clinical Medicine V
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	井田 歩美, 坪倉 弘晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1016a0		

授業概要・目的	次世代を担う母性準備期 (思春期), 母性が最も発揮される時期 (成熟期) および母性継承期 (更年期・老年期) にある女性に特有とされる月経異常, 更年期障害, 婦人科疾患 (子宮筋腫, 子宮がんなど) および妊娠・分娩・産褥・新生児に関する健康障害と治療法について学ぶ。
到達目標	婦人科疾患 (月経異常, 性感染症, 不妊症, 子宮筋腫, 子宮がんなど), 妊娠・分娩・産褥・新生児 (周産期) に関する健康障害と治療法について理解する。
授業方法と留意点	女性生殖器の構造と機能から婦人科疾患についての授業時間は4コマと少なく, 他に関連する科目はないため, 集中して講義に臨んでください。周産期に関する健康障害については, 同時期に開講している『母性看護学援助論I』と連動させた学習が必要です。
科目学習の効果 (資格)	母性看護学援助論I・IIの基礎科目になり, 母性看護学実習の履修要件となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	女性生殖器の構造と機能	外性器と内性器, 視床下部-下垂体-卵巣におけるホルモン調節機能, 卵胞発育, 排卵の機序, 月経の機序, 基礎体温の変化の機序について学ぶ。	事前課題: 配布された資料を読み, 予習する。(1時間) 事後課題: 本時の内容を復習する。(1時間)
2	女性生殖器疾患の診察, 主な検査と治療法	婦人科の一般検査 (内診・直腸診, 腔鏡診, 細胞診・組織診, 妊娠検査, 超音波検査など) 婦人科の主な治療 (ホルモン療法, 放射線療法, 化学療法, 手術療法など) について学ぶ。	事前課題: 配布された資料を読み, 予習する。(1時間) 事後課題: 本時の内容を復習する。(1時間)
3	女性生殖器疾患の病態と診断・治療(1)	月経異常, 膣炎, 更年期障害, 骨粗鬆症について学ぶ。	事前課題: 配布された資料を読み, 予習する。(1時間) 事後課題: 本時の内容を復習する。(1時間)
4	女性生殖器疾患の病態と診断・治療(2)	女性生殖器の腫瘍 (子宮筋腫, 子宮内膜症, 子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣嚢腫, 卵巣癌) について学ぶ。	事前課題: 配布された資料を読み, 予習する。(1時間) 事後課題: 本時の内容を復習する。(1時間)
5	妊娠の経過と異常	妊娠の異常について学ぶ。 妊娠初期 (妊娠悪阻, 流産, 異所性妊娠) 妊娠中期 (多胎妊娠, 早期産, 切迫早産) 妊娠後期 (前置胎盤, 常位胎盤早期剥離, 妊娠高血圧症候群・胎児発育不全, 母子感染 [風疹, トキソプラズマ症, B型肝炎, 梅毒, 性器クラミジア, エイズ等])	事前課題: 教科書 (p. 105~130) を読んでくる。(1時間) 事後課題: 講義内容の復習 (30分)
6	分娩の経過とその異常	分娩期の異常について学ぶ。 産道: 骨産道と軟産道の異常 娩出力: 陣痛微弱と分娩の遷延, 過強陣痛 娩出物: 胎児の異常, 胎位異常, 回旋の異常, 胎盤の異常, 卵膜の異常, 臍帯の異常, 羊水の異常, 胎児機能不全, 分娩時損傷, 弛緩出血, 子宮内反症, 分娩時異常出血 *無痛分娩や急速速娩 (吸引分娩, 鉗子分娩) について	事前課題: 教科書 (p. 190~231) を読んでくる。(1時間) 事後課題: 講義内容の復習 (30分)
7	産褥の経過と異常	産褥期の異常について学ぶ。 子宮復古不全, 産褥期の発熱, 産褥血栓症, 精神障害, マタニティブルー, エジンバラ産後鬱診断表について	事前課題: 教科書 (p. 318~329) を読んでくる。(1時間) 事後課題: 講義内容の復習 (30分)
8	新生児期の経過と異常	新生児期の異常について学ぶ。 新生児仮死, 新生児蘇生アルゴリズム, 分娩時外傷, 高ビリルビン血症, 低出生体重児, 呼吸窮迫症候群, 未熟児網膜症等	事前課題: 教科書 (p. 420~438) を読んでくる。(1時間) 事後課題: 講義内容の復習 (30分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	人体の構造と機能, 母性看護学概論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】母性看護学Ⅱマタニティサイクル-母と子そして家族へのよりよい看護実践-	大平光子他編	南江堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気が見える vol. 10 産科第4版	医療情報科学研究所	メディックメディア
2	【電子】母性看護学Ⅰ概論・ライフサイクル-生涯	齋藤いずみ他	南江堂	

		を通じた性と生殖の健康を支えるー		
	3			
評価方法 (基準)	定期試験：80%，Shuttle Card等授業参加度等：20%を見て，総合的に評価する．			
学生への メッセージ	婦人科疾患（性・生殖機能障害など），妊娠・分娩に関する健康障害について理解を深め，身体面だけでなく心理面，社会的側面に及ぼす影響について考える機会としてください．前期に学習した『母性看護学概論』と同時期開講の『母性看護学援助論Ⅰ』での学習とリンクさせ，学びを深めてください．			
担当者の 研究室等	井田 歩美（研究室12）			
備考	授業担当は非常勤講師のため，授業時間外での質問等に対する応対方法は授業開始時に知らせる．			

科目名	疾病・治療論VI	科目名 (英文)	Clinical Medicine VI
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	眞野 祥子, 小笠原 一能
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1017a0		

授業概要・目的	精神科医療における診断と治療の概念、主な精神疾患の病因、症状、診断、回復過程、治療について学ぶ。一部、現代の精神保健に関する事項についても触れる。
到達目標	各精神疾患の病因・症状・診断・回復過程・治療、現代の精神保健上の問題について理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とする。適宜質問を受け付け授業への積極的参加を促す。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	総論・外因性精神疾患	精神疾患の分類・診断基準・原因・症状の捉え方に続き、外因性精神疾患 (症状性精神疾患、器質性精神疾患、中毒性精神疾患、認知症など)、急性・心的外傷後ストレス障害、適応障害などの病因、症状、治療について理解する	事前: 参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第2章 (P.21~59)」「第3章 I (P.61~64)」を読んでください。(1時間) 事後: 授業内容を整理しておいてください。(1時間)
2	うつ病・躁うつ病・統合失調症	医学が「こころ」をどう捉えているかに続き、うつ病・躁うつ病 (双極性障害)・統合失調症の病因、症状、予後、治療法、精神疾患と遺伝の関連について理解する	事前: 参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章 II-B, C, D (P.71~86)」を読んでください。(1時間) 事後: 授業内容を整理しておいてください。(1時間)
3	神経発達障害・脳神経と精神疾患	神経発達障害 (精神遅滞、学習障害、注意欠如・多動性障害、自閉症スペクトラム障害など)の病因、症状、治療法について理解する	事前: 参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章 II-E, F (P.64~71)」を読んでください。(1時間) 事後: 授業内容を整理しておいてください。(1時間)
4	神経症性障害・心身症・パーソナリティ障害	神経症性障害 (不安障害、強迫性障害、解離性障害、身体症状症)、心身症、パーソナリティ障害の分類、病因、症状、治療法について理解する	事前: 参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章 II-E, F (P.87~97), N (P.134~137)」を読んでください。(1時間) 事後: 授業内容を整理しておいてください。(1時間)
5	精神科的治療 I ～基礎的介入・身体療法～	精神科で行われている治療法 (支持的療法、疾患教育、生活指導、薬物療法、電気けいれん療法、高照度光療法、認知リハビリテーションなど)について理解する。漢方薬も概説する	事前: 参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第4章 I, II (P.148~167)」を読んでください。(1時間) 事後: 授業内容を整理しておいてください。(1時間)
6	精神科的治療 II てんかん、睡眠障害、摂食障害	精神科で行われている治療法 (催眠療法、精神分析療法、行動療法、認知療法、アート・セラピー、森田療法、来談者中心療法、ユマニチュードなど)について理解する。また、てんかん、睡眠障害、摂食障害の分類、症状、治療法について理解する	事前: 参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第4章 III (P.167~188)」「第3章 II-J, K (P.110~121)」「第3章 II-O (P.137~146)」を読んでください。(1時間) 事後: 授業内容を整理しておいてください。(1時間)
7	依存・乱用・嗜癖・脳波	アルコール使用障害、薬物使用障害の概念、症状、治療、依存からの回復過程、アディクション、脳波の基礎について理解する	事前: 参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章 II-L (P.121~127)」「第7章 II-E (P.300~306)」を読んでください。(1時間) 事後: 授業内容を整理しておいてください。(1時間)
8	性関連障害、ストレス	性同一性障害 (性別違和)、性嗜好障害の症状と治療、ストレス過程、ストレスによって起こる身体・精神的反応、労働ストレスについて理解する	事前: 参考書③精神看護学① 精神看護学概論/精神保健「第5章 I~III (P150~165)」を読んでください。(1時間) 事後: 授業内容を整理しておいてください。(1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 精神看護学概論、精神看護学援助論 I、精神看護学援助論 II、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	専門医がやさしく語るはじめての精神医学 改訂第2版	渡辺雅幸	中山書店
2	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社	

	3	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社
評価方法 (基準)	試験 85%、ワークシート・プレゼン 15%			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。授業中に指名されたら、スマホやPCを使って調べても構わないので、問いに対する回答を述べてください。			
担当者の 研究室等	授業の最後に必ず質問の時間を取ります。			
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがあります。 こちらからの連絡は、原則 Team を経由するつもりですが、Teams が使えない場合はポータルとします。 日程（日程変更を含む）は追って連絡するので、注意深く Teams（ポータル）を確認してください。			

科目名	疫学	科目名 (英文)	Epidemiology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1018a0		

授業概要・目的	授業では、集団の健康や疾病の分布とその関連要因を明らかにする疫学について講義し、その基本的な考え方を学ぶ。まず、疾病とそのリスク要因の関係に注目した説明変数と結果変数という考え方、因果関係と関連の違い、各研究デザインの利点と限界、そして誤差・バイアスについて学び、最後にスクリーニングについて基本事項を解説する。
到達目標	疫学の概要や役割を知り、疾病予防の背景にある科学的な根拠およびその意味が理解できるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	健康に関する事象について、論理的捉え方・考え方ができるようになる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	疫学の概要	疫学の歴史と指標	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p1-7, 13-24) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
2	因果推論と疫学研究デザイン (1)	因果推論、コホート研究	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p93-94, 34-35, 47-49, 62-66) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
3	疫学研究デザイン (2)	ランダム化比較試験	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p67-78) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
4	疫学研究デザイン (3)	症例対照研究	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p47-49, 54-61) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
5	疫学研究デザイン (4)	横断研究、生態学的研究、症例報告/症例集積	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p47-49, 52-53, 50-52, 79-82) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
6	誤差 (1)	偶然誤差と系統誤差、選択バイアス	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p83-84, 34) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
7	誤差 (2)	情報バイアス	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p84-86) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
8	誤差 (3)	交絡	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p86-91) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	公衆衛生学、統計の基礎、保健統計学
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第4版	日本疫学会	南江堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題および/または小テスト(100%)で評価する。 60%以上を合格とする。 出席は、履修申請要領 (看護学部) にある規定に従う (4/5以上の出席を成績評価の対象とする)
-----------	--

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業資料と教科書をよく勉強すること。</li> <li>・授業資料は電子ファイルで事前に Moodle にて配布する。必要に応じて各自印刷して授業に臨むこと。</li> <li>・わからない点を次回授業までに解決するため、質問をすること。</li> <li>・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。</li> <li>・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。</li> </ul>
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階24
----------	---------

備考	必要に応じて課題および/または小テストについて授業で解説する。
----	---------------------------------

科目名	保健医療福祉行政論	科目名 (英文)	Health and Welfare Administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 十三代, 松田 千登勢
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1019a0		

授業概要・目的	人口の少子高齢化、健康格差の拡大、震災などによる生活変化への対応など、日本国内の社会のあり方が大きく変わりつつあり、人々の生活の安心・安定を支える社会の仕組みも変わる必要に迫られている。将来、保健医療専門職として社会で活躍する上で必要不可欠な社会保障を中心に、根拠法を含む保健医療福祉行政とその制度の歴史の変遷と概要、仕組みについて、講義を通じて学び、理解を深める。また、日本の公衆衛生の向上と発展の視点から、今後あるべき保健医療福祉行政や、保健・医療・福祉の連携、専門職の役割について、講義を通じて考察する。
到達目標	1. 保健医療福祉行政の概要について理解できる。 2. 保健医療福祉行政の歴史の変遷について理解できる。 3. 社会福祉制度について理解できる。 4. 社会保障制度について理解できる。 5. 保健医療福祉行政とその制度・仕組み、制度ごとの関係や違いについて理解できる。 6. 今後の保健医療福祉行政の方向性や、専門職の連携と役割について考察できる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義中心にmoodle、Teamsを用いて行う。教科書は必ず持参すること。授業の内容によっては資料も配布する。また視聴覚教材の活用、時事ニュースなどの引用、事例をを交えた形で授業を進める。講義終了後は、講義資料やノートの整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、調べるなどした上で、次の授業時間を活用して質問するなど、主体的に学習にとりくむ。
科目学習の効果 (資格)	社会保障制度と福祉の動向を知ることにより、看護の対象者への支援について幅広く考えることができる。 保健師・助産師・看護師国家試験においても社会保障制度の出題は増加しているため、試験対策としても知識習得をしていく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	保健医療福祉行政の概要と変遷 (1)	社会福祉・社会保障とは何か 社会保障の仕組み・機能・歴史 保健医療福祉の財源	事前: テキスト p42 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
2	保健医療福祉行政の概要と変遷 (2)	社会福祉の担い手と役割 社会福祉の実践方法 社会資源の活用方法	事前: テキスト p43~p76 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
3	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <子ども・家庭と福祉>	子ども・家庭福祉の理念と目的 子育て支援・少子化対策に関する施策 児童虐待・母子保健に関する施策	事前: テキスト p80~p96 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
4	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <障害児・者と福祉>	障害者を守る法律の概要 障害者を支援するサービス体系 自立支援医療 障害者雇用および支援	事前: テキスト p98~p110 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
5	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <難病対策>	難病対策の取り組み、改革の内容 難病患者に対する医療等に関する法律	事前: テキスト p111~p119 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
6	社会福祉の制度 <生活保護>	公的扶助制度 生活保護における生活保障 給付の要件と保護基準、見直し	事前: テキスト p136~p149 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
7	社会福祉の制度 <地域福祉>	地域福祉の定義と理念 地域福祉計画 保健・医療と福祉の連携	事前: テキスト p152~p161 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
8	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <高齢者と福祉>	高齢者保健福祉施策の社会的背景、目的、理念、経緯 老人福祉法による高齢者支援 今後の課題 高齢者の権利擁護と虐待防止	事前: テキスト p120~p133 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
9	社会保障制度 <医療保険制度>	医療保険制度の沿革、しくみ 高齢者医療制度 医療保険制度の課題	事前: テキスト p171~p186 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得ておくこと (30分以上)。 事後: 授業内容を整理しておくこと (1時間)。
10	社会保障制度 <年金制度>	公的年金制度の意義としくみ 沿革、概要、給付 企業年金などの概要 課題	事前: テキスト p164~p170 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
11	社会保障制度 <雇用保険と労災保険>	雇用保険制度の役割、しくみ、課題 労災保険制度の概要、給付 業務災害、通勤災害の認定	事前: テキスト p200~p210 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
12	社会保障制度	制度創設の背景	事前: テキスト p187~p199 まで熟読する。さらに

		<介護保険 (1) >	介護保険制度の概要(意義、しくみ、実施体制と財源)	授業テーマに関する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
	13	社会保障制度 <介護保険 (2) >	介護サービスの利用 介護サービスの内容	事前：授業テーマに関する事柄について最新情報を臨む (30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
	14	社会保障制度 <介護保険 (3) >	介護保険制度の見直しと課題	事前：授業テーマに関する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
	15	保健医療福祉行政の計画と評価	地方自治体の保健医療福祉計画 地方自治体の計画策定 計画の推進と管理・評価	授業テーマに関する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
関連科目	公衆衛生学、医療経済論、各領域の看護学概論				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	【電子】ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障(3)：社会福祉と社会保障 第4版		増田 雅暢 編集	メディカ出版
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2023/2024 (第70巻第9号)			一般財団法人 厚生労働統計協会
	2	国民の福祉と介護の動向 2023/2024 (第70巻第10号)			一般財団法人 厚生労働統計協会
	3				
評価方法 (基準)	授業ごとのミニレポートの提出と期末試験期間中に定期試験を行い総合して評価を行う。				
学生への メッセージ	授業では、保健医療福祉行政論を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義します。看護師、保健師、助産師の国家試験の出題率も高い内容であるため、予習復習をしっかりと行うと同時に、社会保障制度や社会福祉制度に関する日々のニュースに関心を持って、国の動きに着目していきましょう。				
担当者の 研究室等	山本十三代 7号館3階 研究室5 松田千登勢 7号館3階 研究室6				
備考	本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業の座席は指定とします。追加の文献や資料などは授業中に紹介します。				

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Introduction to Public Health
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP2②, DP7Δ		
科目ナンバリング	NDN1020a0		

授業概要・目的	授業では、公衆衛生の歴史、人口の現在と将来からはじまり、集団の健康をはかるための健康指標、および集団の健康を守るための予防医学の考え方、それに基づいて行われている感染症や慢性疾患の罹患の現状と対策などについて学ぶ。
到達目標	公衆衛生学が扱う各分野の概要について基本的知識を身につけ、公衆衛生の実際の取り組みとその意義を理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、各回の最新の話題に関する視聴覚教材や時事ニュースなどを随時活用し、身近な話題から専門的な話へとつなげていく。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	人類史と人口・疫学転換	人類史と人の健康	・予習をすること (教科書第1章 p8-10, 第2章 p23-26) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
2	公衆衛生とは	日本の公衆衛生の歴史	・予習をすること (教科書第1章 p1-8, 10-12分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
3	人口統計 (1)	人口静態統計、人口動態統計 (出生)	・予習をすること (教科書第2章 p19, 26-28) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
4	人口統計 (2)	人口動態統計 (死亡)	・予習をすること (教科書第2章 p19-30) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
5	疾病予防	予防医学の考え方	・予習をすること (教科書第4章 p55-59) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
6	感染症と予防	感染症の疫学と予防	・予習をすること (教科書第5章 p87-104, 171-182) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
7	生活習慣病と予防	生活習慣病の疫学と予防	・予習をすること (教科書第5章 p104-117, 79-86) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
8	環境保健	地球規模の環境問題と取り組み	・予習をすること (教科書第6章 p145-154, 207-213, 216-221) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 疫学、統計の基礎、保健統計学、情報リテラシーII

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	シンプル衛生公衆衛生学 2024	辻一郎他	南江堂
2	国民衛生の動向 2024/2025	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 課題および/または小テスト(100%)で評価する。  
60%以上を合格とする。  
出席は、履修申請要領 (看護学部) にある規定に従う (4/5以上の出席を成績評価の対象とする)

学生へのメッセージ  
・授業資料と教科書をよく勉強すること。  
・授業資料は電子ファイルで事前にMoodleにて配布する。必要に応じて各自印刷して授業に臨むこと。  
・わからない点を次回授業までに解決するため、質問をすること。  
・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。  
・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。

担当者の研究室等 7号館3階24

備考 必要に応じて課題および/または小テストについて授業で解説する。



科目名	家族看護学	科目名 (英文)	Family Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 千登勢, 井田 歩美, 川崎 俊法, 眞野 祥子, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)	DP2⑩, DP7△		
科目ナンバリング	NDN2022a0		

授業概要・目的	<p>家族は、家族員の疾病予防や疾病回復、健康管理において、互いに重要な役割を担う。このことから、疾病をもつ家族の関係性や役割、家族としての力関係などの変化、問題を克服する家族の力量について学び、理解する。さらに、家族看護学において用いられる理論と、実践の場で活用するアセスメント方法を学び、そのうえで、家族のセルフケア力の向上を目指して、看護職としての家族への支援のあり方を理解する。加えて、看護学の専門領域別に具体的事例を用いて家族看護の実際について学び、看護職としての在り方について考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族について理解する</li> <li>2. 家族看護学の目的、家族の定義、理論を学ぶ。</li> <li>3. 家族看護過程の理解と、家族アセスメントモデルについて理解する。</li> <li>4. 家族看護における看護者の役割と援助姿勢について理解する。</li> <li>5. 看護の以下の専門領域における家族看護について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 周産期における家族看護</li> <li>2) 精神看護学における家族看護</li> <li>3) 在宅看護学における家族看護</li> </ol> </li> </ol>		
授業方法と留意点	<p>授業計画に沿って講義中心に行う。教科書、資料を用いて授業を行いますので、該当箇所をしっかりと学習すること。講義後は、既学習における学びを復習しつつ、看護の対象としての家族への理解を深めるようにする。</p>		
科目学習の効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	家族とは何か	<p>家族の定義、その多様性と現代的課題について理解する</p> <p>事前・事後学習課題 テキスト第1章について予習する (事前: 1時間)。家族の現代的課題について自身の考えについて、ミニレポートを提出する (事後: 1時間)。</p>
	2	家族の「こころ」を取り扱う	<p>ナラティブの視点から個人のこころと家族関係について理解する。</p> <p>講義内で指定する資料について予習する (事前: 1時間)。身近な話題を心理的な問題として捉えなおし、ミニレポートとして提出する (事後: 1時間)</p>
	3	家族を理解するための理論 1	<p>家族発達論・システム論について理解する</p> <p>テキスト第3章について予習する (事前: 1時間)。授業内容を整理し、ミニレポートを提出する (事後: 1時間)</p>
	4	親と子の関係 1	<p>アタッチメントについて理解する</p> <p>テキスト第4章・第5章について予習する (事前: 1時間)。講義内で提示する映像資料について考えをまとめ、ミニレポートを提出する (事後: 1時間)。</p>
	5	親と子の関係 2	<p>親子関係の心理社会的問題、特に虐待について理解する</p> <p>講義内で指定する資料について予習する (事前: 1時間)。虐待における心理的な問題を整理し、ミニレポートとして提出する (事後: 1時間)。</p>
	6	家族関係の発達と喪失	<p>対象喪失や死別、離婚などについて理解する。</p> <p>テキスト第3章について予習する (事前: 1時間)。授業内容を整理し、ミニレポートを提出する (事後: 1時間)。</p>
	7	家族病理	<p>家庭内暴力・依存について理解する</p> <p>テキスト第6章について予習する (事前: 1時間)。家族病理について自分の考えをまとめて、ミニレポートを提出する (事後: 1時間)。</p>
	8	家族を理解するための理論 2	<p>家族ストレス対処論について理解する</p> <p>講義内で指定する資料について予習する (事前: 1時間)。授業内容を整理し、ミニレポートとして提出する (事後: 1時間)。</p>
	9	家族看護学とは	<p>事前: テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。 事後: 授業内容を整理し、家族の理論等についての理解を深める (1時間)。</p>
	10	家族看護過程	<p>事前: テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。 事後: 授業内容を整理し、家族アセスメントモデルについての理解を深める (1時間)。</p>
	11	家族アセスメント	<p>フリードマン家族アセスメントモデル、家族エンパワーメントモデル、カルガリーアセスメントモデル、ジェノグラム、エコマップの学習</p> <p>事前: テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。 事後: 授業内容を整理し、家族アセスメントモデルについての理解を深めること (1時間)。</p>
	12	家族看護における基本姿勢と看護者の役割	<p>1. 家族との関係のあり方 2. 看護者の基本的な姿勢 3. 家族成員に対する援助 4. 家族間後における役割</p> <p>事前: テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。 事後: 授業内容を整理し、家族看護における基本的な考え方と看護者の役割についての理解を深める (1時間)。</p>
	13	周産期における家族看護	<p>周産期における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。</p> <p>事前: 資料や指定された参考書等を読んで予習する (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、母性看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める (1時間)。</p>
	14	精神看護学における家族看護	<p>精神看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。</p> <p>事前: 資料や指定された参考書等を読んで予習する (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、精神看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める (1時間)。</p>
	15	在宅看護学における家族看護	<p>在宅看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。事例を用いて学習する。</p> <p>事前: 資料や指定された参考書等を読んで予習する (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また授業内容を整理する。</p>

				理し、在宅看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。
関連科目	看護学概論他			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかる家族心理学	柏木恵子	ミネルヴァ書房
	2	【電子】家族看護学	上別府圭子	医学書院
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	家族看護学 理論と実践 第5版	鈴木和子	日本看護協会出版会
	2			
	3			
評価方法 (基準)	試験、提出されたレポートにより評価する。			
学生への メッセージ	本科目はオムニバス形式で、医療機関や保健機関、事業所などで看護職として豊富な実務経験を有する教員陣が担当します。家族の形が多様化する昨今、患者や対象者だけでなく家族への支援も看護職に求められる中、支援の基礎となる学問です。日々の学習（予習・復習）を大事にし、学びを深めてください。			
担当者の 研究室等	教員研究室は枚方キャンパス7号館3階。			
備考				

科目名	医療経済論	科目名 (英文)	Healthcare Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP2②, DP7Δ		
科目ナンバリング	NDN2023a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療における課題を経済学的に考察し、医療サービスの供給体制、制度及び医療機関の経営問題に関わる考察を行い、看護職に求められる経済学的視点を修得する。</li> <li>看護職となるに当たって保健・医療・福祉における経済面・経営面に関する社会常識としての知識を修得する。</li> <li>動画によって米国の医療制度について考察し、日本における皆保険制度についての理解を深める。</li> </ul> <p>・40 診療科 24 時間対応の救急業務、感染症等の政策医療を実施している市立病院にて人事、経理及び病院情報システム構築業務に従事した実務経験を活かして病院勤務する看護師に求められる人的能力（コンピテンシー）向上に必要な経済的視点を今後看護師が考慮すべきワークライフバランス検討に必要な給与と労働時間の関係や勤務病院の選択指針についての授業を行う。また今後大卒看護師として修得すべき看護職の管理職（副院長、看護部長）として求められる資質についても説明する。</p> <p>・SDGs-3（全ての人に健康と福祉を）</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療報酬制度として収入が規定されており、一般の企業における売上とは異なる収入体系とその制度の必要性について認識・理解した上で適正なコスト意識と業務改善意識を持って看護業務に従事できることを目標とする。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護職に求められる経済学視点について講義する。診療報酬制度に基づく報酬の支払いを中心に経済学による需要と供給の価格決定プロセスを比較しながら考察する。</li> <li>医療における財・サービスの交換システムの特殊性に焦点を置きながら、多くの看護職が勤務する病院での現状と課題について講義する。</li> <li>後半は、看護職の管理的立場の職種である看護部長において求められる考え方について講義する。</li> <li>授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所等でも履修することができる。</li> </ul>
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護専門職の科目だけでなく、就職・勤務にむけた経済社会の財・サービス交換活動への経済学的思考の修得を目的とする。</li> <li>経済理論だけでなく実際の組織において必要とされる看護職の今後の課題に対する政策構築に関する考察についても考慮したい。</li> </ul>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	看護師が経済学を学ぶという事 経済学からみた看護サービス	経済活動と医療経済との違いについて講義する。	序章、第1章 教科書序章、第1章の予習 1時間程度 教科書と配布資料による復習 2時間程度
2	社会経済環境の変化と看護・医療サービス	変化に伴う看護師の環境と雇用関係について講義する。	第2章 教科書第2章の予習 1時間程度 教科書と配布資料による復習 2時間程度	
3	看護の生産性と看護師の生産性	2つの生産性概念について講義する。	第3章 教科書第3章の予習 1時間程度 教科書と配布資料による復習 2時間程度	
4	診療報酬制度がもたらす影響1	看護師の技能評価を妨げるメカニズムについて講義する。	第4章 教科書第4章の予習 1時間程度 教科書と配布資料による復習 2時間程度	
5	診療報酬制度がもたらす影響2	看護師が他の職種業務を担うメカニズムについて講義する。	第5章 教科書第5章の予習 1時間程度 教科書と配布資料による復習 2時間程度	
6	無視できない結婚と出産・育児	看護師労働市場における結婚と出産・育児における影響について講義する。	第6章 教科書第6章の予習 1時間程度 教科書と配布資料による復習 2時間程度	
7	看護師の労働需要と労働力不足	生産性に見合わない賃金と労働力不足について講義する。	第7章 教科書第7章の予習 1時間程度 教科書と配布資料による復習 2時間程度	
8	賃金・労働条件の格差と人的資本論	看護師の賃金を決める要因は何か、看護師の賃金決定メカニズムについて講義する。	第8章 教科書第8章の予習 1時間程度 教科書と配布資料による復習 2時間程度	
9	看護師間の賃金格差を生み出すメカニズム	賃金格差を説明するもう1つの分析視角、「職務価値」と看護師の賃金との関係について講義する。	第9章 教科書第9章の予習 1時間程度 教科書と配布資料による復習 2時間程度	
10	看護師のワークライフバランスと生産性	看護師のワークライフバランスと生産性について講義する。	第10章 教科書第10章の予習 1時間程度 教科書と配布資料による復習 2時間程度	
11	よりよい看護を消費者のもとへ届けるために	よりよい看護のあり方について講義する。	第X I 章 教科書第X I 章の予習 1時間程度 教科書と配布資料による復習 2時間程度	
12	新しい病院体制についての動画による習熟度確認試験。（予定）	やりがいのある病院体制、新しい診療科連携の実践動画によるレポート作成を行う。	これまでの配布資料、教科書および受講による直筆作成ノートのみ参照可。	
13	看護管理職の備えるべき視点1	看護管理者、看護部長の基本事務、変化への対応力等を講義する。	配布資料 授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習 1時間程度と配布資料による復習 2時間程度	
14	看護管理職の備えるべき視点2	看護管理者の特性（変革期の人材マネジメント、看護政策対応力、院内看護政策力等）について講義する。	配布資料 授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習 1時間程度と配布資料による復習 2時間程度	
15	看護管理職の備えるべき視点3	看護師管理者に求められるもの（コスト意識と金銭感覚、看護業務の電子化、病院統治力等）について講義する。	配布資料 授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習 1時間程度と配布資料による復習 2時間程度	
関連科目	労働経済学、ミクロ経済学、経営学			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護サービスの経済・政策論 看護師の働き方を 経済学から読み解く	角田由佳	医学書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート内容及び定期試験 (70%) 及び、レポート提出等を受講態度 (30%) として総合評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職になるための科目の修得は、国家資格取得も含め必須である。しかし、卒業後、多くの看護職が勤務する病院や福祉施設の運営は、公的な補助があるものの経済学の考え方に基づいて運営されている。</li> <li>・少子高齢化社会の到来に向けて、これからの看護職は、社会的な知識 (経済学等の社会科学科目) も必要とされる。本講義は、そのための基礎的な考え方の習得を目指す。</li> <li>・急性期だけでなく慢性期治療にも対応した市立病院で 15 年間事務職として総務、人事、医事、システム関連部署に勤務し診療関係全般に従事した経験から高度医療機関</li> </ul>			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 1 号館 7 階 田井教授室 (経済学部)			
備考	社会科学分野である経済学、経営学による分析内容について、看護職の視点から労働経済学の視点で必要な内容を説明する。			

科目名	看護関係法規	科目名 (英文)	Nursing-related Laws
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	松本 葉子, 井田 歩美
ディプロマポリシー (DP)	DP2⑨, DP7Δ		
科目ナンバリング	NDN2024a0		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 看護職は保健医療福祉サービスに携わる多くの職種と連携し、対象となる人々の健康を回復・維持・増進する職業である。看護職が人々の健康を守り、その職務を全うするためには、基盤となる保健師助産師看護師法をはじめ諸法令の理解が必要である。</p> <p><b>【授業目的】</b> 医療・保健に関連する諸制度や法令を修得し、看護職としての法的責任や義務について医療や看護事故の事例などをもとに理解し、看護職としての在り方を考えることを目指す。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健師助産師看護師法に定められている内容を説明することができる。</li> <li>母子保健に関する法令について、人々の健康の維持・増進にかかわる制度と法令の関係を説明することができる。</li> <li>臓器移植法を中心に人の死の概念について医療及び法律の両面から考えることができる。</li> <li>医療従事者に問われる3種類の法律上の責任について理解することができる。</li> <li>医療事故の事例をもとに看護職の責任と義務、および、看護職としての在り方について自分の考えを示すことができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	講義形式を中心とする。各授業回の開始時に資料を配布するが、教科書も併用する。最終回には学習した知識を活用して、事例をもとにグループディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	看護職に必要な法的な知識を学び、過去の事故事例から看護の責任や義務を考察することによって、専門的知識が身につくとともに、根拠に基づいた判断と行動ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション 保健医療福祉と法との関連	【講義】 ・授業概要と進め方の説明 ・政策と制度と法の関連	事前：教科書の該当項目を精読しておく (30分)。 事後：教科書や講義資料をよく読む (30分)
2	医療法と医療提供の理念	【講義】 ・医療提供の理念 ・医療法での規定 ・医療職の責務 ・医療提供体制	事前：教科書の該当項目を精読しておく (30分)。 事後：教科書や講義資料をよく読み、提示した事後課題を提出する (30分)。
3	看護をめぐる法 (1)	【講義】 ・保健師助産師看護師法の目的 ・保健師、助産師、看護師の法律上の定義・免許の要件、義務、業務、試験について	事前：教科書の該当項目を精読しておく (30分)。 事後：教科書や講義資料をよく読み、提示した事後課題を提出する (30分)。
4	看護をめぐる法 (2)	【講義】 ・保健師助産師看護師法に基づく罰則、特定行為研修など ・看護師等の人材確保の促進に関する法律	事前：教科書の該当項目を精読しておく (30分)。 事後：教科書や講義資料をよく読み、提示した事後課題を提出する (30分)。
5	母子の健康に関する法律	【講義】 ・母子保健法 ・母体保護法 ・育児・介護休業法 など	事前：教科書の該当項目を精読しておく (30分)。 事後：教科書や講義資料をよく読む (30分)。
6	人に由来する医療資源に関する法律	【講義】 ・臓器の移植に関する法律 ・血液法/造血幹細胞提供推進法 ・再生医療安全性確保法 など	事前：教科書の該当項目を精読しておく (30分)。 事後：教科書や講義資料をよく読み、提示した事後課題を提出する (30分)。
7	看護師の法的責任 (1)	【講義】 ・法的責任の種類 ・医療事故と医療過誤	事前：教科書の該当項目を精読しておく (30分)。 事後：教科書や講義資料をよく読み、提示した事後課題を提出する (30分)。
8	看護師の法的責任 (2)	【講義・演習】 ・医療事故における看護師の義務と責任について (事例学習) ・事例をもとにグループディスカッション	事前：事例をよく読んでおく (30分)。 事後：グループワークでの検討内容をもとに、医療事故における看護師の責任、義務などについて考察し、看護師のあるべき姿について自己の考えをまとめ、課題レポートを提出する (30分)。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 法学入門、日本国憲法、保健医療福祉行政論、看護学全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度 第4版	平林勝政、小林知世、和泉澤千恵	メディカ出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。定期試験(85%)および課題レポート(15%)によって評価する。
学生への メッセージ	法令を理解・解釈し、その根拠に基づいて活動することが、人々をまもり、自分をまもることにもつながります。法的な知識を自分の力に変えて活動できるように学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7号館 3階 研究室28 松本葉子
備考	

科目名	社会福祉論	科目名 (英文)	Social Welfare
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期前半	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1091a0		

授業概要・目的	本講義では、さまざまな要因から生きづらさを感じている人びとの暮らしをどのように支えていくかについて、社会福祉の制度や地域における支え合い、個々人の生き方など、多角的な視点から考えていきます。 本講義を通じ、受講生は、社会に貢献できる能力として、社会福祉の知識だけではなく、これからの地域、社会の担い手に求められる技能、態度を身につけることが期待されます。
到達目標	①講義で取り扱うテーマを理解し、その概要について説明ができること ②日本の社会福祉の特徴と概要について説明ができること ③これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度を身につけること
授業方法と留意点	学生に対する積極的な問いかけ、講義中のディスカッション、グループワークを取り入れた講義を行います
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
2	社会福祉の歴史	諸外国および日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
3	社会保障の概観	社会福祉を含む社会保障の全体像について理解するとともに社会保障のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
4	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
5	障がい者福祉	障がいのある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
6	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
7	地域福祉	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習：個人ワークに取り組むこと (3時間) 事後学習：ワークの成果物について振り返りを行うこと (3時間)
8	日常生活支援の担い手としての大学生の可能性と講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度についてあらためて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：講義の振り返りを行うこと (2時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各回のレポート50%、期末レポート50%
-----------	----------------------

学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス3号館3階 上野山研究室
備考	

科目名	看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 佃 真理子, 藤井 崇敬, 山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2025a0		

授業概要・目的	看護の概念や看護理論、看護の歴史、看護の対象（人間、環境、健康、生活）、保健医療を提供するためのシステム、看護の機能と業務、看護活動等について理解し、看護学を学ぶうえでの基盤を形成する。また、看護職者の倫理観や関連する法について理解し、看護学の学習の基盤となる知識や態度の修得を目指す。
到達目標	1. 看護の定義と主要な看護理論および看護モデルについて説明できる。 2. 看護の対象である人間と健康、環境、生活について述べ、それらの関連について説明できる。 3. 看護の機能・役割について説明できる。 4. 看護の歴史とその変遷について説明できる。 5. 看護者の責務と倫理的態度について説明できる。 6. 専門職としての看護について自己の考えを述べることができる。
授業方法と留意点	授業は教科書及び配布資料を中心として授業を進め、視覚教材やパワーポイント等を用いる。事前・事後課題、ピア評価等を適宜取り入れ、看護の基本となる知識の習得を目指す。看護、また看護職者としての態度・倫理観を培い、看護について自分の言葉で表現できるように、講義後のレポートや課題を提示する。
科目学習の効果（資格）	看護職者として根幹となる基礎的な知識と態度を学び、今後の学習の基盤を身につけます。また、全ての看護学実習科目及びその他専門科目を学ぶ上で、この科目での学びが大きな意味をもちます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護学とは：看護の本質と主要な概念①	・オリエンテーション ・「看護」とは ・本学の看護学教育	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
2	看護学とは：看護の本質と主要な概念②	・看護学の主要な概念 ・看護の実践と看護学の関連	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
3	看護の歴史の変遷	・ナイチンゲールの業績と近代看護への影響 ・欧米と日本の歴史的な看護の変遷 ・社会の変化と看護概念の変遷	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
4	看護の対象の理解①：人と環境	「人間」と「環境」に関するテーマについてディスカッションとグループワークを行う。	事前課題：グループワークの方法について動画を視聴し、人と環境について自己の考えをまとめておく。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
5	看護の対象の理解②：人と環境	「人間」と「環境」の相互作用についてグループで発表し、学びを共有する。	事前課題：人と環境について自己の考えをまとめ、発表準備を行う。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
6	看護の対象の理解③：生活者としての人間	・看護の対象としての「人間」とは ・成長・発達/発達課題 ・看護の対象としての「環境」とは	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
7	看護の対象の理解④：生活者としての人間	・健康の概念と看護の目標 ・人々の健康の状態	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
8	看護の対象の理解⑤：患者の思い	・健康と病を体験した人の語りから、その思いを知る	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
9	看護の理論と実践への活用①	・看護理論とは ・理論の範囲 ・看護モデルの発達と系譜	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
10	看護の理論と実践への活用②	・看護理論について	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
11	看護の機能と役割①	・看護の機能と業務 ・看護の法的基盤と責務	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
12	看護の機能と役割②	・チーム医療の中での看護の役割 ・保健医療システムと看護 ・看護業務の能力的機能分化 ・専門職としての看護	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
13	看護マネジメント・病院看護管理と医療安全	・看護のマネジメント、病院看護管理 ・安全な医療への取り組み	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
14	専門職としての看護（看護倫理）	・看護者の倫理とは ・看護者の責務と倫理的態度 ・臨床における倫理的問題	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)



	15	実践科学としての看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職に対する社会的要請と実践科学としての看護</li> <li>・臨地実習とは何か、実習の意義と看護学生のあり方</li> </ul>	こと。(1時間) 事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
関連科目	全ての看護学関連教科			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】ナースングラフィカ:基礎看護学(1):看護学概論	志自岐 康子 編集	メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ケアの本質、生きることの意味	ミルトン・メイヤロフ	ゆみる出版
	2	看護の基本となるもの	ヴァージニア・ヘンダーソン	日本看護協会出版会
	3	看護覚え書:看護であること・看護でないこと	F. ナイチンゲール	現代社
評価方法(基準)	筆記試験(50%)、小テスト(20%)授業内の課題、またはレポート、授業態度(25%)、ピア評価(5%) 原則、全講義を出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況、学修の状況等により評価方法を変更することがある。			
学生へのメッセージ	看護を学ぶ初めての講義です。 看護職とはどのようなものかを知り、看護とは何か、対象となる人や環境について考えることで、今後の学習の基盤となります。看護職者は、その関わり方がひとの人生・生命に影響を与えます。倫理感や社会人としての基礎的な能力、対人関係能力、専門家としての知識と技術が常に問われる専門職であるということを考え、自己の考えを深めてください。			
担当者の研究室等	7号館3階研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、研究室3(山居)			
備考	感染状況や学修の状況等により、シラバスに記載している講義内容を変更する場合があります。			

科目名	看護対人関係論	科目名 (英文)	Human Relationship in Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	山居 輝美, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 佐久間 夕美子, 佃 真理子, 藤井 崇敏
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2026a0		

授業概要・目的	看護対人関係論は、看護の場における対人関係に関する基本的な概念・技法の理解と修得を目指し、「対象者とかわる力」を養う。看護師は患者の心身の状態をアセスメントし、一人ひとりに合ったケアを提供するがそこで大切になるのは、対象者理解となる。一人ひとりにあった看護を実践するためには、人間関係が重要となり、人間関係を構築するためには「コミュニケーション」が不可欠となる。そのような患者-看護師間のコミュニケーションの特徴を学び、「聴くこと」「話すこと」を中心に、具体的な看護場面や事例課題を通して対人関係の基礎的な知識を修得し、模擬患者に対してコミュニケーションを行う。また、実習マナー、チーム医療での人間関係のあり方について、リフレクティブな学習方法を通して学ぶ。
到達目標	1) 患者・看護師間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 2) コミュニケーションに必要な基本的技法について説明できる。 3) 自分自身のコミュニケーションについて振り返り、今後の課題を述べるができる。 4) 看護場面をイメージし、適切なコミュニケーションの技法や言葉、態度について、自身の考えを述べるができる。 5) カンファレンスにおける役割、ポイントを説明することができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義では看護者として必要不可欠なコミュニケーション技法について学び、演習では対象者に関わりながらコミュニケーション力を養い、対人関係を築くための基礎を学ぶ。ICTツールを活用し、社会状況に応じて対面授業・オンライン授業を行う。</li> <li>・講義では、対人関係に関する理論を学び、演習ではコミュニケーション技法やグループでのコミュニケーションを実践する。</li> <li>・演習では看護師及び患者役の体験から自分自身のコミュニケーションについて振り返り、自分の課題について考える。</li> <li>・グループワークを行うため、毎回の出席が必須となる。</li> <li>・講義・演習時以外での連絡は、Teamsにて連絡を行うため、必ず連絡事項の有無および内容を確認する。</li> </ul> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護を学ぶ学習者として相手に配慮した言葉使いをしてください。</li> <li>・役割を担い、ロールプレイを行い互いに感想を述べあうことがありますが、自立した学習者として積極的に参加し、協力し合ってください。</li> <li>・他者への評価をすることがありますが、批判ではありません。相手のよかった点、自分が気づかされた（新たな視点）点、改善すべき点をコメントとして建設的に返して下さい。</li> <li>・分からないことについては、自己判断せず教員に相談してください。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	患者中心の看護実践にむけて、看護の対象者と適切に人間関係を構築できるよう、基盤となる技術を身につけます。また、全ての看護学実習科目及びその他専門科目を学ぶ上で、この科目での学びが重要となります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日常生活におけるコミュニケーションとは	授業ガイダンスを行う。 人と人の中で築かれる人間関係とそのコミュニケーションの特徴について学ぶ。 チームビルディングをする。 講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。
2	コミュニケーションが対人関係に及ぼす影響	日常生活で用いられるコミュニケーションについて学び、対人関係に及ぼす影響について学ぶ。 講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。
3	看護の場における対人関係とは	看護の場における対人関係について概要を学ぶ。医療・看護におけるコミュニケーションの意義について学び、患者-看護師関係の特徴について学ぶ。対人関係を振り返るための手法について学ぶ。 講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。
4	対人関係の振り返り 相手を理解する	相手の立場について考え、相手の気持ちを受けとめ、人間関係を発展させるための態度について学ぶ。 講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。
5	患者-看護師関係に関する理論	患者-看護師関係に関する看護理論について学ぶ。また、ロールプレイを行い、患者役や看護師役を行うことで抱えている課題について、考える。 講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。
6	現場での学び、チーム医療の人間関係、カンファレンス	現場で学ぶこと、実習に必要なマナーについて学ぶ。また、チーム医療で互いに尊重し合いながら率直にコミュニケーションすることをカンファレンスを行い体験的に理解する。 講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。
7	患者とのコミュニケーションの実践	模擬患者設定を使って、患者の気持ちを受けとめる話し方、聞き方について考える。 病室を模した場で模擬患者とコミュニ	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間)

			ケーションを実践する。	事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。
	8	生活者としての患者について知るまとめ	看護の場における対人関係についての今までの学びをまとめて振り返り、生活者としての患者を理解できたことや今後の課題について自身の言葉でまとめる。講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目	看護学概論、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント、など全ての看護学の科目と関連します。特に、各看護学実習で学ぶ際に基本となる科目です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】仲間とみがかく看護のコミュニケーション・センス	大森武子/大下静子/矢口みどり	医歯薬出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護コミュニケーション：基礎から学ぶスキルとトレーニング	篠崎恵美子	医学書院
	2			
	3			
評価方法(基準)	筆記試験(40%)、ピア評価(20%)、ミニテスト(10%)、授業の参加度と課題及びレポート(30%)により総合評価する。原則全ての授業に出席していること。			
学生へのメッセージ	看護は対象者を身体的・精神的・社会的な側面から理解し、よりよい人間関係が必要不可欠です。対象者に関わらなければ、看護実践は行うことが出来ません。何気ないコミュニケーションから、相手の思いに気付く視点をもつことが看護の基本です。また、会話や状況など客観的な事実と、その時感じたこと・考えたことを分けて捉え、分析することも重要です。この授業を通して、今後の実習や学習の基本的な能力を身につけていきましょう。			
担当者の研究室等備考	研究室3(山居)、研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、共同研究室(佃、藤井、北村)			

科目名	看護過程論	科目名 (英文)	Nursing Process
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 佃 真理子, 藤井 崇敬, 山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2030a0		

授業概要・目的	看護ケアを対象者に提供するための基盤となる看護過程について学ぶ。根拠に基づき、対象者の看護上の問題を明確にし、問題を解決するためのプロセスを学ぶ。ヘンダーソンの理論に基づいた看護過程の展開方法を、演習を通して修得する。
到達目標	1. 看護過程の意義や目的について説明できる。 2. 対象理解のための系統的な情報収集と根拠に基づいたアセスメントができる。 3. 生活者としての対象を理解し、健康状態との関連性を統合して全体像を描くことができる。 4. 対象の看護問題を抽出し、健康状態に応じた目標を設定してアセスメントに基づく計画を立案することができる。 5. 事例患者の看護展開を通して、実施と評価を行うことができる。 6. 看護過程の展開における看護者の倫理性、患者の安全安楽の視点の重要性について説明できる。
授業方法と留意点	講義形式で看護過程の理論を学び、講義室または基礎看護演習室において演習を行いながら、より具体的な看護過程の展開方法をイメージできるように授業を行う。教科書を基本とするが、学生の学修状況を考慮し、適宜配布資料を用いる。また、視聴覚教材やパワーポイントを使用する。看護過程の展開方法を習得するために、少人数制のグループワークや演習を行い、事例展開をする。課題については、講義内で別途指示する。アセスメント内容、関連図、看護計画について、グループ発表を行ない、クラス全体で学びを共有し、基礎看護学実習Ⅱにつながる思考過程を修得する。
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱおよび看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護過程の意義 対象のアセスメント①	【講義・演習】 ・オリエンテーション ・看護における人間の捉え方とヘンダーソンの看護論 ・対象の情報収集と情報の整理	事前課題：教科書・配布資料の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
2	対象のアセスメント②	【講義・演習】 ・情報の分析・統合	事前課題：教科書・配布資料の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
3	看護問題の明確化①	【講義・演習】 ・看護問題の明確化 ・全体関連図	事前課題：教科書・配布資料の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
4	看護問題の明確化②	【講義・演習】 ・看護問題リスト/優先順位の決定	事前課題：教科書・配布資料の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
5	事例課題①	【演習】個人ワーク ・情報整理・アセスメント、看護問題の明確化	事前課題：教科書・配布資料の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
6	事例課題②	【演習】個人ワーク ・関連図	事前課題：教科書・配布資料の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
7	看護計画①	【講義・演習】 ・看護目標と具体的な援助計画	事前課題：教科書・配布資料の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
8	事例課題③	【演習】個人ワーク ・看護問題の優先順位 ・看護目標と看護計画の立案	事前課題：教科書・配布資料の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
9	事例課題④	【グループワーク】 ・情報整理・分析・統合、看護問題	事前課題：教科書・配布資料の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
10	事例課題⑤	【グループワーク】 ・看護目標と看護計画の立案①	事前課題：教科書・配布資料の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
11	事例課題⑥	・事例課題のプレゼンテーション	事前課題：教科書・配布資料の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
12	事例課題⑦	【グループワーク】 ・看護目標と看護計画の立案②	事前課題：教科書・配布資料の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
13	看護計画②	【講義・演習】 ・看護計画の実施と評価	事前課題：教科書・配布資料の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
14	看護過程の展開①	【演習】	事前課題：グループで看護目標、看護計画の発表資

			・看護計画の実践発表と振り返り①	料を作成する。(2時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、評価・修正のうえ課題を仕上げる。(2時間)																
	15	看護過程の展開②	【演習】 ・看護計画の実践発表と振り返り②	事前課題：グループで看護目標、看護計画の発表資料を作成する。(2時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、評価・修正のうえ課題を仕上げる。(2時間)																
関連科目	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、フィジカルアセスメントおよび基礎看護学実習Ⅱに深く関連する。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践【第5版】</td> <td>秋葉公子 江崎フサ子 (他)</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>実践に役立つ看護過程と看護診断</td> <td>三上れつ</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践【第5版】	秋葉公子 江崎フサ子 (他)	ヌーヴェルヒロカワ	2	実践に役立つ看護過程と看護診断	三上れつ	ヌーヴェルヒロカワ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践【第5版】	秋葉公子 江崎フサ子 (他)	ヌーヴェルヒロカワ																	
2	実践に役立つ看護過程と看護診断	三上れつ	ヌーヴェルヒロカワ																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ヘンダーソン看護論と看護実践への応用</td> <td>金子道子</td> <td>照林社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト【第5版】</td> <td>江崎フサ子 玉木ミヨ子 他</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ヘンダーソン看護論と看護実践への応用	金子道子	照林社	2	ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト【第5版】	江崎フサ子 玉木ミヨ子 他	ヌーヴェルヒロカワ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ヘンダーソン看護論と看護実践への応用	金子道子	照林社																	
2	ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト【第5版】	江崎フサ子 玉木ミヨ子 他	ヌーヴェルヒロカワ																	
3																				
評価方法 (基準)	筆記試験 40%、課題 (グループ課題・個人課題) 50%、授業参加態度 10% 原則、全ての授業および演習に出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、進捗や感染拡大状況等により評価方法を変更することがある。																			
学生への メッセージ	看護の提供には、その看護師の考え方や思い、倫理観が反映されます。看護職者としてどのようにあるべきか、また、どのようにありたいか、自己の考えを深めてください。 本科目は基礎看護学実習Ⅱに深く関連する科目です。本科目の目標を達成できなければ、基礎看護学実習Ⅱに臨むことができません。本科目の目標を達成していただけるように自己学習をしっかりと行っていきましょう。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1 (佐久間)、研究室2 (神谷)、研究室3 (山居)、共同研究室2 (北村、佃)、共同研究室2 (藤井)																			
備考	講義時の準備物、個人課題およびグループワーク課題については講義内で別途指示します。指定された期日までに、必ず準備を整え、課題を提出してください。																			

科目名	成人看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Adult Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	稲垣 美紀, 竹下 裕子, 松本 葉子, 森谷 利香
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2034a0		

授業概要・目的	ライフサイクルにおける成人期の特性をふまえ、家族や職場・地域社会で様々な役割をもつ成人期の対象の健康及び健康の危機状況や急性期症状を呈する健康問題をもつ成人期の対象の理解と看護、及び慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解と看護について学習する。また成人看護に有用な主要概念・理論について理解する。
到達目標	本授業では、各教員の病院での実践経験を踏まえて授業内容を教授します。 1. ライフサイクルにおける成長発達と特徴について説明できる。 2. 成人保健の動向について統計的な視点から説明できる。 3. 急激な健康破綻を生じる対象が抱える健康問題の特徴と看護について説明できる 4. 慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 5. 成人看護に有用な主要概念・理論について説明できる。 6. リハビリテーションを必要とする対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 7. がんと共に生きる患者の理解及び特徴的な看護について説明できる。 8. ター
授業方法と留意点	成人期にある対象を理解する。そして授業計画に沿った講義を通して、ライフサイクルにおける青年期から向老期の成人の特徴を理解する。成人の特徴を踏まえた急性期看護および慢性期看護を学習する。教科書による予習・復習を課し、教科書の内容を活用して学習する。また臨床事例や視聴覚教材を活用して、主要概念や看護理論の知識を深め、実践に活用できるようなみかた・考え方を学習する。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験に必須の科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ライフサイクルからみた成人期の特徴	・成人期の成長・発達と健康レベル ・成人保健の動向	・授業前に、教科書1の第1章「成人とは」、第2章成人をとりまく今日の状況」を読んでおく。(1時間) ・授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)
2	成人期における健康障害の特徴	・成人期における健康障害の特徴と予防の現状 ・第1・2回で理解した内容をもとに、成人期にある対象の健康課題について、自身や周囲の人々の経験などから、理解を深めることができる。	・授業前に、教科書1の第3章「成人期にある人の健康」を読んでおくこと。(1時間) ・授業後は課題を提出する。(1時間)
3	急激な健康破綻を生じる対象が抱える健康問題の特徴と看護	・急性期にある対象の特徴 ・急性期にある対象の看護 ・心身の危機状態に対する看護の基盤となる理論・モデル	・授業前に、教科書1の第4章2「適応を促す」、第5章2「健康状態が急激に変化し急性の状態にある人への看護」を読んでおくこと。健康障害の段階に応じた看護(1時間) ・授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)
4	成人期にある人の理解	・ディスカッション、グループワーク 成人期にある対象の健康課題や看護の役割について、説明できる。	・授業前に第2回講義後に提出した課題及び今までの講義内容をもとに、成人期にある対象の健康課題や看護師の役割について、自身の考えをまとめておくこと。(1時間) ・授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)
5	急性期にある対象の理解①	・ディスカッション、グループワーク ・がんで手術療法を受ける対象の事例を活用しながら、周手術期にある対象の心身の特徴や問題についてグループ討議する。	・授業前に配布する資料を読んでおく。(30分) ・授業後は課題を提出する。(1時間)
6	急性期にある対象の理解②	・ディスカッション、グループワーク ①で明らかにした周手術期にある対象の心身の特徴や問題について他者に説明(発表)し、看護の方向性について討議する。討議を通して、様々な理解の視点や考え方を得る。	・授業前に配布する資料を読んでおく。(30分) ・授業後は課題を提出する。(1時間)
7	成人看護における倫理的課題と看護者の役割、緩和ケア	・ディスカッション、グループワーク 看護倫理と倫理原則、成人看護にまつわる倫理的課題について理解する。さらに、事例検討を行い、倫理的問題解決過程を学習する。 ・成人看護における対象の全人的苦痛の理解と緩和ケア	・授業前に教科書1の指定箇所についてを読んでおくこと。緩和ケアについては資料を配布する。(1時間) ・授業後は課題を提出する。(1時間)
8	成人看護学におけるヘルスアセスメント、成人期の特徴をとらえた看護過程の展開	・成人看護学におけるヘルスアセスメント ・心理社会的側面に関するアセスメント、アセスメントの統合、看護展開	・授業後には授業内容を復習すること(30分)。
9	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(1)	・慢性疾患及び治療法の特徴について ・対象の心理・身体・社会的な特徴と看護 ・健康の再構築への支援が必要な対象の理解 (グループワークを含む)	・授業前に第5章4を読んでおくこと(30分)。 ・授業後には授業内容を復習すること(30分)。
10	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(2)	・慢性疾患及び治療法の特徴について ・対象の心理・身体・社会的な特徴と看護 ・健康の再構築への支援が必要な対象の理解	・授業前に第5章4を読んでおくこと(30分)。 ・授業後には授業内容を復習すること(30分)。

			(グループワークを含む)	
	11	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の看護に有用な主要概念・理論(1)	・アンドラゴジー理論の理解と活用 ・自己効力理論の理解と活用、患者支援教育の理解	・授業前に第IV章3.を読んでおくこと(30分)。 ・授業後には授業内容を復習すること(30分)。
	12	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の看護に有用な主要概念・理論(2)	・セルフケア理論の理解と活用	・授業前に第IV章3.を読んでおくこと(30分)。 ・授業後には授業内容を復習すること(30分)。
	13	リハビリテーションを必要とする対象の理解と特徴的な看護	・リハビリテーションを必要とする対象の理解と看護の役割	・授業前に第V章3.を読んでおくこと(30分)。 ・授業後には授業内容を復習すること(30分)。
	14	がんと共に生きる患者の理解と特徴的な看護	・がんとともに生きる対象の理解と看護の役割	・授業前にかん患者の体験記ブログを読んでおく(30分)。 ・授業後には授業内容を復習し、課題を提出する(1時間)。
	15	ターミナル期の患者の理解と特徴的な看護	・ターミナル期の定義 ・ターミナル期にある対象の特徴と看護の役割	・授業前に教科書「終末期看護」の【第1編】第1～2章を読んでおくこと(30分)。 ・授業後には授業内容を復習し、課題を提出する。(1時間30分)。
関連科目	成人看護学援助論Ⅰ(急性)・(慢性)、成人看護学援助論Ⅱ(急性)・(慢性)、成人看護学実習(急性)・(慢性)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】成人看護学概論 改訂第4版	林直子ら編著	南江堂
	2	【電子】新体系 看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア 第2版	田村 恵子	メヂカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2022/2023 (厚生)の指標	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
	2	新体系 看護学全書 経過別 成人看護学①急性期看護：クリティカルケア	明石恵子、益田美津美	メヂカルフレンド社
	3			
評価方法(基準)	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。定期試験(30%)、レポート課題(60%)、グループワークの参加状況(10%)を総合して総括的評価をする。尚レポート課題は授業中に説明する。			
学生へのメッセージ	成人看護学に関する基礎となる知識を習得しますので、しっかり学習しましょう。試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィードバックします。			
担当者の研究室等備考	稲垣(研究室26)、森谷(研究室29)			

科目名	成人看護学援助論Ⅰ（急性）	科目名（英文）	Adult Nursing I(Acute)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	竹下 裕子・稲垣 範子・稲垣 美紀・長沢 美和子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2036a0		

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象とその家族の特徴を理解し、生命の維持と心身の早期回復、早期社会復帰に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。</p> <p>集中治療室、外科系病棟で看護師として勤務した経験を活かした実践的教育を行う。</p>
---------	---

到達目標	<p>【一般目標】</p> <p>1. 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象や手術を受ける対象とその家族の身体的、心理・社会的特徴および倫理的課題について理解できる。</p> <p>2. 麻酔・手術における侵襲と生体反応を踏まえ、術後合併症のアセスメントと予防のための看護援助について理解できる。</p> <p>3. 手術を受ける対象とその家族が、周手術期および退院後も、QOLのより高い生活を獲得できるよう、チーム医療のもとで行う看護援助について理解できる。</p>
------	---

授業方法と留意点	<p>下記の授業計画に沿って、講義およびディスカッション等を組み合わせた授業を行います。教科書を利用し、適宜プリントを配布するので持参してください。質問は、授業時間内および、授業時間外でも適宜受け付けます。</p> <p>本授業の教科書は、3年前期の成人看護学援助論Ⅱ（急性）でも使用しますので、大切に保管してください。</p>
----------	--

科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨地実習（成人看護学実習（急性））において、看護援助を実践するための基盤となる。</li> <li>・看護師国家試験の出題範囲である。</li> </ul>
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	周手術期にある対象の特徴と理解①—手術侵襲と生体反応	麻酔・手術侵襲に伴う生体反応，炎症，創傷治癒	【事前】教科書の麻酔・手術侵襲と生体反応，創傷治癒に関する内容を序章を読んでおくこと（30分） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（30分）
2	周手術期にある対象の特徴と理解②—術前患者	情報収集とアセスメント，術前オリエンテーション，術前日～術当日の看護	【事前】教科書の術前患者の情報とアセスメント，術前オリエンテーション，術当日の看護に関する内容を読んでおくこと（30分） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（30分）	
3	周手術期にある対象の特徴と理解③—術中看護	麻酔法，手術室環境，手術室での看護	【事前】教科書の術中看護に関する内容を読んでおくこと（30分） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（30分）	
4	周手術期にある対象の特徴と理解④—術後看護	麻酔・手術侵襲からの回復を促進するための看護 患者アセスメント，早期離床，疼痛管理，自己管理に向けた援助	【事前】教科書の術後看護に関する内容を読んでおくこと（30分） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（30分）	
5	術後合併症の発生機序と予防のための看護援助①	呼吸器合併症，循環器合併症，イレウス予防のための看護	【事前】教科書の術後合併症予防のための看護に関する内容を読んでおくこと（30分） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく。また，術後の体液バランスと輸液管理についてまとめておく（30分）	
6	術後合併症の発生機序と予防のための看護援助②	術後感染，縫合不全（創傷管理・ドレーン管理含む），術後せん妄予防のための看護	【事前】教科書の術後感染，創傷管理，術後せん妄予防に関する看護について読んでおくこと（30分） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（30分）	
7	救急医療を必要とする対象の特徴と理解	救急看護の特徴，救急患者に対するアセスメントと看護援助	【事前】教科書の救急患者の看護に関する内容を読んでおくこと（30分） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（30分）	
8	急性期におけるチーム医療	急性期におけるチーム協働の在り方と連携	【事前】授業時間内に指定した内容を学習しておく（30分） 【事後】資料の内容を復習しておく（30分）	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

関連科目	<p>成人看護学概論 人体の構造と機能 病理学総論 疾病治療論 感染と防御</p>
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】ナーシンググラフィカ 成人看護学④周術期看護 第4版	中島 恵美子ら編集	メディカ出版
2	【電子】根拠がわかる看護技術シリーズ 看護実践のための根拠がわかる成人看護技術 急性・クリティカルケア看護 第2版	山勢博彰ら編著	メヂカルフレンド社	



	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	成人看護学 周手術期看護論 (第3版)	雄西智恵美 他編	ヌーヴェルヒロカワ
	2	経過別成人看護学2 周手術期看護(第2版)	寫田 理佳 他編	メヂカルフレンド社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、課題の達成状況 40%により総合的に評価する。原則として 2/3 以上の出席を成績評価の対象とする。また遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。やむを得ない理由で欠席した場合には、欠席届を提出の上、配布資料や課題の指示を受けること (履修要項参照)。			
学生への メッセージ	急性期にある対象に対しては、迅速な対処を必要とされることが多く、看護の展開が速いのが特徴です。習得した知識を個別の対象に適用できるためには、十分な事前・事後学習が不可欠です			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室30 (竹下)			
備考	スケジュールを別途説明しますので、間違いないように授業の事前準備を行ってください。			

科目名	成人看護学援助論Ⅰ（慢性）	科目名（英文）	Adult Nursing I(Chronic)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	森谷 利香・志戸岡 恵子・松本 葉子
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2037a0		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 慢性的な健康問題のために生活の再構築、あるいはストレスコーピングの促進が必要となる成人期の人々を理解し、対象者が主体的に療養生活に取り組むために必要な看護援助を学習する。また、代表的な慢性病をモデルにして、看護援助の方法について理解するとともに看護技術の基礎を習得する。担当教員の臨床経験に基づいて、慢性的な健康問題のある人々への看護の考え方や看護援助方法を具体的に教授する。</p> <p><b>【目的】</b> 慢性的な健康問題を有する成人期の対象と家族の特徴を踏まえ、そのQOLの維持・向上、および主体的な療養生活に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。</p>
---------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性的な健康問題のために生活の再構築、あるいはストレスコーピングの促進が必要な対象（以下対象とする）とその家族の特徴と課題を説明できる。</li> <li>2. 対象の症状、および治療に伴う副作用に対する看護援助について説明できる。</li> <li>3. 対象と家族の生活をアセスメントし、関連要因を踏まえた上で主体的な療養生活に向けた援助が理解できる。</li> <li>4. 対象とその家族のQOLの維持・向上のために必要なチーム医療の在り方と看護の役割を理解できる。</li> <li>5. 対象と家族に生じることが予想される倫理的課題について理解し、自分の考えを考察</li> </ol>
------	---

授業方法と留意点	本授業は講義を中心とし、ディスカッションやグループワークを含む。病態、検査、治療に関しては、人体の構造と機能とともに理解が必要であるため、既習の内容を復習しながら進める。看護については、まず、病態の理解に関連させて理解を深められるようにする。そして、疾病による心理・社会的影響を理解できるよう、慢性病者の療養生活のイメージ化を促す。これらの上で、看護援助を具体的に説明する。
----------	---

科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験に必要な科目です
-------------	-------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	生活の再構築や適応を促進するための看護援助（1）	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護1）難病患者の身体的・心理社会的反応への看護	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-7-3を読んでおくこと（30分）。
2	生活の再構築や適応を促進するための看護援助（2）	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護2）生活の再構築の過程を支える看護	【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す（60分）。
3	ストレスコーピングを促進するための看護援助（1）	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護1）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと（30分）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（30分）。
4	ストレスコーピングを促進するための看護援助（2）	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護2）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと（30分）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（30分）。
5	ストレスコーピングを促進するための看護援助（3）	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護1）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-3を読んでおくこと（30分）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（30分）。
6	ストレスコーピングを促進するための看護援助（4）	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護2）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-3を読んでおくこと（30分）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（30分）。
7	ストレスコーピングを促進するための看護援助（5）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護1）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと（30分）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（30分）。
8	ストレスコーピングを促進するための看護援助（6）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護2）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと（30分）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（30分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅱ（慢性）、疾病・治療論Ⅰ～Ⅲ
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】看護学テキストNice 成人看護学 慢性期看護 改訂第4版	鈴木久美 他	南江堂
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝 他	ヌーヴェルヒロカワ
	2	「系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器」	浅野浩一郎 他	医学書院
	3	「系統看護学講座 成人看護学[4] 血液・造血器」	飯野京子 他	医学書院
評価方法 (基準)	本科目では原則として 2/3 以上の出席を成績評価の対象とする。また、筆記試験 (90%) およびレポート (10%) の内容を総合して評価する。			
学生への メッセージ	提出されたレポートや試験に関しては適宜フィードバックします。			
担当者の 研究室等	研究室 29 森谷			
備考				

科目名	成人看護学援助論Ⅱ(急性)	科目名(英文)	Adult Nursing II(Acute)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	稲垣 範子, 稲垣 美紀, 竹下 裕子, 長沢 美和子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2038a0		

授業概要・目的	健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象およびその家族の特徴を理解し、予測的問題を含めて看護問題を抽出し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和といった問題解決へ導くために根拠に基づいた看護を展開する能力を養う。また、模擬患者に対して、アセスメントをもとにした看護援助技術の提供や患者役の体験を通して、より適切な看護援助技術の実践に向けた自己の課題に気付くことができる。学内演習の振り返りを通して、看護職者としての倫理観や対象に適した看護実践を展開する基礎的能力を養う。
到達目標	1. 手術を受ける対象とその家族への看護実践に必要な情報収集、アセスメント、計画立案の過程について理解できる。 2. 手術を受ける対象に応じた観察項目を理解し、異常の早期発見と必要な看護を計画に基づき実施・評価できる。 3. 手術を受ける対象の合併症予防と心身の苦痛緩和のために必要な看護について、計画に基づき実施・評価できる。 4. 急性期にある対象の生命維持、早期回復の促進に必要な看護技術について習得する。 5. 急性期にある対象とその家族の看護問題を解決するために、学生同士で関わり合いなが
授業方法と留意点	本科目は看護過程の展開や看護技術の実践などグループでの演習を中心に行う。グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、実習室でのシミュレーションなどを含む。授業時間内もしくは授業終了後に質疑応答の時間を設ける。 2年後期の成人看護学援助論Ⅰ(急性)で使用した教科書①「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第12版(医学書院)」と教科書②「パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ 急性期・周手術期 第2版(照林社)」の2冊、および授業資料を使用しますので持参してください。
科目学習の効果(資格)	成人看護学実習(急性)で実際に活用する援助方法である。また、看護師国家試験受験において必須科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	手術を受ける対象への看護 ①消化・吸収機能障害、 手術を受ける対象への看護 過程の展開①	胃切除術を受ける対象への看護と看護 過程展開に向けたオリエンテーション	事前課題：教科書②pp. 304-314(胃切除術)を 読んでおくこと(30分) 事後課題：授業で提示する課題に取り組む(30分)
	2	手術を受ける対象への看護 過程の展開②	模擬電子カルテよりゴードンの枠組み に基づき情報収集を行う	事前課題：看護過程に関する事前課題を完成させ る。(30分) 事後課題：看護記録の提出(30分)
	3	手術を受ける対象への看護 過程の展開③	情報の整理、解釈、分析を行う	事前課題：看護過程に関する事前課題を完成させ る。(30分) 事後課題：看護記録の提出(30分)
	4	手術を受ける対象への看護 過程の展開④	収集した情報の統合、関連図の作成を行 う	事前課題：看護過程に関する事前課題を完成させ る。(30分) 事後課題：看護記録の提出(30分)
	5	手術を受ける対象への看護 過程の展開⑤	関連図、看護問題リスト作成、優先順位 の検討を行う	事前課題：看護過程に関する事前課題を完成させ る。(30分) 事後課題：看護記録の提出(30分)
	6	手術を受ける対象への看護 過程の展開⑥	優先順位の高い看護問題に対して、目標 の設定、計画立案を行う	事前課題：看護過程に関する事前課題を完成させ る。(30分) 事後課題：看護記録の提出(30分)
	7	手術を受ける対象への看護 過程の展開⑦	自身が立案した看護目標・看護計画を実 施・評価する方法を検討する。	事前課題：看護過程に関する事前課題を完成させ る。(30分) 事後課題：看護記録の提出(30分)
	8	救急時の看護技術	救急患者のアセスメント、心停止アルゴ リズムの理解、病院内・外での一次救命 処置の実践	事前課題：技術演習に関する事前課題を完成させ る。(30分) 事後課題：技術実施を振り返り課題を完成させる (30分)
	9	周手術期の看護技術① 術後の挿入・装着物の管理	周手術期に挿入・装着されるカテーテ ル・ドレーン・モニター等の目的および 管理方法の理解	事前課題：技術演習に関する事前課題を完成させ る。(30分) 事後課題：技術実施を振り返り課題を完成させる (30分)
	10	周手術期の看護技術② 術直後の全身状態の観察	術直後の全身状態の観察とモニタリ ング、術中から術後の水分出納の把握	事前課題：技術演習に関する事前課題を完成させ る。(30分) 事後課題：技術実施を振り返り課題を完成させる (30分)
	11	周手術期の看護技術③ 術後のアセスメントと報告	術後合併症の早期発見につなげる全身 状態のアセスメント、SBARを用いた報 告	事前課題：技術演習に関する事前課題を完成させ る。(30分) 事後課題：技術実施を振り返り課題を完成させる (30分)
	12	周手術期の看護技術④ 術後疼痛緩和と早期離床	術後疼痛の評価と緩和の方法、早期離床 の安全な実施	事前課題：技術演習に関する事前課題を完成させ る。(30分) 事後課題：技術実施を振り返り課題を完成させる (30分)
	13	手術を受ける対象への看護 ② 運動機能障害	人工関節置換術を受ける対象への看護	事前課題：教科書②pp. 336-345(両側人工膝関節 置換術)を読んでおくこと(30分) 事後課題：授業で提示する課題に取り組む(30分)
	14	手術を受ける対象への看護 ③ 呼吸機能障害	肺切除術を受ける対象への看護	事前課題：教科書②pp. 246-257(肺切除術)を 読んでおくこと(30分) 事後課題：授業で提示する課題に取り組む(30分)
	15	手術を受ける対象への看護 ④ 脳神経機能障害	くも膜下出血の手術を受ける対象への 看護	事前課題：教科書②pp. 328-335(脳動脈クリッ ピング術)を読んでおくこと(30分) 事後課題：授業で提示する課題に取り組む(30分)
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ(急性)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。授業の中で課したレポート、課題の達成状況により100%総合的に評価する。したがって、指示された課題は必ず期日までに提出すること。			
学生への メッセージ	本授業では、成人看護学実習（急性）に向けた看護過程や看護技術について、臨床現場を再現したシミュレーションやロールプレイ等を通して基本的な内容を学習します。グループワークでの学びを高めるために、事前の個人課題に取り組んだ上で主体的に参加してください。具体的には別途説明します。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室25 稲垣範子			
備考				

科目名	成人看護学援助論Ⅱ (慢性)	科目名 (英文)	Adult Nursing II(Chronic)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森谷 利香, 青野 美里, 志戸岡 恵子, 松本 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN3039a0		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 慢性的な健康問題によってセルフケアの促進が必要な成人期の人々を理解し、対象者が主体的に療養生活に取り組むために必要な看護援助を学習する。また、代表的な慢性病をモデルにして、看護援助の方法について理解するとともに看護技術の基礎を習得する。</p> <p><b>【目的】</b> 慢性的な健康問題によってセルフケアの促進が必要な成人期を対象と家族の特徴を踏まえ、そのQOLの維持・向上、および主体的な療養生活に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性的な健康問題のためにセルフケアの促進が必要な対象（以下対象とする）とその家族の特徴と課題を説明できる。</li> <li>2. 対象の症状、および治療に伴う副作用に対する看護援助について説明できる。</li> <li>3. 対象と家族の生活をアセスメントし、関連要因を踏まえた上で主体的な療養生活に向けた援助が理解できる。また、これに関連する援助技術を習得できる。</li> <li>4. 対象とその家族のQOLの維持・向上のために必要なチーム医療の在り方と看護の役割を理解できる。</li> <li>5. 対象と家族に生じることが予想される倫理的課題について理解できる。</li> </ol>
授業方法と留意点	本授業は講義、技術演習、グループワーク、プレゼンテーションを用いながら授業目的の達成を目指す。病態、検査、治療に関しては、人体の構造と機能とともに理解が必要であるため、既習の内容を復習しながら進める。看護については、まず、病態の理解に関連させて理解を深められるようにする。そして、疾病による心理・社会的影響を理解できるよう、慢性病者の療養生活のイメージ化を促す。これらの上で、看護援助を具体的に説明する。看護過程ではグループワークを中心として、慢性病者に対する看護展開について基本を学ぶ。技術演習では、臨床で看護実践を行うために必要な技術演習を通じて病者が治療と共に生活する状況の理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験に必須の科目である

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	セルフケアを促進するための看護援助 (1)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護 1)	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと (30分)。 <b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること (30分)。</p>
2	セルフケアを促進するための看護援助 (2)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護 2)	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと (30分)。 <b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること (30分)。</p>	
3	セルフケアを促進するための看護援助 (3)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護 1)	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと (30分)。 <b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること (30分)。</p>	
4	セルフケアを促進するための看護援助 (4)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護 2)	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと (30分)。 <b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること (30分)。</p>	
5	セルフケアを促進するための看護援助 (5)	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護 1) 糖尿病の発症に伴う身体的・心理社会的反応とセルフケアの特徴	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-4-1を読んでおくこと (30分)。 <b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す (60分)。</p>	
6	セルフケアを促進するための看護援助 (6)	慢性閉塞性肺疾患により新たな療養法を必要とする患者の理解と看護	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-2を読んでおくこと (30分)。 <b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること (30分)。</p>	
7	慢性的な健康問題のある対象への看護過程 (1)	情報の整理・解釈・分析 1): グループワーク	<b>【事前課題】</b> 演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(60分)	
8	慢性的な健康問題のある対象への看護過程 (2)	情報の整理・解釈・分析 2): グループワーク	<b>【事後課題】</b> 完成させた課題を提出する。(情報の整理・解釈・分析) 提出 (60分)	
9	慢性的な健康問題のある対象への看護過程 (3)	関連図, 統合・看護問題の明確化: グループワーク	<p><b>【事前課題】</b> 演習に関する資料および課題を事前に配布する。(60分) <b>【事後課題】</b> 完成させた課題 (関連図, 統合・看護問題の明確化) を提出する。(60分)</p>	
10	慢性的な健康問題のある対象への看護過程 (4)	看護計画の立案: グループワーク	<p><b>【事前課題】</b> 演習に関する資料および課題を事前に配布する。(60分) <b>事後課題:</b> 完成させた課題(看護計画)を提出する。(60分)</p>	
11	慢性的な健康問題のある対象への看護過程 (5)	看護過程成果の共有: プレゼンテーション	<b>【事後課題】</b> 完成させた全ての課題を提出する。(60分)	
12	慢性的な健康問題のある対象に必要な看護技術 (1)	自己血糖測定・インスリン自己注射を用いてセルフマネジメントを必要とする患者への援助: 演習	<p><b>【事前課題】</b> 演習に関する資料および課題を事前に配布する (30分) <b>事後課題:</b> 演習に関する資料および振り返りレポートを提出する。(30分)</p>	
13	慢性的な健康問題のある対象に必要な看護技術 (2)	継続的な療養法の習得に向けた教育的支援: 演習	<p><b>【事前課題】</b> 演習に関する資料および課題を事前に配布する (30分) <b>事後課題:</b> 実施を振り返りレポートを提出する。(30分)</p>	
14	慢性的な健康問題のある対象に必要な看護のまとめ (1)	まとめの演習 1) グループワーク	<b>【事前課題】</b> 演習に関する資料および課題を事前に配布する (30分)	

	15	慢性的な健康問題のある対象に必要な看護のまとめ(2)	まとめの演習2) プレゼンテーション	【事後課題】実施を振り返りレポートを提出する。(30分)
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論 I (慢性)、成人病態看護論 人体の構造と機能、疾病・治療論や薬物治療学など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第4版	鈴木久美 他	南江堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝 他	ヌーヴェルヒロカワ
	2	経過別成人看護学3 慢性期看護	黒江ゆり子 他	メヂカルフレンド社
	3			
評価方法(基準)	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。また、筆記試験(50%)およびレポートなどの成果物の内容(50%)を総合して評価する。また技術演習参加における注意点は別途説明する。			
学生へのメッセージ	成人看護学実習(慢性)に向けて実践がイメージできるように授業を行います。筆記試験やレポートに関しては適宜フィードバックします。			
担当者の研究室等	研究室 29 森谷			
備考				

科目名	成人看護学実習（急性）	科目名（英文）	Clinical Practice in Adult Nursing(Acute)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	稲垣 美紀, 稲垣 範子, 竹下 裕子, 長沢 美和子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN3040a0		

授業概要・目的	周手術期にある対象を全人的にとらえ、理論と実践を結びつけた看護活動を展開する能力を養う。 急性期看護の臨床経験のある教員が、臨地実習指導者と協働して指導を行う。
到達目標	1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助的関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別的特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 術前・術中・術後の基本的な看護技術を原理・原則に基づき、安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることがで
授業方法と留意点	本実習は、2年後期の成人看護学援助論Ⅰ（急性）、3年前期の成人看護学援助論Ⅱ（急性）での学修を活かして、臨地で受け持ち患者に対して看護実践を行います。既習科目の資料や教科書を復習し、大切に保管してください。実習計画については、オリエンテーションで具体的に説明します。オリエンテーションをきいて、しっかりと事前学習を行って、実習に参加してください。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験に必須の科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	実習病棟および受け持ち患者を想定した知識の理解	事前 オリエンテーション 学内オリエンテーション	【事前】一般的な周術期患者の看護に必要な知識・実習病棟や受け持ち患者に必要な知識の整理、技術演習 【事後】実習後の追加・修正
2	実習病棟および受け持ち患者を想定した看護展開の理解	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した情報収集項目の整理、病態関連図の作成 【事後】実習後の追加・修正
3	実習病棟および受け持ち患者を想定した看護実践の理解	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した看護技術ワークシートの記載 【事後】実習後の追加・修正
4	受け持ち患者に沿った看護問題の明確化、看護目標の設定、看護計画・実践・評価	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した看護計画の立案、評価 【事後】実習後の追加・修正
5	実習の成果の発表 自己課題の明確化	臨地実習成果発表会 学内成果発表会	【事前】自己課題シート、成果発表会資料の作成 【事後】実習後の追加・修正
6	詳細な予定や事前・事後課題の説明は、各オリエンテーションで、担当教員より個別に説明します。		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ（急性）、成人看護学援助論Ⅱ（急性）

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法（基準） ルーブリック評価表を用いて、評価を行います。評価表は、オリエンテーションで説明します。

学生へのメッセージ 失敗を恐れず、しっかりと報告・連絡・相談を行って、積極的に実習できることを期待しています。不明なことや不安なことがあれば、遠慮なく教員にたずねてください。

担当者の研究室等 7号館3階 稲垣美紀研究室

備考



科目名	成人看護学実習（急性）	科目名（英文）	Clinical Practice in Adult Nursing(Acute)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	稲垣 美紀, 稲垣 範子, 竹下 裕子, 長沢 美和子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN3040a0		

授業概要・目的	周手術期にある対象を全人的にとらえ、理論と実践を結びつけた看護活動を展開する能力を養う。 急性期看護の臨床経験のある教員が、臨地実習指導者と協働して指導を行う。
到達目標	1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別的特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 術前・術中・術後の基本的な看護技術を原理・原則に基づき、安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることがで
授業方法と留意点	本実習は、2年後期の成人看護学援助論Ⅰ（急性）、3年前期の成人看護学援助論Ⅱ（急性）での学修を活かして、臨地で受け持ち患者に対して看護実践を行います。既習科目の資料や教科書を復習し、大切に保管してください。実習計画については、オリエンテーションで具体的に説明します。オリエンテーションをきいて、しっかりと事前学習を行って、実習に参加してください。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験に必須の科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	実習病棟および受け持ち患者を想定した知識の理解	事前 オリエンテーション 学内オリエンテーション	【事前】一般的な周術期患者の看護に必要な知識・実習病棟や受け持ち患者に必要な知識の整理、技術演習 【事後】実習後の追加・修正
2	実習病棟および受け持ち患者を想定した看護展開の理解	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した情報収集項目の整理、病態関連図の作成 【事後】実習後の追加・修正
3	実習病棟および受け持ち患者を想定した看護実践の理解	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した看護技術ワークシートの記載 【事後】実習後の追加・修正
4	受け持ち患者に沿った看護問題の明確化、看護目標の設定、看護計画・実践・評価	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した看護計画の立案、評価 【事後】実習後の追加・修正
5	実習の成果の発表 自己課題の明確化	臨地実習成果発表会 学内成果発表会	【事前】自己課題シート、成果発表会資料の作成 【事後】実習後の追加・修正
6	詳細な予定や事前・事後課題の説明は、各オリエンテーションで、担当教員より個別に説明します。		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ（急性）、成人看護学援助論Ⅱ（急性）

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） ルーブリック評価表を用いて、評価を行います。評価表は、オリエンテーションで説明します。

学生へのメッセージ 失敗を恐れず、しっかりと報告・連絡・相談を行って、積極的に実習できることを期待しています。不明なことや不安なことがあれば、遠慮なく教員にたずねてください。

担当者の研究室等 7号館3階 稲垣美紀研究室

備考

科目名	成人看護学実習（慢性）	科目名（英文）	Clinical Practice in Adult Nursing(Chronic)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	森谷 利香, 青野 美里, 志戸岡 恵子, 松本 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN3040a0		

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b>  臨地実習としての看護実践を通して以下について学習し、慢性疾患を持つ対象への看護に関する基礎的能力を身に着ける。  本科目は担当教員の実務経験に基づき実践的教育を行う。</p> <p><b>【目的】</b>  慢性疾患の発病初期、急性増悪期、終末期といった様々な経過にある、主に成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実に向けて対象が治療に伴う療養生活に主体的に取り組むことができるよう援助する看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p>																																																																
到達目標	<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性疾患を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。</li> <li>対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。</li> <li>対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。</li> <li>対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。</li> <li>対象とその家族が直面</li> </ol>																																																																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>実習方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>実習グループは原則として1グループ5名編成とする。</li> <li>実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。</li> <li>実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。</li> <li>原則として臨地に出向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。</li> <li>カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。</li> <li>実習中に指定された記録物を作成する。すべての記録物は、期日を厳守して提出する。</li> <li>実習を通して、自己の課題を明確にする。</li> <li>実習を通じた学びを振り返り、発表することで、学びを共有する。</li> </ol> </li> <li>実習期間・病棟実習時間  期間...3週間  病棟実習時間...原則として9時～16時（うち1時間を休憩とする）</li> <li>実習施設  独立行政法人 地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター  関西電力病院  住友病院</li> </ol>																																																																
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験に関係する科目です。																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>別途説明します。</td><td>別途説明します。</td><td>別途説明します。</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	別途説明します。	別途説明します。	別途説明します。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	別途説明します。	別途説明します。	別途説明します。																																																														
2																																																																	
3																																																																	
4																																																																	
5																																																																	
6																																																																	
7																																																																	
8																																																																	
9																																																																	
10																																																																	
11																																																																	
12																																																																	
13																																																																	
14																																																																	
15																																																																	
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ（慢性）、成人看護学援助論Ⅱ（慢性）、疾病・治療Ⅰ～Ⅲ等																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法（基準）	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																																																																
学生へのメッセージ	この実習は慢性的な健康問題をもつ対象への看護の実際を学ぶ機会となります。まずは関連する科目の学習が重要です。それらを基盤として、実習で応用することで理解を深めるとともに技術を習得しましょう。																																																																
担当者の	研究室29 森谷																																																																

研究室等	
備考	

科目名	成人看護学実習（慢性）	科目名（英文）	Clinical Practice in Adult Nursing(Chronic)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	森谷 利香, 青野 美里, 志戸岡 恵子, 松本 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN3040a0		

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b>  臨地実習としての看護実践を通して以下について学習し、慢性疾患を持つ対象への看護に関する基礎的能力を身に着ける。  本科目は担当教員の実務経験に基づき実践的教育を行う。</p> <p><b>【目的】</b>  慢性疾患の発病初期、急性増悪期、終末期といった様々な経過にある、主に成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実に向けて対象が治療に伴う療養生活に主体的に取り組むことができるよう援助する看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p>																																																																
到達目標	<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性疾患を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。</li> <li>対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。</li> <li>対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。</li> <li>対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。</li> <li>対象とその家族が直面</li> </ol>																																																																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>実習方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>実習グループは原則として1グループ5名編成とする。</li> <li>実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。</li> <li>実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。</li> <li>原則として臨地に出向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。</li> <li>カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。</li> <li>実習中に指定された記録物を作成する。すべての記録物は、期日を厳守して提出する。</li> <li>実習を通して、自己の課題を明確にする。</li> <li>実習を通じた学びを振り返り、発表することで、学びを共有する。</li> </ol> </li> <li>実習期間・病棟実習時間  期間...3週間  病棟実習時間...原則として9時～16時（うち1時間を休憩とする）</li> <li>実習施設  独立行政法人 地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター  関西電力病院  住友病院</li> </ol>																																																																
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験に関係する科目です。																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>別途説明します。</td><td>別途説明します。</td><td>別途説明します。</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	別途説明します。	別途説明します。	別途説明します。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	別途説明します。	別途説明します。	別途説明します。																																																														
2																																																																	
3																																																																	
4																																																																	
5																																																																	
6																																																																	
7																																																																	
8																																																																	
9																																																																	
10																																																																	
11																																																																	
12																																																																	
13																																																																	
14																																																																	
15																																																																	
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ（慢性）、成人看護学援助論Ⅱ（慢性）、疾病・治療Ⅰ～Ⅲ等																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法（基準）	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																																																																
学生へのメッセージ	この実習は慢性的な健康問題をもつ対象への看護の実際を学ぶ機会となります。まずは関連する科目の学習が重要です。それらを基盤として、実習で応用することで理解を深めるとともに技術を習得しましょう。																																																																
担当者の	研究室29 森谷																																																																

研究室等	
備考	

科目名	老年看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Gerontological Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6◎, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2041a0		

授業概要・目的	老年看護の理念とライフサイクルにおける老年期の主要概念を理解した上で、高齢者とその家族に、健康とQOLを高めるための看護を学ぶ。具体的には、統計データを通して高齢化の現状を学び、加齢による身体・心理・社会的変化と生活に及ぼす要因について理解し、質の高い健康生活のあり方を学ぶ。さらに高齢者とその家族をとりまく社会制度について学習する。
到達目標	老年看護の概要が理解できる。 超高齢社会について、疫学的側面から理解できる。 高齢者の身体・心理・社会的変化について理解できる。 高齢者をとりまく制度・施策について理解できる。 様々な場での高齢者看護の特徴を理解できる。 老年看護におけるエンドオブライフケア・倫理的課題について理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画に沿って授業します。指定した教科書を中心に講義を進めます。必要に応じて講義資料を提示します。普段から広い視野で学習する習慣を身につけましょう。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験の科目です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	老年看護の概念	老年看護とは 老年看護学の理念と目標、概念、活用できる理論について学びます。	事前課題事後課題 テキストをp2-20、p70-82を事前に予習して、概要をとらえておいてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理し、まとめてください。(1時間)
	2	高齢者を取り巻く社会の理解	統計データから高齢者を取り巻く社会状況に関して学習します。	高齢社会白書などの統計データを事前に準備・学習し、自分の担当分をまとめてください。(1時間) 事後課題 グループでまとめたものを事前の資料と合わせて整理をしてください。(30分)
	3	加齢現象の理解(1) 身体的変化	老年期にある人の身体的変化について学習します	事前課題 教科書p94-118を読み、加齢現象について予習をしてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。(1時間)
	4	加齢現象の理解(2) 心理・社会的変化	老年期にある人の認知機能、心理・社会的変化について学習します。	事前課題 教科書p89-91、297-299を読み、加齢現象について予習をしてください。(30分) 事後課題 配布するプリントに加齢現象を整理してください。(1時間)
	5	高齢者とその家族の理解	高齢者と家族を取り巻く社会情勢、介護する家族の特徴とそれに応じたケアについて学習します。	事前課題 教科書p378-382を読み、高齢者の家族について予習をしてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。(30分)
	6	高齢者を取り巻く関連法:医療制度・介護保険制度他	高齢者の保健・医療・福祉対策について、関係する制度・施策について学習します。	事前課題 教科書p36-53を読み、医療制度、介護保険制度について予習をしてください。(30分) 事後課題 配布するプリントをもとに整理してください。(1時間)
	7	高齢者への看護活動:病院・高齢者施設・地域	高齢者看護を実践する場として、病院・高齢者施設・地域における高齢者看護の特徴について学びます。	事前課題 教科書318-344を読み、様々な場で高齢者の看護について予習をしてください。(30分) 事後課題 配布するプリントにそれぞれの場の看護を整理してください。(1時間)
	8	高齢者へのエンドオブライフ・ケア 老年看護における倫理的課題	高齢者の死に関する状況の特徴とそのケアについて学習します。また、高齢者の意思決定、高齢者虐待など倫理的課題について学習します	事前課題 教科書p348-357、54-66を読み、倫理的課題等について予習をしてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。(30分)
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				
関連科目	看護学概論、公衆衛生学、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、 看護関係法規			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座：老年看護学（電子教科書）	北川公子	医学書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学概論	正木治恵、真田弘美	南江堂
	2	最新老年看護学	水谷信子、水野敏子	日本看護協会出版会
	3	高齢者の健康と障害	堀内ふき	メディカ出版
評価方法 （基準）	定期試験で評価します。			
学生への メッセージ	予習、復習をおこなってください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室6			
備考				

科目名	老年看護学援助論 I	科目名 (英文)	Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	村瀬 由貴, 小川 宣子, 西田 知代
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6◎, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2042a0		

授業概要・目的	(概要) 高齢者の生きてきた背景や価値観を踏まえたうえで、「高齢者が望む生活は何か」を重視する生活機能の視点からアセスメントし、高齢者の QOL を高める具体的なケアについて学びます。そのために、講義だけでなく、高齢者疑似体験や高齢者の生活支援についてのグループ学習・実技等を行い、高齢者理解を深めます。
到達目標	(全 15 回) 1) 高齢者に生じやすい認知症への理解を深め、生活への影響や具体的援助を考えることができる。 2) 加齢や疾患に伴う日常生活能力の変化をアセスメントし、それに適した援助を考えることができる。 3) 長年の生活で培われた価値観や生活習慣を尊重する態度を養う。
授業方法と留意点	講義だけでなく、高齢者疑似体験や高齢者の生活支援の演習、高齢者の特徴をふまえた活動を拡大するための演習を行います。事前および事後課題・レポート (疑似体験・ゲスト・活動を拡大する演習・生活支援演習)・テスト等を組み合わせて評価します。また、グループワーク参加状況・グループ貢献度も評価に含みますので、欠席しないようにしましょう。また、各講義や演習時に課すレポートは評価の対象になるので、必ず提出するようにしてください。やむを得ず欠席した場合は、必ず担当教員に連絡の上、後日、課題を提出してください。
科目学習の効果 (資格)	臨地実習での看護実践に必要な基本的知識を得ることができます。 看護師国家試験にも必須の学習内容です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	高齢者疑似体験演習①	【演習】 高齢者疑似体験を行います。	【事前】 老年看護学実習 I・II での体験を思い出し、高齢者の身体的特徴について要点をレポートする (一時間) 【事後】 高齢者疑似体験から考察した高齢者への生活援助の視点をワークシートに記入し提出する。(一時間)
2	高齢者疑似体験演習②	【演習】 高齢者疑似体験を行います。	【事前】 老年看護学実習 I・II での体験を思い出し、高齢者の身体的特徴について要点をレポートする (一時間) 【事後】 高齢者疑似体験から考察した高齢者への生活援助の視点をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
3	高齢者の生活機能から捉えた看護 (活動と休息①)	【講義】高齢者における活動と休息のバランスや、活動状況に影響を与える心身の特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 テキスト P142~146 を読み、廃用性症候群の原因と種類について要点をまとめておく (一時間) 【事後】 高齢者の活動の援助の必要性について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
4	認知症高齢者の理解と支援 ①	【講義】 認知症の疫学、定義、診断、病態、薬物療法等について学習します。	【事前】 認知症を理解するための資料 (第 2 講目に配布) を読み、要点をまとめておく (一時間) 【事後】 認知症高齢者の援助について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
5	高齢者の生活機能から捉えた看護 (清潔/身じたく)	【講義】 高齢者の皮膚の状態等を踏まえながら、清潔/身じたくに関するアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 加齢による皮膚や粘膜の変化についてテキストを読み要点をまとめておく (一時間) 【事後】 高齢者の清潔の援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
6	高齢者の生活機能から捉えた看護 (活動と休息②)	【講義】 高齢者の活動・休息は、心身の機能の変化によって安全・安楽が脅かされやすくなります。高齢者の安全、安楽を支えるアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 高齢者の活動を阻害する要因についてテキストを読んで要点をまとめておく。(一時間) 【事後】 高齢者の休息の援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
7	高齢者の生活機能から捉えた看護 (食事)	【講義】 高齢者の食・栄養における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 高齢者の食事や栄養の特徴について要点をまとめておく (一時間) 【事後】 高齢者の食事について指示されたワークシートに記入し提出する。(一時間)	
8	高齢者を尊重した生活支援の実際	【講義】 高齢者施設での生活支援の実際と高齢者を尊重したダイバーショナルセラピーターとしての活動をゲストスピーカーの講演を通して学びます	【事前】 テキスト P218~224 を読み、高齢者の社会参加についての要点をまとめておく (一時間) 【事後】 講演を聴講後に学びをレポートに記入し提出する。(一時間)	
9	認知症高齢者の理解と支援 ②	【講義】 認知症の症状からくる生活障がいへの対応、家族への支援などの具体的なケアについて学習します。	【事前】 認知症を理解するための資料 (第 2 講目に配布) を読み、要点をまとめておく (一時間) 【事後】 認知症高齢者の援助について指示された内容をワークシートに記入し提出する (一時間)	
10	高齢者の生活機能から捉え	【講義】	【事前】	



	た看護 (排泄)	高齢者の排泄機能における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	加齢による排泄への影響についてテキストを読み要点をまとめておく(一時間) 【事後】 高齢者の排泄援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)																
11	高齢者の活動を拡大するための演習①	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた活動を拡大するための方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握していただくこと(一時間) 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する(一時間)																
12	高齢者の活動を拡大するための演習②	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた活動を拡大するための方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握していただくこと(一時間) 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する(一時間)																
13	高齢者の生活支援演習①	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた生活支援の方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握していただくこと(一時間) 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する(一時間)																
14	高齢者の生活支援演習②	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた生活支援の方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握していただくこと(一時間) 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する(一時間)																
15	高齢者の生活機能から捉えた看護 (コミュニケーション)	【講義】 高齢者のコミュニケーションにおける特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】老年看護学実習Ⅰでの体験を思い出し、気がかりに感じた場面をレポートに記入しておく。(一時間) 【事後】 授業時に作成したワークシートを完成させ、テキストP198～213の要点をまとめておくこと。(一時間)																
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、老年看護学実習Ⅰ～Ⅲ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 老年看護学 (電子教科書)</td> <td>北川公子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>医学書院の生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図 (電子教科書)</td> <td>山田律子、井出訓</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 老年看護学 (電子教科書)	北川公子	医学書院	2	医学書院の生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図 (電子教科書)	山田律子、井出訓	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	系統看護学講座 老年看護学 (電子教科書)	北川公子	医学書院																
2	医学書院の生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図 (電子教科書)	山田律子、井出訓	医学書院																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>老年看護学 概論と看護の実践 第5版</td> <td>奥野茂代、大西和子</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>老年看護技術 アセスメントとその根拠</td> <td>奥野茂代、大西和子</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	老年看護学 概論と看護の実践 第5版	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ	2	老年看護技術 アセスメントとその根拠	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	老年看護学 概論と看護の実践 第5版	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ																
2	老年看護技術 アセスメントとその根拠	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ																
3																			
評価方法 (基準)	定期テストと提出物・レポート(授業内で指示するもの)、演習中の学習態度や事前課題およびレポート提出状況も加味して総合的に評価します。体調に留意し、毎回の授業に積極的に参加してください。																		
学生への メッセージ	既習の基礎看護学を高齢者に適応する知識や技術と、老年看護学概論で学んだ「加齢現象」をもとにしての学習になります。しっかりと復習、理解した上で、老年看護学援助論に取り組みしましょう。																		
担当者の 研究室等	村瀬由貴 7号館3階 研究室4 小川宣子 7号館3階 研究室10 西田知代 7号館3階 共同研究室2																		
備考																			

科目名	老年看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 宣子, 西田 知代, 村瀬 由貴
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2043a0		

授業概要・目的	<p>1年時から履修した老年看護学概論と老年看護学援助論Ⅰの知識と老年看護学実習Ⅰ・Ⅱの体験を合わせて、高齢者への看護実践方法を学びます。毎回の授業時にグループワークなどの演習で援助方法の視点を検討し、看護技術演習での実践を目指します。さらに、実践後の評価から高齢者の看護において重要と考える内容を自分自身の課題と合わせて振り返ります。</p> <p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢に伴う身体的・心理的变化の知識をもとに、高齢者の健康逸脱からの回復を促す看護と終末期を支える看護について理解する。</li> <li>2. 高齢者によくみられる脳神経・循環器・呼吸器・内分泌・筋骨格系等の疾患をもつ方への援助方法を学習し、健康上の課題を解決するための看護過程が展開できる能力を養う。</li> </ol>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 疾患を持つ高齢者の健康障害の特徴と看護について理解できる。</li> <li>2) エンドオブライフケアが必要な高齢者と家族の看護について理解できる。</li> <li>3) 健康障害を持つ高齢者の看護過程の展開ができる。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>基本的にはテキストを使用して授業を進めますが、適宜プリント等の補助教材を使用します。毎回、テキストと配布したプリントを必ず持参してください。</p> <p>講義で学習した内容については毎回復習を行い、疑問があれば、解決を図るようにしてください。</p> <p>演習では、高齢者への看護実践にむけた主体的な学習を行っていきます。自己学習や事前・事後学習の成果物はポートフォリオとしてまとめますので、なくさないように管理してください。演習では看護実践方法を検討していきます。</p> <p>また、各講義や演習時に課題を課すレポートも評価の対象となるので、必ず提出するようにして下さい。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>臨地実習での看護実践のために必要な基本的な知識を得ることができます。</p> <p>看護師国家試験にも必須の学習内容です。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	老年看護における看護過程の展開と健康段階に応じた高齢者看護	【講義・演習】 老年看護における看護過程の展開の考え方や様々な健康段階でのアセスメントの視点や看護のあり方について学習します。	【事前】 テキスト第7章 (P314~344) を読み、治療を必要とする高齢者の看護の要点をまとめておく (30分) 【事後】 手術を受ける高齢者に必要な看護の要点をまとめる (30分)
2	疾患をもつ高齢者の看護 (1: 筋骨格系疾患)	【講義・演習】 大腿骨頸部骨折や変形性膝関節症等、高齢者に多い筋骨格系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	【事前】 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化を見直しておく (30分) 【事後】 大腿骨頸部骨折の看護についての要点をまとめる (30分)	
3	疾患をもつ高齢者の看護 (2: 脳神経系疾患)	【講義・演習】 脳出血や脳梗塞等、パーキンソン病等、高齢者に多い脳・神経系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	【事前】 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化を見直しておく (30分) 【事後】 リハビリ期の高齢者に必要な看護について要点をまとめる (30分)	
4	疾患をもつ高齢者の看護 (3: 呼吸器・循環器・内分泌疾患)	【講義・演習】 COPD、虚血性心疾患、糖尿病等高齢者に多い呼吸器・循環器・内分泌系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	【事前】 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化を見直しておく (30分) 【事後】 在宅療養を行う高齢者の看護について要点をまとめる (30分)	
5	看護過程の展開 (3: 退院支援)	【講義・演習】 疾患や障害を抱えながら退院していく高齢者への退院支援におけるアセスメントや看護について学習します。	【事前】 高齢者を支える家族の世帯構成の特徴や日本の課題を見直してまとめておく (30分) 【事後】 看護過程の事例に必要な退院支援を考える (30分)	
6	看護過程の展開 (4: 病態のアセスメント)	【講義・演習】 看護過程の事例の疾患関連情報のアセスメントの視点について解説します。加齢変化を踏まえながら、二次的障害の予測を思考していきます。	【事前】 記録用紙に沿って、事例の健康上の課題を抽出して記入する (30分) 【事後】 授業後に不足する内容を記載する (30分)	
7	看護過程の展開 (5: 生活機能のアセスメント)	【講義・演習】 看護過程の事例について、生活機能の側面からアセスメントの視点について解説し、グループで検討します。	【事前】 記録用紙に沿って、事例の生活機能の分析をおこなって記入する (30分) 【事後】 授業後に不足する内容を記載する (30分)	
8	看護過程の展開 (5: 生活機能のアセスメント)	【講義・演習】 看護過程の事例について、生活機能の側面からアセスメントの視点について解説し、グループで検討します。	【事前】 記録用紙に沿って、事例の健康上の課題を抽出して記入する (30分) 【事後】 授業後に不足する内容を記載し次回提出する (30分)	
9	看護過程の展開 (6: 看護の方向性)	【講義・演習】 看護過程の事例について、看護の必要性を総括し、優先度の高い看護の方針について検討します。	【事前】 記録用紙に沿って全体像をまとめる (30分) 【事後】 授業後に不足する内容を記載する (30分)	
10	看護過程の展開 (7: 看護計画立案)	【演習】 看護計画を詳細に検討します。	【事前】 看護計画立案に必要な参考書等の準備 (30分)	

				【事後】 記録用紙に沿って課題に取り組む(30分)
	11	看護過程の展開 (8:援助計画立案)	【演習】 看護計画から援助計画を詳細に検討します。	【事前】 看護計画立案に必要な参考書等の準備(30分) 【事後】 記録用紙に沿って課題に取り組む(30分)
	12	エンド・オブ・ライフケア	【講義・演習】 高齢者のエンドオブライフケアに必要な看護の視点の理解と看取りをする家族への援助を学びます。	【事前】 テキスト第8章(P348～357)を読んでお(30分) 【事後】 高齢者の意思決定についての自己の考えをまとめレポートする(30分)
	13	看護過程の展開 (9:看護技術演習)	【演習】 演習での対象理解を踏まえた個別的な看護計画の立案と援助方法を検討します。	【事前】 所定の用紙に看護計画を立案する(30分) 【事後】 看護計画の修正する(30分)
	14	看護過程の展開 (9:看護技術演習)	【演習】 演習での対象理解を踏まえた個別的な看護計画の立案と援助方法を検討し、実際に行います。	【事前】 援助場面を想定し、バイタルサイン測定練習を行う(30分) 【事後】 援助場面を振り返り、評価を行う(30分)
	15	機能回復を支える看護	【講義】 「障害を持つ高齢者の回復を支える看護について、摂食・嚥下障害認定看護師の活動から学びます。	【事前】 高齢者の嚥下機能について特徴をまとめる(30分) 【事後】 講義後の学びをレポートにまとめる(30分)
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学	北川公子	医学書院
	2	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学 概論と看護の実践 第5版	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ
	2	老年看護技術 アセスメントとその根拠	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ
	3			
評価方法 (基準)	定期テストと提出物・レポート(授業内で指示するもの)より総合的に評価します。 体調に留意し、毎回の授業に積極的に参加してください。			
学生への メッセージ	疾患をもつ対象者の看護については老年期における特徴をふまえて考えていくことが必要となります。高齢者によくみられる疾患の特徴と、どのような看護を必要とするのかについての基本を学習しますので、これまでに学習した疾病治療論や看護の実践方法について復習をしておいてください。 授業担当者は実務経験がある。			
担当者の 研究室等	小川宣子 7号館3階研究室10 村瀬由貴 7号館3階研究室3 西田知代 7号館3階共同研究室2			
備考	看護過程の展開の演習は進度によって、内容が変更になる場合があります。 授業中に案内します。			

科目名	小児看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2047a0		

授業概要・目的	小児看護学の対象である子どもと家族の理解を深め、発達の促進および健康保持増進に向けた看護師の役割と機能、支援方法を学習する。また、子どもと家族の理解を深めるために、必要な発達理論、親子関係理論、家族システム理論および概念について理解し、子ども観・家族観を深める。鎌田は看護師として6年、池田は看護師及び助産師として5年の実務経験を活かし、具体的な子どもと家族の事例を用いながら、理論や倫理的側面を踏まえながら実践的な教育を行う。
到達目標	1. 小児看護の対象である子どもの成長発達と家族を理解する 2. 子どもの健康保持増進および発達を促進に向けた看護師の役割と機能を理解する 3. 小児看護でよく適用される発達理論や家族理論について理解し、看護への適用を考えることができる
授業方法と留意点	【授業方法】原則対面授業を行う 【留意点】授業開始時に確認テストを行うので事前・事後課題実施した上で授業に参加すること
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児援助論Ⅰ、小児援助論Ⅱ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	小児看護学の概観	・小児看護の対象、役割 ・子どもの発達区分、特徴 ・小児医療・看護の歴史と変遷 ・子どもと家族の保健統計データから、現代の子どもと家族の特徴をグループワークで読み解く	事前課題：教科書「序章 小児看護学を学ぶにあたって」を読んでおくこと。(1時間) 事後課題：授業で課題を提示する(1時間)
2	子どもの権利	・子どもの権利条約、児童福祉法、母子保健法等 ・医療における子どもの権利 ・小児医療で起こりやすい倫理的問題	事前課題：前回の事後課題に関する確認テストを実施する。 事後課題：授業で課題を提示する(1時間)
3	小児看護で用いる概念と理論	・発達理論 (ピアジェ、エリクソン) ・理論を用いた子ども支援について、グループワークで検討する。	事前課題：前回の事後課題に関する確認テストを実施する。 事後課題：授業で課題を提示する(1時間)
4	小児看護で用いる概念と理論	・母子関係理論 (ボウルビイ) ・理論を用いた家族支援について、グループワークで検討する。	事前課題：前回の事後課題に関する確認テストを実施する。 事後課題：授業で課題を提示する(1時間)
5	子どもの成長・発達の特徴	・成長・発達の一般原則 ・成長・発達への影響因子 ・成長・発達過程 ・成長・発達の評価	事前課題：前回の事後課題に関する確認テストを実施する。 事後課題：授業で課題を提示する(1時間)
6	各発達段階にある子どもの特徴 (新生児期・乳児期)	・新生児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴 ・乳児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴	事前課題：前回の事後課題に関する確認テストを実施する。 事後課題：授業で課題を提示する(1時間)
7	各発達段階にある子どもの特徴 (幼児期)	・幼児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴	事前課題：前回の事後課題に関する確認テストを実施する。 事後課題：授業で課題を提示する(1時間)
8	各発達段階にある子どもの特徴 (学童・思春期)	・学童期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴 ・思春期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴	事前課題：前回の事後課題に関する確認テストを実施する。 事後課題：授業で課題を提示する(1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 看護学概論、生命倫理、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、小児看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】小児看護学概論／小児保健	小林京子他	メヂカルフレンド社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児看護学概論	奈良間美徳他	医学書院
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 80%、確認テスト 20%

学生への 小児看護学概論では広範な内容を網羅し、子どもの看護を理解する上での基盤となります。知識の記憶ではなく、自らが主体的に考え、理解する

メッセージ	ことを目指しましょう。習得した知識を活用できるよう、周囲の子どもにも目を向け、洞察を深めてください。
担当者の 研究室等	7号館・3階、研究室17（鎌田）、研究室16（池田）
備考	

科目名	小児看護学援助論 I	科目名 (英文)	Pediatric Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池田 友美, 小倉 あゆみ, 鎌田 佳奈美, 亀田 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2048a0		

授業概要・目的	様々な発達段階にある子どもの健康状態に応じた日常生活を理解し、適切な看護を提供するために必要な基本的知識と援助技術を学修する。また、子どもの健康上の問題を理解するために、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響、子どもの疾病の原因や検査や治療法の理解を深め、子どもと家族を尊重した看護のあり方を考える。 授業担当者である鎌田、池田、亀田、小倉は看護師としての臨床経験から子どもと家族との援助の実際を踏まえながら、ディスカッションやグループワークも含めながら授業や演習を展開する。
到達目標	1. 各発達段階にある子どもの日常生活と看護援助の特徴を理解する。 2. 子どもの健康問題の特徴と、健康問題が子どもと家族に与える影響について理解する。 3. 子どもの日常生活援助技術および子どものヘルスアセスメントについて理解する。 4. 子どもの身体構造的・機能的な特徴に基づいた症状を理解する。 5. 子ども特有の急性疾患・慢性疾患、障がいの子どもの病態生理、検査・処置、治療の看護について理解する。
授業方法と留意点	小児看護学概論で習得内容の振り返りを行いながら授業をすすめる。授業は、講義、グループワークやディスカッションを行う。簡単な事例を用いて演習を行い、習得した知識の活用を促す。 小児看護学における援助技術については、事前に自己学習し、学生が主体となってデモンストレーション、実施、ピア評価を行うことで、学生の自主性、主体性、相乗効果を促せるよう工夫する。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学援助論IIの理解を深め、小児看護学実習を行うために基盤となる科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	健康問題や障害が子どもと家族に与える影響と看護	・子どもが病気や入院をどのように理解するか学ぶ	事前課題教科書：「健康障害をもつ小児の看護」のP8～23を自己学習しておくこと、ピアジェの認知発達理論について復習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。(1/2時間)
2	新生児・乳児期の発達段階に応じた看護	・新生児・乳児の日常生活援助	事前課題：教科書教科書「健康障害をもつ小児の看護」P25-45を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
3	幼児の発達段階に応じた看護	・幼児の日常生活援助 ・小児期の予防接種	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P46-57を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
4	学童・思春期の成長発達と看護	・学童・思春期の特徴と看護を理解する。	事前課題：事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P58-74を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
5	子どものヘルスアセスメント I	・子どもとのコミュニケーション ・ヘルスアセスメントの目的・意義	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P271-276(1/2時間) 自己学習しておくこと 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
6	子どものヘルスアセスメント II	・フィジカルアセスメントの実施手順について	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」ヘルスアセスメントの手法の項目を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
7	子どもの事故と事故予防	・子どもの事故の特徴 ・子どもの事故防止と安全教育 ・施設見学	事前課題：教科書「小児看護学概論」P166～167、P178、P196～197、P213～214、発達段階別の事故防止を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
8	乳幼児の日常生活援助技術演習	・定額していない乳児の抱っこ、移動に関する援助技術 ・定額している幼児の抱っこ、移動に関する援助技術	事前課題：教科書メデイカ出版「小児看護技術」P45、48-52を自己学習しておくこと、技術自己練習(3/4時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/4時間)
9	乳幼児の日常生活援助技術演習	・ベッド柵の取扱い	事前課題：教科書メデイカ出版「小児看護技術」P48-52を自己学習しておくこと、技術自己練習(3/4時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/4時間)
10	子どもによくみられる症状と看護 I	・呼吸困難、嘔吐、下痢、脱水など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P76-126の該当部分を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
11	子どもによくみられる症状と看護 II	・啼泣、不機嫌、発熱、発疹、けいれんなど、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P76-126の該当部分を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
12	フィジカルアセスメント技術演習	・事例に応じたバイタルサイン測定	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」教科書「小児看護技術」P206-248を自己学習しておくこと。技術自己練習(3/4時間) 事後課題：技術演習内容の振り返り(1/4時間)

	13	フィジカルアセスメント技術演習	・事例に応じたバイタルサイン測定	事前課題：教科書「健康障害をもつ事前課題：教科書「小児看護技術」P206-248を自己学習しておくこと。技術自己練習（3/4時間） 事後課題：技術演習内容の振り返り（1/4時間）	
	14	さまざまな治療を受ける子どもと家族への看護Ⅰ	・隔離や活動制限を必要とする子どもと家族の看護	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」の隔離や活動制限を必要とする子どもと家族の看護 P178-182を自己学習しておくこと（1/2時間） 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（1/2時間）	
	15	さまざまな治療を受ける子どもと家族への看護Ⅱ	・検査や処置を受ける子どもの看護 ・プレパレーションについて	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」の検査や処置を受ける子どもの看護 P166-169を自己学習しておくこと（1/2時間） 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（1/2時間）	
関連科目	小児看護学概論、基礎看護技術				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	【電子】新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論／小児保健		小林京子 編	メジカルフレンド社
	2	【電子】新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護		小林京子 編	メジカルフレンド社
	3	【電子】小児看護学(2)：小児看護技術 第4版		中野綾美 編	ナーシンググラフィカ
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版		奈良間美穂 他	医学書院
	2				
	3				
評価方法（基準）	後期の定期試験 80%、課題、演習、グループワーク 20%とし総合的に評価する シラバスの順番が多少前後する場合があるが、事前に連絡する。				
学生へのメッセージ	小児看護学援助論Ⅰでは非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶に止まらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。演習日時および内容の詳細は第1回目の授業で説明します。				
担当者の研究室等	7号館 3階 研究室17（鎌田）、研究室16（池田）、研究室23（亀田）、共同研究室1（小倉）				
備考					

科目名	小児看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Pediatric Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	亀田 直子, 池田 友美, 小倉 あゆみ, 鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2049a0		

授業概要・目的	<p>疾病・障がいがある子どもと家族の健やかな育ちを支えるために、小児期によくみられる疾患や障がいのある子どもとその家族への看護を理解する。子どもとその家族の最善の利益を目指し、発達段階、健康状態、子どもと家族の個性、子どもと家族の「いま・ここ」の状況を捉え、最善の看護計画を立案し、実施する力を養う。架空事例を通して看護過程を展開し、小児看護学援助論Ⅰで修得した看護技術を活用し、疾患や発達段階に応じたバイタルサイン測定・輸液管理・保清を実践する力を養う。</p> <p>授業担当の教員全員が5年以上の小児看護臨床経験を有しており、主担当は10年以上の基幹病院小児病棟での勤務経験を有している。既修の知識・講義内容と先輩学生たちの実習でのケア実践と子どもと家族の反応、教員の小児看護実践経験を関連付けることにより、看護実践へと繋がる知識・技術となるよう導く。</p>
到達目標	<p>健康障害をもつ子どもと家族への疾病や障害・発達段階に応じた看護を立案し、実施するための知識/思考力・看護技術を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患や障がいがある子どもと家族への看護援助を説明できる。</li> <li>2. 急性期にある子どもと家族の看護を考案できる。</li> <li>3. 慢性期にある子どもと家族の看護を考案できる。</li> <li>4. 小児看護特有の基本的な看護技術を習得する。</li> <li>5. さまざまな発達段階、健康状態にあり、個性を有する子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を考案できる。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>【授業方法】授業は原則対面授業で行う。事前課題の学修状況と知識定着度を確認するためのミニテストを適宜実施する。各授業内でグループワーク/ペアワークと質疑応答時間を設ける。反転授業を組み込むことで、知識をアウトプットする力を育むための時間を確保する。</p> <p>【留意点】主体的に講義やグループワークに参加でき、楽しく効果的に学びを得られるように、講義までに事前課題を行っておくこと。学習内容を整理することと、小児看護学実習で活用することを意識して、事後課題にも積極的に取り組むこと。</p> <p>☆小児看護学実習に直結する科目となります。課題に要する時間は学生さん個々の既習の知識量、アウトプット力、思考力、集中力、記述力等で大きく異なってきます。ご自身の力に応じた課題に取り組む時間確保をお願いします。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>小児看護学実習の先修科目であり、看護師国家試験受験資格を得るための必須科目である。</p> <p>小児看護学実習における『子どもと家族のための最善のケア』の実践に繋がる科目である。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	さまざまな健康障害がある子どもと家族の看護・小児看護学実習を覗いてみよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業オリエンテーション</li> <li>・4名の担当教員からの小児看護経験とやりがいに関する語り</li> <li>・小児看護学実習のDVD視聴 (講義・DVD視聴)</li> </ul>	事後課題：ミニレポート記載/提出 (30分)
2	小児看護の看護過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の看護過程の特徴</li> <li>・小児看護学実習記録ガイド紹介</li> <li>・ネフローゼ症候群の復習</li> <li>・架空事例AくんのDVD視聴</li> <li>・Aくんの基本情報整理 (講義・DVD視聴・グループワーク)</li> </ul>	<p>事前課題：①小児看護学実習記録ガイドを読み、疑問点を明確化しておく。③ネフローゼ症候群の復習 (30分)</p> <p>事後課題：Aくんと家族の情報記入を完成させる。 (30分)</p>	
3	急性期にある子どもと家族への看護①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急性期にある子どもと家族の特徴</li> <li>・急性期にある子どもと家族への看護</li> <li>・Aくんと家族の基本情報整理と分析</li> <li>・小児看護における関連図の特徴</li> <li>・Aくんと家族の関連図作成</li> <li>・Aくんと家族の看護問題/ニーズ抽出 (事例演習・グループワーク)</li> </ul>	<p>事前課題：①教科書「健康障害をもつ小児の看護」P126～P132を自己学習しておく。②反転授業用動画視聴 (30分)</p> <p>事後課題：①Aくんと家族の情報整理、分析を完成させる。②関連図・看護問題/ニーズの抽出に取り組む。(1時間)</p>	
4	急性期にある子どもと家族への看護②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Aくんの関連図完成</li> <li>・Aくんの関連図発表</li> <li>・架空事例BくんのDVD視聴 (事例演習・グループワーク・発表)</li> </ul>	<p>事前課題：①第3回事後課題つづき②川崎病・心臓の構造と機能の復習③川崎病の看護を調べる。(30分)</p> <p>事後課題：関連図、看護問題/ニーズの根拠まで記入し、急性期看護過程課題冊子を提出 (1時間30分)</p>	
5	慢性期にある子どもと家族への看護①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性期にある子どもと家族の特徴</li> <li>・慢性期にある子どもと家族への看護</li> <li>・川崎病の復習</li> <li>・Bくんの基本情報と分析</li> <li>・Bくんと家族の看護問題/ニーズ抽出 (事例演習・グループワーク)</li> </ul>	<p>事前課題：①教科書「健康障害をもつ小児の看護」P142～P152を自己学習しておく。②Bくんと家族の情報整理・分析に取り組む。(1時間)</p> <p>事後課題：①Bくんと家族の分析・看護問題/ニーズ抽出完成②Bくんと家族への看護計画立案に取り組む。(30分)</p>	
6	慢性期にある子どもと家族への看護②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Bくんと家族への看護計画立案</li> <li>・小児の輸液管理の特徴</li> <li>・2つの架空事例でのバイタルサイン測定、観察、輸液管理、保清を行うための援助計画立案 (事例演習・グループワーク)</li> </ul>	<p>事前課題：第5回事後課題つづき (30分)</p> <p>事後課題：看護計画の具体策まで記入し、慢性期看護過程課題冊子を提出。(1時間30分)</p>	
7	【技術演習】幼児と家族への援助①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Bくんと家族への看護援助計画に基づくバイタルサイン測定、観察、輸液管理、保清実施。</li> <li>・Bくんと家族への看護援助計画の修正 (小児看護技術演習)</li> </ul>	<p>第7・8回</p> <p>事前課題：Aくん (学童児) / Bくん (幼児) とその家族への看護計画に基づく援助計画 (バイタルサイン測定、観察、輸液管理、保清) に取り組む (1時間)</p> <p>事後課題：①援助計画完成②看護技術自主練習・イメージトレーニング (1時間)</p>	
8	【技術演習】学童児と家族への援助①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Aくんと家族への看護援助計画に基づくバイタルサイン測定、観察、輸液管理、保清実施。</li> <li>・Aくんと家族への看護援助計画の修正</li> </ul>	第7回の欄に合わせて記載済み	



		(小児看護技術演習)		
9	【技術テスト】幼児と家族への援助②	・技術テストに向けた看護技術演習(小児看護技術テスト)	第9・10回 事前課題：①援助計画への追記②看護技術自主練習・イメージトレーニング(1時間) 事後課題：①援助計画への追記(個人課題) ②技術テスト評価シート記載(グループ課題)①②ともに提出(30分)	
10	【技術テスト】学童児と家族への援助②	・AくんもしくはBくんとその家族への看護援助計画に基づくケア実施 ・ピア評価/教員評価 ・グループでの振り返り(小児看護技術テスト)	第9回の欄に合わせて記載済み	
11	救急処置が必要な子どもと家族への看護・子どもの救急蘇生法	・救急処置が必要な子どもと家族の特徴 ・救急処置が必要な子どもと家族への看護 ・小児の救急蘇生法の特徴 ・小児の救急蘇生法(講義・グループワーク)	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P193～P200を自己学習しておく。小児の救急蘇生法に関する動画を視聴しておく。(15分) 事後課題：①ミニテスト②ワークシートに授業の要点を記入・提出(15分)	
12	障がいのある子ども/医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護 終末期にある子どもと家族への看護	・障害のある子どもと家族の特徴 ・障害のある子どもと家族への看護 ・医療的ケア ・障害受容 ・2次障害(講義・ペアワーク)	事前課題：①教科書「健康障害をもつ小児の看護」P210～P224を自己学習しておく。②小児の医療的ケアについて調べる。(15分) 事後課題：①ミニテスト②授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。(15分)	
13	終末期にある子どもと家族への看護	・終末期にある子どもと家族の特徴 ・終末期にある子どもと家族への看護 ・子どもホスピスDVD視聴 ・グループワーク(講義・ペアワーク)	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P155～162を自己学習しておく。(15分) 事後課題：①ミニテスト②授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。(15分)	
14	周手術期にある子どもと家族への看護 小児看護学実習に向けて	・周手術期にある子どもと家族の特徴 ・周手術期にある子どもと家族への看護 ・膀胱尿管逆流症の手術前後のDVD視聴 ・DVDの事例Cくんと家族への看護のポイント、大人との相違点、子どもへの援助、家族への援助を入院前、入院から手術まで、手術中、術直後から術後1日、退院までの期間に分けて整理し、課題シートに記入する。(講義・グループワーク)	事前課題：①教科書「健康障害をもつ小児の看護」P132～P142を自己学習しておく。(30分) 事後課題：②授業の要点をワークシートに記入し、提出。②初回授業で記載したミニレポートへ追記し、提出。(30分)	
15	災害を受けた/心の問題を抱えている子どもと家族への看護	・災害を受けた子どもと家族の特徴 ・災害を受けた子どもと家族への看護 ・心の問題を抱えている子どもと家族の特徴 ・心の問題を抱えている子どもと家族への看護(講義・ペアワーク)	事前課題：①教科書「健康障害をもつ小児の看護」P261～P267とP248～P254を自己学習しておく。(15分) 事後課題：①ミニテスト②授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。(15分)	
関連科目	疾病治療論Ⅳ、小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学実習、看護倫理			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	小林京子、高橋孝雄	メヂカルフレンド社
	2	ナーシング・グラフィカ小児看護学②小児看護技術	中野綾美	メディカ出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 小児看護学概論/小児保健	小林京子、高橋孝雄	メヂカルフレンド社
	2	写真でわかる小児看護技術	山元恵子	インターメディカ
	3	小児看護学Ⅱ子どもへのケア技術と看護過程	守口絵里、荃津智子	医歯薬出版
評価方法(基準)	定期テスト(60%)、小児看護技術テスト(10%)、課題レポート/ミニテスト(30%)とし、総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	小児看護学実習に直結する実践的な授業になります。既習の知識と繋がってくると学習がより深まり、楽しさが増えます。主役は皆さんです。実習で出会う子どもたちとご家族をイメージしながら、主体的に仲間と共に楽しく学んでいきましょう。			
担当者の研究室等	7号館3階 亀田(研究室23)、池田(研究室16)、小倉(共同研究室1)、鎌田(研究室17)			
備考	連絡はTeamsで行います。重要な連絡を見逃さないように通知設定をONにしておいてください。			

科目名	小児看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	池田 友美, 小倉 あゆみ, 鎌田 佳奈美, 亀田 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN3050a0		

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 小児看護学の既習内容の知識・技術を統合して、子どもと家族を理解し、最良の健康状態の維持促進を目指して、子どもと家族を尊重した支援を実践するための基礎的能力を養う。そのため、実習施設の小児病棟において、小児期にある対象を受け持ち、子どもの発達や健康段階に応じた子どもと家族への看護過程を展開する。 本科目を担当する鎌田、池田、亀田、小倉は全員が臨床での看護職および小児病棟での実践経験をもっている。それらの経験を踏まえ、講義で学習した知識を子どもと家族の看護実践に活かすことが出来るよう、具体的で現実的な内容を教授する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの成長・発達を統合的に理解し、個々の特性に応じた日常生活援助を行う。</li> <li>2. 健康問題や入院が子どもと家族に与える影響を理解する。</li> <li>3. 子どもの健康レベル、発達段階に応じた看護問題・ニーズを抽出し、計画・実践・評価する。</li> <li>4. 子どもと家族の生活を支えるチームにおける看護師の役割を理解し、多職種との連携の実際を知る。</li> <li>5. 実習を通して自己の看護観・子ども観を深め、今後の課題を明らかにする。</li> </ol>
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1グループ2～5人編成とし、小児病棟や保育所、学内等において2週間の実習を行う。</li> <li>2. 原則として1名の子どもを受け持ち、子どもと家族との関わりを通して、看護過程を展開する。</li> <li>3. 看護の実施は、臨地実習指導者または実習指導教員と共に行う。</li> <li>4. 実習時には行動計画を指導者に発表し、終了時には必ず報告を行う。</li> <li>5. 毎日カンファレンスを実施し、子どもと家族への理解を深め、ニーズに応じた計画の立案を促す。</li> <li>6. ケア実施後は記録することで、自己の実践の振り返りを行い、学習を深める。</li> </ol> <p><b>【留意点】</b> 小児看護学実習要綱の注意事項を参照のこと。</p>

科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。
--------------	-----------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	小児看護学実習	実習施設において実習を行う。	<p><b>【事前の計画】</b> 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、受け持ちの子どもについての理解を深める。</p> <p><b>【実習計画】</b> 1) 2日間の保育所実習を行い、子どもの成長発達および日常生活について理解を深める。 2) 病院実習 受け持ちの子どもと家族との関係形成および看護実践に必要な情報収集、分析、統合を行う。 子どもと家族のニーズに基づいた看護計画を立案する。立案した計画を実施し、評価を行い計画を修正する。</p> <p><b>【事後の計画】</b> 臨</p>
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、疾病・治療論Ⅳ
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	実習内容・カンファレンスでの討議状況、提出記録をもとに総合的に実習指導教員が評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した知識を活かして、子どもと家族が真に必要な看護を実践して下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 研究室17（鎌田）、研究室16（池田）、研究室23（亀田）、共同研究室1（小倉）
備考	実習施設：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属病院、愛仁会リハビリテーション病院、大阪市立総合医療センター、保育所

科目名	母性看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	井田 歩美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2051a0		

授業概要・目的	リプロダクティブヘルツ/ライツを理解し、人間の性および男女の性的特徴と性役割、一生を通じた女性の発達課題や女性を取り巻く環境との関係から女性の健康について学習する。また、母子保健の指標とその変遷、基本となる法律を知ったうえで、母性看護の目的や方向性について考える。
到達目標	1. 母性看護の概念、セクシヤリティ、リプロダクティブヘルツ/ライツの考え方を理解する。 2. 母性に関連する倫理的問題や母性看護の対象を取り巻く環境を理解する。 3. 人間の性と生殖のメカニズムとその意義を理解する。 4. 対象のライフサイクル各期に応じた健康の維持・増進、疾病予防と次世代の子どもを健やかに養育するための母性機能の健全な発達を促すための母性看護の役割と必要性を理解する。
授業方法と留意点	ニュース、新聞、雑誌などから発信される母子保健、生殖医療に関する時事情報を意識し、自己の考えを明確にしてみましょう。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験資格取得のための必修科目です。母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、母性看護学実習につながる基礎的内容ですが、自身のライフプランを考えるための知識も得られると思います。自分事として、興味関心を持ち、積極的に学習してください。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	母性看護学の概念 母性看護学の基盤となる理論と概念	母性とは、愛着理論、ボンディングと親子相互作用、女性を中心としたケア、リプロダクティブヘルツ/ライツ、セクシヤリティとジェンダーについて	事前学習：教科書の該当部分 (p. 3～23) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
2	性をとりまく社会と現状	社会的・心理的特性からみた性、統計からみる性をとりまく社会の現状について	事前学習：教科書の該当部分 (p. 37～54) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
3	母性保健統計と母子保健施策	出生・死亡に家族形成に関する統計、子どもと女性の保護、女性の就労、子育て支援、虐待防止に関する法律・制度・施策と支援について	事前学習：教科書の該当部分 (p. 55～95) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
4	思春期の健康と看護	思春期における心身の特徴と健康問題 (月経異常、やせ、若年妊娠、性感染症) について	事前学習：教科書の該当部分 (p. 200～216) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
5	成熟期の健康と看護	成熟期における心身の特徴と健康問題 (月経前症候群、不妊・不育) について	事前学習：教科書の該当部分 (p. 217～256) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
6	更年期・老年期の健康と看護	更年期における心身の特徴と健康問題 (更年期障害、骨粗鬆症) について 老年期における心身の特徴と健康問題 (尿失禁、萎縮性膀胱炎、骨盤臓器脱) について	事前学習：教科書の該当部分 (p. 257～275) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
7	リプロダクティブヘルスに関する倫理	人工妊娠中絶、出生前診断、生殖補助医療に関する現状と倫理的課題について	事前学習：教科書の該当部分 (p. 160～179) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
8	リプロダクティブヘルスケア	家族計画、喫煙、国際化社会と母性看護	事前学習：教科書の該当部分 (p. 181～192) を読んでくる。(30分) 事後学習：レポート『母性看護学概論を学ぶ意義』A4 1枚を作成、提出する。(2時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 人体の構造と機能、家族関係論、疾病治療論V、看護関係法規、看護学概論、看護対人関係論、生命倫理、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、家族看護学、看護倫理、女性学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	【電子】母性看護学Ⅰ概論・ライフサイクラー生涯を通じた性と生殖の健康を支えるー	齋藤いずみ他編	南江堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	親と子のきずな	クラウス, M. H.・ケネル, J. H.	医学書院
2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン・R, 新藤幸恵・後藤桂子訳	医学書院
3			

評価方法 定期試験：70%、レポート：20%、Shuttle Card等：10%を総合して評価する。

(基準)	
学生へのメッセージ	セクシュアリティ、母性、家族に関する社会状況や問題、法改正などの情報や報道等に関心を向け自分自身の考え方を広げていきましょう。授業は学生と教員とのパートナーシップで、力を合わせて実りある内容にしましょう。
担当者の研究室等	井田 歩美 (研究室 12)
備考	

科目名	母性看護学援助論 I	科目名 (英文)	Maternal Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	名草 みどり. 入江 眞理. 北野 美月. 但馬 まり子. 三浦 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2052a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 妊娠期・分娩期・産褥期の生理的变化、心理・社会的特徴、胎児の発育、新生児の生理、周産期における家族の役割について学び、アセスメントの視点と看護について理解する。</p> <p>【目的】 妊産婦と新生児の身体・心理・社会的特徴を理解し、アセスメントの視点が理解できるとともに必要な看護を考える力を身につける。</p>
到達目標	<p>1. 正常経過にある妊産婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメントの視点と看護を理解する。</p> <p>2. 異常経過にある妊産婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメントの視点と看護を理解する。</p>
授業方法と留意点	講義・DVD 視聴・演習などの方法で学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	母性看護学援助論 II の基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義オリエンテーション 妊娠期における看護(1) 妊娠とは、妊娠の経過	講義オリエンテーション 妊娠とは、妊娠の経過について学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 5~32) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
2	妊娠期における看護(2) 妊娠に伴う生理的变化と胎児の健康状態に関するアセスメント 妊娠に伴う生理的变化および不快症状のアセスメント	妊娠に伴う生理的变化と胎児の健康状態に関するアセスメント、妊娠に伴う生理的变化および不快症状のアセスメントについて学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 33~51) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
3	妊娠期における看護(3) 妊婦のセルフケア能力を高めるための援助 妊娠期の親になっていく過程のアセスメントと援助	妊婦のセルフケア能力のアセスメントに必要な情報と視点とアセスメントに基づく援助について学ぶ。 妊娠期の親になっていく過程のアセスメントに必要な情報およびアセスメントに基づく援助について学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 51~104) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
4	妊娠期における看護(4) ハイリスク妊婦への看護	ハイリスク妊婦への看護について学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 105~130) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
5	分娩期における看護(1) 分娩とは、分娩の経過	分娩とは、分娩の経過について学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 131~152) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
6	分娩期における看護(2) 正常分娩の経過とアセスメントと看護援助	分娩の前兆、分娩開始、分娩第1~4期に必要な情報とアセスメントの視点およびアセスメントに基づく援助について学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 153~189) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
7	分娩期における看護(3) 正常経過からの逸脱と看護援助	分娩期の正常経過からの逸脱と援助および予防的援助について学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 190~221) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
8	分娩期における看護(4) 産科処置と産科手術 帝王切開を受ける妊産婦への看護援助	産科処置と産科手術について学ぶ。 帝王切開術時の援助について学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 222~231, 340~352) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
9	産褥期における看護(1) 産褥期の身体・心理・社会的変化	産褥期の身体・心理・社会的変化について学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 233~260) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
10	産褥期における看護(2) 産褥期の身体状態のアセスメントと看護援助	産褥期の身体状態のアセスメントに必要な情報とアセスメントの視点およびアセスメントに基づく援助について学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 261~288) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
11	産褥期における看護(3) 親になる過程のアセスメントと看護援助	産褥期の親になる過程のアセスメントに必要な情報と視点について学ぶ。 アセスメントに基づく援助について学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 289~317) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
12	産褥期における看護(4) 正常経過からの逸脱と看護援助 先天異常のある家族および子どもをなくした家族への看護援助	産褥期の正常経過からの逸脱と援助および予防的援助について学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 318~337) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
13	新生児期における看護(1) 新生児とは、新生児の生理的特徴	新生児の定義と生理的特徴について学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 369~386) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)

				る。(30分)																
	14	新生児期における看護(2) 新生児の子宮外生活適応の アセスメントと看護援助	新生児の子宮外生活適応のアセスメン トに必要な情報とアセスメントの視点 および子宮外生活を促す援助について 学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 387～419) を読ん でくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理す る。(30分)																
	15	新生児期における看護(3) 新生児の健康問題と看護援助	新生児期の正常経過からの逸脱と援助 および予防的援助について学ぶ。	事前課題：教科書の該当部分 (p. 420～442) を読ん でくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理す る。(30分)																
関連科目	人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【電子書籍】母性看護学Ⅱマタニティサイクルー母 と子そして家族へのよりよい看護実践ー</td> <td>大平光子他編</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子書籍】母性看護学Ⅱマタニティサイクルー母 と子そして家族へのよりよい看護実践ー	大平光子他編	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	【電子書籍】母性看護学Ⅱマタニティサイクルー母 と子そして家族へのよりよい看護実践ー	大平光子他編	南江堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病気がみえる vol. 10 産科</td> <td>井上 裕美 他</td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>母性看護学各論</td> <td>森恵美他著</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>【電子書籍】母性看護学Ⅰ</td> <td>斎藤いずみ他編</td> <td>南江堂</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	病気がみえる vol. 10 産科	井上 裕美 他	メディックメディア	2	母性看護学各論	森恵美他著	医学書院	3	【電子書籍】母性看護学Ⅰ	斎藤いずみ他編	南江堂
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	病気がみえる vol. 10 産科	井上 裕美 他	メディックメディア																	
2	母性看護学各論	森恵美他著	医学書院																	
3	【電子書籍】母性看護学Ⅰ	斎藤いずみ他編	南江堂																	
評価方法 (基準)	評価割合：試験 50%、演習、提出物等 50%																			
学生への メッセージ	この科目では主に、マタニティサイクルにおける看護について学習します。妊婦、産婦、褥婦、新生児とその家族に適切な看護を行うためには、適切にアセスメントできることが必要です。アセスメントに必要な根拠に基づく知識と、アセスメントの視点について学習します。本科目で学ぶ内容は身近な現象として想像することができます。「生命の始まりはいつか」「子どもを産めばすぐに親になれるのか」など、いろいろな問いをもちながら真摯に楽しく学んでください。																			
担当者の 研究室等	井田 歩美 (研究室 12)、但馬 まり子 (研究室 20)、名草 みどり (研究室 13)、入江 眞理 (研究室 14) 北 野 美 月 、 三 浦 恭 子 ( 共 同 研 究 室 5 ) 母性看護学教員の研究室は 7 号館 3 階です。実習で不在の場合は研究室入り口に氏名とメッセージを残してください。 名草みどり (研究室 13)																			
備考																				

科目名	母性看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Maternal Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	名草 みどり, 井田 歩美, 入江 眞理, 北野 美月, 但馬 まり子, 三浦 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2053a0		

授業概要・目的	<p>《概要》 母性看護学実習で一組の母と新生児を受け持つ時に必要な科学的思考と母性看護技術について、講義、演習を通して学びます。</p> <p>《目的》 マタニティサイクルにある女性が、心身共に健康な状態を維持・促進するために、科学的思考を用いて、一人一人に応じた看護を見出し、実践する方法を学ぶ。</p>
到達目標	<p>1) マタニティサイクルにある女性とその新生児が、健康な状態を維持・促進するための看護過程の方法について理解する。</p> <p>2) マタニティサイクルにある女性が、異常に移行した際に必要な看護について考えることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業方法は、講義、演習です。</p> <p>課題の内容、評価方法については授業で全て説明します。</p>
科目学習の効果 (資格)	母性看護学実習の履修要件です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	母性看護学の看護過程に必要な看護診断を学ぶ	<p>目標: ウエルネス看護診断について理解できる。</p> <p>内容: ウエルネス看護診断について学ぶ</p> <p>方法: 講義</p>	<p>事前学習: 「ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程」 p18-29 を読む。(30分)</p> <p>事後学習: 配付資料を読む。(30分)</p>
2	事例による看護過程の展開-情報化の方法を学ぶ	<p>目標: ①オリエンテーションを受けて看護過程の展開と母性看護技術の演習方法について理解できる。②紙媒体から事例の情報を整理できる。</p> <p>内容: 事例の情報化の方法を学び、事例の情報をS情報とO情報に分けアセスメントシートの情報欄に記入する。</p> <p>方法: 講義と演習(個人)</p>	<p>事前学習: 母性看護学Ⅱ p484-506 を読む。(30分)</p> <p>事後学習: 授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。(30分)</p>
3	母性看護技術演習(1)-褥婦の看護を学ぶ	<p>目標: 根拠を理解して褥婦の子宮復古の観察方法がわかる。乳房タイプ別授乳時の抱き方、排気の方法がわかる。</p> <p>内容: 褥婦の観察(子宮底の測定) 乳房タイプ別授乳時の抱き方、排気産婦の看護の方法について学ぶ。</p> <p>方法: 演習</p>	<p>事前学習として、配付資料を読み、「乳房のはり」について調べた内容を配付資料に記入する。母性看護学各論 p274-288 (30分)</p> <p>事後学習として、演習内容の課題シートを仕上げ指定日時に提出する。(30分)</p>
4	母性看護技術演習(2)-褥婦の看護を学ぶ	3回目と同内容	3回目と同内容
5	事例による看護過程の展開-アセスメントの方法を学ぶ	<p>目標: データベースとアセスメントシートに振り分けた情報の解釈と分析および統合ができる。</p> <p>内容: 記載例を参考にアセスメントの方法を学び、アセスメントシートに振り分けた情報の解釈と分析をアセスメント欄に記入する。全体像を記入する。</p> <p>方法: 講義と演習(個人)</p>	<p>事前学習として、「ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程」 p75-88 を読む。(30分) 事後学習として、授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。(30分)</p>
6	事例による看護過程の展開-看護問題の明確化の方法を学ぶ	<p>目標: 退行性変化・進行性変化・心理社会的適応・子宮外生活適応過程における看護問題を、ウエルネス・リスク・プロブレムの判断を行いながら明確化でき、優先順位を考えられる。</p> <p>内容: 退行性変化・進行性変化・心理社会的適応・子宮外生活適応過程における看護問題の、ウエルネス・リスク・プロブレムの判断方法について学び、事例の看護問題をウエルネス・リスク・プロブレムに分けてプロブレムリストに記載する。</p> <p>方法: 講義と演習(個人)</p>	<p>事前学習: 母性看護学Ⅱ p484-506 を読む。(30分)</p> <p>事後学習として、授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。(30分)</p>
7	事例による看護過程の展開-看護計画の立案方法を学ぶ	<p>目標: 優先度の高い看護問題を解決するための看護目標を考えられ、看護計画を立案できる。</p> <p>内容: 看護目標の表現方法等について学び、看護目標と看護計画を立案する。</p> <p>方法: 講義と演習(個人)</p>	<p>事前学習として、母性看護学Ⅱ p484-506 を読む。(30分) 事後学習として、授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。(30分)</p>
8	事例による看護過程の展開-看護計画の立案方法を学ぶ	<p>目標: グループで優先度の高い看護問題を解決するための看護目標を考えられ、看護計画を立案できる。</p> <p>内容: 個人の看護計画を持ち寄り、グループでよりよい看護計画を立案する。</p> <p>方法: 演習(グループ)</p>	第7回と同内容
9	母性看護技術演習(3)-新生児の看護を学ぶ	<p>目標: 根拠と方法を理解して新生児の観察、アセスメント、沐浴および寝床環境の整備の方法がわかる。</p> <p>内容: 新生児の観察と沐浴、寝床環境の</p>	<p>事前学習として、母性看護学Ⅱ p469-472, p479-482 を読み、新生児の観察の留意点、沐浴の留意点について配付資料に記入する。指定した新生児観察と沐浴の動画を視聴し、手技を覚える。(30分) 事</p>



			整備を学ぶ。 方法：演習	後学習は、新生児の観察と沐浴の手技の根拠を配付資料に記入し、指定日時に提出する。(30分)																
	10	母性看護技術演習(4)－新生児の看護を学ぶ	9回目と同内容	9回目と同内容																
	11	事例による看護過程の展開－看護の実施－	目標：立案した計画を実践できる 内容：グループで考え、教員から指導を受けた看護計画をロールプレイングで実施する 方法：演習(グループ)	事前学習として看護計画の一部をロールプレイングで練習する。(30分) 事後学習として発表場面を評価し指定日時に提出する。(30分)																
	12	事例による看護過程の展開－看護の実施－	11回目と同内容	11回目と同内容																
	13	事例による看護過程の展開－看護の評価と修正－	目標：看護の評価と修正について考える。 内容：発表した看護計画をグループで評価する。 方法：演習(グループ)	事前学習：母性看護学Ⅱ p501-506「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」p9-10を読む。(30分) 事後学習として発表場面をグループで評価し指定日時に提出する。(30分)																
	14	事例による看護過程の展開－新生児－	目標：新生児の事例をアセスメントし看護計画を立案できる。 内容：記載例を参考にアセスメントの方法を学び、アセスメントシートに振り分けた情報の解釈と分析をアセスメント欄に記入する。 方法：講義と演習(個人)	事前学習：母性看護学Ⅱ p531-534を読む。(30分) 事後学習：授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。(30分)																
	15	退院支援と継続看護、1か月までの実際を学ぶ	目標：退院指導と産褥1か月までの支援の実際について理解できる。 内容：臨地実習施設で行われている退院指導や産褥1か月までの支援と、社会資源として枚方市の取り組みについて紹介する。 方法：講義	事前学習として、母性看護学Ⅱ p296-317を読む。(30分) 事後学習として、地域の母子に対する継続看護と、産褥1か月までの支援についてまとめ、指定日時に提出する。(30分)																
関連科目	既習の専門基礎科目、専門科目は全て関連していますが、特に、人体の構造と機能、感染と防御、家族看護学、疾病・治療論Ⅴ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰは非常に関連しています。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【電子書籍】母性看護学Ⅱ マタニティサイクル</td> <td>大平光子他編</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子書籍】母性看護学Ⅱ マタニティサイクル	大平光子他編	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	【電子書籍】母性看護学Ⅱ マタニティサイクル	大平光子他編	南江堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>写真でわかる母性看護技術</td> <td>小沢ひとみ編</td> <td>インターメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>【電子書籍】母性看護学Ⅰ</td> <td>斎藤いずみ他編</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程</td> <td>太田操編著</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	写真でわかる母性看護技術	小沢ひとみ編	インターメディア	2	【電子書籍】母性看護学Ⅰ	斎藤いずみ他編	南江堂	3	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程	太田操編著	医歯薬出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	写真でわかる母性看護技術	小沢ひとみ編	インターメディア																	
2	【電子書籍】母性看護学Ⅰ	斎藤いずみ他編	南江堂																	
3	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程	太田操編著	医歯薬出版																	
評価方法(基準)	定期試験 50%、毎回の提出物 40%、演習とグループワークの取り組み 10%																			
学生へのメッセージ	母性看護学援助論Ⅱは母性看護学実習を想定した実践に近い科目です。課題は多いですが、既習の知識を整理しながら楽しい実習になるように、この科目の学修を頑張りましょう。母性看護学実習ではグループで実習をします。特にグループワークでは、メンバーとしての役割を意識して取り組みましょう。																			
担当者の研究室等備考	母性看護学教員の研究室は7号館3階です。実習で不在の場合は研究室入り口に氏名とメッセージを残してください。 名草みどり(研究室13)																			

科目名	母性看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	名草 みどり, 井田 歩美, 入江 眞理, 北野 美月, 但馬 まり子, 三浦 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2055a0		

授業概要・目的	<p>概要</p> <p>妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な特性や生理的な経過を踏まえ、看護実践を通して周産期にある対象の健康保持増進、異常の予防における看護の実際を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にあるケースを受け持ち、その正常経過と周産期の看護の実際および家族への支援方法を学び、看護過程が展開できる能力を養う。また、産婦への産痛緩和などのケアを通して分娩に立ち会い、命の尊厳について考える。</p> <p>目的：周産期にある女性および家族の総合的な理解、さらに、新生児の子宮外生活への適応過程を理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。</p>																																																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期の母子とその家族の身体的・心理的・社会的特性を理解し、妊娠における適応過程を明らかにできる。</li> <li>2. 周産期の母子に対して、健康維持・増進に向けて看護過程を展開できる。</li> <li>3. 母子保健医療の特性を理解し、母子とその家族に果たす看護の役割と連携について考えられる。</li> <li>4. 母性看護における自己の母性観を育むことができる。</li> <li>5. 看護学生として倫理的配慮のある言動がとれる。</li> </ol>																																																																
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則1グループ6名の編成とし、各グループの担当教員の指示に従い実習する。実習内容は病棟実習と外来実習、カンファレンスで構成され、ローテーションで行う。</li> <li>2. 実習初日は、学内実習とオリエンテーションがある。各自、実習で困らないように実習目的・目標をもとに事前学習しておく。また、母性で必要となる技術の練習をしておく。</li> <li>3. 2日目より臨地実習に入る。最終日は学内でテーマ、ケースカンファレンスを持ち、記録の整理と提出を行う。</li> <li>4. 実習では日々、各自の実習における課題と目標を明確にし、具体的な実習計画を立案して臨む。</li> <li>5. 実習2日目に病棟のオリエンテーションを受け、病棟・外来の構造や機能や看護者の役割、一日の業務の流れと妊産褥婦・新生児の生活の流れを理解する。</li> <li>6. 実習中は1組の母子を受け持ち看護過程を展開したり、分娩見学、外来で妊婦健康診査の一部実施、特殊外来の見学をする。</li> <li>7. 日々、学生主体のカンファレンス（一日の振り返り、疑問点等の意見交換）を行い、学びを共有する。</li> <li>8. 実習記録は毎日必ず記録し、指導教員や臨床側から指導や助言を受ける。</li> <li>9. 最終週の水曜日前後には臨床側（病棟師長、指導者）に参加してもらい反省会を行う。</li> <li>10. 最終週の金曜日は学内で、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、学びを共有する。</li> </ol> <p>留意点</p> <p>妊娠や出産は病気ではないが、妊産褥婦は精神的に不安定で、疲労も強い。訪室時間や言動に注意をする。また、新生児は抵抗力がないため、体調を整え学生自身が感染症にかからないようにする。さらに、同時に2つの命を扱うため、看護実践では細心の注意が必要である。</p>																																																																
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験資格取得のための必修科目です。																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>母性看護学実習要綱を参照のこと</td> <td>左記同</td> <td>左記同</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	母性看護学実習要綱を参照のこと	左記同	左記同	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	母性看護学実習要綱を参照のこと	左記同	左記同																																																														
2																																																																	
3																																																																	
4																																																																	
5																																																																	
6																																																																	
7																																																																	
8																																																																	
9																																																																	
10																																																																	
11																																																																	
12																																																																	
13																																																																	
14																																																																	
15																																																																	
関連科目																																																																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【電子書籍】母性看護学Ⅰ</td> <td>斎藤いずみ他著</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>【電子書籍】母性看護学Ⅱ</td> <td>大平光子他著</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子書籍】母性看護学Ⅰ	斎藤いずみ他著	南江堂	2	【電子書籍】母性看護学Ⅱ	大平光子他著	南江堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	【電子書籍】母性看護学Ⅰ	斎藤いずみ他著	南江堂																																																														
2	【電子書籍】母性看護学Ⅱ	大平光子他著	南江堂																																																														
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病気が見える vol.10 産科</td> <td>井上裕美他監修</td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>写真でわかる母性看護技術アドバンス</td> <td>平澤美恵子監修</td> <td>インターメディア</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程</td> <td>太田操編著</td> <td>医歯薬出版株式会社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	病気が見える vol.10 産科	井上裕美他監修	メディックメディア	2	写真でわかる母性看護技術アドバンス	平澤美恵子監修	インターメディア	3	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程	太田操編著	医歯薬出版株式会社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	病気が見える vol.10 産科	井上裕美他監修	メディックメディア																																																														
2	写真でわかる母性看護技術アドバンス	平澤美恵子監修	インターメディア																																																														
3	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程	太田操編著	医歯薬出版株式会社																																																														
評価方法（基準）	出席状況、実習内容、実習態度、実習記録をもとにした実習目標の到達度を母性看護学実習要綱の評価基準に沿って評価を行う。																																																																
学生へのメッセージ	妊産褥婦、新生児および家族を通して、ウェルネスの思考に基づいた看護ケアの実践から学びましょう。また、新しい生命の誕生に立ち会い、そのパワーに触れてみてください。母親や父親（パートナー）、新生児からも学べる機会が多い実習になるでしょう。																																																																
担当者の研究室等	井田（研究室12）、但馬（研究室20）、名草（研究室13）、入江（研究室14）、北野、三浦（共同研究室5）																																																																

備考	実習場所 市立ひらかた病院、大阪赤十字病院、大阪府済生会野江病院、関西医科大学附属病院、関西医科大学総合医療センター、京都田辺中央病院、JCHO大阪病院、八尾市立病院、大阪市立総合医療センター
----	---

科目名	母性看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	名草 みどり, 井田 歩美, 入江 眞理, 北野 美月, 但馬 まり子, 三浦 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2055a0		

授業概要・目的	<p>概要</p> <p>妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な特性や生理的な経過を踏まえ、看護実践を通して周産期にある対象の健康保持増進、異常の予防における看護の実際を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にあるケースを受け持ち、その正常経過と周産期の看護の実際および家族への支援方法を学び、看護過程が展開できる能力を養う。また、産婦への産痛緩和などのケアを通して分娩に立ち会い、命の尊厳について考える。</p> <p>目的：周産期にある女性および家族の総合的な理解、さらに、新生児の子宮外生活への適応過程を理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。</p>																																																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期の母子とその家族の身体的・心理的・社会的特性を理解し、妊娠における適応過程を明らかにできる。</li> <li>2. 周産期の母子とその家族に対して、健康維持・増進に向けて看護過程を展開できる。</li> <li>3. 母子保健医療の特性を理解し、母子とその家族に果たす看護の役割と連携について考えられる。</li> <li>4. 母性看護における自己の母性観を育むことができる。</li> <li>5. 看護学生として倫理的配慮のある言動がとれる。</li> </ol>																																																																
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則1グループ6名の編成とし、各グループの担当教員の指示に従い実習する。実習内容は病棟実習と外来実習、カンファレンスで構成され、ローテーションで行う。</li> <li>2. 実習初日は、学内実習とオリエンテーションがある。各自、実習で困らないように実習目的・目標をもとに事前学習しておく。また、母性で必要となる技術の練習をしておく。</li> <li>3. 2日目より臨地実習に入る。最終日は学内でテーマ、ケースカンファレンスを持ち、記録の整理と提出を行う。</li> <li>4. 実習では日々、各自の実習における課題と目標を明確にし、具体的な実習計画を立案して臨む。</li> <li>5. 実習2日目に病棟のオリエンテーションを受け、病棟・外来の構造や機能や看護者の役割、一日の業務の流れと妊産褥婦・新生児の生活の流れを理解する。</li> <li>6. 実習中は1組の母子を受け持ち看護過程を展開したり、分娩見学、外来で妊婦健康診査の一部実施、特殊外来の見学をする。</li> <li>7. 日々、学生主体のカンファレンス（一日の振り返り、疑問点等の意見交換）を行い、学びを共有する。</li> <li>8. 実習記録は毎日必ず記録し、指導教員や臨床側から指導や助言を受ける。</li> <li>9. 最終週の水曜日前後には臨床側（病棟師長、指導者）に参加してもらい反省会を行う。</li> <li>10. 最終週の金曜日は学内で、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、学びを共有する。</li> </ol> <p>留意点</p> <p>妊娠や出産は病気ではないが、妊産褥婦は精神的に不安定で、疲労も強い。訪室時間や言動に注意をする。また、新生児は抵抗力がないため、体調を整え学生自身が感染症にかからないようにする。さらに、同時に2つの命を扱うため、看護実践では細心の注意が必要である。</p>																																																																
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験資格取得のための必修科目です。																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>母性看護学実習要綱を参照のこと</td> <td>左記同</td> <td>左記同</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	母性看護学実習要綱を参照のこと	左記同	左記同	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	母性看護学実習要綱を参照のこと	左記同	左記同																																																														
2																																																																	
3																																																																	
4																																																																	
5																																																																	
6																																																																	
7																																																																	
8																																																																	
9																																																																	
10																																																																	
11																																																																	
12																																																																	
13																																																																	
14																																																																	
15																																																																	
関連科目																																																																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【電子書籍】母性看護学Ⅰ</td> <td>斎藤いずみ他著</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>【電子書籍】母性看護学Ⅱ</td> <td>大平光子他著</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子書籍】母性看護学Ⅰ	斎藤いずみ他著	南江堂	2	【電子書籍】母性看護学Ⅱ	大平光子他著	南江堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	【電子書籍】母性看護学Ⅰ	斎藤いずみ他著	南江堂																																																														
2	【電子書籍】母性看護学Ⅱ	大平光子他著	南江堂																																																														
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病気が見える vol.10 産科</td> <td>井上裕美他監修</td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>写真でわかる母性看護技術アドバンス</td> <td>平澤美恵子監修</td> <td>インターメディア</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程</td> <td>太田操編著</td> <td>医歯薬出版株式会社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	病気が見える vol.10 産科	井上裕美他監修	メディックメディア	2	写真でわかる母性看護技術アドバンス	平澤美恵子監修	インターメディア	3	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程	太田操編著	医歯薬出版株式会社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	病気が見える vol.10 産科	井上裕美他監修	メディックメディア																																																														
2	写真でわかる母性看護技術アドバンス	平澤美恵子監修	インターメディア																																																														
3	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程	太田操編著	医歯薬出版株式会社																																																														
評価方法（基準）	出席状況、実習内容、実習態度、実習記録をもとにした実習目標の到達度を母性看護学実習要綱の評価基準に沿って評価を行う。																																																																
学生へのメッセージ	妊産褥婦、新生児および家族を通して、ウェルネスの思考に基づいた看護ケアの実践から学びましょう。また、新しい生命の誕生に立ち会い、そのパワーに触れてみてください。母親や父親（パートナー）、新生児からも学べる機会が多い実習になるでしょう。																																																																
担当者の研究室等	井田（研究室12）、但馬（研究室20）、名草（研究室13）、入江（研究室14）、北野、三浦（共同研究室5）																																																																

備考	実習場所 市立ひらかた病院、大阪赤十字病院、大阪府済生会野江病院、関西医科大学附属病院、関西医科大学総合医療センター、京都田辺中央病院、JCHO大阪病院、八尾市立病院、大阪市立総合医療センター
----	---

科目名	精神看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	眞野 祥子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2055a0		

**授業概要・目的**  
 精神看護学の対象は、精神疾患を持つ人に限らず、あらゆる発達段階にある人々を含んでいる。本科目では、心の健康を保持・増進するために必要となる基本的な知識を学び、精神医療に関連する基本的な概念を理解する。具体的には、精神看護学と精神保健の基本、現代社会におけるストレスと健康、精神医療・保健・福祉の歴史と法律、精神疾患を持つ人の実態、リエゾン精神看護について学習する。また、将来、看護職に就く者として自身の心の健康を保持・増進するための知識についても学習する。  
 本科目は、精神科病棟で勤務経験がある教員が、経験を踏まえて精神看護学に関する実践的な教育を行う。

**到達目標**  
 心の構造と機能について説明できる。  
 心の健康・不健康について説明できる。  
 現代社会の変化によって、私たちの心の健康にどのような影響があるか説明できる。  
 自分自身の心の健康を保つための知識を身につけ、実践することができる。  
 災害時などの状況において危機状況とその対応・予防について説明できる。  
 精神保健の概念について説明できる。  
 精神科看護師の役割について説明できる。

**授業方法と留意点**  
 下記の授業計画に沿って講義を行う。精神看護学を身近に感じられるように、学生自身の経験や知識、健康に関するトピックスを活用し、メンタルヘルスの現状や問題点を概観し、心の健康・不健康について自分の言葉で考察できるようになることを目指す。また、精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、体験談や事例を活用して興味・関心を引き出し、イメージの促進を促していく。  
 授業の最後にその日の授業テーマに基づく課題の解答を求め(ワークシート/小テスト)、理解を深めていくとともに、次週の授業の冒頭でその課題へのフィードバックを行う。

**科目学習の効果 (資格)**  
 看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	精神看護学の基本	精神看護学の位置づけ、精神看護の対象となる人・生活の場について理解する。	事前：教科書①「序章-I~IV(P.2~26)」第4章(P.121~148)を読んで来てください(1時間)。事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
2	暮らしの場と心の健康	精神看護の対象となる人・生活の場について理解する。	事前：教科書①「第1章I、II(P.27~70)」を読んで来てください(1時間)。事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
3	心とは何か	精神力動的な考え方にもとづいて、心の構造と働きを理解する。	事前：教科書①「第1章I、II(P.27~70)」を読んで来てください(1時間)。事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
4	心の健康とは何か(ストレスと健康、看護師のメンタルヘルス)	ストレスの概念、対処行動、危機介入、PTSD、バーンアウトとその対処、看護職者の感情体験について理解する。	事前：教科書①「第5章(P.149~170)」を読んで来てください(1時間)。事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
5	ライフサイクルと危機	エリクソンの生涯発達理論、フロイトの精神的発達論について理解する。	事前：教科書①「第2章I~V(P.71~98)」を読んで来てください(1時間)。事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
6	精神保健医療福祉の歴史の変遷	日本・欧米の精神保健医療福祉の歴史と変遷について理解する。	事前：教科書①「第7章I、II(P.225~252)」を読んで来てください(1時間)。事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
7	精神障害を持って生きる人の生活	精神障害者が置かれている社会的立場、偏見、社会生活を維持するうえでの困難、精神看護と精神保健福祉法について理解する。	事前：教科書②「第1章I~IV(P.2~20)」を読んで来てください(1時間)。事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
8	精神障害者の現状と精神保健医療福祉施策の動向 看護師のメンタルヘルス	認定・専門看護師制度、触法精神医療、自立と社会復帰など精神障害者の保護・医療・福祉の現状について理解する。バーンアウトとその対処法、看護職者の感情体験について理解する。	事前：教科書②「第8章I~III(P.351~422)」第9章I、II(423~459)を読んで来てください(1時間)。事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

**関連科目**  
 精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、疾病・治療論Ⅵ、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社
2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	試験 (85 %)、課題 (ワークシート、小テスト) 15%を総合して判定する。			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。分からないところ、不明瞭なところがあればいつでも質問をしてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19 (眞野)			
備考	学生の理解度に応じてシラバスを変更することがある。			

科目名	精神看護学援助論 I	科目名 (英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	眞野 祥子, 古川 圭子, 山本 智津子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2056a0		

**授業概要・目的**  
 精神看護を实践するために必要となる基本的な知識・技術を学ぶ。精神看護では、患者-看護師の対人関係が病気回復において重要となる。そこで患者-看護師関係に関する理論を理解したうえで、患者-看護師関係を展開していくためのスキルトレーニング法であるプロセスレコードを用いた演習で自己洞察を深め、患者-看護師関係における自己の活用能力向上を目指す。  
 精神疾患を持つ患者理解の基礎となる幻覚・妄想、躁、うつ状態などの精神症状の捉え方について学び、患者の精神症状をアセスメントし、看護介入が行えるようになることを目指す。また、精神科で行われている治療とその看護について学ぶ。  
 本科目は、精神科病棟で勤務経験がある教員が、経験を踏まえて精神看護学に関する実践的な教育を行う。

**到達目標**  
 援助的人間関係に関する理論を理解する。  
 援助的人間関係に関する技術を身につける。  
 幻覚・妄想、躁、うつ状態、不安状態、強迫状態等の精神症状のとらえ方を理解する。  
 精神科で行われている治療とその治療を受ける患者の看護について理解する。  
 精神科病棟で実践されている看護とそこで働く看護師の役割を理解する。

**授業方法と留意点**  
 下記の授業計画に沿って講義/演習を行う。精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、事例や精神科看護師の体験談等を活用し、興味・関心を引き出し、イメージの促進を図る。

**科目学習の効果 (資格)**  
 看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	精神症状のアセスメント	幻覚妄想状態と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-B (P.71~76)」「第7章-II-A, B (P.270~289)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください (1時間)。
2	精神症状のアセスメント	意欲低下、引きこもり状態と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-C, D (P.76~87)」「第7章-II-C, D (P.289~300)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください (1時間)。
3	精神症状のアセスメント	拒絶と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-B, D (P.71~76, 81~87)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください (1時間)。
4	精神症状のアセスメント	不安状態、強迫状態と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-E, F (P.87~97)」「第7章-III-C, D (P.324~333)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください (1時間)。
5	精神症状のアセスメント	躁、うつ状態、希死念慮と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-C, D (P.76~87)」「第7章-II-C, D (P.289~300)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください (1時間)。
6	精神症状のアセスメント	操作的状態と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護第3章-II-N (P.134~137)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください (1時間)。
7	援助的人間関係 (理論編 1)	患者-看護師関係の意義と特徴	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第5章 (P.189~220)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください (1時間)。
8	援助的人間関係 (理論編 2)	対人関係論、プロセスレコード	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第5章 (P.189~220)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください (1時間)。
9	援助的人間関係 (実践編)	コミュニケーションスキルトレーニング演習	事後：教科書を参照しながら、授業内容を整理しておいてください (2時間)。
10	援助的人間関係 (実践編)	プロセスレコードを記載する	事後：教科書を参照しながら、授業内容を整理しておいてください (2時間)。
11	プロセスレコードの分析と評価	プロセスレコードの振り返り、エゴグラム	事後：教科書を参照しながら、授業内容を整理しておいてください (2時間)。
12	精神科治療と看護 (1)	薬物療法と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第4章-I~II (P.147~166)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください (1時間)。
13	精神科治療と看護 (2)	精神療法、SST、心理教育、作業療法と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第4章-III, IV (P.167~188)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください (1時間)。
14	精神科救急に関する看護	精神科救急の現場で実践されている看護援助の具体、精神科における看護師の役割・機能	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第7章 (P.253~269)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を復習しておいてください (1時間)。
15	退院調整と地域生活支援	精神障害者の退院促進と地域で生活していくための支援活動、地域における精神科看護師の役割・機能	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第8章 (P.351~422)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を復習しておいてください (1時間)。



関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論II、疾病・治療論VI、精神看護学実習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	専門医がやさしく語るはじめての精神医学 改訂第2版	渡辺雅幸	中山書店
	2			
	3			
評価方法 (基準)	試験 (85%)、ワークシート、演習時の成果物などの課題 (15%) を総合して判定する。			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。 課題提出は、必ず締め切り日までに提出してください。 分からないところ、不明瞭なところがあれば、授業の前後または学内メールにいつでも連絡をください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19 (眞野)、研究室18 (山本智)、共同研究室2 (古川)			
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがあります。 授業内容によっては、2コマ続きで授業を行います。 授業に関する連絡事項は、原則 Teams (Teams が使用できない場合はポータル) を経由して周知していきますので、1日に1回は Teams を確認してください。			

科目名	精神看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 智津子, 古川 圭子, 眞野 祥子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2057a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、精神疾患と治療等の基本的な知識・技術をふまえたうえで、精神疾患を有する対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。それらの基礎知識を活用しながらペーパーペーシェントによる看護過程の展開を行い、対象をアセスメントする技術と必要な看護援助方法を理解する。</p> <p>また地域で生活する精神障害者への支援体制について学ぶ。</p> <p>さらにゲストスピーカー（当事者）の語りにより、当事者の思い等を理解したうえで看護援助方法を考える。</p>
到達目標	<p>各精神疾患の症状、治療、看護援助方法について理解できる。</p> <p>ペーパーペーシェントを通して、対象にとって必要な看護援助方法が理解できる。</p> <p>地域における精神保健福祉活動が理解できる。</p>
授業方法と留意点	<p>基本的には授業計画にそってスライドを用いながら講義を行う。一方的な講義にならないよう学生が発言する機会を設け、また精神疾患・精神症状や精神障害者への理解を深められるように視聴覚教材を活用する。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>看護師国家試験受験資格のための必修科目である。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	疾患による看護の特徴 (1)	統合失調症 (者) の理解と看護①	事前:「第7章Ⅱ-A」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
2	疾患による看護の特徴 (2)	統合失調症 (者) の理解と看護②	事前:「第7章Ⅱ-A」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
3	疾患による看護の特徴 (3)	気分障害 (者) の理解と看護	事前:「第7章Ⅱ-C・D」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
4	疾患による看護の特徴 (4)	神経症性障害 (者)・パーソナリティ障害・摂食障害 (者) の理解と看護	事前:「第7章Ⅲ-C・D」「第3章Ⅱ-N」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
5	疾患による看護の特徴 (5)	アルコール依存および薬物依存 (者) の理解と看護	事前:「第3章Ⅱ-L」「第7章Ⅱ-E」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
6	疾患による看護の特徴 (6)	身体合併症をもつ対象の看護	事前:「第7章Ⅳ」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
7	地域精神保健福祉活動の現状、他職種との連携	精神障害者の地域生活支援	事前:「第8章」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
8	精神障害がセルフケアへ及ぼす影響のアセスメント	オレム・アンダーウッド理論と活用法	事前:「第6章Ⅱ」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
9	事例演習 (1)	情報収集と整理①	事前:「第6章」「第7章Ⅱ-A」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
10	事例演習 (2)	情報収集と整理②	事前:「第6章」「第7章Ⅱ-A」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
11	事例演習 (3)	アセスメント①	事前:「第6章」「第7章Ⅱ-A」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
12	事例演習 (4)	アセスメント②	事前:「第6章」「第7章Ⅱ-A」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
13	事例演習 (5)	問題点の整理	事前:「第6章」「第7章Ⅱ-A」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
14	事例演習 (6)	看護計画立案 評価・修正	事前:「第6章」「第7章Ⅱ-A」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
15	ゲストスピーカー (当事者) の理解	ゲストスピーカー (当事者) の語り	事前:「第7章Ⅱ」を読んでください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。

関連科目 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、疾病・治療論Ⅵ、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精神看護学②精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生 (編集)	メヂカルフレンド社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 合否は定期試験 (80%)、ワークシートおよび演習時の課題 (20%) を総合して評価する。

学生への 積極的に授業に参加してください。

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館3階 研究室18(山本智)、研究室19(眞野)、共同研究室2(古川)
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。

科目名	在宅看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	田中 結華
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2059a0		

**授業概要・目的**  
在宅看護の変遷を踏まえて、社会の変化と諸制度、人々の多様な価値観の変化、QOLの重視、セルフケア、自己決定の尊重という観点から在宅看護の目的を理解する。同時に、地域で生活しながら療養する人々とその家族・生活環境を理解し、療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な看護の基本的知識・技術・倫理観を学ぶ。在宅看護における社会資源及びチームケア・職種間の連携の在り方について理解する。

- 到達目標**
1. 在宅看護の目的と特徴を説明できる。
  2. 在宅看護の歴史の変遷を説明できる。
  3. 在宅看護の対象者について説明できる。
  4. 在宅療養の支援と看護者の役割について説明できる。
  5. 在宅看護を支える法、制度とその活用について説明できる。
  6. 在宅看護におけるリスクマネジメントについて説明できる。
  7. 在宅看護における倫理について説明できる。

**授業方法と留意点**  
授業計画に沿って講義中心に行う。教科書を必ず参照すること。在宅看護の方法としての訪問看護や他職種・他機関との連携、在宅ケアマネジメント方法など多様な学習には、動画や事例を用いて学習を進める。講義終了後は、講義資料やノート整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、ネット等を用いてもよいので、自分なりに調べ、また不明な点は質問するなど、主体的に学習に取り組むこと。事前・事後学習については、授業内で別途指示することがある。

**科目学習の効果 (資格)**  
看護師の資格取得に必須の単位である。患者の入院から退院・退院後の生活に向けて継続した看護に必要な基礎的知識を獲得をする領域でもある。在宅看護は、療養者の生活の場で展開される。したがって、医療・保健・福祉分野との連携に必要な知識・技術・倫理観について幅広く学ぶ機会である。臨床看護師としてだけでなく、地域社会における役割と認識を深め、社会の変化やニーズに即した専門職のあり方を指向する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	在宅看護の概念と歴史の経緯	地域における在宅看護(訪問看護)とは何か、その目的と特徴を学ぶ。また訪問看護の歴史を学ぶ。	事前: テキストの第1章を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
2	在宅看護の対象者	在宅看護の対象者の特徴を、住まいや家族、地域の視点から理解する。家族関係を視覚化するエコマップについてワークを行う。	事前: テキストの第4章を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
3	在宅療養の支援と看護者の役割	在宅看護の提供方法である 継続看護、訪問看護等の支援方法について学ぶ。	事前: テキストの第2章を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
4	在宅看護に関連する法と制度	在宅看護を支える法的基盤、介護保険等を含めた法と制度について学ぶ。講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの第2章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
5	訪問看護サービスの提供	訪問看護サービスを提供するための訪問看護ステーションを主とした施設、訪問看護の機能について重点的に学ぶ。	事前: テキストの第3章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
6	在宅看護における社会資源の活用と多職種連携	在宅看護におけるさまざまな社会資源の活用と多職種との連携、地域のネットワーク作りについて学ぶ。	事前: テキスト第2章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
7	在宅看護における看護の展開方法とリスクマネジメント	在宅看護における看護を展開する上で必要な視点と、リスクマネジメントを学ぶ。	事前: テキスト第3章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
8	在宅看護における倫理と権利保障	在宅看護学における倫理を、訪問看護の倫理と、個人情報保護、虐待なども含めて多様な視点で学ぶ。	事前: テキスト第3章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

**関連科目** 家族看護学、公衆衛生看護学 専門科目の概論のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

**評価方法 (基準)** 小テスト・レポート類、課題達成度、授業での参加度、プレゼンテーションが20%、定期試験80%で評価する。授業態度が悪い場合、20%を上限に減点することがある。

**学生へのメッセージ** 現在、我が国は少子化社会そして超高齢社会にあり、看護職の働く場は病院看護から在宅看護へ拡大されています。コロナ禍で在宅看護のニーズはますます増大している状況です。病院看護と違い、療養者の「生活の場」で行う看護支援は、幅広い知識と創造力を更に求められます。短い時間で幅広い学習をすることになります。日々の学習(事前・事後学習)を大事にしましょう。講義中の質問は大歓迎です。

	なお、指示した事前・事後学習を含め、自己学習には30時間以上をあてること。
担当者の研究室等	7号館 3階 第9研究室 田中結華
備考	<p>毎回の授業ごとに、レポートを課す。また、随時小テストや課題を提示する。テキストの指示された部分はあらかじめ読み、不明な部分に下線を引くなどして準備をすること。授業を受けて、不明な部分やわかりにくい部分は、積極的に質問すること。また、学生同士で意見交換も行うこと。文献、資料等は授業でも紹介する。</p> <p>質問方法は最初の授業でオリエンテーションする。メールや連絡は、必ず大学アカウントから送ること。プライベートアカウントには対応しません。</p>

科目名	在宅看護学援助論 I	科目名 (英文)	Home Care Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 結華, 足立 安正, 櫻井 知賀, 富永 真己, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2060a0		

授業概要・目的	在宅看護実践は、療養者の自宅に赴き「生活の場」で展開される。在宅療養者・家族の、健康、生活機能、およびQOLの維持・向上のための支援方法について学ぶ。具体的には、在宅看護に必要な面接技術、さまざまな発達段階や健康障害（神経難病、COPD、脳血管障害後遺症、精神疾患、終末期ケアなど）を持つ人への在宅療養支援について、事例を通じて理解する。 また、在宅療養者に必要な日常生活援助技術、医療処置に伴う援助技術を理解する。
到達目標	1. 在宅看護に必要な面接技術について理解できる。 2. 在宅療養者に必要な日常生活援助技術について理解できる。 3. 在宅療養者に必要な医療処置技術を理解できる。 4. さまざまな発達段階や健康障害における在宅療養支援について理解できる
授業方法と留意点	講義と演習、グループワーク等により授業を行う。テキストおよび配付資料、視聴覚教材を用いて理解を深める。基礎看護技術、および各看護で学ぶ看護技術を基盤として、在宅療養の場でのように実践するかを深く考えて頂きたい。事例検討では、高度実践を専門的に行っている看護師を招いて学ぶ。授業へは主体的に取り組み、積極的に参加すること。 やむなくオンライン授業となる場合は、授業方法や日程は初日のオリエンテーションで周知します。
科目学習の効果 (資格)	在宅看護学実習に必要な技術、事例を学び、在宅看護学援助論Ⅱでの学習に関連づける。また、入院患者の退院後の生活に向けて支援する際に必要な知識・技能を習得することにつながる。看護師国家試験受験のために、単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション 在宅看護の場で必要な面接技術 (1)	在宅看護におけるコミュニケーションの特徴、面接技術、および訪問時のマナー・態度について学ぶ。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
2	在宅看護の場で必要な面接技術 (2)	在宅看護に必要な面接技術について演習課題に取り組む。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
3	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (1)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
4	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (2)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
5	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (3)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
6	地域医療におけるチームケア	在宅看護に必要な多職種連携を、地域医療に携わる医師をゲストスピーカーに招いて講義を受ける。 様々な在宅療養者と医療者の関わりを事例を通して知り、地域医療および医師と看護師の連携について考える。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義の感想文を提出し、講義後のノート整理を行うこと(30分)
7	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理(褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術 (1)	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
8	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理(褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術 (2)	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
9	神経難病をもつ在宅療養者の看護	神経難病をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅人工呼吸器による呼吸療法についても合わせて学ぶ。 ゲストスピーカーとして、神経難病在宅医療を専門とする訪問看護ステーションの大杉花先生(拓海会訪問看護ステーション)による講義と討議を行う。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義の感想文を提出し、講義後のノート整理を行うこと(30分)
10	COPDをもつ在宅療養者の看護	COPDをもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅酸素療法、呼吸器リハビリテーションについても合わせて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)
11	在宅用人工呼吸器等の在宅用医療機器を用いた看護を学ぶ	在宅用人工呼吸器、酸素濃縮器、カフアシストなどの医療機器の取扱い、および医療機器業者との連携について学び、医療依存度の高い在宅療養者に必要な看護について学ぶ	<事前学習>予備知識予習を行う(1時間) <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)
12	認知症をもつ在宅療養者の看護	認知症をもつ在宅療養者の看護について学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習し

		看護	て、事例に基づいて学ぶ。	ておくこと。(1時間) 〈事後課題〉 事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)
	13	精神疾患をもつ在宅療養者の看護	精神疾患をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	〈事前学習〉テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) 〈事後課題〉 事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)
	14	終末期にある在宅療養者の看護	終末期にある在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、疼痛管理、看取りについても合わせて学ぶ。ゲストスピーカーとして、専門看護師船越政江先生(わたぼうし訪問看護ステーション)による講義と討議を行う。	〈事前学習〉テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) 〈事後課題〉講義の感想文を提出し、講義後のノート整理を行うこと(30分)
	15	まとめ	まとめ 本授業科目での学びについてまとめる。	〈事前学習〉ノート、資料を整理しておくこと。(30分) 〈事後課題〉 授業全体を復習し、筆記試験に備えること。(1時間以上)
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅱ、在宅看護学実習、地域看護学、家族看護学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(電子)地域・在宅看護論(2):在宅療養を支える技術第2版	臺有桂他編	メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	見てできる臨床ケア図鑑在宅看護ビジュアルナッシング	東京訪問看護ステーション協議会	学研メディカル
	2	《シリーズ ケアをひらく》在宅無限大 訪問看護師がみた生と死	村上靖彦	医学書院
	3			
評価方法(基準)	講義・演習への参加態度20%(小テスト、ミニレポート、グループワーク、レポート、感想文、発表等も含める) 筆記試験80%(但し、筆記試験の得点は60%以上取得を単位取得の必須条件とする)。なお、授業態度不良の場合は20%を上限に減点する場合があります。 やむなく遠隔授業になった場合は、参加態度(内容は上記参照)で評価する。授業の視聴記録等がなく提出された成果物は評価の対象外となる。			
学生へのメッセージ	本授業では、在宅看護学概論を踏まえて、在宅援助方法のさまざまな技術を学びます。原理原則は基礎看護技術と変わりませんが、療養者それぞれの生活があるように援助も百人百様の方法で援助を提供しなければなりません。看護のフィールドも変化・拡大しつつあります。頭を柔軟に学習に取り組んでください。 なお、指示した事前・事後学習を含め、自己学習には15時間以上をあてること。			
担当者の研究室等	田中 結華 7号館 3階 第9研究室 富永 真己 7号館 3階 第7研究室 山本 十三代 7号館 3階 第5研究室 足立 安正 7号館 3階 第22研究室			
備考				

科目名	在宅看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Home Care Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 十三代, 櫻井 知賀, 田中 結華
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2061a0		

授業概要・目的	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰの既習知識を活用し、様々な発達段階、健康上の問題を抱えながら、地域で生活する療養者・家族を1単位とした看護過程の展開について学ぶ。 講義でCOPDを発症している事例で看護展開をデモンストレーションする。グループ学習では、3事例(脳梗塞後遺症のある事例、ALSを発症し人工呼吸を装着している事例、肝臓がんの終末期の事例)のうち1事例を看護展開していく。また、チームアプローチの一手段としてサービス担当者会議をロールプレイングして多職種連携の重要性を学ぶ。  目的 1. 様々な発達段階、健康上の問題を抱えながら、地域で生活する療養者・家族を1単位とした看護過程の展開について学ぶ 2. 在宅看護実践の特徴と在宅で実施する援助技術が安全、安楽にできるための方法論、在宅看護の役割について学ぶ。 3. 系統的チームアプローチの実践について学び、多職種連携の重要性を学ぶ。
到達目標	1. 在宅における看護過程の展開を理解できる 1) 事例に基づいて、情報収集の視点の必要性を理解できる 2) 対象を生活者として捉え、アセスメントする必要性を理解できる 3) 療養者、家族介護者に無理のない計画内容で立案できる 4) 計画内容の実践シミュレーションを計画できる(援助計画) 5) シミュレーションに沿った援助の実践と評価ができる 6) 看護計画の実践、評価から、適宜、修正することの必要性を理解できる 2. 既習の学習で修得した日常生活援助技術を、在宅という生活環境の中で
授業方法及び留意点	授業計画に沿って、指示された事例の看護展開についてグループワークの中で学ぶ。 そのため以下のことを留意して受講する。 ・指示された事前学習は必ず行いグループワークに参加し、意見交換を通して、看護展開方法について理解していく。 ・課題はグループワークしたことを事前学習に追記・修正したものをmoodleに決められた期日に提出する。 ・家族看護学で学んだ家族看護理論やジェノグラム、エコマップ(在宅看護学概論でも学習済み)については理解しておく。 ・グループワークが多くなります。グループで出てきた意見と教員のコメントをよく聞いて学びを深めていく。
科目学習の効果(資格)	在宅看護学実習及び他の看護学領域実習に必要な「知識・技術・態度」を身につけることができる。 看護師国家試験受験のために単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義:2コマ続き 家族を集合体とした看護過程の展開	事例紹介(COPDの療養者) 事例に基づいて①情報収集 ②アセスメント・問題の明確化③看護計画④実践 ⑤評価のプロセスの一連の流れ示す	事前:看護過程の構成要素について復習をしておくこと(30分) 事後:本日の事例展開について見直しをしておく(30分) グループ学習での事例については、提示した課題をすること(2時間)
2	家族を集合体とした看護過程の展開	事例紹介(COPDの療養者) 事例に基づいて①情報収集 ②アセスメント・問題の明確化③看護計画④実践 ⑤評価のプロセスの一連の流れ示す  次回から検討する事例と担当教員について発表する。	事前:看護過程の構成要素について復習をしておくこと(30分) 事後:本日の事例展開について見直しをしておく(30分) グループ学習での事例については、提示した課題をすること(2時間)
3	演習: 情報の整理、全体像の把握、 問題点の明確化	脳梗塞事例: ALS事例: 肝臓がん事例: 教員別に分かれてグループ学習を進めていく。 個人学習を基に、情報の整理、全体像の把握、問題点を明確にする。 担当教員の相談。アドバイスを得ながら進める。	事後:グループワークの内容の整理を行う(30分) 提示した課題をすること(1時間)
4	演習: 情報の整理、全体像の把握、 問題点の明確化続き	脳梗塞事例: ALS事例: 肝臓がん事例: 教員別に分かれてグループ学習を進めていく。 個人学習を基に、情報の整理、全体像の把握、問題点を明確にする。 担当教員の相談。アドバイスを得ながら進める。	事後:グループワークの内容の整理を行う(30分) 提示した課題をすること(1時間)
5	演習:2コマ続き 看護計画の立案、具体的援助計画の立案	個人学習を基に、看護計画の立案、具体的援助計画の立案を行う。	事後:グループワークの内容の整理を行う(30分) 提示した課題をすること(1時間)
6	演習: 看護計画の立案、具体的援助計画の立案	個人学習を基に、看護計画の立案、具体的援助計画の立案を行う。	中間発表に向けて、グループ学生同士のディスカッションをしておくこと(30分)
7	演習: 具体的な援助内容の決定と 計画の修正	全体像、問題点、看護計画、具体的な援助内容(必要物品、手順、評価方法)について発表し、意見交換する。実演する援助内容について実演へ向けて準備する。	事後:実演へ向けて、グループ内でディスカッションおよびシミュレーションをしておく(1時間) 援助計画については、頭に入れておく グループの援助計画を担当教員に提出
8	演習:2コマ続き 援助技術の改善と訪問看護 の実際	前半、後半グループに分かれる。援助計画に沿った援助を実演し、創意工夫された、療養者にとって最良の援助について検討する(50分)。	事前:グループで準備する物品の確認をグループ内で行う(30分) 事後:実演後の看護技術の評価をグループ学生間で行う(30分)



			訪問看護場面を想定し、バイタルサイン測定から援助、訪問終了の一連の流れを実演する(40分)。	
9	援助技術の改善と訪問看護の実際		前半、後半グループに分かれる。援助計画に沿った援助を実演し、創意工夫された、療養者にとって最良の援助について検討する(50分)。 訪問看護場面を想定し、バイタルサイン測定から援助、訪問終了の一連の流れを実演する(40分)。	事前:グループで準備する物品の確認をグループ内で行う(30分) 事後:実演後の看護技術の評価をグループ学生間で行う(30分)
10	演習: 実演内容と評価の準備		実演の評価を行う。 資料をパワーポイントで作成する。	事後:グループ発表へ向けてグループ学生間でディスカッションしておく(1時間) 指示された期日に発表資料を担当教員に1部提出 他のグループの発表資料に目を通し質問できるようにしておく(1時間)
11	演習: 実演内容と評価		担当教員ごとのグループ内で意見を交換する	事後:1回~11回までの看護過程の展開の一連の流れについて整理する(1時間) ジェノグラム・エコマップについて復習しておく(30分) 提示した課題を行う(1時間)
12	演習: チームアプローチの実際		同事例に関わる社会資源をエコマップに起こし、それぞれの支援内容について検討する。	事前在宅看護学概論で作成した「在宅ケアマネジメント」を復習しておく(30分) 事後:本日の内容を整理する(30分)
13	演習:2コマ続き サービス担当者会議の準備		社会資源の関係職種になり切り、教員が提示した問題について、思いや対応についてとサービス担当者会議に期待することをレポートする。	事前:サービス担当者会議について復習する(30分) 事後:授業中作成のレポートは授業終了後提出
14	演習: サービス担当者会議の実際		関係職種になり切り、サービス担当者会議を実演する。問題解決につながるようすすめる(30分)。 サービス担当者会議終了後、演じた職種としての感想と訪問看護師の役割についてレポートする(60分)。	事後:授業中作成のレポートは授業終了後提出 提示した在宅看護実践のまとめの要点について、1回~14回で学んだ事と教科書等を参考にまとめる(1時間)
15	在宅看護学演習のまとめ 事例を用いた看護過程の展開と演習から学んだこと-意見交換-		在宅看護援助技術 地域で生活を支えるということ 家族、多職種との関わり方についてのまとめ	事前:在宅看護実践に対して自分なりの意見を持って参加する。 事後:指示された期日に最終レポート課題に沿って作成し、今までの課題を経じた個人ファイルとともに提出する(2時間)

関連科目

家族看護学、公衆衛生看護学、在宅看護概論、在宅看護学援助論Ⅰ、在宅看護学実習、他領域の看護学、専門基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	インターメディカ
2	ナーシング・グラフィカ「在宅看護論② 在宅療養を支える技術」	臺有桂	MC メディカ出版
3	継続看護マネジメント	長江弘子	医歯薬出版

評価方法  
(基準)

授業ごとの課題提出55%、演習への参加姿勢(ピア評価)15%、定期テスト30%の配分で評価を行う

学生への  
メッセージ

グループ学習は、個人の事前・事後学習を通しての参加意識が学習成果に影響します。グループで取り決めた到達目標、自己役割を果たし在宅看護の展開方法や必要な医療処置やセルフケア力が発揮されるような支援方法について学習しましょう。

担当者の  
研究室等

山本十三代 7号館 3階 第5研究室  
田中結華 7号館 3階 第9研究室  
櫻井知賀 7号館 3階 未定

備考

演習内容によっては、2コマ続きがあります。時間割の確認を怠らないことと全出席ができるように体調管理・生活管理をしてください。

科目名	在宅看護学実習	科目名 (英文)	Practice in Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田中 結華, 足立 安正, 櫻井 知賀, 富永 真己, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN3062a0		

授業概要・目的	<p>&lt;授業概要&gt; 健康障害を持ちながら在宅で療養する人々と家族を理解する。在宅看護の特性と在宅ならではの援助技術、在宅ケアシステムにおける社会資源の活用・関係職種間の連携や協働の実際を体験し、これらを通し在宅看護実践に求められる能力を養う。</p> <p>&lt;実習目的&gt; 地域の中で療養する人々やその家族の生活実態、健康上の問題を理解し在宅における看護の機能と役割の実際を学ぶ。</p>																																																																		
到達目標	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護の役割と方法を述べるができる。</li> <li>2. 訪問看護ステーションの機能と活動の概要について述べるができる。</li> <li>3. 在宅療養者とその家族を生活者としてとらえ、健康課題を解決するための援助方法を述べるができる。</li> <li>4. 地域の社会資源とその活用方法、および関連する職種との連携の実際を述べるができる。</li> <li>5. 主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	<p>実習方法 訪問看護ステーションでの実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学臨地実習要綱をよく読み理解した上で、在宅実習要綱で示している実習目的・目標を達成できるよう務める。</li> <li>2. 実習オリエンテーションには、必ず出席する。</li> <li>3. 実習目標を理解し必要な事前学習・演習を行い主体的に実習に取り組む。</li> <li>4. 実習期間中、訪問看護師に同行し看護の実際を見学/体験をする。</li> <li>5. 実習期間中の教員からの指導は時間を設定し行う。</li> </ol>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	看護師の資格取得に必須の科目である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実習要綱を参照する。</td> <td>詳細は、実習オリエンテーションで説明する。</td> <td>事前学習課題はオリエンテーションで指示した内容を行う。事後課題として実習記録を毎日記録し、翌日に提出する。実習最終日は指定した締切時間までに提出する。</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	実習要綱を参照する。	詳細は、実習オリエンテーションで説明する。	事前学習課題はオリエンテーションで指示した内容を行う。事後課題として実習記録を毎日記録し、翌日に提出する。実習最終日は指定した締切時間までに提出する。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	実習要綱を参照する。	詳細は、実習オリエンテーションで説明する。	事前学習課題はオリエンテーションで指示した内容を行う。事後課題として実習記録を毎日記録し、翌日に提出する。実習最終日は指定した締切時間までに提出する。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論 I、在宅看護学援助論 II を基盤にする。なお、在宅看護学はあらゆる発達段階、健康段階にある人が対象者となり得るため、基礎看護学をはじめ、他の専門科目すべてが関連する。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2, 3年次に用いた教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2, 3年次に用いた教科書			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	2, 3年次に用いた教科書																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	実習目標の達成度を、実習要綱に示すルーブリック評価基準を用いて評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	2 週間の短い期間の実習です。学習目標を明確にして取り組みましょう。在宅実習は、様々な職種の人との交流や協議の場面に参加することができます。連携すること、協働することの意義を理解し訪問看護師の役割 について丁寧に考えてみてください。																																																																		
担当者の研究室等	田中 結華 7号館 3階 第9研究室 富永 真己 7号館 3階 第7研究室 山本十三代 7号館 3階 第5研究室 足立 安正 7号館 3階 第22研究室 櫻井 知賀 7号館3階 授業開始時に周知																																																																		
備考	体調管理に留意すること。																																																																		

科目名	在宅看護学実習	科目名 (英文)	Practice in Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田中 結華, 足立 安正, 櫻井 知賀, 富永 真己, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN3062a0		

授業概要・目的	<p>&lt;授業概要&gt; 健康障害を持ちながら在宅で療養する人々と家族を理解する。在宅看護の特性と在宅ならではの援助技術、在宅ケアシステムにおける社会資源の活用・関係職種間の連携や協働の実際を体験し、これらを通し在宅看護実践に求められる能力を養う。</p> <p>&lt;実習目的&gt; 地域の中で療養する人々やその家族の生活実態、健康上の問題を理解し在宅における看護の機能と役割の実際を学ぶ。</p>																																																																		
到達目標	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護の役割と方法を述べることができる。</li> <li>2. 訪問看護ステーションの機能と活動の概要について述べるができる。</li> <li>3. 在宅療養者とその家族を生活者としてとらえ、健康課題を解決するための援助方法を述べるができる。</li> <li>4. 地域の社会資源とその活用方法、および関連する職種との連携の実際を述べるができる。</li> <li>5. 主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	<p>実習方法 訪問看護ステーションでの実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学臨地実習要綱をよく読み理解した上で、在宅実習要綱で示している実習目的・目標を達成できるよう務める。</li> <li>2. 実習オリエンテーションには、必ず出席する。</li> <li>3. 実習目標を理解し必要な事前学習・演習を行い主体的に実習に取り組む。</li> <li>4. 実習期間中、訪問看護師に同行し看護の実際を見学/体験をする。</li> <li>5. 実習期間中の教員からの指導は時間を設定し行う。</li> </ol>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	看護師の資格取得に必須の科目である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実習要綱を参照する。</td> <td>詳細は、実習オリエンテーションで説明する。</td> <td>事前学習課題はオリエンテーションで指示した内容を行う。事後課題として実習記録を毎日記録し、翌日に提出する。実習最終日は指定した締切時間までに提出する。</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	実習要綱を参照する。	詳細は、実習オリエンテーションで説明する。	事前学習課題はオリエンテーションで指示した内容を行う。事後課題として実習記録を毎日記録し、翌日に提出する。実習最終日は指定した締切時間までに提出する。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	実習要綱を参照する。	詳細は、実習オリエンテーションで説明する。	事前学習課題はオリエンテーションで指示した内容を行う。事後課題として実習記録を毎日記録し、翌日に提出する。実習最終日は指定した締切時間までに提出する。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論 I、在宅看護学援助論 II を基盤にする。なお、在宅看護学はあらゆる発達段階、健康段階にある人が対象者となり得るため、基礎看護学をはじめ、他の専門科目すべてが関連する。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2, 3年次に用いた教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2, 3年次に用いた教科書			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	2, 3年次に用いた教科書																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	実習目標の達成度を、実習要綱に示すルーブリック評価基準を用いて評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	2 週間の短い期間の実習です。学習目標を明確にして取り組みましょう。在宅実習は、様々な職種の人との交流や協議の場面に参加することができます。連携すること、協働することの意義を理解し訪問看護師の役割 について丁寧に考えてみてください。																																																																		
担当者の研究室等	田中 結華 7号館 3階 第9研究室 富永 真己 7号館 3階 第7研究室 山本十三代 7号館 3階 第5研究室 足立 安正 7号館 3階 第22研究室 櫻井 知賀 7号館3階 授業開始時に周知																																																																		
備考	体調管理に留意すること。																																																																		

科目名	公衆衛生看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Public Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2063a0		

授業概要・目的	地域で生活するあらゆる年代のあらゆる健康レベルの人々を対象とする公衆衛生看護について、その歴史的な変遷と成り立ちについて学ぶ。また社会環境の変化に影響を受け発展した、公衆衛生看護の基本となる概念と理論、ヘルスケアシステムと地域保健サービスの仕組みについて講義を通じて学び、地域看護のあり方を考える基礎的な内容を理解する。さらに、ヘルスプロモーションの理念とそれに関わる保健・医療・福祉制度の概要とともに保健師等の地域で活躍する看護職の活動について学び、公衆衛生看護における対象と活動分野について理解を深める。保健師として10年以上の豊富な実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護学の実例を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	1. 公衆衛生看護の歴史的な変遷と社会環境の変化による影響を踏まえ、その基本的な概念とヘルスプロモーションの理念について理解できる。 2. 地域で暮らす人々の健康問題を理解するとともに、プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションの理念に基づき展開される活動について説明できる。 3. 公衆衛生看護活動に関わる法制度と地域保健医療福祉システムを理解し、その目的と活動の基本的なプロセスについて説明できる。 4. 地域住民の健康と生活を支援するポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチをはじめ、保健師の活動
授業方法と留意点	対面での授業計画に沿った講義中心の内容です。教科書は今後他の授業や実習、国家試験の準備などにも使用するため必ず購入して下さい。教科書を用いて、毎回、予習・復習をするとともに、授業の際に用意してください。授業後は、Moodle による課題を実施します。必ず、実施し、提出して下さい (最終回の授業後は課題はなし)。昨今の社会の時事やニュース、視聴覚教材などを利用し、事例なども紹介しながら、学生の発言を促しながら、授業を進行します。発言に関しては、「授業の参加度」という点で評価に含めますので積極的に発言してください。
科目学習の効果 (資格)	保健・医療・福祉制度の概要とともに地域における看護職の活動を理解することで、今後、さらなる活躍が期待される地域包括ケアシステムの看護職の役割について理解を深め、考察することができる。 看護師・助産師国家試験においても出題される分野であり、試験対策として知識を習得する必要がある。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	公衆衛生看護学オリエンテーション、公衆衛生看護学の概念と保健師の活動	公衆衛生看護学オリエンテーション (カリキュラム上の位置づけと保健師免許、国家試験について)、公衆衛生看護学の概念と保健師の活動の場と対象、日本の健康政策について	事前: 保健福祉行政論及び家族看護学についてテキストを読んでくる (テキスト「公衆衛生看護学とは」) と同時に、関係する資料を調べて読み予習する (2時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。 Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。
2	公衆衛生看護の歴史の変遷	公衆衛生看護の歴史の変遷 (諸外国の公衆衛生看護、日本特有の公衆衛生看護活動体制と法、保健所と保健師の活動体制、新たな保健師活動への指針)	事前: テキスト「公衆衛生看護の歴史」を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。 Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。	
3	疾病予防、国内のヘルスプロモーションと公衆衛生看護	ヘルスプロモーションと公衆衛生看護 (プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションと「健康日本21」、日本におけるヘルスプロモーションの取り組みと成果)	事前: テキスト「ヘルスプロモーション」「社会環境の変化と健康課題」を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。 Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。	
4	ヘルスプロモーションの理論と方法	ヘルスプロモーションの展開 (ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ、国の政策と保健事業)	事前: テキスト「ヘルスプロモーション」「保健医療福祉システム」「社会環境の変化と健康課題」「保健師と地域保健活動」を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。 Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。	
5	保健行動と保健活動の理論と方法	保健行動と保健活動の理論とモデルと実際の取り組み (成人保健活動より)、保健指導と健康教育概論	事前: テキスト「ヘルスプロモーション」「保健医療福祉システム」「社会環境の変化と健康課題」「地域保健の活動」「成人保健概論」を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。 Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。	
6	公衆衛生看護活動 - 1	公衆衛生看護活動 - 1 保健指導と家庭訪問、健康相談、健康診査の概要	事前: テキスト「家庭訪問」を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。 Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。	
7	公衆衛生看護活動 - 2	公衆衛生看護活動 - 2 対象別の公衆衛生看護活動 (人々の発達段階に応じた看護活動、母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動)	事前: テキスト「成人保健概論」「母子保健概論」「高齢者保健概論」を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。 Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。	
8	公衆衛生看護活動方法 - 3	公衆衛生看護活動 - 3 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動 (精神保健・感染症概論)	事前: テキスト「精神保健概論」「感染症保健概論」を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。 Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。	
9	公衆衛生看護活動方法 - 4	公衆衛生看護活動 - 4 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動 (結核・難病概論)	事前: テキスト「結核対策における保健師活動」「難病保健概論」を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。 Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。	
10	公衆衛生看護活動 - 5	公衆衛生看護活動 - 5 グループ支援・組織化・地区組織活動	事前: テキスト「グループ支援・地域組織活動」を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。 Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。	
11	公衆衛生看護活動 - 6	公衆衛生看護活動 - 6 地域診断の概要 (地域診断の定義、地域	事前: テキスト「地域保健活動過程と保健師活動」を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。 Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。	

			診断の意義と目的、地域診断の理論とモデル、地域診断の方法)、地区踏査	る(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。 Moodle上の課題に取り組み、Moodleにて提出する。																
	12	公衆衛生看護活動 - 7	公衆衛生看護活動 - 7 地域診断の事例, 公衆衛生看護と医療経済、保健事業の計画策定と施策化、予算の仕組み、評価	事前:テキスト「地域保健活動過程と保健師活動」「公衆衛生看護管理」「医療経済と保健活動」を読んでくと同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。 Moodle上の課題に取り組み、Moodleにて提出する。																
	13	産業保健 1	産業保健 1 (産業保健・産業看護の理念と我が国の実態)	事前:テキスト「産業保健」を読んでくと同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。 Moodle上の課題に取り組み、Moodleにて提出する。																
	14	産業保健 2・学校保健	産業保健 2・学校保健 (学校保健と養護教諭の役割・活動の実際)	事前:テキスト「産業保健」「学校保健」を読んでくと同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。 Moodle上の課題に取り組み、Moodleにて提出する。																
	15	これからの保健師活動	保健師を取り巻く状況とこれからの公衆衛生看護活動	事前:テキスト「継続教育・専門的自律」「保健師活動の展望」を読んでくと同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。																
関連科目	公衆衛生学、医療経済論、保健医療福祉行政論、家族看護学、その他各領域の看護学概論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公衆衛生看護学.jp 6版</td> <td>鳩野洋子、神庭純子</td> <td>インターメディカル</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国民衛生の動向 2023/2024</td> <td></td> <td>厚生労働統計協会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	公衆衛生看護学.jp 6版	鳩野洋子、神庭純子	インターメディカル	2	国民衛生の動向 2023/2024		厚生労働統計協会	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	公衆衛生看護学.jp 6版	鳩野洋子、神庭純子	インターメディカル																	
2	国民衛生の動向 2023/2024		厚生労働統計協会																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	期末試験 90% (筆記試験の得点は 60%以上の取得をもって単位取得の必須条件とする)、授業後の課題の提出と参加度 10%、の合計 100%とで評価します。なお、授業態度不良の場合は減点する場合があります。																			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、教科書(公衆衛生看護学.jp 改訂第 5 版)の内容を中心に講義しますので、必ず購入し、予習・復習とともに毎回の授業の際に用意してください。</li> <li>・本科目は公衆衛生看護の実務者である保健師として 10 年以上の豊富な実務経験を有する教員が担当し、授業ではそれらの経験を踏まえ実践的な教育を取り入れ行います。</li> <li>・保健福祉行政論及び家族看護学の科目で学んだ内容を復習した上で臨んでください。</li> <li>・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、</li> </ul>																			
担当者の研究室等	富永真己 7号館3階研究室7																			
備考	追加の文献や資料などは授業中に紹介します。																			

科目名	看護研究 I	科目名 (英文)	Nursing Research I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN3069a0		

授業概要・目的	授業では、卒業研究を行うにあたり、研究とは何か、関心のあるテーマをどのように絞り込むのか、研究目的をどのように立てるのか、データは何をどのように収集するのか、集めたデータをどのように分析・解釈するのか、研究倫理とは何かなど、研究計画の立案に向けて研究の基本的事項を講義形式で身につける。
到達目標	研究の意義、目的、方法、プロセスなどを理解し、研究のイメージが具体的に描けるようになる。研究計画書が書けるようになる。研究倫理の意味と重要性を理解し、研究不正の重大性を認識できるようになる。
授業方法と留意点	講義(前半10コマ)とゼミ(後半5コマ)を組み合わせで行う。
科目学習の効果(資格)	研究の具体的プロセスと各段階で何をすればよいかわかるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			・予習をすること(教科書の該当箇所 p4-31) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
1	研究とは何か	研究の概要と研究テーマ	・予習をすること(教科書の該当箇所 p34-45) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
2	研究テーマを決める	概念図を描く	・予習をすること(教科書の該当箇所 p56-64, p74-81) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
3	文献の検索方法	主な文献検索ソフトの使い方と演習	・予習をすること(教科書の該当箇所 p86-108) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
4	研究の倫理	人体実験の歴史と研究の倫理	・予習をすること(教科書の該当箇所 p 50-54, p68-71, p283-298(285-291 除く)を) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
5	量的研究 (1)	研究論文の構成と内容	・予習をすること(教科書の該当箇所 p 246-270 を読む) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
6	量的研究 (2)	研究計画書と論文の書き方	・予習をすること(教科書の該当箇所 p166-184, p186-188, p199-204) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
7	量的研究 (3)	質問票の作り方	・予習をすること(教科書の該当箇所 p 50-54, p68-71, p283-292 を読む) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
8	質的研究 (1)	質的研究のリサーチ・クエスチョン	・予習をすること(教科書の該当箇所 p160-166, p185, p190-199) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
9	質的研究 (2)	データ分析	・予習をすること(教科書の該当箇所 p266-282, p246-264) (30分) ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること (30分)
10	まとめと演習	研究発表と論文作成、および研究計画書の書き方	
11	領域別ゼミ形式授業 1	各領域による	各領域による
12	領域別ゼミ形式授業 2	各領域による	各領域による
13	領域別ゼミ形式授業 3	各領域による	各領域による
14	領域別ゼミ形式授業 4	各領域による	各領域による
15	領域別ゼミ形式授業 5	各領域による	各領域による

関連科目	疫学、統計の基礎
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護研究	坂下玲子他	医学書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題および/または小テスト(100%)で評価する。60%以上を合格とする。
----------	---------------------------------------

	出席は、履修申請要領（看護学部）にある規定に従う。 （4/5以上の出席を成績評価の対象とする）
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を読むだけでは理解しにくいので毎回の授業には真剣に臨むこと。</li> <li>・授業資料は電子ファイルで事前にMoodleにて配布する。必要に応じて各自印刷して授業に臨むこと。</li> <li>・わからない点を次回授業までに解決するため、質問をすること。</li> <li>・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。</li> <li>・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。</li> </ul>
担当者の 研究室等	7号館3階24、各領域
備考	必要に応じて前回課題および/または小テストについて授業で解説する。

科目名	助産学概論	科目名 (英文)	Introduction to Midwifery
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井田 歩美, 河田 興, 但馬 まり子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6◎		
科目ナンバリング	NDN3074a0		

授業概要・目的	助産の歴史および母子保健の変遷を学び、助産の概念と意義、助産師の役割と専門性を学ぶ。また、助産ケアの基盤となる考え方や助産学領域に関連した薬剤に関する知識を学び、国際的な共通水準をもつ助産師業務や活動のあり方を学ぶ。
到達目標	1. 助産の概念と意義、助産師の役割と専門性を理解する。 2. 助産の文化と助産師の歴史および助産師教育の変遷と卒後教育を理解する。 3. 助産に関連した法律、わが国と諸外国の母子保健の動向と諸制度について理解する。 4. 助産学領域に関連した薬剤について理解する。 5. 助産に関連した倫理問題と周産期における喪失体験をした女性の心理について理解する。 6. 助産学における研究について理解する。
授業方法と留意点	講義とグループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に進めます。積極的に意欲をもって取り組んでください。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得のための必修科目です。助産師課程を志望する場合は必ず選択すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	助産の概念 助産学を構成する理論	助産の定義と意義、対象を理解するための理論、リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダー、性差医療について学ぶ。	事前学習：参考書1第1章、第3章 (p.62~70) を読み、予習する。(1時間) 事後学習：本時の内容を復習する。(1時間)
2	助産師の歴史と文化	古代から昭和時代の助産の変遷、諸外国の助産の変遷と文化における助産(妊娠・出産・育児)について学ぶ。	事前課題：参考書1第6章(医学書院)を読み、予習する。(1時間) 事後学習：本時の内容を復習する。(30分)
3	助産師と教育	助産師教育の変遷と卒後教育について学ぶ。	事前課題：参考書1第7章(医学書院)を参考に「助産師教育について」調べ、課題は何かを考えてくる。(2時間) 事後学習：本時の内容を復習する。(30分)
4	日本と諸外国の母子保健の動向(1)	日本と諸外国の母子保健の歴史と現状と母子保健の動向と諸制度について学ぶ。	事前学習：参考書1第5章を読み、予習する。(1時間) 事後学習：本時の内容を復習する。(1時間)
5	日本と諸外国の母子保健の動向(2)	日本と諸外国の母子保健の歴史と現状と母子保健の動向と諸制度について学ぶ。	事前学習：参考書1第5章を読み、予習する。(1時間) 事後学習：本時の内容を復習する。(1時間)
6	助産学領域に関連した薬剤(1)	ウィメンズヘルス領域に関連した薬剤(低用量ピル、更年期ホルモン療法、緊急避妊薬など)について学ぶ。	事前学習：配布資料および薬理学のテキストを読み、予習する。(1時間) 事後学習：本時の内容を復習する。(1時間)
7	助産学領域に関連した薬剤(2)	周産期領域に関連した薬剤(早期産治療薬、分娩促進剤など)について学ぶ。	事前学習：配布資料および薬理学のテキストを読み、予習する。(1時間) 事後学習：本時の内容を復習する。(1時間)
8	助産に関連する倫理(1)	生殖補助医療、人工妊娠中絶、減数手術について学ぶ。【VTR視聴】	事前学習：参考書1第4章を読み、予習する。(1時間) 事後学習：本時の内容を復習する。(1時間)
9	助産に関連する倫理(2)	出生前診断、着床前診断について学ぶ。【VTR視聴】	事前学習：参考書1第4章を読み、予習する。(1時間) 事後学習：本時の内容を復習する。(1時間)
10	リプロダクティブヘルスケア(1)	リプロダクティブヘルスケアの概念を理解し、プレコンセプションケア、DV防止、妊娠期からの虐待予防について学ぶ。	事前学習：母性看護学概論で学んだことを想起しながら、配布資料を読み、予習(1時間) 事後学習：本時の内容を復習(1時間)
11	リプロダクティブヘルスケア(2)	助産に関連した倫理とリプロダクティブヘルスケアについてグループワーク、発表準備を行う。	事前学習：母性看護学概論で学んだことを想起しながら、配布資料を読み、予習(1時間) 事後学習：本時の内容を復習(1時間)
12	リプロダクティブヘルスケア(3)	助産に関連した倫理とリプロダクティブヘルスケアについての発表およびディスカッションを行う。	事前学習：グループごとの発表準備を行い、資料を提出する。配布された発表資料を読み、質疑を準備する。(1時間) 事後学習：本時の内容を復習する。(1時間)
13	リプロダクティブヘルスケア(4)	助産に関連した倫理とリプロダクティブヘルスケアについての発表およびディスカッションを行う。	事前学習：グループごとの発表準備を行い、資料を提出する。配布された発表資料を読み、質疑を準備する。(1時間) 事後学習：本時の内容を復習する。(1時間)
14	期待通りの出産にならなかった女性や周産期における喪失体験をした女性へのケア	期待通りにならなかった出産を体験した女性や周産期における喪失体験をした女性の心理的特徴とケアについて学ぶ。	事前学習：配布資料を読み、予習する。(1時間) 事後学習：本時の内容を復習する。(1時間)
15	助産と研究	助産学におけるエビデンスに基づく実践の重要性について学ぶ。	事前学習：参考書1第3章 (p.71~96) を読み、予習する。(1時間) 事後学習：本時の内容を復習する。(1時間)

関連科目	疾病・治療論V, 母性看護学概論, 母性看護学援助論I・II, 母性看護学実習
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	
-----	--



	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座1 基礎助産学 [1]「助産学概論」	我部山キヨ子他	医学書院
	2	助産学講座2 基礎助産学 [2]「母子の基礎科学」	我部山キヨ子他	医学書院
	3	助産学講座9「地域母子保健・国際母子保健」	我部山キヨ子他	医学書院
評価方法 (基準)	試験：60%，課題30%，Shuttle Card：10%を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	助産師課程科目選考試験を受験するための先修科目であり，助産師を目指すそうとする学習の第一歩となる科目です。 正しい知識を習得することはもちろんですが，「助産とは」「助産師とは」について，じっくり考える機会になるよう，興味関心をもち積極的に取り組んでいきましょう。受験は考えていないが助産学を学んでみたい方の履修も歓迎ですが，より専門的な内容を学習しますし，グループワークもあります。必修科目を低学年次のうちにとっておこうという安易な動機での履修はご遠慮ください。			
担当者の 研究室等	井田 歩美（研究室12），但馬 まり子（研究室20）			
備考	教員の実習指導を考慮した開講日時となります。第1回講義でスケジュールを配布します。			

科目名	学校保健	科目名 (英文)	School Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期後半	授業担当者	矢本 良江
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3082a0		

授業概要・目的	教育の場としての学校における保健活動について学ぶとともに、学校保健の現代的課題を理解する。 児童生徒一人一人が自己実現を図りながら、生涯にわたって主体的に心身ともに健康な生活を営むことができるよう、学校保健の果たす役割について学ぶ。また、学校保健を構成する保健管理、保健教育、保健組織活動の3つの領域の内容や活動方法について学ぶ。
到達目標	1. 学校保健の概要を理解し説明できる。 2. 学校保健の現代的課題を理解できる。 3. 児童生徒等の健康を保持増進するために、個人あるいは組織的に支援する方法を理解する。 4. ヘルスプロモーションの理念の下、学校保健を学校、家庭及び地域社会との連携の視点から包括的に理解する。
授業方法と留意点	教科書および配布資料を用いた講義を予定している。
科目学習の効果 (資格)	保健師免許を取得したうえで申請することにより養護教諭2種免許状を取得することができる。 保健師国家試験においても出題される分野であり、知識を習得する必要がある。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	学校保健の概要	学校保健の定義と目的 学校保健の歴史 学校に関する法体系	教科書 P15-51 を読んで、学校保健とは何か、目的、学校保健に関する法律について調べてまとめる。 事後：レポート提出
	2	学校保健の仕組み	学校保健行政体系 学校保健の領域と構造 学校保健の対象と関係職員	教科書 P15-51 を読んで、学校保健の領域と構造について調べてまとめる。 事後：レポート提出
	3	子どもの発育発達と学校保健	子どもの心身の発育発達の特徴と発達課題 児童生徒に見られる主な疾患・異常	教科書 P155-178 を読んで、児童生徒によく見られる疾患、また精神疾患についても読んでおく。
	4	学校における看護活動の展開 (1)	学校保健計画と保健教育・保健管理 学校安全計画と校内救急体制の整備	教科書 P53-112 と P348~の学習指導要領 (平成 29 年告示) を読み、特に小学校分野を確認しておく。
	5	学校における看護活動の展開 (2)	保健室の機能 保健室経営計画	保健室の機能、保健室経営計画について調べておく。 事後：レポート提出
	6	学校における看護活動の実践 (1)	児童生徒の実態把握 ・健康観察と健康相談 ・健康診断	教科書 P213-242 を読んでおくこと。 児童生徒等の定期健康診断の検査項目と実施学年をまとめておく。 事後：レポート提出
	7	学校における看護活動の実践 (2)	特別な配慮が必要な児童生徒への支援	教科書 P243-256 を読んでおく。関係する内容の新聞や図書などで関心を持った部分をまとめてくる (体験談でも構わない)。 授業後：レポート提出
	8	学校における看護活動の実践 (3)	学校において予防すべき感染症と感染症対策 学校環境衛生	教科書 P179~P188、P257~P274 を読んで、学校において予防すべき感染症、出席停止期間、学校環境衛生基準を確認しておく。
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	学校保健ハンドブック 第7次改訂	教員養成系大学保健協議会編	ぎょうせい
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	学校保健実務必携 (第5次改訂版)	学校保健・学校安全実務研究会編著	第一法規 2020
	2	児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂		日本学校保健会
	3	学校において予防すべき感染症の解説 平成30年月発行		日本学校保健会

評価方法 (基準)	定期試験 (60%) 法的根拠が理解できているか。保健管理、保健教育、組織活動について系統的に学習できているか。養護教諭の役割を理解できているか。 受講態度と授業参加状況 (10%) 授業への積極的な参加を評価する。 課題レポートの提出と評価 (30%)
-----------	---

学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	全授業を通じての事前・事後学習 16 時間

科目名	産業保健	科目名 (英文)	Occupational Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期後半	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3083a0		

授業概要・目的	様々な産業分野で働く人々の健康にかかわる学問である産業保健について、歴史と関連法規と制度、活動について学ぶ。同時に、昨今の産業保健における課題について、事例などを通じて考察し、理解を深める。また、国内における労働衛生管理体制、労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS) 等の体制・制度と、人々の健康の保持・増進と疾病予防、産業保健スタッフの一員である看護職の役割と支援方法について理解する。さらに具体的な活動方法論について、事例を用いたグループワークによる演習を取り入れながら学ぶ。産業保健師として10年以上の豊富な実務経験をもつ教員が担当し、産業保健活動の実例を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	1. 産業保健の基本理念と制度、労働と健康との関わりについて理解できる。 2. 働く人々の労働と健康について支援する看護職の活動について理解できる。 3. 国内の産業保健活動における課題について十分に理解し、授業を通じて課題について考察できる。
授業方法と留意点	この授業は対面形式で教科書および配付資料を用いた講義および、グループワークもテーマによって取り入れた演習形式を取り入れた授業方法を予定している。教科書および配付資料は必ず毎回準備すること。授業後はMoodleでのミニ課題を必ず、実施すること(第8回はミニ課題はなし)。昨今の社会の時事やニュース、例なども紹介しながら、授業を進行するため、それらに日々関心をもってふれるようにすること。
科目学習の効果(資格)	今後、さらなる活躍が期待される職域の看護職の役割について理解を深め、考察することができる。 保健師・看護師・助産師国家試験においても出題される分野であり、試験対策として知識を習得する必要がある。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	産業保健の概念と歴史の変遷から発展してきた産業保健の関連法規と制度2	産業保健の概念と歴史の変遷から発展してきた産業保健の関連法規について既習内容を含め学ぶ。	教科書 p453-457 を読んで、確認し、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間) 授業後はのMoodleでのミニ課題を実施する。
3	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わり、国内の産業保健活動における課題1	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わりについて、国内の産業保健活動の実際を学び、課題について考察する。	教科書 p458-460 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間) 授業後はのMoodleでのミニ課題を実施する。
4	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わり、国内の産業保健活動における課題2	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わりについて、国内の産業保健活動の実際を学び、課題について考察する。	教科書 p461-463 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間) 授業後はのMoodleでのミニ課題を実施する。
5	産業保健に関する各種体制・制度と、組織と産業保健スタッフの役割と取り組み1	産業保健に関する各種体制・制度とともに、組織の産業保健活動に関わる産業保健スタッフの役割と取り組みについて学ぶ。	教科書 p465-467 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間) 授業後はのMoodleでのミニ課題を実施する。
6	産業保健に関する各種体制・制度と、組織と産業保健スタッフの役割と取り組み2	産業保健に関する各種体制・制度とともに、組織の産業保健活動に関わる産業保健スタッフの役割と取り組みについて学ぶ。	教科書 p448-468 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間) 授業後はのMoodleでのミニ課題を実施する。
7	看護職の役割と支援方法、具体的な活動1	看護職の役割と支援方法、具体的な産業保健活動について学ぶ。さらに事例を紹介し、事例を用いたグループワークによる演習を通じて理解を深め、課題を考察する。	教科書 p448-468 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間) 授業後はのMoodleでのミニ課題を実施する。
8	看護職の役割と支援方法、具体的な活動2とまとめ	看護職の役割と支援方法、具体的な産業保健活動について、事例を用いたグループワークによる演習を通じて理解を深め、課題を考察する。また全体の学びを振り返り、理解を深める。	前回の授業の復習をすると同時に、教科書 p448-468 を読んで、国内の産業保健活動における課題について考察してくる。(事前事後各1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 公衆衛生学、医療経済論、保健医療福祉行政論、その他各領域の看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2	産業看護学	河野啓子	日本看護協会出版会
3	公衆衛生看護学Ⅱ 学校保健・産業保健	荒木田美香子他	医歯薬出版株式会社

評価方法 期末試験 80点、授業後の課題と授業への参加姿勢 20点、合計 100点として評価する。

(基準)	遅刻・欠席、授業態度不良の場合は減点する。
学生へのメッセージ	産業保健師として 20 年以上の豊富な実務経験をもつ教員が担当し、産業保健活動の実例を紹介しながら授業を進行します。授業では、テキストや資料を使用しますので、毎回必ず持参してください。また社会で日々起こっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれインターネット情報だけに偏らない・頼らない習慣を持つようにして下さい。
担当者の研究室等	富永真己 7号館3階研究室7
備考	本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業では座席を指定とすることがあります。追加の文献や資料などは授業中に紹介します。

科目名	保健統計学	科目名 (英文)	Health Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期後半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3084a0		

授業概要・目的	授業では、集団の健康状態や疾病の分布、およびその関連要因を明らかにするために用いられる健康指標や統計手法の基本的事項について体系的に学ぶとともに、行政統計の概要と実際について学ぶ。
到達目標	t 検定、 $\chi^2$ 乗検定などの基本的な統計とその基礎事項について体系的に理解でき、その意味がわかる。 厚生統計についての理解が深まる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	基本的な統計の意味を理解し、統計を適切に利用することができる。 厚生統計についての理解が深まり、結果の適切な解釈と利用ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	統計の基本	データの種類と確率分布	(事前) 教科書 p12-22, p41-47 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
2	推定	母集団の平均値と割合の推定	(事前) 教科書 p68-72 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
3	検定 (1)	パラメトリック検定 (比例尺度・間隔尺度)	(事前) 教科書 p72-90 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
4	検定 (2)	ノンパラメトリック検定 (順序尺度 (対応あり))	(事前) 教科書 p94-98 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
5	検定 (3)	ノンパラメトリック検定 (順序尺度 (対応なし)、名義尺度)	(事前) 教科書 p102-106 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
6	相関と回帰	相関係数、散布図、回帰式	(事前) 教科書 p53-65 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
7	厚生統計の概要	国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査など	(事前) 教科書 p148-182 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
8	厚生統計の実際	厚生統計の実際について学ぶ	(事前) 前回授業の配布資料と教科書 p148-182 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料で復習すること (30分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	統計の基礎
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ていねいな保健統計学 第2版	白戸亮吉他	羊土社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厚生統計テキストブック第7版	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
2				
3				

評価方法 (基準)	課題および/または小テスト(100%)で評価する。 60%以上を合格とする。 出席は、履修申請要領(看護学部)にある規定に従う。 (4/5以上の出席を成績評価の対象とする)
-----------	---

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年生で学んだ「統計の基礎」の授業内容の理解が前提で授業を進めるので、しっかり復習しておくこと。</li> <li>授業資料は電子ファイルで事前に Moodle にて配布する。必要に応じて各自印刷して授業に臨むこと。</li> <li>わからない点を次回授業までに解決するため、質問をすること。</li> <li>授業中の私語、教室の出入りは厳禁。</li> <li>授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。</li> </ul>
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階24
----------	---------

備考	必要に応じて前回課題および/または小テストについて授業で解説する。
----	-----------------------------------

科目名	公衆衛生看護学活動論 I	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Activity I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	足立 安正, 富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3086a0		

授業概要・目的	対象理解や看護実践に繋がる専門的知識を身につけるために、公衆衛生看護活動の基礎となる対象別・発達別公衆衛生看護活動の概要と方法について学ぶ。また、地域における公衆衛生看護管理について、看護管理の基本である組織運営管理、人事管理、予算管理、情報管理、地域ケアの質の管理、リスク管理について学ぶ。特に、健康危機管理に関して、健康危機管理体制と保健師の機能と役割、健康危機管理の種類に応じた活動に関して、その実例と共に学ぶ。 保健師としての実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護活動の実例を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	(1) 母子・成人・高齢者・精神・障害児者・難病・感染症保健活動の基本理念と対象のニーズについて理解することができる。 (2) 母子・成人・高齢者・精神・障害児者・難病・感染症保健活動の法制度や政策・施策について理解することができる。 (3) 母子・成人・高齢者・精神・障害児者・難病・感染症保健活動の実践について理解することができる。 (4) 地域の人々の特性・ニーズに基づく新規事業立ち上げの過程を説明できる。 (5) 地方自治体における予算のしくみと獲得方法が説明できる。 (6) 個人、家族に
授業方法と留意点	この授業は遠隔授業の形態で、教科書および配付資料を用いた講義やディスカッションにより進行する。 教科書および配付資料は必ず毎回準備すること。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のためには本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	保健師の支援技術 1 家庭訪問	オリエンテーション 家庭訪問の目的と対象、技術 家庭訪問の進め方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
2	保健師の支援技術 2 健康診査	健康診査の目的と対象、契機 健康診査の企画と方法	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
3	保健師の支援技術 3 健康相談	保健師が実施する健康相談 健康相談の進め方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
4	保健師の支援技術 4 健康教育	保健師が実施する健康教育 健康教育の進め方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
5	母子保健活動	母子保健の現状と政策・施策 母子保健活動の実際と保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
6	成人保健活動 1	成人保健の現状と政策・施策 健康づくりのための保健活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
7	成人保健活動 2	成人保健の現状と政策・施策 生活習慣病予防のための保健活動 成人保健活動の実際と保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
8	精神保健活動	精神保健の現状と政策・施策 精神障害者の生活特性 精神保健活動の実際と保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
9	障害者保健活動	障害者(児)保健の現状と政策・施策 障害者(児)保健活動の実際と保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
10	高齢者保健活動	高齢者保健の現状と政策・施策 高齢者保健活動の実際と保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
11	難病保健活動	難病保健の現状と政策・施策 難病保健活動の実際と保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
12	感染症保健活動 歯科保健活動	感染症保健の現状と政策・施策 感染症保健活動の実際と保健師の役割 歯科保健の現状と政策・施策	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
13	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理の基本 公衆衛生看護管理の実際と特徴 組織運営管理、人事管理、予算管理、情報管理、地域ケアの質の管理、リスク管理	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
14	健康危機管理 1	健康危機管理の体制整備と平常時の活動 災害発生時の保健活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
15	健康危機管理 2	健康危機としての児童虐待 地域における児童虐待対策と保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)

関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ、保健医療福祉行政論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆衛生看護学.jp データ更新版第5版	鳩野洋子, 神庭純子	インターメディカル
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2023/2024	厚生労働統計協会	一般財団法人 厚生労働統計協会
	2	新版 保健師業務要覧 (最新版)	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代	日本看護協会出版
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 90%と毎回の提出物 10%で評価する。 遅刻・欠席、授業態度不良の場合は減点することがある。			
学生へのメッセージ	この科目では、公衆衛生看護に関する政策や各種制度を学びます。社会の動きとも連動しますので、新聞やニュースをみるなど社会に関心を向けると、授業内容の理解が深まります。			
担当者の研究室等	富永真己 7号館3階 7研究室 足立安正 7号館3階 22研究室			
備考				

科目名	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Activity II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	富永 真己, 足立 安正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3087a0		

授業概要・目的	対象理解や看護実践に繋がる専門的知識を身につけるとともに、広く多角的に情報を収集し、科学的根拠に基いた問題解決能力を身につけるために、公衆衛生看護活動の基本となる個人・家族・集団・組織・地域を対象とした活動方法と、各場面における保健師の活動内容および支援技術について学ぶ。 保健師としての実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護活動の実例を踏まえ、支援技術の実際を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	(1) 主要な公衆衛生看護実践技術(家庭訪問、健康相談、保健指導、健康教育等)の方法を説明することができる。 (2) 発達段階別の公衆衛生看護対象(母子・成人・高齢者)における保健活動を理解し、その支援方法の実際について説明できる。
授業方法と留意点	教科書および配付資料を用いた講義と演習およびグループディスカッションによって行う。 教科書および配付資料を必ず毎回持参すること。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	新生児訪問指導 2	講義・演習 新生児訪問の実際 事例のアセスメントと訪問計画の立案	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
3	特定健診制度 1	講義 特定健康診査と特定保健指導について	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
4	特定健診制度 2	講義・演習 特定保健指導のすすめ方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
5	乳幼児健康診査 1	講義 乳幼児の成長・発達と保健指導	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
6	乳幼児健康診査 2	講義 健診の意義、問診項目と把握すべき情報、診察と保健指導のポイント	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
7	保健師の活動の実際	行政における保健師の働き方や公衆衛生看護活動の実際	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
8	健康相談	健康相談の意味と保健師が実施する健康相談 健康相談が実施される場と進め方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
9	グループ支援・組織化	グループ支援の特徴と意義、技術 グループ支援に共通する理論 地域組織活動の考え方と種類、支援	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
10	健康教育 1	講義・演習 健康教育と保健師の役割 健康教育による支援の実際	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
11	健康教育 2	演習 演習オリエンテーション 健康教育の計画立案 1	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
12	健康教育 3	演習 健康教育の計画立案 2	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
13	健康教育 4	演習 健康教育の計画立案 3	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
14	健康教育 5	演習 健康教育の発表準備	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
15	健康教育 6	演習 健康教育の実施と評価	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)

関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ、保健医療福祉行政論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆衛生看護学.jp データ更新版第5版	嶋野洋子、神庭純子	インターメディカル
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 保健師業務要覧 (最新版)	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代 (編)	日本看護協会出版
	2	国民衛生の動向 2023/2024	厚生労働統計協会 (編)	厚生労働統計協会



	3		
評価方法 (基準)	各課題提出物 90%、プレゼンテーション 10% 授業態度不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。		
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は公衆衛生看護の実務者である保健師として 10 年以上の豊富な実務経験を有する教員が担当し、授業ではそれらの経験を踏まえ実践的な教育を取り入れ行います。授業では、テキストや資料は必ず毎回持参してください。</li> <li>・公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論 I、公衆衛生学、保健福祉行政論及び家族看護学、の科目で学んだ内容を復習した上で臨んでください。</li> <li>・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼らない習慣を持つようにして下さい。</li> <li>・</li> </ul>		
担当者の 研究室等	富永：7 号館 3 階 7 研究室 足立：7 号館 3 階 22 研究室		
備考			

科目名	公衆衛生看護学演習 I	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Method and Practice I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	足立 安正, 富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3087a0		

授業概要・目的	科学的根拠に基いた問題解決能力を身につけるとともに、それに裏打ちされた安全・安楽な看護を提供するための実践能力を身につけるために、公衆衛生看護活動の対象となる個人・家族・集団に対する保健師活動について、公衆衛生看護の展開に必要な知識と技術を演習により学ぶ。保健師としての実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護活動の実例を踏まえ、支援技術の実際を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	(1) 対象者の生活様式、行動様式、経済状況、習慣、価値観など生活や文化に配慮した支援ができる。 (2) 対象者のプライバシーに配慮し、個人情報の収集・管理を適切に行うことができる。 (3) 対象者がもつ問題解決能力に自らが気づくように支援ができる。 (4) 対象者の考えを尊重した支援計画の立案および指導を実施することができる。 (5) 個別支援の場において、アセスメントの確認、支援の実施、結果の把握と評価ができる。 (6) 体験した演習の結果を、目的に沿って記録できる。 (7) 演習の結果に
授業方法と留意点	教科書および配付資料を用いた講義と演習およびグループディスカッションによって行う。 教科書および配付資料は必ず毎回持参すること。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	新生児訪問指導技術 1	演習 演習オリエンテーション 新生児の観察と身体計測 1	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
2	新生児訪問指導技術 2	演習 新生児の観察と身体計測 2	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
3	新生児訪問指導技術 3	演習 新生児の観察と身体計測 3	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
4	新生児訪問指導技術 4	演習 新生児訪問指導のロールプレイ 訪問記録と評価	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
5	特定保健指導 1	講義 健康診査の結果の見方	特定健康診査および特定保健指導の制度に関する こと、メタボリックシンドロームに関する基礎知識 (病態や診断、食生活と運動の指導内容など)につ いて事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。 (事前・事後で各 30 分)
6	特定保健指導 2	講義・演習 特定保健指導の実施に向けたアセス メントの実際	特定健康診査および特定保健指導の制度に関する こと、メタボリックシンドロームに関する基礎知識 (病態や診断、食生活と運動の指導内容など)につ いて事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。 (事前・事後で各 30 分)
7	特定保健指導 3	演習 保健指導のロールプレイ	特定健康診査および特定保健指導の制度に関する こと、メタボリックシンドロームに関する基礎知識 (病態や診断、食生活と運動の指導内容など)につ いて事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。 (事前・事後で各 30 分)
8	乳幼児健康診査 1	講義 演習オリエンテーション 乳幼児健診の実際(4 か月児健診)	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
9	乳幼児健康診査 2	演習 4 か月児健診における問診	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
10	乳幼児健康診査 3	講義 乳幼児健診の実際(1 歳 6 か月児健診)	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
11	乳幼児健康診査 4	演習 1 歳 6 か月児健診における問診	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
12	乳幼児健康診査 5	講義 乳幼児健診の実際(3 歳児健診)	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
13	乳幼児健康診査 6	演習 3 歳児健診における問診	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
14	感染症・難病訪問指導 1	講義・演習 演習オリエンテーション 家庭訪問(難病/結核)計画の立案	筋萎縮性側索硬化症と脊髄小脳変性症、多系統萎縮 症、パーキンソン病に関する基礎知識(疫学や病態、 症状、治療、予後など)結核に関する基礎知識(疫学 や発生病理、診断、治療、管理など)を事前に学習 し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後 で各 30 分)
15	感染症・難病訪問指導 2	演習 家庭訪問(難病/結核)計画の立案	筋萎縮性側索硬化症と脊髄小脳変性症、多系統萎縮 症、パーキンソン病に関する基礎知識(疫学や病態、

			事例検討	症状、治療、予後など)結核に関する基礎知識(疫学や発生病理、診断、治療、管理など)を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各30分)																
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ、保健医療福祉行政論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公衆衛生看護学.jp データ更新版第5版</td> <td>鳩野洋子、神庭純子</td> <td>インターメディカル</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	公衆衛生看護学.jp データ更新版第5版	鳩野洋子、神庭純子	インターメディカル	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	公衆衛生看護学.jp データ更新版第5版	鳩野洋子、神庭純子	インターメディカル																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国民衛生の動向 2023/2024</td> <td>厚生労働統計協会</td> <td>一般財団法人 厚生労働統計協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新版 保健師業務要覧 (最新版)</td> <td>井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代</td> <td>日本看護協会出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国民衛生の動向 2023/2024	厚生労働統計協会	一般財団法人 厚生労働統計協会	2	新版 保健師業務要覧 (最新版)	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代	日本看護協会出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国民衛生の動向 2023/2024	厚生労働統計協会	一般財団法人 厚生労働統計協会																	
2	新版 保健師業務要覧 (最新版)	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代	日本看護協会出版																	
3																				
評価方法 (基準)	各演習の課題提出物 80%、実技試験 20% 授業態度不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。																			
学生へのメッセージ	保健師の支援技術を演習形式で学んでいきます。集中講義でまた、グループワークも多く行いますので、自身の心身の体調管理には十分に気を付けて、毎回出席できるようにしてください。多職種連携のもと様々な住民への健康保持・増進等を支援する保健師において、自らが心身の健康管理に努めることや、人々とのコミュニケーションとそれによる良好な関係の形成は、基本的かつ重要な能力です。そのため、学生間のグループワークでコミュニケーションを通して調和を保ち良好な人間関係を形成することはもとより、日ごろから多様な人々とのコミュニケーション																			
担当者の研究室等	富永真己 7号館3階 7研究室 足立安正 7号館3階 22研究室																			
備考																				

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1301a1		

授業概要・目的	<p>「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためでしかないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいると知っ ていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって異なり、そこに優劣はないと したら、他人にアドバイスしたり批判することは失礼なことだろうか?」</p> <p>このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある (人によっては常に考えている) ことではない かと思います。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題 (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、人種差 別、ジェンダー等) に関してどのような倫理学、哲学、宗教上の主張が存在するかを学びます。また、それらと対照することで自分自身の常識を 自覚し、再検討することが目的です。</p>
到達目標	授業で扱う現代社会の諸テーマ (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道德の関係、非利己性、寄付の義務等) について、『現実をみつめる道德哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳、晃洋書房) の議論 を参考に、倫理的な視点を身に着ける。
授業方法と留意点	Teams を使用して、講義原稿と課題読書を配布します (毎回、ある程度の読書量があります)。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に 関する小問題に答えてもらいます。
科目学習の 効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、道德と はどういうことか (第 1 章) (1)	「道德」の定義、哲学との関係	予習: なし 復習: 読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い) を読むこと
2	道德とはどういうことか (第 1 章) (2)	道德は定義できるか、道德の最小概念、 回復の見込みのない乳児の権利	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い) を読むこと
3	文化的相対主義 (第 2 章)	異なる文化はいかにして道德規範を持 つのか、文化的相対主義を本気で受け止 めるとどうなるか、文化的相対主義から 何を学ぶことができるか	2 に同じ
4	道德は宗教に基づくか (第 4 章)	道德と宗教の関係、道德は神の命令か、 キリスト教と中絶の問題	2 に同じ
5	心理学的利己主義 (第 5 章)、 倫理的利己主義 (第 6 章)	人間は非利己的であることはできるか、 「どんなことも結局自分のためでしか ない」という主張は本当か 飢餓救済に寄付する義務はあるのか、 「何が人のためになるかは難しい」「自 分のためになることだけをやるべきで ある」という主張は本当か	2 に同じ
6	功利主義者のアプローチ (第 7 章)	功利主義、幸福計算、安楽死、動物の権 利の問題、ベンサム、ミル	2 に同じ
7	功利主義をめぐる議論 (第 8 章)	功利主義への批判的な議論の紹介	2 に同じ
8	絶対的道德規則はあるのか (第 9 章)	カントの倫理学、定言命法、仮言命法	2 に同じ
9	カントと人格の尊重 (第 10 章)	カントの倫理学、「目的の国」、刑罰の理 論における応報主義	2 に同じ
10	社会契約の思想 (第 11 章)	ホッブズの社会契約説、囚人のジレン マ、市民的不服従についての問題	2 に同じ
11	社会契約の思想 (第 11 章) (2)	ホッブズの社会契約説、囚人のジレン マ、市民的不服従についての問題	2 に同じ
12	フェミニズムと気づかひの 倫理 (第 12 章)、徳の倫理 (第 13 章)	コールバーグ、ギリガン、女と男は倫理 についての考えが違うか アリストテレスの徳倫理、様々な徳	2 に同じ
13	AI は人間に代わることが できるか (1)	ハイデガーの後期思想	2 に同じ
14	AI は人間に代わることが できるか (2)	ハイデガーの後期思想	2 に同じ
15	満足のいく道德説とはいか なるものか (第 14 章)	ローティ、マイケル・サンデル、思い 上がりのない道德、道德共同体、正義と公 正	2 に同じ

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 現実をみつめる道德哲学</td> <td>ジェームズ・レイチェルズ著、次 田憲和訳</td> <td>晃洋書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、次 田憲和訳	晃洋書房	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	新版 現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、次 田憲和訳	晃洋書房													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>倫理学入門 アリストテレスから生殖技術、AI まで</td> <td>品川哲彦</td> <td>中公新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>現実をみつめる道德哲学</td> <td>ジェームズ・レイチェルズ著、古 牧徳生・次田憲和訳</td> <td>晃洋書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	倫理学入門 アリストテレスから生殖技術、AI まで	品川哲彦	中公新書	2	現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、古 牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	倫理学入門 アリストテレスから生殖技術、AI まで	品川哲彦	中公新書													
	2	現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、古 牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房													
3																	

評価方法 (基準)	定期的な小テスト：100% (Google Form によって提出)
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師控室
備考	授業では以上のテーマを順次扱う予定ですが、進行状況によっては、内容や順番が変更される可能性があります。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。非常勤講師室等における対応可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1301a1		

授業概要・目的	<p>「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためでしかないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいると知っ ていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって異なり、そこに優劣はないと したら、他人にアドバイスしたり批判することは失礼なことだろうか?」</p> <p>このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある (人によっては常に考えている) ことではない かと思います。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題 (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、人種差 別、ジェンダー等) に関してどのような倫理学、哲学、宗教上の主張が存在するかを学びます。また、それらと対照することで自分自身の常識を 自覚し、再検討することが目的です。</p>
到達目標	授業で扱う現代社会の諸テーマ (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道德の関係、非利己性、寄付の義務等) について、『現実をみつめる道德哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳、晃洋書房) の議論を参考に、倫理的な視点を身に着ける。
授業方法と留意点	Teams を使用して、講義原稿と課題読書を配布します (毎回、ある程度の読書量があります)。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に関する小問題に答えてもらいます。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、道德とはどういうことか (第 1 章) (1)	「道德」の定義、哲学との関係	予習：なし 復習：読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋であることが多い) を読むこと
2	道德とはどういうことか (第 1 章) (2)	道德は定義できるか、道德の最小概念、回復の見込みのない乳児の権利	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋であることが多い) を読むこと
3	文化的相対主義 (第 2 章)	異なる文化はいかにして道德規範を持つのか、文化的相対主義を本気で受け止めるとどうなるか、文化的相対主義から何を学ぶことができるか	2 に同じ
4	道德は宗教に基づくか (第 4 章)	道德と宗教の関係、道德は神の命令か、キリスト教と中絶の問題	2 に同じ
5	心理学的利己主義 (第 5 章)、倫理的利己主義 (第 6 章)	人間は非利己的であることはできるか、「どんなことも結局自分のためでしかない」という主張は本当か 飢餓救済に寄付する義務はあるのか、「何が人のためになるかは難しい」「自分のためになることだけをやるべきである」という主張は本当か	2 に同じ
6	功利主義者のアプローチ (第 7 章)	功利主義、幸福計算、安楽死、動物の権利の問題、ベンサム、ミル	2 に同じ
7	功利主義をめぐる議論 (第 8 章)	功利主義への批判的な議論の紹介	2 に同じ
8	絶対的道德規則はあるのか (第 9 章)	カントの倫理学、定言命法、仮言命法	2 に同じ
9	カントと人格の尊重 (第 10 章)	カントの倫理学、「目的の国」、刑罰の理論における応報主義	2 に同じ
10	社会契約の思想 (第 11 章)	ホッブズの社会契約説、囚人のジレンマ、市民的不服従についての問題	2 に同じ
11	社会契約の思想 (第 11 章) (2)	ホッブズの社会契約説、囚人のジレンマ、市民的不服従についての問題	2 に同じ
12	フェミニズムと気づかひの倫理 (第 12 章)、徳の倫理 (第 13 章)	コールバーグ、ギリガン、女と男は倫理についての考えが違うか アリストテレスの徳倫理、様々な徳	2 に同じ
13	AI は人間に代わることができるか (1)	ハイデガーの後期思想	2 に同じ
14	AI は人間に代わることができるか (2)	ハイデガーの後期思想	2 に同じ
15	満足のいく道德説とはいかになるものか (第 14 章)	ローティ、マイケル・サンデル、思い上がりのない道德、道德共同体、正義と公正	2 に同じ

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 現実をみつめる道德哲学</td> <td>ジェームズ・レイチェルズ著、次田憲和訳</td> <td>晃洋書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、次田憲和訳	晃洋書房	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	新版 現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、次田憲和訳	晃洋書房													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>倫理学入門 アリストテレスから生殖技術、AI まで</td> <td>品川哲彦</td> <td>中公新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>現実をみつめる道德哲学</td> <td>ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳</td> <td>晃洋書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	倫理学入門 アリストテレスから生殖技術、AI まで	品川哲彦	中公新書	2	現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	倫理学入門 アリストテレスから生殖技術、AI まで	品川哲彦	中公新書													
	2	現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房													
3																	

評価方法 (基準)	定期的な小テスト：100% (Google Form によって提出)
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師控室
備考	授業では以上のテーマを順次扱う予定ですが、進行状況によっては、内容や順番が変更される可能性があります。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。非常勤講師室等における対応可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1302a1		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまうがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけでなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出くわることになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人間は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において登場する問題と考え方のいくつかを学びます。
到達目標	1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ (DP1)
授業方法と留意点	配布資料を教科書として用いる。 授業終わりにコメントを提出してもらい (方法は初回授業で指示する)、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果 (資格)	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方や評価基準等を確認する	予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える (30分)
2	なぜ「哲学」をするのか?	古代ギリシアの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
3	「知る」とは何か?	プラトンの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
4	「絶対に疑えないもの」は何か?	デカルトの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
5	物事を「経験」するとはどういうことか?	ロックの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
6	世界は本当に「存在」するの か?	バークリの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
7	実は「私」しか存在して いないのではないのか?	独我論を学ぶ	予習：主題となる議論について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
8	「理性」はどこまで考えら れるのか?	カントの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
9	「自由」とは何か?	近代哲学における自由概念の変遷を学 ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
10	存在しないものに「感情」を 抱くか?	フィクションについての考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
11	どうすれば「人間の生きる世 界」を観察することができる のか?	フッサールの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
12	「言葉」は「意味」を伝える ためだけのものか?	サールの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
13	「他者」とはどういうもの か?	レヴィナスの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
14	「客観性」とはどのようなこ とか?	正しさの多様性について考える	予習：主題となる議論について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
15	まとめ	講義全体を振り返り、哲学の意義を考え る	予習・復習：講義ノートを見直す (計1時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>観念論ってなに? オックスフォードより愛をこめて</td> <td>富田恭彦</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	観念論ってなに? オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	観念論ってなに? オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書														
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業内課題80%、毎回の授業コメント20%の割合で評価する。																



学生へのメッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性（生きている間にできること）が広がります。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室で対応する。

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1302a1		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまうがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけでなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出くわることになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人間は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において登場する問題と考え方のいくつかを学びます。
到達目標	1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ (DP1)
授業方法と留意点	配布資料を教科書として用いる。 授業終わりにコメントを提出してもらい (方法は初回授業で指示する)、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果 (資格)	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の進め方や評価基準等を確認する	予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える (30分)
2	なぜ「哲学」をするのか？	古代ギリシアの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
3	「知る」とは何か？	プラトンの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
4	「絶対に疑えないもの」は何か？	デカルトの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
5	物事を「経験」するとはどういうことか？	ロックの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
6	世界は本当に「存在」するの か？	バークリの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
7	実は「私」しか存在して いないのではないのか？	独我論を学ぶ	予習：主題となる議論について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
8	「理性」はどこまで考えら れるのか？	カントの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
9	「自由」とは何か？	近代哲学における自由概念の変遷を学 ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
10	存在しないものに「感情」を 抱くか？	フィクションについての考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
11	どうすれば「人間の生きる世 界」を観察することができる のか？	フッサールの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
12	「言葉」は「意味」を伝える ためだけのものか？	サールの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
13	「他者」とはどういうもの か？	レヴィナスの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
14	「客観性」とはどのようなこ とか？	正しさの多様性について考える	予習：主題となる議論について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
15	まとめ	講義全体を振り返り、哲学の意義を考え る	予習・復習：講義ノートを見直す (計1時間)	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて</td> <td>富田恭彦</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書														
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業内課題80%、毎回の授業コメント20%の割合で評価する。																

学生へのメッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性（生きている間にできること）が広がります。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室で対応する。

科目名	生命倫理	科目名 (英文)	Bioethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤塚 京子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01310a1		

授業概要・目的	医療・ケアの専門職としてその社会的な責務を果たすためには、ケアの実践において人々の人権を尊重することが求められる。また、科学技術の急速な進歩に伴う医療現場における多くの倫理的な課題についての理解が必要である。本科目では、現代の医療が直面する倫理的諸問題の歴史的・社会的背景を、具体的事例を交えながら考察し、生命倫理と患者主体の医療の中で看護職の果たす役割について学習する。
到達目標	現代の医療は、生殖補助医療、出生前診断、安楽死・尊厳死、臓器移植・脳死、ターミナルケア等多くの倫理的問題を抱えている。このような倫理的問題の本質とさまざまな側面を、具体的事例を通して学ぶことで、自ら問題を抽出し、より良いケアを考える力を身につけることができる。
授業方法と留意点	『テキストブック 生命倫理 (第2版)』(霜田求編、法律文化社)を教科書とし、教員が作成した資料を配布する。講義中心。毎回コメントシートの提出を課題とする。詳細については、初回の授業で説明する。
科目学習の効果 (資格)	看護職に就くものとして備えるべき高い倫理観の醸成に資し、看護の専門科目を学ぶ上での基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、生命倫理の基本構造について	講義：生命倫理の成立過程、米国における「バイオエシックス」、生命倫理の射程、方法や理論について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
2	臨床倫理と医療におけるコミュニケーションについて	講義：臨床倫理とはなにか、事例検討の形態、医療におけるコミュニケーションなどについて説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
3	ケアとケアの倫理について	講義：ケアとはなにか、医療におけるケア、ケアの倫理について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
4	生殖補助医療について	講義：生殖補助医療技術やその倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
5	人工妊娠中絶と出生前診断、着床前診断について	講義：人工妊娠中絶、出生前診断、着床前診断について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
6	子どもの医療について	講義：子どもをめぐる医療や自己決定に関する倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
7	高齢者医療と認知症について	講義：高齢者医療の特色や超高齢社会における生命倫理について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
8	終末期医療と尊厳死について	講義：終末期医療や尊厳死をめぐる倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
9	安楽死と医師による自殺幫助について	講義：安楽死と医師による自殺幫助について、日本と海外の動向を交えながら説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
10	脳死と臓器移植について	講義：脳死と臓器移植の歴史や現状、倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
11	遺伝子医療について	講義：遺伝子医療の現状やその倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
12	再生医療について	講義：再生医療の現状やその倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
13	生命操作について	講義：生命操作の中でもゲノム編集技術に関する倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
14	研究倫理について	講義：研究倫理の歴史的背景や医学研究に関する指針について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
15	医療と人権について	講義：医療と人権について、健康の権利、公害について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。

関連科目 看護専門科目すべてに関連する。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストブック 生命倫理 (第2版)	霜田 求 編	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護のための生命倫理 [改訂3版]	小林亜津子	ナカニシヤ出版
2				
3				

評価方法 (基準) 毎回のコメントシート(30%)、期末テスト(70%)により評価する。全体で60%以上獲得で合格。

学生へのメッセージ	医療・ケアの現場で起きている、あるいはこれから起きる可能性がある諸問題について学びます。病気や障害を抱える人に接するうえで大事にしなければならない、専門職としての考え方・視点とともに、様々な立場の当事者の視点や社会の関わりについても理解していく一助となればと思います。
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室。担当教員の在室時間が僅かなため、授業に関する質問等は毎授業で配布するコメントシートやメールで受け付ける。
備考	

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01311a1		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野である。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。

授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で進める。
----------	------------------

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	小中高の地理と大学の地誌学	講義ノートを復習しておくこと (事後学習 3時間)
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
3	熱帯気候と住民生活 (2)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
4	熱帯気候と住民生活 (3)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
5	熱帯気候と住民生活 (4)	発展途上国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	季節河川と地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	乾燥地帯で生きる人々 (1)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々 (2)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	冷涼地域の農業	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の牧畜	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 3時間)

関連科目	人文地理学
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門：気候・地形・動植物と人間生活	水野一晴	筑摩書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イヌイット：「極北の狩猟民」のいま	岸上伸啓	中央公論新社
	2	おいしいコーヒーの経済論：「キリマンジャロ」の苦い現実<増補版>	辻村英之	太田出版
	3	アンデス自然学	水野一晴編	古今書院

評価方法 (基準)	期末試験 70%、授業内課題 30% 授業内課題は、各回の授業内容に関する穴埋め問題等である。
-----------	--

学生へのメッセージ	高校で地理を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。また、簡単な質問等は授業内課題の余白部分に記入してください。翌週の授業内で回答します。
-----------	--

担当者の研究室等備考	8号館1階 (非常勤講師室)。
------------	-----------------

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01311a1		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野である。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。

授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で進める。
----------	------------------

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	小中高の地理と大学の地誌学	講義ノートを復習しておくこと (事後学習 3時間)
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
3	熱帯気候と住民生活 (2)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
4	熱帯気候と住民生活 (3)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
5	熱帯気候と住民生活 (4)	発展途上国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	季節河川と地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	乾燥地帯で生きる人々 (1)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々 (2)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	冷涼地域の農業	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の牧畜	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 3時間)

関連科目	人文地理学
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界がわかる地理学入門：気候・地形・動植物と人間生活	水野一晴	筑摩書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イヌイット：「極北の狩猟民」のいま	岸上伸啓	中央公論新社
2	おいしいコーヒーの経済論：「キリマンジャロ」の苦い現実<増補版>	辻村英之	太田出版
3	アンデス自然学	水野一晴編	古今書院

評価方法 (基準)	期末試験 70%、授業内課題 30% 授業内課題は、各回の授業内容に関する穴埋め問題等である。
-----------	--

学生へのメッセージ	高校で地理を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。また、簡単な質問等は授業内課題の余白部分に記入してください。翌週の授業内で回答します。
-----------	--

担当者の研究室等備考	8号館1階 (非常勤講師室)。
------------	-----------------

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 晴澄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01312a1		

授業概要・目的	この授業では、人間の活動によって生じた現象に関して、地図を通して広がり方や地域的差異を理解することが目的です。例えば、都市が立地した諸条件や人口分布、農地が都市化した歴史的過程などを取り上げ、地理学の視点で考察します。
到達目標	地名などを覚えるのではなく、まずは地図の読み方を理解します。そして、地図に彩色しながら考察する地理学的な捉え方を身に着けます。さらに、明らかにすべき目的に応じた地図の選択、人間の活動に対する地理学的な理解ができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行い、資料は毎回配布します。授業中に配布した地図を彩色しながら読図する機会を多く設けています。そのため、赤・緑・青・茶の4色（なければ各近似色）の色鉛筆またはペンを持参してください。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地理学の概要	地理学の各分野および地理学で用いる主な地図を概説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
2	地図の種類と読図方法	研究に限らず、日常生活でも利用する機会が多い「地図」について、その種類と着眼点について解説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
3	地図の情報と正確性	地図上に表示されている情報の精度や基準について、実際に地図を読図しながら彩色作業を通して理解します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
4	地理情報システム (GIS) の理論	紙媒体の地図とデジタル地図の違い、地理情報システムの仕組みや特徴を概説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
5	地理情報システム (GIS) の応用	近年、急速に普及している地理情報システムについて、農業や衛生問題を中心に概説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
6	地図を用いた地域の把握	地図の読図を通して、大学周辺を事例に、人文地理学の視点で現状を把握・理解します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
7	地図を用いた地域の把握、前半のまとめ	6回目の続きと補足および後半に向けて前半のまとめを行います。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
8	農村・漁村の立地条件	地形や気候などを踏まえて、農村や漁村が立地する条件について、実際に読図しながら理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
9	都市の立地条件	都市の立地について、地形や交通などの立地条件による成立要因を理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
10	農村・漁村の都市化要因と政策	農村・漁村が無計画に都市化する要因と、政策によって計画的につくられる都市の違いを、地図の比較によって理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
11	都市構造と都市計画	都市を構成するインフラなどの要素や、都市内の立地計画といえる都市計画について概説します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
12	都市構造の変化と地域差	都市の拡大や諸問題の発生する要因と地域差を読図によって理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
13	時空間の変遷	数年から数百年という期間での地域の変化について、時間と空間の変化を新旧地図の比較によって理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
14	地域の時空間的変遷	6 回目授業で扱う大学周辺地域について、新旧地図の比較による時空間の変化という視点で理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
15	全体のまとめ、フィードバック	全体の補足やまとめ、フィードバックを行います。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)

関連科目	地誌学、自然地理学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			



	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業で課す小課題:50%、期末レポート課題:50%			
学生への メッセージ	地理学の視点で、生活空間を理解することが目的です。地図に興味を持つことは重要ですが、地図を読むことの得意・不得意は気にせず受講してください。高校「地理」科目の知識、大学でのほかの地理学関連科目の履修歴も問いません。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	授業に関する問い合わせはメールで対応します。(メールアドレスは初回授業時にお知らせします) 参考書は、毎回の内容にあったものを授業中に紹介します。			

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 晴澄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01312a1		

授業概要・目的	この授業では、人間の活動によって生じた現象に関して、地図を通して広がり方や地域的差異を理解することが目的です。例えば、都市が立地した諸条件や人口分布、農地が都市化した歴史的過程などを取り上げ、地理学の視点で考察します。
到達目標	地名などを覚えるのではなく、まずは地図の読み方を理解します。そして、地図に彩色しながら考察する地理学的な捉え方を身に着けます。さらに、明らかにすべき目的に応じた地図の選択、人間の活動に対する地理学的な理解ができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行い、資料は毎回配布します。授業中に配布した地図を彩色しながら読図する機会を多く設けています。そのため、赤・緑・青・茶の4色（なければ各近似色）の色鉛筆またはペンを持参してください。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地理学の概要	地理学の各分野および地理学で用いる主な地図を概説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
2	地図の種類と読図方法	研究に限らず、日常生活でも利用する機会が多い「地図」について、その種類と着眼点について解説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
3	地図の情報と正確性	地図上に表示されている情報の精度や基準について、実際に地図を読図しながら彩色作業を通して理解します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
4	地理情報システム (GIS) の理論	紙媒体の地図とデジタル地図の違い、地理情報システムの仕組みや特徴を概説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
5	地理情報システム (GIS) の応用	近年、急速に普及している地理情報システムについて、農業や衛生問題を中心に概説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
6	地図を用いた地域の把握	地図の読図を通して、大学周辺を事例に、人文地理学の視点で現状を把握・理解します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
7	地図を用いた地域の把握、前半のまとめ	6回目の続きと補足および後半に向けて前半のまとめを行います。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
8	農村・漁村の立地条件	地形や気候などを踏まえて、農村や漁村が立地する条件について、実際に読図しながら理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
9	都市の立地条件	都市の立地について、地形や交通などの立地条件による成立要因を理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
10	農村・漁村の都市化要因と政策	農村・漁村が無計画に都市化する要因と、政策によって計画的につくられる都市の違いを、地図の比較によって理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
11	都市構造と都市計画	都市を構成するインフラなどの要素や、都市内の立地計画といえる都市計画について概説します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
12	都市構造の変化と地域差	都市の拡大や諸問題の発生する要因と地域差を読図によって理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
13	時空間の変遷	数年から数百年という期間での地域の変化について、時間と空間の変化を新旧地図の比較によって理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
14	地域の時空間的変遷	6 回目授業で扱う大学周辺地域について、新旧地図の比較による時空間の変化という視点で理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
15	全体のまとめ、フィードバック	全体の補足やまとめ、フィードバックを行います。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)

関連科目	地誌学、自然地理学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業で課す小課題:50%、期末レポート課題:50%			
学生への メッセージ	地理学の視点で、生活空間を理解することが目的です。地図に興味を持つことは重要ですが、地図を読むことの得意・不得意は気にせず受講してください。高校「地理」科目の知識、大学でのほかの地理学関連科目の履修歴も問いません。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	授業に関する問い合わせはメールで対応します。(メールアドレスは初回授業時にお知らせします) 参考書は、毎回の内容にあったものを授業中に紹介します。			

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金岡 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU2306a1		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 近代文学や現代文学における「看護師」の姿を学びます。作品の文化的背景についての講義・作品読解・映像資料など関連作品鑑賞を行います。自身の専門とする学びや、これからの生き方に反映させながら、受講してください。</p> <p><b>【授業目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の変化に対しての心理的反応を文学作品から読み取る。</li> <li>・ことばによる表現を学び、知見を得る。</li> <li>・自分自身の学びや経験を自分のことばで語る力を育てる。</li> <li>・看護観を持つための準備をする。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「看護師」に関しての描かれた文学の知識を得て、具体的に説明できる。</li> <li>・自身の看護観や思いを言語化し、他者に対して表現できる。</li> <li>・自分自身のなかにある経験と物語の共通点を見つけることができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	<p><b>【授業方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式の授業です。</li> <li>・PowerPointにより講義を行います。</li> <li>・教科書はありません。適宜、資料を配布します。</li> <li>・第2回以降、毎回、ミニレポートをMoodle上で提出してもらいます。</li> <li>・配布資料以外はなるべくペーパーレスを心がけます。</li> <li>・ミニレポートに対しては、翌回の授業でフィードバックとして全体講評を行います。</li> </ul>		
科目学習の効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	ガイダンス 看護を物語から学ぶ意味	授業の説明 講義
	2	看護師を描いた物語 「ナースコール！」(1)	講義 ミニレポート
	3	看護師を描いた物語 「ナースコール！」(2)	講義 ミニレポート
	4	看護師を描いた物語 「ライオンのおやつ」(1)	講義 ミニレポート
	5	看護師を描いた物語 「ライオンのおやつ」(2)	講義 ミニレポート
	6	看護師を描いた物語 「神様のカルテ」(1)	講義 ミニレポート
	7	看護師を描いた物語 「神様のカルテ」(2)	講義 ミニレポート
	8	看護師を描いた物語 「神様のカルテ」(3)	講義 ミニレポート
	9	看護師を描いた物語 こしのりょう (1)	講義 ミニレポート
	10	看護師を描いた物語 こしのりょう (2)	講義 ミニレポート
	11	看護師を描いた物語 「小児病棟」(1)	講義 ミニレポート
	12	看護師を描いた物語 「小児病棟」(2)	講義 ミニレポート
	13	看護師を描いた物語	講義
			<p>【事前学習】 シラバスをよく読む (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)</p> <p>【事前学習】 「生」についての情報をチェックする (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)</p> <p>【事前学習】 前回の作品について復習する (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)</p> <p>【事前学習】 前回の作品について復習する (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)</p> <p>【事前学習】 「古い」に関する情報をチェックする (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)</p> <p>【事前学習】 前回の作品について復習する (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)</p> <p>【事前学習】 前回の作品について復習する (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)</p> <p>【事前学習】 「病」についての情報をチェックする (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)</p> <p>【事前学習】 前回の作品について復習する (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)</p> <p>【事前学習】 前回の作品について復習する (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)</p> <p>【事前学習】 前回の作品について復習する (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)</p> <p>【事前学習】 死に関する情報をチェックする (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)</p> <p>【事前学習】</p>

		「フラジャイル」(1)	ミニレポート	前回の作品について復習する(60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む(60分)
	14	看護を描いた物語 「フラジャイル」(2)	講義 ミニレポート	【事前学習】 ケアについての情報をチェックする(60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む(60分)
	15	まとめ	講義 ミニレポート	【事前学習】 学び得た経験を自分のことばで他者に伝えられるようにする(60分) 【事後学習】 経験と学びとの共通点を振り返る(60分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>・毎回のミニレポートの提出状況と内容により評価します。定期試験や期末レポートはありません。</p> <p>・全14回(第2回~15回)のミニレポートのうち、6回以上未提出であれば、合格できません。ただし、提出の回数を満たしていても、内容が不十分であれば、合格に達しないことがあります。</p> <p>・ミニレポートの評価基準は、以下の5つです。</p> <p>①授業(講義資料)の理解度 ②与えられた問いに答えているか ③分量は十分か ④その回の条件をクリアしているか(タイトルを付ける、ミニワークに取り組む等) ⑤自分</p>			
学生への メッセージ	近代から現代の文学を読んで、専門の学びについての理解も深められたら、と考えています。 文学には「漫画」も含まれます。授業担当者も漫画が好きなので語り合しましょう。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室(月曜午後のみ)			
備考				

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	立本 千寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU2307a1		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b>          生命を有する数多くの生物の中でも、人間は「心」を有する生き物である。心理学の基礎的な理論を理解することは、自らが生きることへの貢献があるだけでなく、対人援助においても有益である。          本授業では、これまでの知見を通して心理学の世界を概観し、理論と実践の融合によって人間に貢献する心理学についての基本的な理解を深めることを目的とする。</p>
到達目標	<p>①心理学の基礎的な知見を理解すること。          ②人間の発達と心理学の関連性について理解すること。          ③対人援助としての臨床心理学の貢献性について理解すること。</p>
授業方法と留意点	授業方法が、オンデマンドと対面の双方があるため、情報に気をつけて、柔軟に対応し、受講すること。
科目学習の効果 (資格)	本授業の学びを通して、自己理解・他者理解の模索の入り口を知り、多様な人間理解に繋がることを期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要・目的・到達目標・授業方法と留意点について説明する。	これまでの自分自身の心について、改めて考え直してみてください。
2	感覚と知覚	心理学の基礎的な理論として、感覚と知覚に焦点を当て、概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
3	記憶と学習	心理学の基礎的な理論として、記憶と学習に焦点を当て、概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
4	心の発達 I	胎児期から青年期までの心の発達について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
5	心の発達 II	青年期から老年期までの心の発達について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
6	原動力となる心の動きについて	生活するうえで生きるうえでの原動力である動機付けなどについて概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
7	心と多様性	多様性のある人間と心の関連性について、概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
8	心の健康とは何か	「生理・心理・社会モデル」などを取り上げ、人間の心の健康に心理学がどのように貢献するかについて概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
9	「聴くこと」とは何か	私たちの日常生活や対人援助において、「聴くこと」がどのような意義があるのかについて、心理学的に概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
10	心理療法について	臨床心理学的なアプローチにおける様々な療法について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
11	心理学研究法について	量的研究・質的研究の心理学の研究法の基礎について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
12	心理学の社会への貢献性 I	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、社会的認知の観点などから概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
13	心理学の社会への貢献性 II	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、対人関係などの観点から概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
14	心理学の社会への貢献性 III	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、臨床心理学の観点から概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
15	まとめ	これまで学んだことの要点を振り返り、総合的なまとめを行う。	テキストを精読し、知見を深めてください。

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる心理学	無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳編	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	心理学スタンダード	サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明編著	ミネルヴァ書房
2	発達障害の子の気持ちのコントロール	辻井正次・明詠光宜・飯田愛・小倉正義	合同出版
3	母子関係の理論	J・Bowlby (著)・黒田実朗他 (訳)	岩崎学術出版社

評価方法 (基準)	<p>【授業における取り組み・課題】 40%          【レポート課題】 60%</p>
-----------	--

学生へのメッセージ	<p>「心理学」ときいて、皆さんはどのようなイメージを持つでしょうか？          私は、大学時代、心理学とは異なる専門を専攻していましたが、恩師の授業をきいて、ある方々に会って、臨床心理学に強く惹かれ志しました。          皆さんが、心理学の世界に少しでも興味を持ち、それぞれの専門の中に活かしていただけるようなきっかけ</p>
-----------	--

	になれば幸いです。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	本授業は、15回の授業中で、オンデマンド12回、対面3回の授業で構成されています。 スケジュールに気を付けて受講してください。

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU2308a1		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中の人々の多様な生の理解を通して、私たち人類が地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探求してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学的思考がどのようなものであるかを理解すること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解すること。
授業方法と留意点	講義形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とはどのような学問か?	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
2	人類学の誕生 (1): 博物学から人類学へ	19世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
3	人類学の誕生 (2): 進化主義人類学	前回の続き。E・タイラー、L・H・モーガン、J・フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
4	機能主義人類学 (1): マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、B・マリノフスキーとA・ラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
5	機能主義人類学 (2): 有機的全体としての社会	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
6	アメリカ文化人類学の誕生 (1):	フランツ・ボアズの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
7	アメリカ文化人類学の誕生 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
8	アメリカ文化人類学の展開 (1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、アメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
9	アメリカ文化人類学の展開 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
10	構造主義 (1): モースからレヴィ=ストロースへ	マルセル・モースの『贈与論』とC・レヴィ=ストロースの構造主義について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
11	構造主義 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
12	構造主義 (3)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
13	解釈人類学 (1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
14	解釈人類学 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
15	『文化を書く』とそれ以降	ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。



関連科目	学芸員課程			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>評価方法： 評価の配分はレポートなどの課題提出を 100 %とする。</p> <p>評価の基準： 人類的思考がどのようなものを理解したうえで書けているかどうかを基準とする。ネットや参考書などで調べた知識は（授業内容と無関係であった場合）必ずしも評価の対象とならない。</p>			
学生への メッセージ	<p>教科書・参考書は特にありません。関連図書については授業の中で適宜紹介します。</p> <p>情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。事前学習より事後学習が大切です。ノートを読み返し、理解できているかを確認すること。</p> <p>この授業に限らず一般論として、分かったつもりになっていても、試験などでいざ書こうとしたら、実はわかっていなかったという事態はしばしば起こります。そこで、この授業ではノートに半分から1ページほど（10 から 20 行程度）で、前の週の要約を作ってみることをお勧めしています。もし要点をうまくまとめ</p>			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（農学部）			
備考	参加人数および参加者の関心・希望に応じて、授業内容が多少変更される場合があります。			

科目名	教育学	科目名 (英文)	Pedagogy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01316a1		

**授業概要・目的**  
あなたは「教育」とは「よい」ものかと思うだろうか。思っているとしたら、それはなぜだろう。思っていないとしたら、それはなぜだろう。あるいは、「自分は教育を受けることで本当に「よく」なったのだろうか」と問うてみたことはあるだろうか。その際、「よい」とはどのように判断されるのだろうか。本科目は、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについて丁寧に考え直してみようとするものである。その際に参考になるのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史であり、これらを整理し体系化しようとする学問としての「教育学」の知見である。そしてまた、「教育学」が果たしてきた、また果たすべき役割についても考え直してみることにする。これらを通して、各々が「教育」について考えを深め、人々の生活や人々が生きる社会の中での「教育」を捉え返すことができるようにしたい。

**到達目標**  
教育をめぐる思想や教育の歴史について基礎的な知識を身につける。  
自分の直接的な体験から跳躍して、「教育」について問い、考える方法を身につける。  
現代の教育課題について、教育に関する基礎知識をもとに論理的・分析的に記述、説明できる。

**授業方法と留意点**  
プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に進め、毎回、Teamsのチャネルを通して講義資料を配布する。また、文献・テキストの事前学習に基づくグループワークも実践する予定である。グループワークでは事前学習が授業出席のための必須条件となるほか、事前学習成果（予習ノート）をレポートとして評価する。対面でグループワークを実施できない場合は、レポート（予習ノート）提出をもってグループワークに代える。

**科目学習の効果（資格）**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	事前学習とグループワークの方法について	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。(30分)
2	教育学を学ぶ意味1	実践的教育学の関心領域と危うさ	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
3	教育学を学ぶ意味2	教育科学の意義と限界	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
4	教育学を学ぶ意味3	教育学を学ぶ理由	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
5	グループワーク1	教育開発	指定文献について、様式に従って予習ノートを作成・提出する。(180分)
6	教育学の成立1	教育の「定義」をめぐって、「教育」の視線の次元	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
7	教育学の成立2	教育による人間と社会の改造、学校の誕生	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
8	教育学の成立3	学校の普及・拡大とその背景	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
9	教育学の成立4	学校の普及・拡大の背景	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
10	グループワーク2	学歴社会の捉え方	指定文献について、様式に従って予習ノートを作成・提出する。(180分)
11	教育の成功と失敗1	教育の不確実性、学習可能性と教育可能性の距離	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
12	教育の成功と失敗2	教育可能性に向けた技術の発展	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
13	教育の成功と失敗3	教育可能性に向けた技術の発展、教育学の潮流	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
14	教育の目的再考1	教育のポストモダンと教育目的の迷走	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
15	教育の目的再考2	教育目的論再構築の可能性	教育と社会の新たな関係に関する指定文献について、様式に従ってレポートを作成・提出する。(180分)

**関連科目** 他の教養科目等で学習した内容と関連づけて考えてみましょう。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ヒューマニティーズ 教育学	広田照幸	岩波書店
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	御苑に近き学び舎に—京都・番組小学校の誕生	荒木源	京都新聞出版センター
2	教育社会学	原清治・山内乾史編	ミネルヴァ書房
3	社会のなかの教育	志水宏吉編	岩波書店

**評価方法（基準）** 定期試験 60%、レポート 40%（グループワークにおけるピアレビューを含む）で総合的に評価する。定期試験を受験しなかった場合は評価不能（評価なし）とする。

**学生へのメッセージ** 受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。

**担当者の研究室等** 朝日研究室；寝屋川キャンパス7号館3階

**備考** ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にすること。

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NSO1310a1		

授業概要・目的	<p>みなさんはボランティア活動についてどのようなイメージをもっておられるでしょうか。学校で授業の一環として地域の清掃を行ったり募金活動をしたりするのはボランティア活動と言えるでしょうか。チャリティー番組にタレントが報酬を得て出演するのもボランティア活動でしょうか。</p> <p>商業的なイベントで多額の報酬を受け取る人がいる一方で、専門的な知識や経験、資格や免許を有する人たちには〈やりがい〉〈思い出づくり〉あるいは〈社会貢献〉といった名のもとに無償のボランティアが求められることに批判の声があります。これとは逆に、NPO (非営利団体) の職員が報酬を受け取っていることや NPO に寄付したものがそのまま困っている人たちへの支援にまわされず経費として使用されることについて批判する人たちもいます。こうした問題について、みなさんはいまどのような理解をしているでしょうか。</p> <p>ひとことでボランティア活動と言っても、地域の清掃や通学路の見守りといった身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動について考える上で基本となることから学修します。</p>
---------	---

到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる  (2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる  (3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業は進められます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、たんに授業に出席するだけでなく教員からの問いかけに積極的に応答することが求められます。</p> <p>成績評価の対象となる授業内課題 (リフレクション課題) は原則として毎週提出し、次の授業の冒頭で提出された内容をスクリーンに映しながら口頭でフィードバックが行われます。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法、基準についても確認します。	<p>事前学習: シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習する</p>
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、および歴史について学修します。	<p>事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
3	なぜボランティアが必要なのか?	ボランティアの必要性について学修します。	<p>事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
4	支え合いによって成り立つ社会—市民社会論	支え合いによって成り立つ社会、市民社会について学修します。	<p>事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
5	NPO、NGO	NPO、NGO とは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はど	事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞

			のようなものなのか学修します。	<p>にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
6	社会制度とボランティア活動	社会制度が NPO、NGO の活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。		<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
7	グループワーク（1）——国内外の NGO 団体について調査	5人前後のグループに分かれ、国内外の NGO 団体について調査します。		<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
8	グループワーク（2）——国内外の NGO 団体について発表の準備	前回に引き続き、各グループで担当するテーマについて発表の準備をします。		<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
9	グループワーク（3）——国内外の NGO 団体について発表	グループで調査した内容にしたがって、国内外の NGO 団体がどのような活動を行っているのか紹介します。		<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
10	災害とボランティア	災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。		<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
11	医療福祉ボランティア	医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。		<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
12	マイノリティとボランティア活動	マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。		<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p>

				事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	14	文化ボランティア、その他のボランティア	文化ボランティア、およびその他のボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	15	まとめ、全体のふり返り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題(リアクションペーパー)15%、グループワーク20%、期末レポート65%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の 研究室等	メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。			

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	王 秀芳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01311a1		

授業概要・目的	本講義では、経済や経済学を初めて学ぶ人あるいは経済学の基礎知識を身に付けたいという人を対象として、経済や経済学の基本から、ミクロ経済学およびマクロ経済学の理論の基礎までを取り上げて、経済や経済学に関する基本的知識を修得します。
到達目標	受講者が経済学の基本的概念と考え方を習得し、世の中の経済問題や、日ごろの経済記事と経済ニュースを理解できることを到達目標とします。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業は基本的に、Review (前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容 (ポイントについて解説)、練習問題 (内容に対応する課題) の形式で進めていきます。</li> <li>Moodle (授業支援システム) を利用して資料の配布・課題提出等を行います。</li> </ul>

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	需要の理論と消費者行動の理論	消費者の消費行動、需要曲線、消費者余剰などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
3	供給の理論と需要曲線と弾力性	供給者 (生産者) 行動、供給曲線、利潤最大化、生産者余剰などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
4	市場の理論	市場の効率性、完全競争、社会的余剰、市場の失敗などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
5	市場の失敗	外部効果、公共財、情報の非対称性、独占市場などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
6	中間まとめ及び GDP (国内総生産)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間まとめ (ミクロ経済学の総まとめ及び小テスト)</li> <li>GDP の概念、実質 DGP と名目 GDP、GDP 統計などについて解説します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
7	消費と貯蓄、投資	消費関数、消費性向、投資関数、投資の限界効率などについて解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
8	政府の支出及び総需要の経済学	資源配分の改善、所得の再分配、総需要均衡所得 乗数効果などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
9	金融市場の分析	貨幣の定義、貨幣の役割、貨幣創造、貨幣需要関数 金融政策の基本などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
10	IS-LM モデル	IS 曲線と LM 曲線の導出、IS 曲線と LM 曲線のシフト、財政・金融政策などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
11	IS-LM モデルを使った分析	失業、有効需要、財政・金融政策、グロウディング・アウト、流動性の罣などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
12	物価の分析	貨幣数量説、総需要曲線、総供給曲線、サプライショックなどについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
13	国際経済 (開放マクロ経済)	輸出と輸入、比較優位と貿易利益、国際分業と産業構造の変化などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
14	国際版 IS-LM 分析 (開放マク	為替相場制度、輸出入、国際資本移動及	事前学習では前回までの講義内容をノート等で確

		ロ経済学)	びマンデル＝フレミング・モデルについて解説します。	認・見直しを行っておくこと (30 分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1 時間)。
	15	講義全体の総括及び確認テスト	・第 1 回から第 1 4 回までの授業内容の総まとめ ・第 1 回から第 1 4 回までの授業内容に関する確認テスト	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30 分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1 時間)。
関連科目	医療経済論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ミクロ経済学の基礎	小川光／家森信善	中央経済社
	2	マクロ経済学の基礎	家森信善	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内課題 50%、小テスト及び確認テスト 50%</li> <li>ただし再受験の学生はレポート 100%で評価します。</li> </ul>			
学生への メッセージ	講義では出来る限り平易に解説していきます。講義を毎回受講し、熱心に学ぶ姿勢をもったやる気のある受講生を望みます。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	王 秀芳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01311a1		

授業概要・目的	本講義では、経済や経済学を初めて学ぶ人あるいは経済学の基礎知識を身に付けたいという人を対象として、経済や経済学の基本から、ミクロ経済学およびマクロ経済学の理論の基礎までを取り上げて、経済や経済学に関する基本的知識を修得します。
到達目標	受講者が経済学の基本的概念と考え方を習得し、世の中の経済問題や、日ごろの経済記事と経済ニュースを理解できることを到達目標とします。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業は基本的に、Review (前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容 (ポイントについて解説)、練習問題 (内容に対応する課題) の形式で進めていきます。</li> <li>Moodle (授業支援システム) を利用して資料の配布・課題提出等を行います。</li> </ul>

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	需要の理論と消費者行動の理論	消費者の消費行動、需要曲線、消費者余剰などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
3	供給の理論と需要曲線と弾力性	供給者 (生産者) 行動、供給曲線、利潤最大化、生産者余剰などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
4	市場の理論	市場の効率性、完全競争、社会的余剰、市場の失敗などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
5	市場の失敗	外部効果、公共財、情報の非対称性、独占市場などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
6	中間まとめ及び GDP (国内総生産)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間まとめ (ミクロ経済学の総まとめ及び小テスト)</li> <li>GDP の概念、実質 DGP と名目 GDP、GDP 統計などについて解説します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
7	消費と貯蓄、投資	消費関数、消費性向、投資関数、投資の限界効率などについて解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
8	政府の支出及び総需要の経済学	資源配分の改善、所得の再分配、総需要均衡所得 乗数効果などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
9	金融市場の分析	貨幣の定義、貨幣の役割、貨幣創造、貨幣需要関数 金融政策の基本などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
10	IS-LM モデル	IS 曲線と LM 曲線の導出、IS 曲線と LM 曲線のシフト、財政・金融政策などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
11	IS-LM モデルを使った分析	失業、有効需要、財政・金融政策、グラウディング・アウト、流動性の罫などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
12	物価の分析	貨幣数量説、総需要曲線、総供給曲線、サプライショックなどについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
13	国際経済 (開放マクロ経済)	輸出と輸入、比較優位と貿易利益、国際分業と産業構造の変化などについて解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。</li> <li>事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。</li> </ul>
14	国際版 IS-LM 分析 (開放マク	為替相場制度、輸出入、国際資本移動及	事前学習では前回までの講義内容をノート等で確



		ロ経済学)	びマンデル＝フレミング・モデルについて解説します。	認・見直しを行っておくこと (30 分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1 時間)。
	15	講義全体の総括及び確認テスト	・第 1 回から第 1 4 回までの授業内容の総まとめ ・第 1 回から第 1 4 回までの授業内容に関する確認テスト	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30 分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1 時間)。
関連科目	医療経済論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ミクロ経済学の基礎	小川光／家森信善	中央経済社
	2	マクロ経済学の基礎	家森信善	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内課題 50%、小テスト及び確認テスト 50%</li> <li>ただし再受験の学生はレポート 100%で評価します。</li> </ul>			
学生へのメッセージ	講義では出来る限り平易に解説していきます。講義を毎回受講し、熱心に学ぶ姿勢をもったやる気のある受講生を望みます。			
担当者の研究室等				
備考				

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01312a1		

授業概要・目的	この授業では、国会・内閣・選挙制度・政党といった政治制度を形成する要素を日本を中心に世界の主要国とも比較しながら概説するとともに、明治から戦後までの日本の政治史の重要なトピックを取り上げる。  それにより、現在に至る社会がどのように形成されてきたのか、戦前と戦後ではどういった点が違うのかを有権者たる学生の皆さんが理解し、これからの日本政治を考えるための材料を幅広く提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治史や、他国との比較において日本の政治制度を理解することにより、国際人としての基本的素養を身につけること、また日常生活で政治に関する新聞記事などをしっかりと理解できるようにすることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。  また、小テストは Moodle より行うので、受講する学生は Moodle の当授業コース「【前期金曜1限・農学部&看護学部】日本の政治 (担当: 森康一)」または「【前期金曜2限・農学部&看護学部】日本の政治 (担当: 森康一)」を検索の上、自分の履修する時限のほうに登録しておいて下さい。他学部開講の同名講義と間違えないように登録すること。 自己登録キー: 1206
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治史や政治学の内容が一般教養として問われる。 また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。 この授業によって、上記に際して必要な基本的な政治的知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「日本の政治」講義について ○第1部 政治制度論 政治制度と選挙制度①	講義の内容全般について  日本の政治制度の基本原則について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく  日本国憲法における天皇の位置付けについて調べておく (約1時間30分)
2	日本の政治制度・選挙制度②	日本の国会のしくみや機能、立法過程について	日本の国会のしくみについて調べておく (約30分) レジュメ (第2回) を見直しておく (約1時間)
3	日本の政治制度・選挙制度③	日本の内閣・裁判所について	日本の議院内閣制のしくみについて調べておく (約30分) レジュメ (第3回) を見直しておく (約1時間)
4	日本の政治制度・選挙制度④	日本の選挙制度について	「小選挙区比例代表並立制」について調べておく (約30分) レジュメ (第4回) を見直しておく (約1時間)
5	政党	政党制の分類と、日本やその他の国の政党制について	アメリカ、イギリスにはどんな政党があるのか調べておく (約30分) レジュメ (第5回) を見直しておく (約1時間)
6	○第2部 日本政治史 明治国家の建設	中央集権体制の確立と日本「国民」の形成について	廃藩置県について調べておく (30分) レジュメ (第6回) を見直しておく (約1時間)
7	初期の外交と政府批判の噴出	明治初期の外交関係と士族の反乱・自由民権運動について	自由民権運動について調べておく (30分) レジュメ (第7回) を見直しておく (約1時間)
8	明治憲法体制の成立	大日本帝国憲法の制定と条約改正について	幕末の不平等条約の内容について調べておく (30分) レジュメ (第8回) を見直しておく (約1時間)
9	議会政治の定着	初期議会と日清戦争、およびその後の藩閥-政党関係について	日清戦争・下関条約について調べておく (30分) レジュメ (第9回) を見直しておく (約1時間)
10	桂園時代	日露戦争およびその後の藩閥-政党関係について	日露戦争・ポーツマス条約について調べておく (30分) レジュメ (第10回) を見直しておく (約1時間)
11	国際協調と政党内閣	大正デモクラシーおよび政党内閣の時代について	「憲政の常道」について調べておく (30分) レジュメ (第11回) を見直しておく (約1時間)
12	軍部の台頭と日中戦争	満州事変以降の国内政治・国際関係について	満州事変以降の内閣の変遷について調べておく (30分) レジュメ (第12回) を見直しておく (約1時間)
13	太平洋戦争	日米戦争について	太平洋戦争直前の日米交渉について調べておく (30分) レジュメ (第13回) を見直しておく (約1時間)
14	戦後の民主化と講和	戦後の改革と独立回復、55年体制の成立について	戦後初期の政党について調べておく (30分) レジュメ (第14回) を見直しておく (約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、期末レポートの準備をする (4時間)

関連科目	政治学、政治史関連の科目
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	加藤秀治郎	芦書房
	2	戦後政治史	石川 真澄、山口 二郎	岩波書店

	3	日本政治史	坂野 潤治	有斐閣
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、「公欠を除く欠席が5回以下」の学生のみを成績評価の対象とします。</li> <li>・成績評価は <ul style="list-style-type: none"> <li>○平常点 20% : 小テスト×2回 (第6回・第11回の授業日にMoodleから実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点)</li> <li>○期末試験 80% : 論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。の合計点によって評価を行います。</li> </ul> </li> <li>・期末試験において持ち込みは認めません。</li> </ul>			
学生への メッセージ	<p>高校の日本史教科書等で明治以降の部分を熟読しておいて下さい。 日々起こる政治的な出来事を、政治制度や政治史の知識をベースにとらえていくようにしましょう。</p>			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 5階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)			
備考				

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01312a1		

授業概要・目的	この授業では、国会・内閣・選挙制度・政党といった政治制度を形成する要素を日本を中心に世界の主要国とも比較しながら概説するとともに、明治から戦後までの日本の政治史の重要なトピックを取り上げる。  それにより、現在に至る社会がどのように形成されてきたのか、戦前と戦後ではどういった点が違うのかを有権者たる学生の皆さんが理解し、これからの日本政治を考えるための材料を幅広く提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治史や、他国との比較において日本の政治制度を理解することにより、国際人としての基本的素養を身につけること、また日常生活で政治に関する新聞記事などをしっかりと理解できるようにすることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。  また、小テストはMoodleより行うので、受講する学生はMoodleの当授業コース「【前期金曜1限・農学部&看護学部】日本の政治 (担当: 森康一)」または「【前期金曜2限・農学部&看護学部】日本の政治 (担当: 森康一)」を検索の上、自分の履修する時限のほうに登録しておいて下さい。他学部開講の同名講義と間違えないように登録すること。 自己登録キー: 1206
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治史や政治学の内容が一般教養として問われる。 また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。 この授業によって、上記に際して必要な基本的な政治的知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「日本の政治」講義について ○第1部 政治制度論 政治制度と選挙制度①	講義の内容全般について  日本の政治制度の基本原則について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく  日本国憲法における天皇の位置付けについて調べておく (約1時間30分)
2	日本の政治制度・選挙制度②	日本の国会のしくみや機能、立法過程について	日本の国会のしくみについて調べておく (約30分) レジュメ (第2回) を見直しておく (約1時間)
3	日本の政治制度・選挙制度③	日本の内閣・裁判所について	日本の議院内閣制のしくみについて調べておく (約30分) レジュメ (第3回) を見直しておく (約1時間)
4	日本の政治制度・選挙制度④	日本の選挙制度について	「小選挙区比例代表並立制」について調べておく (約30分) レジュメ (第4回) を見直しておく (約1時間)
5	政党	政党制の分類と、日本やその他の国の政党制について	アメリカ、イギリスにはどんな政党があるのか調べておく (約30分) レジュメ (第5回) を見直しておく (約1時間)
6	○第2部 日本政治史 明治国家の建設	中央集権体制の確立と日本「国民」の形成について	廃藩置県について調べておく (30分) レジュメ (第6回) を見直しておく (約1時間)
7	初期の外交と政府批判の噴出	明治初期の外交関係と士族の反乱・自由民権運動について	自由民権運動について調べておく (30分) レジュメ (第7回) を見直しておく (約1時間)
8	明治憲法体制の成立	大日本帝国憲法の制定と条約改正について	幕末の不平等条約の内容について調べておく (30分) レジュメ (第8回) を見直しておく (約1時間)
9	議会政治の定着	初期議会と日清戦争、およびその後の藩閥-政党関係について	日清戦争・下関条約について調べておく (30分) レジュメ (第9回) を見直しておく (約1時間)
10	桂園時代	日露戦争およびその後の藩閥-政党関係について	日露戦争・ポーツマス条約について調べておく (30分) レジュメ (第10回) を見直しておく (約1時間)
11	国際協調と政党内閣	大正デモクラシーおよび政党内閣の時代について	「憲政の常道」について調べておく (30分) レジュメ (第11回) を見直しておく (約1時間)
12	軍部の台頭と日中戦争	満州事変以降の国内政治・国際関係について	満州事変以降の内閣の変遷について調べておく (30分) レジュメ (第12回) を見直しておく (約1時間)
13	太平洋戦争	日米戦争について	太平洋戦争直前の日米交渉について調べておく (30分) レジュメ (第13回) を見直しておく (約1時間)
14	戦後の民主化と講和	戦後の改革と独立回復、55年体制の成立について	戦後初期の政党について調べておく (30分) レジュメ (第14回) を見直しておく (約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、期末レポートの準備をする (4時間)

関連科目	政治学、政治史関連の科目
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	加藤秀治郎	芦書房
	2	戦後政治史	石川 真澄、山口 二郎	岩波書店

	3	日本政治史	坂野 潤治	有斐閣
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、「公欠を除く欠席が5回以下」の学生のみを成績評価の対象とします。</li> <li>・成績評価は <ul style="list-style-type: none"> <li>○平常点 20% : 小テスト×2回 (第6回・第11回の授業日にMoodleから実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点)</li> <li>○期末試験 80% : 論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。 の合計点によって評価を行います。</li> </ul> </li> <li>・期末試験において持ち込みは認めません。</li> </ul>			
学生への メッセージ	<p>高校の日本史教科書等で明治以降の部分を熟読しておいて下さい。 日々起こる政治的な出来事を、政治制度や政治史の知識をベースにとらえていくようにしましょう。</p>			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 5階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)			
備考				

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正, 本多 康作
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01313a1		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。</li> <li>・このような法の特徴と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。</li> <li>・第1回～第3回を本多、第4回～第15回まで小野が担当する。</li> </ul>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる</li> <li>・婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる</li> <li>・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができる</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回の講義は対面で行い、第2回目から第15回目までをオンデマンド動画配信講義にて行う。</li> <li>・本講義は、ICTツールとしてMicrosoft社のteamsおよびformsを用いる。</li> <li>・課題提示や資料配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。</li> <li>・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。</li> <li>・課題に対するコメントは次回講義またはteamsを通じて行う。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 学問制度における法学の位置 (担当：本多)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の仕方と文献の紹介</li> <li>・課題の配点および成績評価方法</li> <li>・学問制度における法学の位置づけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の入手</li> <li>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
2	日本法の体系 (担当：本多)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法の段階構造</li> <li>・私法／公法による法の分類</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
3	法的三段論法 法の解釈 (担当：本多)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裸の価値判断と法的三段論法</li> <li>・法の解釈—簡単なケースと難解なケース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
4	労働法① (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラック企業問題と労働者保護</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
5	刑事法① (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裁判員裁判の仕組みとその問題点</li> <li>・悪質動画貼り付けと器物損壊および偽計業務妨害罪</li> <li>・闇バイトを通じた犯罪関与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
6	刑事法② (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪の成立要件</li> <li>・・ ストーカー行為規制法の最前線</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
7	労働法② (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採用内定と法的規制</li> <li>・正規雇用と非正規雇用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
8	民法法② (家族法①) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の範囲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
9	民法法③ (家族法②) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族法の基本原則</li> <li>・婚約の法的効果ほか</li> <li>・婚姻 (結婚) の法的要件・効果</li> <li>・夫婦の財産関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
10	民法法④ (家族法③) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離婚の法的効果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
11	民法法⑤ (家族法④) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離婚の手続き・親子関係と親権</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
12	民法法⑥ (不法行為法②) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種ハラスメントと法</li> <li>・不法行為と損害賠償</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
13	民法法⑦ (財産法①) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃貸住宅をめぐるトラブルー敷金と敷引特約</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
14	民法法⑧ (財産法②) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災と住宅ローン減免の可否</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
15	刑事法②＋行政法＋民法法⑨ (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドメスティック・バイオレンス (DV) とデートDV</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>

関連科目	日本国憲法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝	法律文化社
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣
	2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己=加藤一郎/編著	有斐閣
	3	判例法学（第5版）	西村 健一郎=西井 正弘=初宿 正典/編著	有斐閣
評価方法 （基準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%+課題の得点 95%）。</li> <li>・定期試験は実施しない。</li> </ul>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法律系の番組が好きな方は、ぜひ受講してみてください。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	寝屋川校地 11号館10階 小野教授室 11号館09階 本多准教授室			
備考	本講義は、第2回目よりオンデマンド動画配信による授業を行います。			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正, 本多 康作
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01313a1		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。</li> <li>・このような法の特徴と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。</li> <li>・第1回～第3回を本多、第4回～第15回まで小野が担当する。</li> </ul>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる</li> <li>・婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる</li> <li>・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができる</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回の講義は対面で行い、第2回目から第15回目までをオンデマンド動画配信講義にて行う。</li> <li>・本講義は、ICTツールとしてMicrosoft社のteamsおよびformsを用いる。</li> <li>・課題提示や資料配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。</li> <li>・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。</li> <li>・課題に対するコメントは次回講義またはteamsを通じて行う。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本法の体系 (担当：本多)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法の段階構造</li> <li>・私法／公法による法の分類</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
3	法的三段論法 法の解釈 (担当：本多)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裸の価値判断と法的三段論法</li> <li>・法の解釈—簡単なケースと難解なケース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
4	労働法① (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラック企業問題と労働者保護</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
5	刑事法① (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裁判員裁判の仕組みとその問題点</li> <li>・悪質動画貼り付けと器物損壊および偽計業務妨害罪</li> <li>・闇バイトを通じた犯罪関与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
6	刑事法② (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪の成立要件</li> <li>・・ ストーカー行為規制法の最前線</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
7	労働法② (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採用内定と法的規制</li> <li>・正規雇用と非正規雇用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
8	民法法② (家族法①) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の範囲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
9	民法法③ (家族法②) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族法の基本原則</li> <li>・婚約の法的効果ほか</li> <li>・婚姻 (結婚) の法的要件・効果</li> <li>・夫婦の財産関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
10	民法法④ (家族法③) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離婚の法的効果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
11	民法法⑤ (家族法④) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離婚の手続き・親子関係と親権</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
12	民法法⑥ (不法行為法②) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種ハラスメントと法</li> <li>・不法行為と損害賠償</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
13	民法法⑦ (財産法①) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃貸住宅をめぐるトラブルー敷金と敷引特約</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
14	民法法⑧ (財産法②) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災と住宅ローン減免の可否</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>
15	刑事法②＋行政法＋民法法⑨ (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドメスティック・バイオレンス (DV) とデートDV</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：授業テーマの予習 (2時間)</li> <li>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)</li> </ul>

関連科目	日本国憲法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝	法律文化社
	2			



	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣
	2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己=加藤一郎/編著	有斐閣
	3	判例法学（第5版）	西村 健一郎=西井 正弘=初宿 正典/編著	有斐閣
評価方法 （基準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%+課題の得点 95%）。</li> <li>・定期試験は実施しない。</li> </ul>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法律系の番組が好きな方は、ぜひ受講してみてください。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	寝屋川校地 11号館10階 小野教授室 11号館09階 本多准教授室			
備考	本講義は、第2回目よりオンデマンド動画配信による授業を行います。			

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Business administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小沢 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01314a1		

授業概要・目的	<p>この講義では、市場や事業創造の担い手である、Entrepreneur (起業家・企業家) に関する戦略と組織について、様々な考え方を示していく。その過程で、経営学の基本について、全体を網羅して講義を行う。教科書や講義で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深める。</p> <p>どのようにすれば、新たな市場や事業を創造して成功を導くことができるのか。それは特に日本企業の経営にとって、きわめて実践的な課題であるといえる。こと事業創造によって事業構造の再構築を上手に進めることは、日本社会における個人と企業との関わり方を変えたとともに、既存の産業における構造的な転換と新産業の創出を可能にし、ひいては日本経済の活力を生み出すカギになると考えられる。</p> <p>Entrepreneur (起業家・企業家) は、発掘されるべきものであり、育成されるものではないという当たり前の目線がある。Entrepreneurship は、生まれつきの性格や能力に依存するところが多いと考えられてきたからだ。</p> <p>この講義は、この当たり前の目線に挑戦したい。Entrepreneur の行動原則は、思考や実践を通した熟達によって獲得されることを学ぶ。不確実性や曖昧性の高い状況であっても、行動を起こす自信と勇気を得ることができる Entrepreneur の思考や行動原則を、この講義では身につけます。</p> <p>身の回りのものを眺めるだけで、本講義で説明する理論と深く関係する事例が見つかるはず。経営学を深く学ぶということは、様々な学問分野の基礎を学ぶ事にもつながります。それは、これからの皆さんの人生をより豊かなものとする第一歩になるでしょう。</p>
到達目標	<p>市場や事業を創造する上で、自分たちが儲かりさえすれば良いという発想ではなく、公益の追求が必要であることを体得する。「自分たちにとって」だけでなく、社会にとって善であるかを熟慮して、判断する能力を磨く。</p> <p>ベンチャーにしる、中小や大手企業にしる、経営は、より高次の目的にかなうものでなければならない。そのような目的を設定し、実現に邁進する。さすれば組織は、社会に永続的な恩恵をもたらすという使命を帯びた存在であるという自覚を持てるようになる。ひいては、人類の現状を改善するということに貢献できる。</p>
授業方法と留意点	この講義は、基本的に教科書と、私の用意する教材を基に講義を進めていきます。また座学だけでなく、実在する企業のケースを元に、組織の仕組みに関する巧拙や組織マネジメントのあり方などについて、議論を行います。よって学習課題への返答を求めるなど、参加を重視します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	アントレプレナーシップの基礎理論	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価についても、説明します	事前：シラバスと教科書の第1章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
2	アントレプレナーシップの社会的意義	企業経営を中心に、講義します	事前：教科書の第2章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
3	アントレプレナーシップの倫理教育	アントレプレナーに必要な要素と、経営教育との関わりについて学びます	事前：教科書の第3章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
4	独立アントレプレナー	経営資源の獲得と、事業創造について、学びます	事前：教科書の第4章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
5	ファミリー・アントレプレナー	事業承継と革新について、学びます	事前：教科書の第5章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
6	コーポレート・アントレプレナー	既存企業における新規事業開発と、社内企業家について、学びます	事前：教科書の第6章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
7	アカデミック・アントレプレナー	大学の研究の現場から、アントレプレナーは生まれるのか、議論します	事前：教科書の第7章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
8	ソーシャル・アントレプレナー	社会的な問題に対して、経営学の考え方で解決する可能性について、議論します	事前：教科書の第8章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
9	誕生・成長初期のアントレプレナーシップ	ビジネスモデル、事業の仕組みについて、学びます	事前：教科書の第9章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
10	成長期のアントレプレナーシップと外部資源	M & Aについて、学びます	事前：教科書の第10章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
11	成長期のアントレプレナーシップと内部資源	経営資源と学習について、学びます	事前：教科書の第11章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
12	長寿企業とアントレプレナーシップ	技能の継承について、学びます	事前：教科書の第12章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
13	アントレプレナーシップとエスニック・マイノリティ	経営資源を獲得するネットワークについて、学びます	事前：教科書の第13章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
14	グローバル・アントレプレナーシップ	企業が国境を越える理由について、考えます	事前：教科書の第14章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
15	アントレプレナーシップとエコシステム	なぜアメリカのシリコンバレーは、アントレプレナーを輩出し続けるのか、議論します	事前：教科書の第15章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	1からのアントレプレナーシップ (第2版)	山田 幸三・江島 由裕 (編著)	碩学舎
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	市場再活性化のメカニズム	小沢 貴史	千倉書房
2	新 経営戦略論 (第3版)	寺本 義也・大森 信 (編著)	学文社

	3	新 経営戦略論	寺本 義也・岩崎 尚人 (編集)	学文社
評価方法 (基準)	<p>この講義では、レポートを2回、課します。レポートは、指定する期日（講義の中でお知らせします）までに提出してください。期日を遅れて提出した場合は、減点の対象となります。</p> <p>2回のレポートと、出席および教材へのアクセス状況を加味して、総合的に評価します。レポートの評価項目は、次の通りです。</p> <p>「重要な要因や問題の識別」  「論理一貫性」、「客観性」  「分析内容の完結性」  「適切な概念やモデルの適用」</p>			
学生への メッセージ	<p>受講される皆さんは、組織論や戦略論、マーケティング論などを問わず、さまざまな分野の本を余力のあるうちに読んでおいてください。たとえば社会学や心理学、経済学、歴史学、哲学などです。自分の関心のある分野で結構です。無理なく読んでいただき、その本の考え方を吸収してください。</p>			
担当者の 研究室等	<p>担当者は、非常勤講師です。</p>			
備考				

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Business administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小沢 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01314a1		

授業概要・目的	<p>この講義では、市場や事業創造の担い手である、Entrepreneur (起業家・企業家) に関する戦略と組織について、様々な考え方を示していく。その過程で、経営学の基本について、全体を網羅して講義を行う。教科書や講義で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深める。</p> <p>どのようにすれば、新たな市場や事業を創造して成功を導くことができるのか。それは特に日本企業の経営にとって、きわめて実践的な課題であるといえる。こと事業創造によって事業構造の再構築を上手に進めることは、日本社会における個人と企業との関わり方を変えるとともに、既存の産業における構造的な転換と新産業の創出を可能にし、ひいては日本経済の活力を生み出すカギになると考えられる。</p> <p>Entrepreneur (起業家・企業家) は、発掘されるべきものであり、育成されるものではないという当たり前の目線がある。Entrepreneurship は、生まれつきの性格や能力に依存するところが多いと考えられてきたからだ。</p> <p>この講義は、この当たり前の目線に挑戦したい。Entrepreneur の行動原則は、思考や実践を通した熟達によって獲得されることを学ぶ。不確実性や曖昧性の高い状況であっても、行動を起こす自信と勇気を得ることができる Entrepreneur の思考や行動原則を、この講義では身につけます。</p> <p>身の回りのものを眺めるだけで、本講義で説明する理論と深く関係する事例が見つかるはず。経営学を深く学ぶということは、様々な学問分野の基礎を学ぶ事にもつながります。それは、これからの皆さんの人生をより豊かなものとする第一歩になるでしょう。</p>
到達目標	<p>市場や事業を創造する上で、自分たちが儲かりさえすれば良いという発想ではなく、公益の追求が必要であることを体得する。「自分たちにとって」だけでなく、社会にとって善であるかを熟慮して、判断する能力を磨く。</p> <p>ベンチャーにしる、中小や大手企業にしる、経営は、より高次の目的にかなうものでなければならない。そのような目的を設定し、実現に邁進する。さすれば組織は、社会に永続的な恩恵をもたらすという使命を帯びた存在であるという自覚を持てるようになる。ひいては、人類の現状を改善するということに貢献できる。</p>
授業方法と留意点	この講義は、基本的に教科書と、私の用意する教材を基に講義を進めていきます。また座学だけでなく、実在する企業のケースを元に、組織の仕組みに関する巧拙や組織マネジメントのあり方などについて、議論を行います。よって学習課題への返答を求めるなど、参加を重視します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	アントレプレナーシップの基礎理論	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価についても、説明します	事前：シラバスと教科書の第1章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
2	アントレプレナーシップの社会的意義	企業経営を中心に、講義します	事前：教科書の第2章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
3	アントレプレナーシップの倫理教育	アントレプレナーに必要な要素と、経営教育との関わりについて学びます	事前：教科書の第3章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
4	独立アントレプレナー	経営資源の獲得と、事業創造について、学びます	事前：教科書の第4章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
5	ファミリー・アントレプレナー	事業承継と革新について、学びます	事前：教科書の第5章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
6	コーポレート・アントレプレナー	既存企業における新規事業開発と、社内企業家について、学びます	事前：教科書の第6章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
7	アカデミック・アントレプレナー	大学の研究の現場から、アントレプレナーは生まれるのか、議論します	事前：教科書の第7章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
8	ソーシャル・アントレプレナー	社会的な問題に対して、経営学の考え方で解決する可能性について、議論します	事前：教科書の第8章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
9	誕生・成長初期のアントレプレナーシップ	ビジネスモデル、事業の仕組みについて、学びます	事前：教科書の第9章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
10	成長期のアントレプレナーシップと外部資源	M & Aについて、学びます	事前：教科書の第10章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
11	成長期のアントレプレナーシップと内部資源	経営資源と学習について、学びます	事前：教科書の第11章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
12	長寿企業とアントレプレナーシップ	技能の継承について、学びます	事前：教科書の第12章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
13	アントレプレナーシップとエスニック・マイノリティ	経営資源を獲得するネットワークについて、学びます	事前：教科書の第13章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
14	グローバル・アントレプレナーシップ	企業が国境を越える理由について、考えます	事前：教科書の第14章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
15	アントレプレナーシップとエコシステム	なぜアメリカのシリコンバレーは、アントレプレナーを輩出し続けるのか、議論します	事前：教科書の第15章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	1からのアントレプレナーシップ (第2版)	山田 幸三・江島 由裕 (編著)	碩学舎
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	市場再活性化のメカニズム	小沢 貴史	千倉書房
2	新 経営戦略論 (第3版)	寺本 義也・大森 信 (編著)	学文社

	3	新 経営戦略論	寺本 義也・岩崎 尚人 (編集)	学文社
評価方法 (基準)	<p>この講義では、レポートを2回、課します。レポートは、指定する期日（講義の中でお知らせします）までに提出してください。期日を遅れて提出した場合は、減点の対象となります。</p> <p>2回のレポートと、出席および教材へのアクセス状況を加味して、総合的に評価します。レポートの評価項目は、次の通りです。</p> <p>「重要な要因や問題の識別」  「論理一貫性」、「客観性」  「分析内容の完結性」  「適切な概念やモデルの適用」</p>			
学生への メッセージ	<p>受講される皆さんは、組織論や戦略論、マーケティング論などを問わず、さまざまな分野の本を余力のあるうちに読んでおいてください。たとえば社会学や心理学、経済学、歴史学、哲学などです。自分の関心のある分野で結構です。無理なく読んでいただき、その本の考え方を吸収してください。</p>			
担当者の 研究室等	<p>担当者は、非常勤講師です。</p>			
備考				

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01315a1		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的に行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果 (資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思えます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと思えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	メディアの中の男女のイメージ (1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴し次回に備える (1時間)。
3	メディアの中の男女のイメージ (2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴する (1時間)
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー (1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー (2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー (3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐる、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
11	労働と社会 (1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習 (1時間)・事例を採りレポート (1時間) 次回テーマについての予習 (1時間)
12	労働と社会 (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
13	労働と社会 (3)	歴史的な視点でジェンダーと労働、法制度に関して学び考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
15	今日の課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習 (2時間)

関連科目 社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
2				

	3		
評価方法 (基準)	授業内課題 (30%)、最終レポート (70%) により総合評価する。		
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起こっているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。		
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室		
備考			

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01315a1		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的に行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果 (資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思えます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと思えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習 (1時間)
2	メディアの中の男女のイメージ (1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴し次回に備える (1時間)。
3	メディアの中の男女のイメージ (2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴する (1時間)
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー (1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー (2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー (3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐる、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
11	労働と社会 (1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習 (1時間)・事例を採りレポート (1時間) 次回テーマについての予習 (1時間)
12	労働と社会 (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
13	労働と社会 (3)	歴史的な視点でジェンダーと労働、法制度に関して学び考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
15	今日の課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習 (2時間)

関連科目 社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
2				



	3		
評価方法 (基準)	授業内課題 (30%)、最終レポート (70%) により総合評価する。		
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起こっているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。		
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室		
備考			

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀 利江
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NSO1316a1		

授業概要・目的	観光は、「平和へのパスポート」と言われ、国際的、文化的な交流を促進するとともに、人々の健康で豊かな生活に貢献しています。また訪日外国人旅行の増大は、地域経済活性化の切り札ともなっています。授業を通して、観光の歴史、人々の観光行動、観光産業や観光庁の政策など、観光学の基礎を学び、獲得した知識を社会に役立てることを目的とします。近年の旅行市場の動向や地域観光の現状と課題を踏まえ、これからの持続可能な観光について考えます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光に関する文献や資料を理解する力を身につける。</li> <li>観光の役割と現代観光の特徴について説明することができる。</li> <li>観光資源について調査し、課題の解決に向けて自ら意見を述べるることができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義を中心に授業を進めます。</li> <li>グループワークも取り入れます。積極的に参加してください。</li> <li>教科書は使いません。毎回、プリントを配布します。</li> <li>授業時に事前・事後学習の内容を提示します。確認し取組んでください。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	観光に関わる基礎知識を修得します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 観光と観光学	授業の進め方や課題の調査レポートについて確認し、観光の基礎用語を学ぶ。観光とは何か、観光の役割とは何かについて考える。	事前学習 (1時間) 観光の役割を考える。 事後学習 (2時間) 観光の意味と役割、基礎用語を復習する。
2	観光の歴史	観光の視点で歴史を読み直す。主に日本の江戸時代の旅について学ぶ。	事前学習 (1時間) 伊勢参詣の歴史を調べる。 事後学習 (2時間) 関心を持った出来事を調べ、理解を深める。
3	戦後の観光と観光政策	国の観光政策の流れを確認しながら、観光が大衆化する背景について学ぶ。	事前学習 (1時間) 1970年に開催された大阪万博の概要を調べる。 事後学習 (2時間) 戦後日本の観光の主な流れを復習する。
4	日本の旅行市場	『観光白書』等を用いて、国内外の旅行者数の推移や旅行消費額等、旅行市場の全体像を掴む。	事前学習 (1時間) 提示した資料 (観光白書概要版) を読んでおく。 事後学習 (2時間) 旅行市場の動向について復習する。
5	観光産業と観光統計	観光産業の定義や観光統計の概要を学ぶ。	事前学習 (1時間) 観光関連産業の種類を調べる。 事後学習 (2時間) 観光庁のHPで観光統計の調査結果を確認する。
6	観光産業 I 旅行業と運輸業	旅行業および運輸業の特性や現状と課題を学び、特に利用者が増加しているLCCについて理解を深める。	事前学習 (1時間) 旅行会社のHPで国内外のツアー予約を試してみる。 事後学習 (2時間) 旅行業と運輸業の動向について復習する。
7	観光産業 II 宿泊業	宿泊業の特性や現状と課題、宿泊施設の多様化や民泊サービスの拡大等、近年の動きを学ぶ。	事前学習 (1時間) 宿泊業の課題について考える。 事後学習 (2時間) 民泊事業の事例を調べ、その課題について考える。
8	温泉と温泉地	温泉の定義、効能等、温泉の基本を学び、戦後、観光地として発展した温泉地の現状と課題を理解する	事前学習 (1時間) 関心を持った温泉の魅力・効能、利用者数を調べる。 事後学習 (2時間) 提示した資料から温泉地の現状と課題を確認する。
9	事例研究 I 星野リゾート	破綻したリゾートの再生で注目された「星野リゾート」の特徴的な組織体制や経営方針を学ぶ。	事前学習 (1時間) 星野リゾートのブランドの種類や施設を調べる。 事後学習 (2時間) 星野リゾートの記念事業を通して日本の旅について考える。
10	事例研究 II TDR と USJ	遊園地・テーマパークの概要を掴み、TDR (東京ディズニーリゾート) と USJ (ユニバーサル・スタジオ・ジャパン) に分かれて、成功要因を考える。	事前学習 (1時間) TDR と USJ の魅力を考える。 事後学習 (2時間) TDR と USJ の事例を通してテーマパークの成功要因を考える。
11	文化遺産と観光	ユネスコの「世界遺産」や文化庁認定の「日本遺産」を学び、文化財のデジタル化や観光活用について理解を深める。	事前学習 (1時間) 日本の世界遺産数、名称と所在地を調べる。 事後学習 (2時間) 近畿の日本遺産のストーリーを確認する。
12	地域観光と観光まちづくり	観光庁の主な観光地域づくり政策と地域資源を活かした観光まちづくりの動きを学ぶ。	事前学習 (1時間) 地元の地域資源の観光活用について調べる。 事後学習 (2時間) 観光まちづくりの課題を考える。課題レポートの作成 (5時間程度)
13	MICE と IR	ビジネスイベントの総称である MICE (マイス) と、MICE 誘致に関わる IR (統合型リゾート) 推進の現状について理解を深める。	事前学習 (1時間) シンガポールの IR の施設内容について調べる。 事後学習 (2時間) 大阪の IR 推進の課題を考える。
14	観光資源調査研究	個人で作成したレポートをもとに少人数でのグループワークを行う。グループ内で様々な観光資源の現状と課題を学び、ワークシートに整理する。	事前学習 (1時間) 作成したレポートの要点を整理する。 事後学習 (2時間) 意見交換した内容を再確認する。
15	持続可能な観光に向けて	グループワークと授業を振り返り、これからの持続可能な観光について考える。	事前学習 (1時間) 「持続可能な観光」の定義を調べる。 事後学習 (2時間) 観光の役割を再確認し、個人として観光との関わりかたを考える。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 観光学 [改訂版]	竹内正人・竹内利江・山田浩之	ミネルヴァ書房
	2	観光学ガイドブック	大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治	ナカニシヤ出版
	3	1からの観光事業論	高橋一夫・柏木千春	碩学舎
評価方法 (基準)	小テスト 45% レポート 40% 課題 15%	授業内で2回実施。学修した知識の理解を問う。 内容の妥当性と論理的構成について評価する。 グループワークで作成するワークシートも含む。 記述内容の妥当性を評価する。		
学生への メッセージ	観光は日常生活から解放され、精神的にも肉体的にもリフレッシュできる側面があります。温泉旅行がその代表でしょうか。日頃から様々な観光地や温泉地の情報を収集し、その魅力や魅力について考えてみてください。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Constitutional Law
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NS02317a1		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎的知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	この授業を通して学生は、「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得し、社会の中の憲法にかかわる諸問題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、必要に応じてレジュメや資料を配布します。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートなどにまとめるよう努力しましょう。各授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストやミニ・レポート作成の機会を設けます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果 (資格)	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに 現代日本の法制度の概要について	講義 日本法全体における憲法の位置づけ	事前：日本国憲法全文を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
2	「憲法」とは 日本における「憲法」の成立と歩み	講義 欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
3	「日本国憲法」の基本構造・基本原理	講義 日本国憲法の基本原理および基本構造(統治の基礎と人権の基礎)を確認する。第1条から、日本国憲法における「天皇」制と民主主義について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
4	統治の基礎 (1) 国会	講義 日本の統治機構の基本を学ぶ。特に国会の役割、さらに三権分立の意義を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
5	統治の基礎 (2) 裁判所	講義 裁判・裁判所の基礎を学ぶ 裁判所の組織、司法権の独立、裁判員制度	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
6	人権総論 憲法で保障される人権とは	講義 日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
7	自由権① 信教の自由	講義 重要判例を通して信教の自由・政教分離の原則の意義を考える。また信教の自由をめぐる欧米の歴史も概観する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
8	自由権② 表現の自由 (その他の自由権)	講義 「表現活動」をめぐる判例や近年の動向を通して、表現の自由の重要性を検討する	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
9	自由権③ 刑事手続上の権利	講義 適正手続の保障、公判手続における権利などについて学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
10	社会権 生存権・労働者の権利	講義 まず社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の貧困問題を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
11	法の下での平等①	講義 憲法上の「平等」とは？「憲法」で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
12	法の下での平等②	講義 14条・24条をめぐる近年の重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題(夫婦別姓、同性婚の問題など)を憲法を通して考える	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)

	13	新しい人権 自己決定権	講義 新しい人権、特に「自己決定権」について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。（2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）
	14	平和主義	講義 戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。（2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）
	15	憲法改正の諸問題 まとめと復習	講義 憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所を読んでおく。（1時間） 事後：これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。（3時間）
関連科目	法学入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スタディ憲法・第2版(最新版)	曾我部真裕 他	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法（最新版）	芦部信喜	岩波書店
	2	憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）	長谷部恭男、他	有斐閣
	3			
評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）30%と、定期試験（筆記試験）70%によって、総合的に評価します。 授業内課題の詳細は、第1回授業のなかで説明します。			
学生への メッセージ	「憲法」をめぐる議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかりと修得しましょう。			
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）			
備考	参考文献は、授業の中で、随時紹介します。			

科目名	生物・化学の基礎	科目名 (英文)	Biology and Chemistry
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石丸 侑希
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NNA1318a1		

授業概要・目的	生物・化学は、看護師を目指す学生が専門科目を学ぶ上で基礎となる学問である。本科目では、専門科目の理解の向上に繋がる生物、化学に関する基礎力を修得することを目的とする。
到達目標	生物と化学の基礎知識を習得することによって、医療・健康に関する領域や、自然界で生じる現象について基礎的な範囲で科学的に説明できることを目標とする。また、将来、共に仕事をする医師や薬剤師などの医療スタッフとの共通知識基盤としての生物・化学の基礎知識を習得し、その知識に基づいた思考力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	授業は講義中心に行います。講義資料は授業前に Teams に配信しますので、適宜、ダウンロードしてください。講義資料の印刷物は、授業毎に配付します。授業中に学習内容の理解を促進するための問題を Teams を介して提供します。アクセス可能なデバイス (パソコン、タブレット、スマホなど) を必ず持参してください。
科目学習の効果 (資格)	生物・化学の基礎知識が身につく、「人体の構造と機能」や「代謝栄養学」などの専門科目の理解の向上につながる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	原子の構造	物質の構成粒子である原子と、原子の化学的性質を決める電子について学ぶ。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。
2	化学結合	原子同士の結合 (共有結合、イオン結合、金属結合) と分子間結合 (ファンデルワールス力、水素結合) について学ぶ。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。
3	原子量、物質質量	原子量と物質質量の関係について学ぶ。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。
4	濃度計算、化学反応式	溶液と濃度計算について学ぶ。また、化学変化を化学反応式を用いて表現することを学ぶ。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。
5	酸と塩基、酸塩基平衡	酸と塩基の定義と性質、強弱について学ぶ。また、化学平衡と体液の酸塩基平衡について学ぶ。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。
6	生命体を構成する物質①	生物とは何か、また生命活動を営むためのエネルギー源の主役である「糖質」について学ぶ。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。
7	生命体を構成する物質②	遺伝情報の担い手である「核酸」と、生体膜の成分である「脂質」について学ぶ。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。
8	生命体を構成する物質③	生命活動の実行部隊である「タンパク質」について学ぶ。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。
9	生体とエネルギー①	生体内で代謝活動を営むために必要不可欠な「酵素」の働きや性質について学ぶ。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。
10	生体とエネルギー②	生体内のエネルギー運搬体である ATP と体内で ATP が作られる仕組みについて学ぶ。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。
11	遺伝子の構造と機能①	DNA の構造と保存されている情報について学ぶ。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。
12	遺伝子の構造と機能②	DNA から RNA、RNA からタンパク質が作られる仕組みについて学ぶ。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。
13	遺伝のしくみと遺伝病	遺伝のしくみと遺伝病 (常染色体遺伝病、性染色体遺伝病など) について学ぶ。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。
14	細胞分裂	生命の維持に必要な不可欠な細胞分裂 (体細胞分裂、減数分裂) について学ぶ。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。
15	生物の進化とがん	生物の多細胞化とその代償である「がん」の基礎知識を習得する。	配付資料を読んで予習・復習を行う (1 時間)。授業後に確認問題を解く。

関連科目	人体の構造と機能、代謝栄養学、感染と防御、薬理学総論、薬物治療学
------	----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護系で役立つ化学の基本 第2版	有本淳一	化学同人
	2	解剖生理や生化学をまなぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理	岡田隆夫	羊土社
	3			

評価方法 (基準)	確認試験及び定期試験により評価する (確認試験 30%、定期試験 70%)。100 点満点中 60 点以上で合格とする。再受験者は定期試験 (100%) で評価する (100 点満点中 60 点以上で合格)。
-----------	--

学生へのメッセージ	意欲的に学習できるようにサポートしていきますので、何事にも興味をもって取り組んでいただければと思います。勉強する過程で疑問が生じたら、まずは自分で調べてみてください。それでも解決しない場合は遠慮なく質問しに来てください。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館3階 薬学部 薬物治療学研究室
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田畑 謙二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NNA1319a1		

授業概要・目的	教養数学では、看護学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、看護学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	教科書・資料に基づいた講義を中心に授業を進める。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。 事前・事後学習は毎回4時間以上かけること。 事前:講義資料・教科書を事前に読んで準備する(1時間以上) 事後:授業で学んだ範囲を復習する、確認テストに取り組む(3時間以上)
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	講義資料・教科書の予習
2	微分法の基本	・積・商の微分法 ・合成関数微分法	講義資料・教科書の予習 積・商の微分法の演習課題(Teams)
3	微分法の基本	・関数の増減と凹凸 ・関数のグラフ	講義資料・教科書の予習 関数の増減と凹凸の演習課題(Teams)
4	微分法の基本	・速度と加速度 ・変化率の応用	講義資料・教科書の予習 変化率の応用の演習課題(Teams)
5	微分法の基本	・指数関数の微分 ・対数関数の微分	講義資料・教科書の予習 指数・対数関数の微分演習課題(Teams)
6	微分法の基本	・指数関数・対数関数の接線 ・指数関数を含む関数のグラフ	講義資料・教科書の予習 指数関数を含む関数のグラフの演習課題(Teams)
7	微分方程式	・簡単な微分方程式	講義資料・教科書の予習 簡単な微分方程式の演習課題(Teams)
8	三角関数	・三角関数 ・三角関数の微分	講義資料・教科書の予習 三角関数の微分の演習課題(Teams)
9	不定積分	・原始関数と不定積分 ・基本関数の不定積分	講義資料・教科書の予習 不定積分の演習課題(Teams)
10	不定積分	・置換積分 ・部分積分	講義資料・教科書の予習 置換積分の演習課題(Teams)
11	定積分	・不定積分と定積分 ・定積分の計算	講義資料・教科書の予習 定積分の計算の演習課題(Teams)
12	定積分	・定積分の応用 ・回転体の体積	講義資料・教科書の予習 回転体の体積の演習課題(Teams)
13	定積分	・置換積分 ・部分積分	講義資料・教科書の予習 置換積分の定積分の演習課題(Teams)
14	微分方程式	・変数分離形の微分方程式	講義資料・教科書の予習 変数分離形の微分方程式の演習課題(Teams)
15	まとめ	・まとめ	講義資料・教科書の予習 これまでの復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題評価40% 期末試験60%の合計によって判断する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。 講義を聞くだけ、テキストを読むだけでは数学は身につけません。授業で学んだ内容は自分で手を動かして確かめるように心掛けましょう。 分からないことがあれば、遠慮することなくいつでも質問してください。 数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	連絡先メールアドレスは初回授業でお伝えします。 メールを送る際は、必ず氏名、学籍番号、所属、コース名を本文に分かるように書いてください。
備考	事前・事後学習は毎回4時間程度かけることを前提としていますので、計画的に取り組んでください。

科目名	生物と環境	科目名 (英文)	Life and Environment
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 優
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NNA2320a1		

授業概要・目的	我々人類を含む生物と環境を取り巻く状況は、悪化の一途をたどっている。経済優先の人間活動による温室効果ガスの排出は地球温暖化を引き起こし、それに伴い環境破壊や水不足、食糧危機等の様々な社会問題が世界各地で顕在化している。そんな中、2030年を期限とした世界共通の目標—いわゆるSDGs—が2015年に国連（国際連合）で採択され、現在世界の約190の国と地域で、この目標達成に向けた活動が加速している。本講義では、このSDGsにある「17の目標」の学習を通じて、ヒトを含む生物と環境の関わりについて理解を深めることを目的とする。
到達目標	・生物（ヒトも含む）と環境とのかかわりを理解し、自ら説明することができる。 ・人間活動に起因する世界の環境問題を理解し、自ら説明することができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義形式。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	SDGs とは何か 目標1. 貧困をなくそう (No Poverty)	内容: SDGs とは何か 内容: SDGs 目標1 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
2	目標2. 飢餓をゼロに (Zero Hunger)	内容: SDGs 目標2 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
3	目標3. 人々に保健と福祉を ( Good Health and Well-Being)	内容: SDGs 目標3 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
4	目標4. 質の高い教育をみんなに (Quality Education)	内容: SDGs 目標4 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
5	目標5. ジェンダー平等を実現しよう (Gender Equality)	内容: SDGs 目標5 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
6	目標6. 安全な水とトイレを世界中に (Clean Water and Sanitation)	内容: SDGs 目標6 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
7	目標7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに (Affordable and Clean Energy)	内容: SDGs 目標7 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
8	目標8. 働きがいも経済成長も (Decent Work and Economic Growth)	内容: SDGs 目標8 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
9	目標9. 産業と技術革新の基礎をつくろう (Industry, Innovation and Infrastructure)	内容: SDGs 目標9 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
10	目標10. 人や国の不平等をなくそう (Reduced Inequalities)	内容: SDGs 目標10 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
11	目標11. 住み続けられるまちづくりを (Sustainable Cities and Communities)	内容: SDGs 目標11 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
12	目標12. つくる責任 つかう責任 (Responsible Consumption and Production)	内容: SDGs 目標12 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
13	目標13. 気候変動に具体的な対策を (Climate Action)	内容: SDGs 目標13 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
14	目標14. 海の豊かさを守ろう (Life Below Water) 目標15. 陸の豊かさを守ろう (Life on Land)	内容: SDGs 目標14 及び目標15 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
15	目標16. 平和と公正をすべての人に (Peace, Justice and Strong Institutions)	内容: SDGs 目標16 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一番わかりやすい!SDGsのざっくり知識	国際時事アナリスト編	河出書房新社



	2	SDGs 時代の社会貢献活動	前林 清和・中村 浩也（編集）	昭和堂
	3	データでわかる 2030 年地球のすがた	夫馬賢治	日経 BP 日本経済新聞出版本部
評価方法 (基準)	第 1-14 回終了後の小レポート（4 点×14 回=56 点）と第 15 回終了後の期末レポート（44 点）の合計点が 60 点以上（100 点満点）で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 1 号館 2 階 伊藤講師室（薬学部）			
備考				

科目名	地学	科目名 (英文)	Earth and Space Science
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 慶祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NNA3321a1		

授業概要・目的	地学の大きな柱である固体地球、岩石鉱物、地質・地史、大気・海洋、天文の諸分野に関して、実際のデータや写真など、具体的な資料を用いて、我々の住む地球や我々を取り巻く宇宙に関する知見を深め、我々が経験する自然現象がいろいろな法則や原理によって説明できることを学ぶ。扱う範囲は広いが、単に広く浅い知識を習得するのではなく、自らの手で資料を検討することによって少し深い知見も得られるよう進める。また今まに行われている研究についても紹介する。
到達目標	本授業を通して、様々な観点から我々の住む地球や宇宙に関する知見を深め、我々を取り巻く環境の変化が、いろいろな法則や原理によって説明できることを理解することができる。
授業方法と留意点	講義形式で、教科書を中心に進めます。事前事後学習は毎回1時間以上行い、しっかり予習して授業に臨むとともに、特に毎回授業の最初に行う小テストに備えて復習を行うこと。小テストは、採点して次の回に返却し、答え合わせをします。
科目学習の効果 (資格)	高等学校で地学を履修していない人が、地学の基礎学力を持つようになることによって、教員免許状を取得する一助となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	プレートテクトニクス	大陸移動説、海洋底拡大説、プレートテクトニクス、ブルームテクトニクスについて講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
3	地震・地殻変動	地震の発生、地震の分布、地震・火山活動に伴う地殻変動、長期的な変化について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
4	火山と火成活動	火山活動、火山噴出物、火成岩のでき方とその種類、造岩鉱物の性質、マグマの発生と分化について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
5	地表の変化と地層	風化・侵食、地形・地層の形成、堆積物と堆積層、地質調査と地質図、変成作用と変成岩について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
6	地球の歴史	示準化石・放射性元素の崩壊、地球史、造山運動について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
7	日本列島の歴史	プレートテクトニクスと日本列島、日本列島形成の歴史について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
8	大気圏の構造	大気・大気圏の構造、オゾン層、気象観測、天気図、大気中の水分、地球の熱収支について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
9	大気運動	大気に働く力、地衡風・傾度風、大気の大循環、世界の気候帯、台風、偏西風波動、温帯低気圧について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
10	日本でみられる季節の気象	日本における各季節の気候の特徴、日本付近の気団について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
11	海水の性質とその運動	海洋の構造、波、環流と西岸強化、潮汐、エルニーニョについて講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
12	太陽系の天体	太陽系の形成、太陽系の構造、惑星、彗星・流星・隕石、太陽の構造、太陽活動とその影響について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
13	恒星・惑星の運動	天球の座標、地球の自転、地球の公転、均時差、惑星の視運動と位置関係、ケプラーの法則について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
14	恒星の性質と進化	恒星の明るさ、恒星までの距離、恒星の表面温度、HR図と恒星の進化、食連星について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
15	恒星・銀河系・宇宙	星団と星間雲、銀河、宇宙の構造、ビッグバンについて講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。

関連科目	地学実験
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地学	磯崎行雄	啓林館
	2	新地学図表	浜島書店編集部	浜島書店
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>毎回小テストまたはレポート課題を課し、それらと期末試験の成績によって評価する。          小テストまたはレポート課題（30%）、期末試験（70%）の割合である。          なお原則として提出率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。          提出は、小テストの場合は授業中に、レポートの場合はWebFolderで行ってください。</p>			
学生への メッセージ	<p>高校で地学を履修していなかった受講生にも理解できるように授業を進めたいと考えています。事前事後学習は毎回1時間以上行い、しっかり予習・復習を行ってください。</p>			
担当者の 研究室等				
備考	<p>オンライン授業を行う場合は、ZoomのミーティングID: パスコードをお知らせします。</p>			

科目名	地学実験	科目名 (英文)	Experiments in Earth Science
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門 正博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NNA3322a1		

授業概要・目的	地学実験では、地球物理学・天文学・地質鉱物学における基本的事項について修得する。地質鉱物学分野では、直接生の岩石や堆積物、化石などに触れることによって地球の歴史や各自の生活の基盤になっている大地の生い立ちを考察できるようになることを目的とする。また、天文学分野では、天文に関する知識を実地の観測結果と結びつけて考察できるようにし、観測者である自分の空間位置を太陽系と恒星の世界の中で把握できるようにすることを目的とする。
到達目標	観測・実験を通して、我々の住むこの地球と宇宙についての理解がどのように進められたのかが認識できる。 観測・実験に必要な機器の操作ができるようになる。
授業方法と留意点	地質鉱物学分野では、実物の標本を手にして観察したり、実際に歩いてみるなど体験的に地質学の方法論や考え方を学ぶ内容となっている。天文学分野では、実際に天体望遠鏡を用いて天体の観測を行い、基本的な操作や記録の方法について知るとともに得られたデータのコンピュータ解析も行なう。気象分野では、大気の特徴を観測・実験などを通して調べ、大規模な気象との関連について天気図上で考察できるようにする。教科書は使わず、資料プリントを配布する。
科目学習の効果 (資格)	地球ならびに惑星科学についての幅広い教養を身につけることが出来るほか、環境科学の分野にも寄与する内容である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	天体観測の基礎	天体情報は、光をはじめとする電磁波によって得られる。天体からの微弱な光を集め観測する天体望遠鏡の仕組みと観測機器の基本を理解し、基本操作を学ぶ。	「光」の特徴や「レンズ」の特性・種類について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
2	太陽、月と惑星 (観測の実際)	太陽や月、金星などの明るい惑星を対象にして、望遠鏡で観測をおこなう。実際に、天体を視野内に導入してみる。	望遠鏡の操作マニュアルを確認しておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
3	太陽データの解析	太陽黒点を主にして太陽表面の状態を観測データから明らかにする。恒星の代表としての太陽を知る。	太陽の基本的な諸量、特徴について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
4	恒星データの解析	星団中の恒星の測光データをもとに HR 図を作成し、星団までの距離や恒星の進化について考察する。	HR 図、恒星の進化について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
5	銀河データの解析	距離のわかっている銀河のスペクトルデータからハッブルの法則を確認し、宇宙の膨張速度であるハッブル定数を決定する。	スペクトル、ドップラー効果について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
6	気象要素と天気図	温度、湿度、気圧、風などの測定結果から、天気図を作成する。	天気記号や気象用語について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
7	天気図とひまわり画像	作成した天気図から実際の雲などの配置を予想する。また、大気の大循環について理解する。	天気図とひまわり画像をもとにこの1週間の天気の変化をまとめる (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
8	地球の大きさを測る	歩測を使い学内の特定ルートを歩き、GPS を用いて緯度確認を行い、計算によって地球の大きさを測る。	地球についてその大きさや特徴を事前に理解しておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
9	地形図の読み方と水系図の作成	1/25000 地形図を使い、水系図と地形断面図を作成する。 地形図から私たちの身近な大地の特徴を理解する。特に地形断面をつくり、その断面の特徴から地形形成の歴史を推察する。また、水系図を描き、その大地の特徴ならびに流れる水の特徴について考える。	典型的な地形 (カルデラ、扇状地、段丘、構造盆地、...) についてその特徴などを理解しておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
10	地層の特徴を学ぶ	地質図を理解するうえで必要な、地層の走向と傾斜についてモデルを用いて考察する。	あなたの住む地域の地質図 (産業技術総合研究所地質調査総合センター) を調べ、その分布の特徴を理解しておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
11	地震	複数の観測所 (3 か所以上) の地震計の記録から初期微動継続時間を読み取り、震源を特定する。	プレートテクトニクスの考え方や、それによってどのように地震が起こるのかを調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
12	岩石の肉眼鑑定	主要な岩石 (火成岩と堆積岩) の肉眼での鑑定を行う。高等学校教科書等で一般に扱われる 14 種類の岩石を取り上げて、それらがどのようにつくられたのかを理解する。	火成岩と堆積岩について事前にどのようなものがあるかを理解しておく。また実際に観察を通して身近な岩石の特徴を理解して、一つでも多くの岩石が分かるようにしておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
13	岩石薄片の観察	偏光顕微鏡を用いて、岩石薄片を観察し、顕微鏡スケッチを実施する。観察方法ならびに偏光顕微鏡についてその基本を学ぶ。観察を通して構成鉱物の違いならびに組織の特徴について理解する。	偏光板の特徴や偏光顕微鏡の仕組みについて調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
14	地球の歴史	地球カレンダーを作成し、化石に関する知識など地質時代の特徴とその長さを理解する。	大型化石や微化石についてどのようなものがあるかを事前に調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
15	まとめ	地学実験を通して、グループでの総合的発表の時間とする。	発表用の資料 (パワーポイント) を作成する (300 分)。

関連科目	地理学ならびに地球惑星に関する科目。
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>すべての回の実験に出席することを前提に、以下の割合で評価をおこなう。</p> <p>各回の実験レポート・・・60%</p> <p>事前・事後の課題・・・30%</p> <p>最終回の発表・・・10%</p>																
学生への メッセージ	<p>日頃より理科や科学に関する内容に興味・関心をもち、新聞、ニュース、科学雑誌等に取り上げられる事柄に目をくばるように心がけることが大切である。</p> <p>地学を受講していることが望ましい。</p>																
担当者の 研究室等																	
備考																	

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ルイス プット
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NJA1330a1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: 前期で学ぶ学習範囲を確認すること (0.5 時間)
2	Unit 0 Introduction to the Body	Anterior View / Posterior View	事前学習: Unit 0 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 0 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
3	Unit 0 Introduction to the Body	Describing Positions	事前学習: Unit 0 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 0 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
4	Unit 1 Introducing Yourself	Introducing Yourself /Using Non-Verbal Communication/	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 1 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
5	Unit 1 Introducing Yourself	Asking for Patient Details/Asking a Patient to Repeat Information	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 1 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
6	Unit 1 Introducing Yourself	Medical Stories in Life	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 1 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
7	Unit 2 Starting the Patient Interview	Types of Questions which are used during a Patient Interview/ Talking about Symptoms1-3	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 2 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
8	Unit 2 Starting the Patient Interview	Using Medical Terminology when Talking to Patients / Medical Stories in Life	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 2 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
9	Unit 3 Talking to Patients about the Current Health Issue	Talking about the Patient's current health Status and Issue / Explaining what makes a symptom better or worse	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 3 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
10	Unit 3 Talking to Patients about the Current Health Issue	Asking about Past Experiences/ Medical Stories in Life	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 3 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
11	Unit 4 Discussing Vital Signs	Consent/Talking Vital Signs	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 4 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
12	Unit 4 Discussing Vital Signs	Explaining the Steps of a Procedure/ Talking about Abnormal Results/ Medical Stories in Life	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 4 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
13	Unit 5 Examining a Patient	Talking to Patients for an Examination: (1) Movement	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 5 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
14	Unit 5 Examining a Patient	Examining a Patient (2)/Clarifying Instructions /Medical Stories in Life	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 5 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 0 から 5 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 0 から 5 で学習した内容を総復習する

				ること(0.5時間)
関連科目	英語Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Medical English: English for Medical Purposes	Virginia Allum	Cengage
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	I am really looking forward to exploring the world of nursing through English together with you. Let's create a meaningful and enjoyable time together.			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NJA1330a1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: 前期で学ぶ学習範囲を確認すること (0.5 時間)
2	Unit 0 Introduction to the Body	Anterior View / Posterior View	事前学習: Unit 0 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 0 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
3	Unit 0 Introduction to the Body	Describing Positions	事前学習: Unit 0 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 0 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
4	Unit 1 Introducing Yourself	Introducing Yourself /Using Non-Verbal Communication/	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 1 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
5	Unit 1 Introducing Yourself	Asking for Patient Details/Asking a Patient to Repeat Information	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 1 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
6	Unit 1 Introducing Yourself	Medical Stories in Life	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 1 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
7	Unit 2 Starting the Patient Interview	Types of Questions which are used during a Patient Interview/ Talking about Symptoms1-3	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 2 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
8	Unit 2 Starting the Patient Interview	Using Medical Terminology when Talking to Patients / Medical Stories in Life	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 2 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
9	Unit 3 Talking to Patients about the Current Health Issue	Talking about the Patient's current health Status and Issue / Explaining what makes a symptom better or worse	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 3 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
10	Unit 3 Talking to Patients about the Current Health Issue	Asking about Past Experiences/ Medical Stories in Life	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 3 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
11	Unit 4 Discussing Vital Signs	Consent/Talking Vital Signs	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 4 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
12	Unit 4 Discussing Vital Signs	Explaining the Steps of a Procedure/ Talking about Abnormal Results/ Medical Stories in Life	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 4 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
13	Unit 5 Examining a Patient	Talking to Patients for an Examination: (1) Movement	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 5 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
14	Unit 5 Examining a Patient	Examining a Patient (2)/Clarifying Instructions /Medical Stories in Life	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 5 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 0 から 5 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 0 から 5 で学習した内容を総復習する



				ること(0.5時間)
関連科目	英語Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Medical English: English for Medical Purposes	Virginia Allum	Cengage
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	<p>入学おめでとう。これからの4年間、どんなことをやりたいですか。ひとりで外国を旅してくるのはどうでしょう。若い旅行者の集まる安宿が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語... いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュも臆せず使えるようになります。</p> <p>海外での一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません</p>			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	飯盛 康史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NEN1323 c 1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: 前期で学ぶ学習範囲を確認すること (0.5 時間)
2	Unit 0 Introduction to the Body	Anterior View / Posterior View	事前学習: Unit 0 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 0 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
3	Unit 0 Introduction to the Body	Describing Positions	事前学習: Unit 0 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 0 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
4	Unit 1 Introducing Yourself	Introducing Yourself /Using Non-Verbal Communication/	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 1 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
5	Unit 1 Introducing Yourself	Asking for Patient Details/Asking a Patient to Repeat Information	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 1 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
6	Unit 1 Introducing Yourself	Medical Stories in Life	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 1 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
7	Unit 2 Starting the Patient Interview	Types of Questions which are used during a Patient Interview/ Talking about Symptoms1-3	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 2 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
8	Unit 2 Starting the Patient Interview	Using Medical Terminology when Talking to Patients / Medical Stories in Life	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 2 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
9	Unit 3 Talking to Patients about the Current Health Issue	Talking about the Patient's current health Status and Issue / Explaining what makes a symptom better or worse	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 3 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
10	Unit 3 Talking to Patients about the Current Health Issue	Asking about Past Experiences/ Medical Stories in Life	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 3 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
11	Unit 4 Discussing Vital Signs	Consent/Talking Vital Signs	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 4 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
12	Unit 4 Discussing Vital Signs	Explaining the Steps of a Procedure/ Talking about Abnormal Results/ Medical Stories in Life	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 4 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
13	Unit 5 Examining a Patient	Talking to Patients for an Examination: (1) Movement	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 5 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
14	Unit 5 Examining a Patient	Examining a Patient (2)/Clarifying Instructions /Medical Stories in Life	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 5 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 0 から 5 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 0 から 5 で学習した内容を総復習する

				ること(0.5時間)
関連科目	英語Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Medical English: English for Medical Purposes	Virginia Allum	Cengage
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	英語Ⅱ	科目名 (英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NMA1331a1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5時間) 事後学習:後期で学ぶ学習範囲を確認すること(0.5時間)
2	Unit 6 Talking about Pain Level	Types of Pain/ Describing Pain	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 6で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
3	Unit 6 Talking about Pain Level	Asking about Pain/How severe is the Pain?	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 6で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
4	Unit 6 Talking about Pain Level	Medical Stories in Life	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 6で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
5	Unit 7 Talking about Tests	Explaining Blood Tests/Giving Instructions with Softeners	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 7で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
6	Unit 7 Talking about Tests	Explaining Radiological Tests/Medical Stories in Life	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 7で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
7	Unit 8 Discussing a Diagnosis	Talking about the Patient's current Health Status and changes in Symptoms	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 8で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
8	Unit 8 Discussing a Diagnosis	Talking about Present and Past conditions / Signs / Medical Stories in Life	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 8で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
9	Unit 9 Discussing Surgery Options	Breaking News to a Patient/Talking to Patients about Risks/Asking about Past Health Experiences	事前学習:Unit 9の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 9で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
10	Unit 9 Discussing Surgery Options	Asking about Current Health Habits and what to expect after an operation/ Medical Stories in Life	事前学習:Unit 9の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 9で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
11	Unit 10 Wounds, Infections and Allergies	Talking about Details of an Injury, and Infection & Treatment	事前学習:Unit 10の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 10で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
12	Unit 10 Wounds, Infections and Allergies	Talking about Pain/ Explaining Treatment for an Allergic Reaction / Medical Stories in Life	事前学習:Unit 10の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 10で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
13	Unit 11 Talking about Treatment	Types of Medication / Prescribing Medication	事前学習:Unit 11の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 11で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
14	Unit 11 Talking about Treatment	Explaining Side-Effects /Instructing a Patient on how to take Medication/Medical Stories in Life	事前学習:Unit 11の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 11で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習:Unit 6から11で学習した内容を復習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 6から11で学習した内容を総復習

				すること(0.5時間)
関連科目	英語 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Medical English: English for Medical Purposes	Virginia Allum	Cengage
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	アウトプット(話す・書く)を意識した訓練を行っていきます。相手に伝えたい内容が少し複雑だったりすると、「自分の英語力では無理だ」と諦めていませんか。皆さんが持っている英語の知識(単語・文法など)は、既に膨大な量です。それらをうまく組み合わせることで、複雑な内容でも簡単な表現で伝えることができるようになります。そのための様々な訓練を行っていきます。楽しみながら力をつけてください。			
担当者の 研究室等	1号館 2階非常勤講師室			
備考				

科目名	英語Ⅱ	科目名 (英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ルイス プット
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NMA1331a1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: 後期で学ぶ学習範囲を確認すること (0.5 時間)
2	Unit 6 Talking about Pain Level	Types of Pain/ Describing Pain	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 6 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
3	Unit 6 Talking about Pain Level	Asking about Pain/How severe is the Pain?	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 6 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
4	Unit 6 Talking about Pain Level	Medical Stories in Life	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 6 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
5	Unit 7 Talking about Tests	Explaining Blood Tests/Giving Instructions with Softeners	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 7 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
6	Unit 7 Talking about Tests	Explaining Radiological Tests/Medical Stories in Life	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 7 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
7	Unit 8 Discussing a Diagnosis	Talking about the Patient's current Health Status and changes in Symptoms	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 8 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
8	Unit 8 Discussing a Diagnosis	Talking about Present and Past conditions / Signs / Medical Stories in Life	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 8 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
9	Unit 9 Discussing Surgery Options	Breaking News to a Patient/Talking to Patients about Risks/Asking about Past Health Experiences	事前学習: Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 9 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
10	Unit 9 Discussing Surgery Options	Asking about Current Health Habits and what to expect after an operation/ Medical Stories in Life	事前学習: Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 9 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
11	Unit 10 Wounds, Infections and Allergies	Talking about Details of an Injury, and Infection & Treatment	事前学習: Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 10 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
12	Unit 10 Wounds, Infections and Allergies	Talking about Pain/ Explaining Treatment for an Allergic Reaction / Medical Stories in Life	事前学習: Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 10 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
13	Unit 11 Talking about Treatment	Types of Medication / Prescribing Medication	事前学習: Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 11 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
14	Unit 11 Talking about Treatment	Explaining Side-Effects /Instructing a Patient on how to take Medication/Medical Stories in Life	事前学習: Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 11 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 6 から 11 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 6 から 11 で学習した内容を総復習

				すること(0.5時間)
関連科目	英語 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Medical English: English for Medical Purposes	Virginia Allum	Cengage
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	I am looking forward to exploring the world of nursing through English together with you. Let's create a meaningful and enjoyable time together.			
担当者の 研究室等	1号館 2階非常勤講師室			
備考				

科目名	英語Ⅱ	科目名 (英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	飯盛 康史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NEN1324 c 1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5時間) 事後学習:後期で学ぶ学習範囲を確認すること(0.5時間)
2	Unit 6 Talking about Pain Level	Types of Pain/ Describing Pain	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 6で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
3	Unit 6 Talking about Pain Level	Asking about Pain/How severe is the Pain?	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 6で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
4	Unit 6 Talking about Pain Level	Medical Stories in Life	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 6で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
5	Unit 7 Talking about Tests	Explaining Blood Tests/Giving Instructions with Softeners	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 7で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
6	Unit 7 Talking about Tests	Explaining Radiological Tests/Medical Stories in Life	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 7で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
7	Unit 8 Discussing a Diagnosis	Talking about the Patient's current Health Status and changes in Symptoms	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 8で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
8	Unit 8 Discussing a Diagnosis	Talking about Present and Past conditions / Signs / Medical Stories in Life	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 8で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
9	Unit 9 Discussing Surgery Options	Breaking News to a Patient/Talking to Patients about Risks/Asking about Past Health Experiences	事前学習:Unit 9の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 9で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
10	Unit 9 Discussing Surgery Options	Asking about Current Health Habits and what to expect after an operation/ Medical Stories in Life	事前学習:Unit 9の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 9で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
11	Unit 10 Wounds, Infections and Allergies	Talking about Details of an Injury, and Infection & Treatment	事前学習:Unit 10の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 10で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
12	Unit 10 Wounds, Infections and Allergies	Talking about Pain/ Explaining Treatment for an Allergic Reaction / Medical Stories in Life	事前学習:Unit 10の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 10で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
13	Unit 11 Talking about Treatment	Types of Medication / Prescribing Medication	事前学習:Unit 11の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 11で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
14	Unit 11 Talking about Treatment	Explaining Side-Effects /Instructing a Patient on how to take Medication/Medical Stories in Life	事前学習:Unit 11の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 11で学習した内容を復習してくること(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習:Unit 6から11で学習した内容を復習してくること(0.5時間) 事後学習:Unit 6から11で学習した内容を総復習



				すること(0.5時間)
関連科目	英語 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Medical English: English for Medical Purposes	Virginia Allum	Cengage
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	1号館 2階非常勤講師室			
備考				

科目名	英語Ⅲ	科目名 (英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ルイス プット
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NEN2325 c 1		

授業概要・目的	英語 I, II で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</li> <li>・「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。</li> <li>・「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海</li> </ul>
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: テキストの構成を確認し、音声をダウンロードすること (0.5 時間)
2	Unit 1 Greetings and Registration	基礎編・実践編: Input / Output	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 1 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
3	Unit 2 Hospital Departments / Directions	基礎編・実践編: Input / Output	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 2 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
4	Unit 3 Vital Signs and Medical Questionnaire	基礎編・実践編: Input / Output	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 3 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
5	Unit 4 Internal Medicine (1)	基礎編・実践編・応用編: Input / Output	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 4 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
6	Unit 5 Internal Medicine (2)	基礎編・実践編・応用編: Input / Output	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 5 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
7	Unit 6 Internal Medicine (3)	基礎編・実践編・応用編: Input / Output	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 6 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
8	Unit 7 Urology	基礎編・実践編・応用編: Input / Output	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 7 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
9	Unit 8 Surgery / Orthopedics	基礎編・実践編・応用編: Input / Output	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 8 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
10	Unit 9 OB-GYN	基礎編・実践編・応用編: Input / Output	事前学習: Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 9 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
11	Unit 10 Pediatrics	基礎編・実践編・応用編: Input / Output	事前学習: Units 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Units 10 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
12	Unit 11 Giving Tests	基礎編・実践編: Input / Output	事前学習: Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 11 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
13	Unit 12 Before and After an Operation	基礎編・実践編: Input / Output	事前学習: Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 12 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
14	Unit 13 Medications	基礎編・実践編: Input / Output	事前学習: Unit 13 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 13 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1 から 13 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 1 から 13 で学習した内容を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護英語の練習帳-インプットからアウトプットへ	井上真紀	萌文書林
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	I am looking forward to exploring the world of Nursing in English together with you. Let's create a meaningful and enjoyable time together.			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	英語Ⅲ	科目名 (英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	飯盛 康史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NEN2325 c 1		

授業概要・目的	英語 I, II で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。</li> <li>・「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。</li> <li>・「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海</li> </ul>
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: テキストの構成を確認し、音声ダウンロードすること (0.5 時間)
2	Unit 1 Greetings and Registration	基礎編・実践編: Input / Output	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 1 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
3	Unit 2 Hospital Departments / Directions	基礎編・実践編: Input / Output	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 2 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
4	Unit 3 Vital Signs and Medical Questionnaire	基礎編・実践編: Input / Output	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 3 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間) 事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 4 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
5	Unit 4 Internal Medicine (1)	基礎編・実践編・応用編: Input / Output	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 4 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
6	Unit 5 Internal Medicine (2)	基礎編・実践編・応用編: Input / Output	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 5 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
7	Unit 6 Internal Medicine (3)	基礎編・実践編・応用編: Input / Output	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 6 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
8	Unit 7 Urology	基礎編・実践編・応用編: Input / Output	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 7 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
9	Unit 8 Surgery / Orthopedics	基礎編・実践編・応用編: Input / Output	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 8 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
10	Unit 9 OB-GYN	基礎編・実践編・応用編: Input / Output	事前学習: Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 9 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
11	Unit 10 Pediatrics	基礎編・実践編・応用編: Input / Output	事前学習: Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 10 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
12	Unit 11 Giving Tests	基礎編・実践編: Input / Output	事前学習: Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 11 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
13	Unit 12 Before and After an Operation	基礎編・実践編: Input / Output	事前学習: Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 12 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
14	Unit 13 Medications	基礎編・実践編: Input / Output	事前学習: Unit 13 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Unit 13 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)

	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から 13 で学習した内容を復習して てくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 1 から 13 で学習した内容を総復習 すること (0.5 時間)
関連科目	英語 I、英語 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護英語の練習帳—インプットからアウトプットへ—	井上真紀	萌文書林
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室			
備考				

科目名	英語Ⅲ	科目名 (英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉野 久和
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NEN2325 c 1		

授業概要・目的	英語 I, II で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</li> <li>・「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。</li> <li>・「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海</li> </ul>
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習：テキストの構成を確認し、音声をダウンロードすること (0.5 時間)
2	Unit 1 Greetings and Registration	基礎編・実践編：Input / Output	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 1 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
3	Unit 2 Hospital Departments / Directions	基礎編・実践編：Input / Output	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 2 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
4	Unit 3 Vital Signs and Medical Questionnaire	基礎編・実践編：Input / Output	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 3 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
5	Unit 4 Internal Medicine (1)	基礎編・実践編・応用編：Input / Output	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 4 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
6	Unit 5 Internal Medicine (2)	基礎編・実践編・応用編：Input / Output	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 5 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
7	Unit 6 Internal Medicine (3)	基礎編・実践編・応用編：Input / Output	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 6 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
8	Unit 7 Urology	基礎編・実践編・応用編：Input / Output	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 7 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
9	Unit 8 Surgery / Orthopedics	基礎編・実践編・応用編：Input / Output	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 8 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
10	Unit 9 OB-GYN	基礎編・実践編・応用編：Input / Output	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 9 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
11	Unit 10 Pediatrics	基礎編・実践編・応用編：Input / Output	事前学習：Units 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Units 10 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
12	Unit 11 Giving Tests	基礎編・実践編：Input / Output	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 11 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
13	Unit 12 Before and After an Operation	基礎編・実践編：Input / Output	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 12 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
14	Unit 13 Medications	基礎編・実践編：Input / Output	事前学習：Unit 13 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 13 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から 13 で学習した内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 1 から 13 で学習した内容を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護英語の練習帳-インプットからアウトプットへ	井上真紀	萌文書林
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	英語IV	科目名 (英文)	English IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉野 久和
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2507a3		

授業概要・目的	<p>《訳アリ》Pride and Prejudice</p> <p>Jane Austen のPride and Prejudice (原作 1813; 映画版 2005年) を《訳=ヤク》ありで視聴し、基礎的な語彙と文法を実践的に学ぶ。また、語学的な技能だけでは理解しえない英文の背後にある地理的・文化的な《訳=ワケ》も知り、総合的で確かな英語力を養成する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準的な英文を理解する能力を養う。</li> <li>・ネイティブスピーカーと同等以上に理解する能力を目指す。</li> <li>・自立して英語力を向上させる足がかりとする。</li> </ul>			
授業方法と留意点	講義を外枠とし、読解の演習を適宜実施。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	舞踏会と「第一印象」	リーディング、リスニング、視点	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
	2	駆け引きと家族	リーディング、リスニング、俗物	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
	3	牧師と軍人	リーディング、リスニング、時代	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
	4	ダンスと会話	リーディング、リスニング、行間	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
	5	本音と建て前	リーディング、リスニング、笑い	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
	6	愛と打算	リーディング、リスニング、裏切り	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
	7	中間テスト	リーディング、リスニング、記述	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
	8	友と形式	リーディング、リスニング、慣習	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
	9	足と判断	リーディング、リスニング、態度	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
	10	手紙と晴れ	リーディング、リスニング、伝統	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
	11	妹と夫	リーディング、リスニング、誤解	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
	12	再始動と決意	リーディング、リスニング、革新	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
	13	映像視聴①	リスニング、ディスカッション、CM	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
	14	映像視聴②	リスニング、ディスカッション、遺産	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
15	期末テスト	リーディング、リスニング、記述	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間)	



				・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)
関連科目	英語 I～III			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業内で配布		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	[1] 授業内課題 40点 (5点×8回) [2] 確認テスト 60点 (20点×3) *再受験の学生は、上記[1]を「レポート」とする。 ([2]に参加できない場合は要相談)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	・指定の箇所を音読し、基本的な意味を理解する。(1時間) ・映像作品などを参照し、多角的に熟考する。(1時間)			

科目名	中国語	科目名 (英文)	Chinese
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	薬 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8○		
科目ナンバリング	NCH1328e1		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、基本句型を使った日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を味わうことができる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な句型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	発音要領と基礎文法の解説、会話文の朗読練習を通じて、読む・聴く・話す・書くという四つの基礎能力を身につける。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	発音 (3) 鼻母音・声調変化 発音 (4) 声調の組み合わせ・r 化音  名前の言い方 月日の表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>母音 (鼻母音)</li> <li>声調変化</li> <li>声調の組み合わせ</li> <li>r 化音</li> <li>名前の言い方</li> <li>月日の表現</li> </ul>	p20～p30 の録音を聞いて、発音とフレーズを練習をすること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
3	本編 第 1 課 中国のかたですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>動詞述語文</li> <li>疑問文</li> <li>指示代名詞</li> <li>家族名称</li> <li>会話 (中国のかたですか)</li> </ul>	p 32～p 35 の録音を聞いて、第 1 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (P94) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
4	第 2 課 あなたの家はどこにありますか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>形容詞述語文</li> <li>所有の「有」</li> <li>動詞構文の基本語順</li> <li>「的」の使い方</li> <li>副詞「也」など</li> <li>会話 (あなたの家はどこにありますか)</li> </ul>	p36～p 39 の録音を聞いて、第 2 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p95) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
5	★単元テスト 1 第 3 課 今日はどこに行きますか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>動詞「有」と「在」</li> <li>連動文</li> <li>助動詞「想」と「要」の用法</li> <li>時間詞の位置</li> <li>会話 (今日どこに行きますか)</li> </ul>	p 40～p 43 の録音を聞いて、第 3 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p96) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
6	第 4 課 娘は切符を買う必要がありますか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢の言い方</li> <li>～と「和」</li> <li>時刻の言い方</li> <li>連体修飾語</li> <li>会話 (娘は切符を買う必要がありますか)</li> </ul>	p44～p47 の録音を聞いて、第 4 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p97) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
7	第 5 課 お手伝いしましょうか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>助動詞「会」と「能」の用法</li> <li>文末の「了」</li> <li>数量詞</li> <li>介詞「給」</li> <li>会話 (お手伝いしましょうか)</li> </ul>	p50～p53 の録音を聞いて、第 5 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p98) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
8	第 6 課 ちょっと見てもいいですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>助動詞「可以」</li> <li>完了の「了」</li> <li>助詞「一下」</li> <li>時間量の言い方</li> <li>会話 (ちょっと見てもいいですか)</li> </ul>	p54～p 57 の録音を聞いて、第 6 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p99) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
9	第 7 課 旅行で来たのですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>介詞「在」</li> <li>時量</li> <li>「是～的」構文</li> <li>～するつもり「打算」</li> <li>過去の経験を表す「過」</li> <li>会話 (旅行で来たのですか)</li> </ul>	p58～p61 の録音を聞いて、第 7 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p100) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
10	★単元テスト 2 第 8 課 もちろん登ってみたいです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>結果補語</li> <li>疑問詞の不定用法</li> <li>介詞「離」</li> <li>方向補語</li> <li>動詞の重ね型</li> <li>会話 (もちろん登ってみたいです)</li> </ul>	p62～p65 の録音を聞いて、第 8 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p101) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
11	第 9 課 道に迷いましたか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>進行形</li> <li>介詞「从」</li> <li>副詞の「就」</li> <li>反復疑問</li> <li>会話 (道に迷いましたか)</li> </ul>	p68～p71 の録音を聞いて、第 9 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p102) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
12	第 10 課 まず販売機で食券を買います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「把」の構文</li> <li>方位詞</li> <li>存現文</li> <li>二重目的語</li> </ul>	p72～p 75 の録音を聞いて、第 10 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p103) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。

			・会話（まず販売機で食券を買います）	
	13	第11課 ビールを注文しました。	・持続の「着」 ・可能補語 ・使役文 ・比較文 ・会話（ビールを注文しました）	p76～p79の録音を聞いて、第11課の単語、例文、会話を覚え、練習問題（p104）を解答すること（事前・事後をあわせて1時間の学習を行う）。
	14	第12課 中国語がお上手ですね。	・様態補語 ・助動詞「應該」と「得」 ・離合詞 ・選択疑問文 ・会話（中国語がお上手ですね）	p80～p83の録音を聞いて、第12課の単語、例文、会話を覚え、練習問題（p105）を解答すること（事前・事後をあわせて1時間の学習を行う）。
	15	第1～12課の総合復習 ★単元テスト3	第1～12課の総合復習・文法まとめ、 質問解答	第1～12課授業内容の復習をすること（事前・事後をあわせて1時間の学習を行う）。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語のおもてなし（入門編）	相原茂（監修）、本間由香利・蘇紅著	郁文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法（基準）	授業への参加度・課題：50% 単元テスト：50%			
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の研究室等	非常勤講師室（1号館2階）			
備考	質問等は授業後、もしくは出講日の非常勤講師室にて対応する。			

科目名	中国語	科目名 (英文)	Chinese
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	薬 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8○		
科目ナンバリング	NCH1328e1		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、基本句型を使った日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を味わうことができる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な句型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	発音要領と基礎文法の解説、会話文の朗読練習を通じて、読む・聴く・話す・書くという四つの基礎能力を身につける。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音編 発音 (1) 声調・母音 発音 (2) 子音・軽声	・中国語の音節 ・声調 (アクセント) ・母音 (単母音、複母音) ・子音 ・軽声	p12～p19 の録音を聞いて、 発音を練習をすること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
2	発音 (3) 鼻母音・声調変化 発音 (4) 声調の組み合わせ・r 化音  名前の言い方 月日の表現	・母音 (鼻母音) ・声調変化 ・声調の組み合わせ ・r 化音 ・名前の言い方 ・月日の表現	p20～p30 の録音を聞いて、 発音とフレーズを練習をすること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
3	本編 第 1 課 中国のかたですか?	・動詞述語文 ・疑問文 ・指示代名詞 ・家族名称 ・会話 (中国のかたですか)	p 32～p 35 の録音を聞いて、 第 1 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (P94) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
4	第 2 課 あなたの家はどこにありますか?	・形容詞述語文 ・所有の「有」 ・動詞構文の基本語順 ・「的」の使い方 ・副詞「也」など ・会話 (あなたの家はどこにありますか)	p36～p 39 の録音を聞いて、 第 2 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p95) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
5	★単元テスト 1 第 3 課 今日はどこに行きますか?	・動詞「有」と「在」 ・連動文 ・助動詞「想」と「要」の用法 ・時間詞の位置 ・会話 (今日どこに行きますか)	p 40～p 43 の録音を聞いて、 第 3 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p96) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
6	第 4 課 娘は切符を買う必要がありますか?	・年齢の言い方 ・～と「和」 ・時刻の言い方 ・連体修飾語 ・会話 (娘は切符を買う必要がありますか)	p44～p47 の録音を聞いて、 第 4 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p97) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
7	第 5 課 お手伝いしましょうか?	・助動詞「会」と「能」の用法 ・文末の「了」 ・数量詞 ・介詞「給」 ・会話 (お手伝いしましょうか)	p50～p53 の録音を聞いて、 第 5 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p98) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
8	第 6 課 ちょっと見てもいいですか?	・助動詞「可以」 ・完了の「了」 ・助詞「一下」 ・時間量の言い方 ・会話 (ちょっと見てもいいですか)	p54～p 57 の録音を聞いて、 第 6 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p99) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
9	第 7 課 旅行で来たのですか?	・介詞「在」 ・時量 ・「是～的」構文 ・～するつもり「打算」 ・過去の経験を表す「過」 ・会話 (旅行で来たのですか)	p58～p61 の録音を聞いて、 第 7 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p100) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
10	★単元テスト 2 第 8 課 もちろん登ってみたいです。	・結果補語 ・疑問詞の不定用法 ・介詞「離」 ・方向補語 ・動詞の重ね型 ・会話 (もちろん登ってみたいです)	p62～p65 の録音を聞いて、 第 8 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p101) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
11	第 9 課 道に迷いましたか?	・進行形 ・介詞「从」 ・副詞の「就」 ・反復疑問 ・会話 (道に迷いましたか)	p68～p71 の録音を聞いて、 第 9 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p102) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
12	第 10 課 まず販売機で食券を買います。	・「把」の構文 ・方位詞 ・存現文 ・二重目的語	p72～p 75 の録音を聞いて、 第 10 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p103) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。

			・会話（まず販売機で食券を買います）	
	13	第11課 ビールを注文しました。	・持続の「着」 ・可能補語 ・使役文 ・比較文 ・会話（ビールを注文しました）	p76～p79の録音を聞いて、第11課の単語、例文、会話を覚え、練習問題（p104）を解答すること（事前・事後をあわせて1時間の学習を行う）。
	14	第12課 中国語がお上手ですね。	・様態補語 ・助動詞「應該」と「得」 ・離合詞 ・選択疑問文 ・会話（中国語がお上手ですね）	p80～p83の録音を聞いて、第12課の単語、例文、会話を覚え、練習問題（p105）を解答すること（事前・事後をあわせて1時間の学習を行う）。
	15	第1～12課の総合復習 ★単元テスト3	第1～12課の総合復習・文法まとめ、 質問解答	第1～12課授業内容の復習をすること（事前・事後をあわせて1時間の学習を行う）。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語のおもてなし（入門編）	相原茂（監修）、本間由香利・蘇紅著	郁文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法（基準）	授業への参加度・課題：50% 単元テスト：50%			
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の研究室等	非常勤講師室（1号館2階）			
備考	質問等は授業後、もしくは出講日の非常勤講師室にて対応する。			

科目名	韓国語	科目名 (英文)	Korean
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金 漢拏
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8○		
科目ナンバリング	NK01329e1		

授業概要・目的	この授業では、ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格に対応できるような「基礎力」を養成することを目的とする。教科書は『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2022年)を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景や韓国社会についての知識もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格に向けた基礎力を養成する。 ①文法事項・単語力 (基本的な文法と表現、単語数約250語程度) ②読解力と作文能力 ③リスニング力 ④発話力 (決まり文句としてのあいさつやあいづち、簡単な意思表示)
授業方法と留意点	1) 文法事項・語彙の復習の時間をとって着実に学習を重ねること。 2) 進捗については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3) 受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4) フィードバックは基本的に授業内に行う。
科目学習の効果 (資格)	ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格に向けた基礎力養成

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス I. ハングルの習おう! 第1課 母音字1	・授業の進め方、成績評価、学習方法 ・母音字1	文字・語彙の復習 (60分)
2	I. ハングルの習おう! 第2課 子音字1	平音1 (初声) 平音2 (終声)	文字・語彙の予習・復習 (120分)
3	I. ハングルの習おう! 第3課 母音字2	母音字2	文字・語彙の予習・復習 (120分)
4	I. ハングルの習おう! 第4課 子音字2	平音2 (初声) 激音2 (初声)	文字・語彙の予習・復習 (120分)
5	I. ハングルの習おう! 第5課 バッチム	終声 (バッチム)	文字・語彙の予習・復習 (120分)
6	I. ハングルの習おう! 第6課 母音字3	母音字3	文字・語彙の予習・復習 (120分)
7	I. ハングルの習おう! 第7課 子音字3	濃音 (初声) 濃音 (終声) 日本語のハングル表記	文字・語彙の予習・復習 (120分)
8	第8課 知っておこう	教室でよく使う表現 分かち書き 発音規則	表現・発音の予習・復習 (120分)
9	II話してみよう! 第1課 こんにちは	丁寧語尾~です、ます (ハヨ体)	文法事項・語彙の予習・復習 (120分)
10	II話してみよう! 第1課 こんにちは	助詞 (~は)	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)
11	II話してみよう! 第2課 これは何ですか。	指示詞 (この、その、あの)	文法事項・語彙の予習・復習 (120分)
12	II話してみよう! 第2課 これは何ですか。	助詞 (~が) 助詞 (だけ、のみ)	文法事項・語彙の予習・復習 (120分)
13	II話してみよう! 第3課 アメリカンコーヒーありますか。	存在詞「います、あります」 語尾~です、ます (ハムニダ体)	文法事項・語彙の予習・復習 (120分)
14	II話してみよう! 第3課 アメリカンコーヒーありますか。	バッチム「r」脱落 助詞 (~と)	文法事項・語彙の予習・復習 (120分)
15	期末のまとめと理解度確認テスト (期末評価)	期末の総まとめ	理解度確認テストの準備 (120分)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	チュクチュクチャラネ (ぐんぐん伸びる韓国語初級)	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版	油谷幸利ほか編	小学館
2				
3				

評価方法 (基準)	課題の遂行 20% 小テスト 40% 期末の理解度確認テスト 40% ※再受験の学生には、評価方法等を別途告知する。
-----------	---

学生へのメッセージ	1) 特段の事情なく授業回数の3分の1以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	質問は授業の前後の時間に受け付ける。Teams で質問してくれてもかまわない。

科目名	韓国語	科目名 (英文)	Korean
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金 漢拏
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8○		
科目ナンバリング	NK01329e1		

授業概要・目的	この授業では、ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格に対応できるような「基礎力」を養成することを目的とする。教科書は『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2022年)を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景や韓国社会についての知識もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格に向けた基礎力を養成する。 ①文法事項・単語力 (基本的な文法と表現、単語数約250語程度) ②読解力と作文能力 ③リスニング力 ④発話力 (決まり文句としてのあいさつやあいづち、簡単な意思表示)
授業方法と留意点	1) 文法事項・語彙の復習の時間をとって着実に学習を重ねること。 2) 進捗については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3) 受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4) フィードバックは基本的に授業内に行う。
科目学習の効果 (資格)	ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格に向けた基礎力養成

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス I. ハングルの習おう! 第1課 母音字1	・授業の進め方、成績評価、学習方法 ・母音字1	文字・語彙の復習 (60分)
2	I. ハングルの習おう! 第2課 子音字1	平音1 (初声) 平音2 (終声)	文字・語彙の予習・復習 (120分)
3	I. ハングルの習おう! 第3課 母音字2	母音字2	文字・語彙の予習・復習 (120分)
4	I. ハングルの習おう! 第4課 子音字2	平音2 (初声) 激音2 (初声)	文字・語彙の予習・復習 (120分)
5	I. ハングルの習おう! 第5課 バッチム	終声 (バッチム)	文字・語彙の予習・復習 (120分)
6	I. ハングルの習おう! 第6課 母音字3	母音字3	文字・語彙の予習・復習 (120分)
7	I. ハングルの習おう! 第7課 子音字3	濃音 (初声) 濃音 (終声) 日本語のハングル表記	文字・語彙の予習・復習 (120分)
8	第8課 知っておこう	教室でよく使う表現 分かち書き 発音規則	表現・発音の予習・復習 (120分)
9	II話してみよう! 第1課 こんにちは	丁寧語尾~です、ます (ハヨ体)	文法事項・語彙の予習・復習 (120分)
10	II話してみよう! 第1課 こんにちは	助詞 (~は)	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)
11	II話してみよう! 第2課 これは何ですか。	指示詞 (この、その、あの)	文法事項・語彙の予習・復習 (120分)
12	II話してみよう! 第2課 これは何ですか。	助詞 (~が) 助詞 (だけ、のみ)	文法事項・語彙の予習・復習 (120分)
13	II話してみよう! 第3課 アメリカンコーヒーありますか。	存在詞「います、あります」 語尾~です、ます (ハムニダ体)	文法事項・語彙の予習・復習 (120分)
14	II話してみよう! 第3課 アメリカンコーヒーありますか。	バッチム「r」脱落 助詞 (~と)	文法事項・語彙の予習・復習 (120分)
15	期末のまとめと理解度確認テスト (期末評価)	期末の総まとめ	理解度確認テストの準備 (120分)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュクチャラネ (ぐんぐん伸びる韓国語初級)	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版	油谷幸利ほか編	小学館
2			
3			

評価方法 (基準)	課題の遂行 20% 小テスト 40% 期末の理解度確認テスト 40% ※再受験の学生には、評価方法等を別途告知する。
-----------	---

学生へのメッセージ	1) 特段の事情なく授業回数の3分の1以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。
-----------	--



担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	質問は授業の前後の時間に受け付ける。Teams で質問してくれてもかまわない。

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8○		
科目ナンバリング	NJA1330a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 課題およびレポートについて、未提出のものがある場合は単位の取得を認めない。課題日に欠席した場合は、後日必ず欠席届を提出すること。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文書作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書 p. 7～12 を復習する (一時間程度)
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書 p. 13～17 および配布プリントを復習する (一時間程度)
4	【課題①】 ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書 p. 1～18 を復習する (一時間程度)
5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書 p. 19～22 を復習する (一時間程度)
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書 p. 23～26 および配布プリントを復習する (一時間程度)
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践 (要約文の作成)	教科書 p. 1～26 および配布プリントを復習する。返却された課題を見直す。(一時間程度)
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書 p. 27～31 および配布プリントを復習する (一時間程度)
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書 p. 32～37 および配布プリントを復習する (一時間程度)
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書 p. 38～39 および配布プリントを復習する (一時間程度)
11	【課題②】 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書 p. 32～39 を復習する (一時間程度)
12	資料検索の方法について 小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む (一時間程度)
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書 p. 32～39 を復習する。返却された課題を見直す。(一時間程度)
14	【レポート】 これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書 p. 1～39 を復習する (一時間程度)
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	教科書 p. 1～39 を復習する (一時間程度)

関連科目 すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。  
課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。

学生へのメッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。
担当者の研究室等	1号館2階（非常勤講師室）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。遠隔授業になった場合は、学内メールもしくは Teams にて対応。

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博, 小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8○		
科目ナンバリング	NMA1331a1		

授業概要・目的	大学生で要求される情報リテラシー能力（文書作成、表計算、プレゼンテーション）の修得、データの種類や分析方法、AI の活用事例の理解、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 データサイエンスの社会的・技術的背景を理解し、データの処理・分析方法を理解する。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格（民間資格）や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する ELSI	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)、動画視聴 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化 データ倫理	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)、動画視聴 (30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権 (2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集 AI 社会原則	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)、動画視聴 (30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策 (1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能 データ・AI 活用における負の事例紹介	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)、動画視聴 (30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前：文書作成機能の復習 (1 時間)、動画視聴 (30 分)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表練習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション (1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数 データを読む	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション (2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する データを説明する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション (3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ データ集計とピボットテーブルの利用 データを扱う	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
14	【Excel】	データベースとしての表の操作	事前：授業テーマの予習 (30 分)

		データベースとしての使い方 Excelの表・グラフの利用	Excelの表やグラフをWordで利用する	事後：事後課題の完成・提出(30分)																
	15	【Excel】 マクロ：操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前：今までの諸機能の復習(1時間)																
関連科目	情報リテラシーII																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【電子】30時間アカデミック Office2019</td> <td>杉本くみ子、大澤栄子</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>【電子】&lt;改訂4版&gt;情報モラル &amp; 情報セキュリティ</td> <td>富士通 FOM</td> <td>FOM 出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子】30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版	2	【電子】<改訂4版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	【電子】30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版																	
2	【電子】<改訂4版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	演習課題(60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%)を総合して評価する。																			
学生への メッセージ	とにかく使ってください。「考えるより慣れろ」です。 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。																			
担当者の 研究室等	寺内准教授室(寝屋川：11号館10階研究室/枚方：8号館1階講師室)																			
備考	授業時間外に質問したい場合は、メールあるいは Microsoft Teams のこの授業のチームの質問チャンネル、または Teams チャットで質問してください。																			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博, 小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8○		
科目ナンバリング	NMA1331a1		

授業概要・目的	大学生活で要求される情報リテラシー能力（文書作成、表計算、プレゼンテーション）の修得、データの種類や分析方法、AI の活用事例の理解、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 データサイエンスの社会的・技術的背景を理解し、データの処理・分析方法を理解する。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格（民間資格）や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前：情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す (30 分) 事後：事後課題の完成 (30 分)、動画視聴 (30 分)
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する ELSI	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)、動画視聴 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化 データ倫理	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)、動画視聴 (30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権 (2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集 AI 社会原則	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)、動画視聴 (30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策 (1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能 データ・AI 活用における負の事例紹介	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)、動画視聴 (30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前：文書作成機能の復習 (1 時間)、動画視聴 (30 分)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表練習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション (1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数 データを読む	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション (2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する データを説明する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション (3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ データ集計とピボットテーブルの利用 データを扱う	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
14	【Excel】	データベースとしての表の操作	事前：授業テーマの予習 (30 分)

		データベースとしての使い方 Excelの表・グラフの利用	Excelの表やグラフをWordで利用する	事後：事後課題の完成・提出(30分)																
	15	【Excel】 マクロ：操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前：今までの諸機能の復習(1時間)																
関連科目	情報リテラシーII																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【電子】30時間アカデミック Office2019</td> <td>杉本くみ子、大澤栄子</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>【電子】&lt;改訂4版&gt;情報モラル &amp; 情報セキュリティ</td> <td>富士通 FOM</td> <td>FOM 出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子】30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版	2	【電子】<改訂4版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	【電子】30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版																	
2	【電子】<改訂4版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	演習課題(60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%)を総合して評価する。																			
学生への メッセージ	とにかく使ってください。「考えるより慣れろ」です。 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。																			
担当者の 研究室等	寺内准教授室(寝屋川：11号館10階研究室/枚方：8号館1階講師室)																			
備考	授業時間外に質問したい場合は、メールあるいは Microsoft Teams のこの授業のチームの質問チャンネル、または Teams チャットで質問してください。																			

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期前半	授業担当者	小堀 栄子, 足立 安正, 尾花 将輝, 小谷 直樹, 佐野 睦夫, 杉川 智
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3◎		
科目ナンバリング	NIL1336a1		

授業概要・目的	情報科学の進展は目覚ましく、看護分野においても情報機器や AI などを用いて新しい価値を作り出すことが求められている。本科目では、看護専門職者として必要なデータ分析の基礎的な技術や、厚生統計の基礎について学ぶ。また、様々なソフトウェアやアプリケーションに関する研究に触れ、看護実践への活用について他領域の学生とのディスカッションにより検討し、開発の実現に向けたプレゼンテーションを行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの収集と基本的な分析を、データの種類と分析の目的に応じ、適切に行うことができる。</li> <li>厚生統計の概要を知り、統計情報を正しく理解できる。</li> <li>課題の解決に向けて、収集した情報を整理・統合し、自らの考えとともに説明することができる。</li> <li>情報機器やソフトウェア、アプリケーションなどを活用した看護実践について、自身の経験と既存の資料をもとに実現可能性を検討し、その結果を説明することができる。</li> <li>情報機器等を用いた看護実践の展開について、自身の考えをまとめることができる。</li> <li>領域の異なる職種立場を</li> </ul>
授業方法と留意点	演習とグループワークにより授業を行う。自身に必要な資料を収集し、理解を深める必要がある。授業へは主体的に取り組み、演習およびグループワークに積極的に参加することを期待する。各回の【事前学習】は30分以上、【事後学習】は30分以上とする。なお、第9～15回は2日間に分けてオンライン形式の集中講義を大阪工業大学との共同演習として行う。この2日間では、授業時間外に学生同士のディスカッションや資料作成などにも取り組む必要がある。
科目学習の効果 (資格)	データの扱いや厚生統計の基本知識、および看護と IT の連携を考え、看護の可能性を広い視野で捉えることができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業全体</li> <li>大阪工業大学との共同演習</li> <li>グループなどの組合せ</li> </ul>	事前：情報リテラシーⅠで学んだエクセルの扱いについて復習しておくこと 事後：課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	2	記述統計1	連続変数の分析	事前：前回の復習をしておくこと 事後：課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	3	記述統計2	カテゴリー変数の分析	事前：前回の復習をしておくこと 事後：課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	4	統計演習1	講義・演習 データから集団・全体の特徴を捉える。 エクセルを用いたデータ分析の実際「データの分布」	事前：前回の復習をしておくこと 事後：課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	5	統計演習2	講義・演習 データから集団・全体の特徴を捉える。 エクセルを用いたデータ分析の実際「データの分布」	事前：前回の復習をしておくこと 事後：課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	6	共同演習準備1	資料・動画の作成	事前：前回までの復習をしておくこと 事後：授業で提示した課題に取り組むこと (授業時間外に、グループメンバーとの課題への取り組みに1時間)
	7	共同演習準備2-1	撮影と編集1	事前：前回までの復習をしておくこと 事後：授業で提示した課題に取り組むこと (授業時間外に、グループメンバーとの課題への取り組みに1時間)
	8	共同演習準備2-2	撮影と編集2	事前：前回までの復習をしておくこと 事後：授業で提示した課題に取り組むこと (授業時間外に、グループメンバーとの課題への取り組みに1時間)
	9	共同演習1-1	大阪工業大学から、様々な ICT 技術の紹介やプレゼンテーションを受ける。	事前：情報科学について関心のあるテーマを調べる。事後：体験した情報機器の看護への活用について考え、必要な情報を収集する。 (授業時間外に、グループメンバーとの課題への取り組みに1時間)
	10	共同演習1-2	大阪工業大学の学生に対して、看護教育の実際についてプレゼンテーションを行う。	事前：看護教育の実際について、プレゼンテーションの準備をする。事後：体験した情報機器の看護への活用について考え、必要な情報を収集する。(授業時間外に、グループメンバーとの課題への取り組みに1時間)
	11	共同演習1-3	対象事例と考えられる看護問題を説明し、ICTを活用した解決方法についてディスカッションを行う	事前：ディスカッションのために収集した資料を整理する。事後：本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる (授業時間外に、グループメンバーとの課題への取り組みに1時間)
	12	共同演習1-4	グループディスカッションを通じて得た情報を整理し、看護における問題とICTの活用を明確化・文書化する。また、グループの目標を立て、達成するための役割分担を行う	事前：ディスカッションのために収集した資料を整理する。事後：本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる (授業時間外に、グループメンバーとの課題への取り組みに1時間)
	13	共同演習2-1	グループディスカッションにより決定した情報機器の概要を発表資料としてまとめ、作成する。	事前：ディスカッションのために収集した資料を整理する。事後：本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる (授業時間外に、グループメンバーとの課題への取



				り組みに1時間)
	14	共同演習 2-2	各グループで考えた看護への ICT の活用に関して、相互に発表、聴講、ディスカッションを行う。	事前:ディスカッションのために収集した資料を整理する。 事後:本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる(授業時間外に、グループメンバーとの課題への取り組みに1時間)
	15	共同演習 2-3	各グループで考えた看護への ICT の活用に関して、相互に発表、聴講、ディスカッションを行う。	事前:ディスカッションのために収集した資料を整理する。 事後:本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる(授業時間外に、グループメンバーとの課題への取り組みに1時間)
関連科目	情報リテラシー I、統計の基礎、保健統計学、公衆衛生学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題提出または小テストで40%、グループ発表と資料提出で60%を評価する。			
学生への メッセージ	看護専門職者にとって数値データの扱いと厚生統計の理解は欠かせません。またこれからは他分野の人との協働もますます重要になってきます。わからないことは自分で勉強したり、質問したりして、積極的に取り組むことを期待します。			
担当者の 研究室等	小堀:7号館3階 24 研究室 足立:7号館3階 22 研究室			
備考				

科目名	統計の基礎	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子, 寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8○		
科目ナンバリング	NMA1333a1		

授業概要・目的	疾病とそのリスク要因の関連や因果関係を明らかにするにあたっては統計学が用いられる。授業では、看護・保健分野でよく使われる統計について、その基本を理解し、統計的な考え方ができるようにする。
到達目標	統計の基本を正しく理解し、正しく使えるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	(事前) 教科書 p12-16 で予習する (30分)	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
2	分布をあらわす	度数分布、ヒストグラム	(事前) 教科書 p29-34 で予習する (30分)	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
3	代表値と散布度 (1)	平均値、分散、標準偏差	(事前) 教科書 p18-22 で予習する (30分)	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
4	代表値と散布度 (2)	中央値、4分位、最頻値	(事前) 教科書 p16-22 で予習する (30分)	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
5	代表値と散布度 (3)	統計ソフト演習	(事前) 教科書 p16-28 で予習する (30分)	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
6	正規分布と標準化 (1)	正規分布と標準偏差	(事前) 教科書 p41-45, 96 で予習する (30分)	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
7	正規分布と標準化 (2)	演習問題	(事前) 教科書 p41-45, 96 で予習する (30分)	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
8	推定 (1)	母集団と標本集団、標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	(事前) 教科書 p68-72 で予習する (30分)	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
9	推定 (2)	平均値の推定、95%信頼区間	(事前) 教科書 p68-72 で予習する (30分)	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
10	推定 (3)	統計的有意差	(事前) 教科書 p68-72, 76 で予習する (30分)	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
11	検定 (1)	Z 検定 (1 集団、連続変数)	(事前) 教科書 p68-75, 77 で予習する (30分)	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
12	検定 (2)	t 検定 (1 集団)	(事前) 教科書 p80-87 で予習する (30分)	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
13	検定 (3)	二項分布と Z 検定 (1 集団、割合)	(事前) 教科書 p68-75 で予習する (30分)	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
14	検定 (4)	$\chi^2$ 乗検定 (1 集団)	(事前) 教科書 p101-106 で予習する (30分)	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
15	検定 (5) と統計のまとめ	$\chi^2$ 乗検定 (2 集団) と統計のまとめ	(事前) 教科書 p101-106, および授業資料と教科書	(事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)

関連科目	保健統計学、公衆衛生学、統計の基礎
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ていねいな保健統計学 第2版	白戸亮吉他	羊土社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題および/または小テスト(100%)で評価する。 60%以上を合格とする。 出席は、学生便覧にある摂南大学看護学部履修規定に従う (正当な理由がなく出席でない者は、単位を与えないことがある。)
-----------	--

学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業資料と教科書をよく勉強すること。</li> <li>授業資料は電子ファイルで事前に Moodle にて配布する。必要に応じて各自印刷して授業に臨むこと。</li> <li>わからない点を次回授業までに解決するため、質問をすること。</li> <li>授業中の私語、教室の出入りは厳禁。</li> <li>授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。</li> </ul>
---------------	--

担当者の 研究室等	7号館3階24
--------------	---------

備考	必要に応じて課題および/または小テストについて授業で解説する。
----	---------------------------------

科目名	統計の基礎	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子, 寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8○		
科目ナンバリング	NMA1333a1		

授業概要・目的	疾病とそのリスク要因の関連や因果関係を明らかにするにあたっては統計学が用いられる。授業では、看護・保健分野でよく使われる統計について、その基本を理解し、統計的な考え方ができるようにする。
到達目標	統計の基本を正しく理解し、正しく使えるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	(事前) 教科書 p12-16 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
2	分布をあらわす	度数分布、ヒストグラム	(事前) 教科書 p29-34 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
3	代表値と散布度 (1)	平均値、分散、標準偏差	(事前) 教科書 p18-22 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
4	代表値と散布度 (2)	中央値、4分位、最頻値	(事前) 教科書 p16-22 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
5	代表値と散布度 (3)	統計ソフト演習	(事前) 教科書 p16-28 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
6	正規分布と標準化 (1)	正規分布と標準偏差	(事前) 教科書 p41-45, 96 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
7	正規分布と標準化 (2)	演習問題	(事前) 教科書 p41-45, 96 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
8	推定 (1)	母集団と標本集団、標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	(事前) 教科書 p68-72 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
9	推定 (2)	平均値の推定、95%信頼区間	(事前) 教科書 p68-72 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
10	推定 (3)	統計的有意差	(事前) 教科書 p68-72, 76 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
11	検定 (1)	Z 検定 (1 集団、連続変数)	(事前) 教科書 p68-75, 77 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
12	検定 (2)	t 検定 (1 集団)	(事前) 教科書 p80-87 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
13	検定 (3)	二項分布と Z 検定 (1 集団、割合)	(事前) 教科書 p68-75 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
14	検定 (4)	$\chi^2$ 乗検定 (1 集団)	(事前) 教科書 p101-106 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
15	検定 (5) と統計のまとめ	$\chi^2$ 乗検定 (2 集団) と統計のまとめ	(事前) 教科書 p101-106, および授業資料と教科書で復習する (30分)

関連科目	保健統計学、公衆衛生学、統計の基礎
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ていねいな保健統計学 第2版	白戸亮吉他	羊土社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題および/または小テスト(100%)で評価する。 60%以上を合格とする。 出席は、学生便覧にある摂南大学看護学部履修規定に従う (正当な理由がなく出席でない者は、単位を与えないことがある。)
-----------	--

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業資料と教科書をよく勉強すること。</li> <li>授業資料は電子ファイルで事前に Moodle にて配布する。必要に応じて各自印刷して授業に臨むこと。</li> <li>わからない点を次回授業までに解決するため、質問をすること。</li> <li>授業中の私語、教室の出入りは厳禁。</li> <li>授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。</li> </ul>
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階24
----------	---------

備考	必要に応じて課題および/または小テストについて授業で解説する。
----	---------------------------------

科目名	キャリアデザイン	科目名 (英文)	Career Design
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	西鶴 智香
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8○		
科目ナンバリング	NCA1334a1		

授業概要・目的	<p>●概要：「自分のキャリア」＝「仕事」だけを指すものではなく、「家族」「学習」「趣味」「余暇」を含む自分の人生そのもののこと、という概念のもと、自分の生涯キャリアをどう考えていくのか、をまとめていく時間です。看護師を目指すあなたは、どんな看護師を目指していくのか、そのためには自分に何が足りないか、どのような勉強、経験を積みばいいのか、を中心に、皆で議論し、考えていきます。自分とじっくり向き合う講義です。</p> <p>●職業・看護師は、どんな使命を持った職業なのか。今後、職務・職域拡大に向けてどのような変革をしようとしているかを知り、自分のキャリアデザインの参考にします。</p>
到達目標	<p>●到達目標：自分は、なぜ看護学部を選んだのか。ここで何を学び、看護師になってどんな看護を提供したいのか、もしくは、自分自身は、どんな人生にしたいのか。そのために、これから自分には何か必要か、どのように変革させればいいのか、等、ぼんやりでもいいので、自分の言葉で伝えられるようになることを目標とします。</p> <p>1年次年りの意見で構いません。精一杯、「言語化」してみましょう。</p> <p>●「大学生」である皆さんには、大人としての態度、意見を求めます。講義を通して、自立、自律した大人になることを目標にします。特に、提</p>
授業方法と留意点	<p>●講師は、パワーポイントで作成したスライドを見せながら、配布するワークシートを使って討議しながら講義を進めます。</p> <p>●医療者には、「多様性を認め、相手を理解し、信頼する力」が求められます。講義を通して、新たな視点、考え方を知り、異なる意見を持つ他人を受容できる自分、を目指しましょう！</p> <p>●毎回の講義終了後に、課題レポート提出があります。必ず期限までに提出下さい。</p> <p>●課題は、講義中に時間を取りますので、その場で記述し、講義終了時に提出してもらいます。または、moodleにも掲示しますので、その課題を入力し、moodleにて提出することも可能です。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>●キャリアの考え方を身に付けることで、卒業時に「自分なりの看護観」を持って、しっかりと動機づけされた職業人生をスタートできます。</p> <p>●ワークを通じ、自分自身を見つめ直し、深く理解していきます。「周囲に惑わされず、自律し、自分の力で人生を切り拓いていくことができる力」を養います。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・「キャリアデザイン」概論	<p>・講義概要</p> <p>・講師自身のキャリア形成と、モデリング</p> <p>・キャリアの考え方</p> <p>・社会の現状とキャリアデザインの重要性</p> <p>講義、全体議論 45 分、グループ討論 15 分、レポート 20 分</p>	<p>・「キャリア」とは、「キャリアデザイン」とは何か。「働く」ということはどういうことなのか、社会は どういうふう動いているのか、</p> <p>・多様な価値観の受容、他人の評価を気にしない自分の確立、が早期に重要であること</p> <p>・身近な社会人のキャリア選択を調べる。その「意思決定の理由」 事前 30 分・事後 30 分</p>
2	職業・「看護師」について考える！	<p>・職業「看護師」について現状を分析し、課題と今後の職域拡大に向けての動きを知る。</p> <p>・特定看護師、専門看護師、認定看護師等の高度専門キャリアを知る</p> <p>・看護師職の働き方、給与等、調査結果から生涯キャリアを調べる。</p> <p>講義、全体議論 45 分、グループ討論 15 分、レポート 20 分</p>	<p>・日本における「職業・看護師」の現在、今後の課題、看護師の職域拡大、求人状況等、「職業・看護師」について調べてみる</p> <p>・新聞、ネットメディア、専門誌等 事前 30 分・事後 30 分</p>
3	日本の医療制度を知り、課題を探る	<p>・自分が将来働く医療界の知識</p> <p>・国民皆保険制度のメリット、課題</p> <p>・高齢社会と国民医療費抑制、病院が抱える課題</p> <p>・看護師が出来ること</p> <p>講義、全体議論 45 分、グループ討論 15 分、レポート 20 分</p>	<p>・自分が将来働く医療界の知識を得る</p> <p>・国民皆保険制度のメリット、課題を知り、看護師としてどのように社会と関わることができるのか、可能性を探る</p> <p>・国民への健康についての啓蒙活動は何ができるか</p> <p>「日本の医療費、医療制度、予防医療について」 事前 30 分・事後 30 分</p>
4	自分自身を知る① 「自己肯定感」と「自己効力」	<p>・キャリア自律に必要な力である2つ、を紹介します。</p> <p>・「自分を認めていくことが多様性理解につながる」「自分に自信がある、ないは何に起因されているのか」。</p> <p>・物の捉え方の練習、自身の成功体験の整理、自信のつけ方、についてディスカッション。</p> <p>講義 45 分、個人ワーク 10 分、グループ討論 15 分 全体議論 15 分</p>	<p>・多様性を理解できる包容力のある人になりましょう。そのために物の捉え方の練習をしていきます。</p> <p>・患者理解でも求められる「自己効力感」、を知り、自己理解を深めましょう。</p> <p>・自分が気づいていなかった自分、をしっかりと見つめてみます。</p> <p>日頃からクセに出来る、自己肯定感の上げ方、自己効力について振り返ります。</p> <p>事前 30 分・事後 30 分</p>
5	自分自身を知る② 「職業人に求められる基礎力」	<p>・求められる「職業人が身に付けるべき基礎力」のうち、「20代で」身に付けたい基礎力に焦点を当てて解説。</p> <p>・自己分析、自分の価値観や行動パターンについて、自分のどんな考え方が根拠</p>	<p>・「行動変容」することは難しい。それは自分も患者でも同じです。</p> <p>まずは自分が看護師という専門職として働く前に、働く人の基礎力を身に付けることが求められます。どのようにしてその力をつけていくのか、考えてみ</p>

			<p>になっているのか整理する。</p> <p>講義 30 分、個人ワーク 15 分、グループ討論 15 分、レポート 20 分</p>	<p>ましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自己管理能力」が一番求められます。</li> <li>・講師から具体的なアドバイスもしていきます。</li> </ul> <p>課題ワーク事前 30 分・事後 30 分</p>															
6	リーダーシップを考える	<p>社会で求められるリーダーとは、どんな能力が必要なのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーシップとは、グループだけに求められるものではなく、個人のキャリアデザインにも求められるものである、ということを理解すること。</li> <li>・リーダーに求められるスキルとは。皆で議論していきます。</li> </ul> <p>講義、全体議論 40 分、グループ討論 20 分、レポート 20 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで自分が見てきたリーダーはどんなところが優れていたのか、まとめてみましょう。</li> </ul> <p>「自分が今まで関わってきたリーダーが持っていたスキルとは・・・言葉で伝えられるようにまとめておく」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアデザインにも必要なリーダーシップ、を理解すること</li> </ul> <p>事前 30 分・事後 30 分</p>																
7	医療人のプロフェッショナリズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師、看護師の使命とは何か？プロとは、どのような行動を取るのか？</li> <li>・プロとは何か？</li> <li>・プロが取る行動「プロフェッショナルリズム」について</li> <li>・自分はどんなプロを目指すのか</li> </ul> <p>講義、全体議論 30 分、個人ワーク 20 分、グループ討論 30 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師、看護師の職業使命を知り、どのような行動が求められているのかを理解します。</li> <li>・プロ意識を持った職業人は、凡人とどこが違うのか。</li> <li>・自分はどんなプロ看護師になりたいのか、考える時間にして下さい。</li> </ul> <p>「プロとは何か、を自分の言葉で言えるように考えてきて下さい」事前 30 分、事後 30 分</p>																
8	まとめ～「自分はこんな人、こんな看護師になります！」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分のキャリアは自己責任」時代。今後、自分の人生の節目ごとに、自分で生涯キャリアを設計、修正することの意義を理解する。</li> </ul> <p>講義、全体議論 30 分、グループ討論 50 分、</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師職の生涯キャリアを、先輩看護師の実態から調べてみる。</li> <li>・ステップアップ、専門看護師等、どのような道をたどっているのか、調べる。</li> <li>・自分の人生は自分で決められる。日頃から、自己決定のクセをつけましょう。</li> </ul> <p>課題ワーク事前 30 分・事後 30 分</p>																
9																			
10																			
11																			
12																			
13																			
14																			
15																			
関連科目	特記なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬学生のためのキャリアデザインブック</td> <td>西鶴 智香</td> <td>薬事日報社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	薬学生のためのキャリアデザインブック	西鶴 智香	薬事日報社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	薬学生のためのキャリアデザインブック	西鶴 智香	薬事日報社																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義終了後のレポートもしくは講義中に使用するワークシートを提出すること、を必須要件とする。</li> <li>・提出物は、70%以上の記載を義務とする。</li> </ul> <p>※評価ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師に求められる書く力・・・レポートには、正しい日本語で、自分の考えを論理的に記入する。(論理的思考)(記述スキル)(ボリューム)</li> <li>・その内容は、自分の意見を持ち、様々な視点から観察し検討した内容で記入できているか、を評価します。(課題発見力)(創造性)(俯瞰力)</li> <li>・また、講義を通じて知った情報から、どのような新たな視点</li> </ul>																		
学生への メッセージ	<p>自分の人生プランを一から描けるのは、学生時代にだけできること。</p> <p>この講義を通して、自分の人生をどうしたいか、どんな人間になりたいか、看護師になって実現したいことは何か、等を考え整理していくことで、「看護師としての、自分のキャリアビジョン」というものを、ぼんやりでも見つけていってほしいと思っています。</p> <p>自立したカッコイイ大人、を目指しましょう！</p>																		
担当者の 研究室等	非常勤講師 (株式会社キャリア・ポジション 代表取締役)																		
備考	講義、その他についての問い合わせは、メール対応も出来ますので気軽に相談して下さい。 メールアドレス chika@career-position.com																		

科目名	キャリア入門	科目名 (英文)	Introduction to Career
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 結華, 鎌田 佳奈美, 北野 美月
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NCA1335a1		

授業概要・目的	高校生から大学生への円滑な移行に向けて、摂南大学看護学部生として、学習意欲の向上、専門職としての意識の醸成、人格的な成長を培うことを目的とする。
到達目標	1) 大学で看護学を学ぶための基礎的な学習技術を得る。〔スタディスキルアップ〕 2) 自身で学び考えるための基礎的能力を得る。〔スタディスキルアップ〕 3) 看護学生としての自己管理能力を身につける。〔スチューデントスキルアップ〕 4) キャリア体験と動機づけによって看護の目標志向を育む。〔キャリアディベロップメントスキルアップ〕
授業方法と留意点	【授業方法】 講義を中心とし、グループワーク、発表なども取り入れて行います。 【留意点】 ・第1回目に授業全体のオリエンテーションを行います。 ・本授業を通して、自身のキャリアを考える機会にすること。 ・課題の提出を持ってこの科目の評価とするので、期限内に提出すること。 ・グループワークでは自らの意見を発言する機会を増やし、積極的に意見交換をすること。  注意) シラバスで示した授業内容は、順序が入り替わる場合があります。授業日程は、第1回の授業オリエンテーションで提示した日程で行います。なお、変更がある場合は、それぞれの授業担当者からの指示、またはTeamsで連絡します。
科目学習の効果 (資格)	専門職への意識を高め、目標に向かって主体的に学習を進めていくことができる。 看護職者としての成長のみならず、人間的にも成長することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大学で学ぶということ、教務ガイダンス	摂南大学について理解を深め、看護学部生としての自覚を高める。 ・摂南大学生として卒業時に目指す姿、履修内容、方法および学習を深める方法について学ぶ ・大学の規範、医療系学生としての倫理観について学ぶ。 ・教務委員会から、看護学部での履修の進め方について講義を受ける。	事前学習課題: FIRST YEAR STUDY GUIDE を読んでおく、履修申請要領を読んでおく (30分) 事後学習課題: 履修申請要領をよく読み、自身の履修する科目、関心ある科目のシラバスを確認する。(30分)
2	大学生として必要な能力の自己評価 (GPS-Academic)	GPS アカデミックに取り組み、大学生として必要な能力を自己評価する。スタートラインを確認し、大学生生活の目標と自己の成長を考える。	事前学習課題: FIRST YEAR STUDY GUIDE を読んでおく。(30分) 事後学習課題: 大学生生活の目標を考える。(30分)
3	電子教科書の活用ルール	新しく導入する電子教科書や自分のPC・タブレットを大学で用いる際のルール作りを自ら行う。 ITを活用して学習する意義と倫理をグループワークを通して考える。	事前学習課題: FIRST YEAR STUDY GUIDE を読んでおく。(30分) 事後学習課題: 今日学んだことを、確認する(30分)
4	充実した学生生活に向けて国試ガイダンス	・学生委員会から、学生生活を送るためのさまざまなサポートについて説明する。 ・国家試験について理解し、4年間の学修の中で、どのように国家試験の準備を進めるかについて考えをもつ。	事前学習課題: FIRST YEAR STUDY GUIDE を読んでおく (30分) 事後学習課題: 今日学んだことを、今後どのように役立てるかを考える(30分)
5	上級生との交流	上級生と少人数でトークタイムを持ち、学生生活についてアドバイスをもらう。	事前学習課題: 上級生に聞いてみたいことを数点準備する。(30分) 事後学習課題: アドバイスを具体的に生かす方法を考える。(30分)
6	摂南大学で学ぶということ	摂南大学でこれから学ぶ皆さんに、建学の精神や大学の歴史を踏まえ、看護学部でどのように目標を描くかについてワークを行う。	事前学習課題: FIRST YEAR STUDY GUIDE、摂南大学読本を読んでおく。(30分) 事後学習課題: 指示した課題を行い、成果物を提出すること。(30分)
7	チームビルディング (1)	・チーム医療について講義を受ける。 ・チームビルディング (チーム作り) を通して、協働作業に取り組み、チーム医療について考える。	事前学習課題: チーム医療について調べてくる。(30分) 事後学習課題: 授業を通じて他者と協働作業することの意義や方法について考える。(30分)
8	チームビルディング (2)	・チームビルディング (チーム作り) を通して、協働作業に取り組み、チーム医療について考える。	事前学習課題: チーム医療について調べてくる。(30分) 事後学習課題: 授業を通じて他者と協働作業することの意義や方法について考える。指定された成果物を提出する。(30分)
9	講義「患者から学ぶ医療職への期待」	ゲストスピーカーを迎え、テーマについて学ぶ	事前学習課題: 患者の人権について調べてくる。(30分) 事後学習課題: ゲストスピーカーから学んだこと、考えたことをまとめる。(30分)
10	講義「患者から学ぶ医療職への期待」	前回の講義をうけて、テーマに関する学びをまとめる。	事前学習課題: 患者の人権について調べてくる。(30分) 事後学習課題: ゲストスピーカーから学んだこと、考えたことをまとめる。課題を提出する。(30分)
11	発表会	いままでの授業を通してチーム医療について学んだ内容を乗学生との混合グループで討議する。	事前学習課題: チーム医療について、疑問点や話し合いのポイントを準備する。(30分) 事後学習課題: 討議した内容の発表準備をする。(30分)

	12	発表会 (2)	グループの発表内容をまとめ、発表する。	事前学習課題:発表での自分の役割を考え、協力して準備する。他者の発表にも関心をもち聞く準備をする。(30分) 事後学習課題:グループでの課題の最終プロダクト(成果物)を作成し、提出する(30分)。																
	13	私のキャリア (1)	保健師、助産師、専門看護師および認定看護師など看護のスペシャリスト、卒業生からの講義を受け、自身のキャリアについて考えを深める	事前学習課題:日本看護協会のHPから「キラリ!看護師のシゴト」を検索し、関心のあるスペシャリストの動画を視聴する。(30分) 事後学習課題:さらに知りたいことを深めることをまとめる(30分)																
	14	私のキャリア (2)	保健師、助産師、専門看護師および認定看護師など看護のスペシャリスト、卒業生からの講義を受け、自身のキャリアについて考えを深める	事前学習課題:日本看護協会のHPから「キラリ!看護師のシゴト」を検索し、関心のあるスペシャリストの動画を視聴する。(30分) 事後学習課題:さらに知りたいことを深めることをまとめる(30分)																
	15	自分自身の安全を守るための対策	看護学生に必要な感染予防策を理解する。特に感染症の予防接種について取り扱う。	事前事後学習課題:医療系学部生に必要な予防接種について調べる。(30分) 事後学習課題:自己の感染対策を実行する。(30分)																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE 2024</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>摂南大学読本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE 2024			2	摂南大学読本			3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE 2024																			
2	摂南大学読本																			
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	グループワーク等の参加態度 20%、提出物 80%																			
学生へのメッセージ	建学の精神を活かし、自分の将来の目標を明確にし、それに向かって着実に前進できるよう、具体的な計画を立てましょう。																			
担当者の研究室等	田中結華 研究室 9 鎌田佳奈美 研究室 17 その他担当の教員は初回授業時にアナウンスする。																			
備考																				

科目名	患者安全	科目名 (英文)	Patient Safety
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	森谷 利香, 神谷 美紀子, 菊田 真穂, 長谷部 茂, 藤井 崇敬, 三田村 しのぶ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NKY1349a1		

授業概要・目的	<p>[授業概要]</p> <p>医療の進歩に伴う医療技術の高度化や複雑化、在院日数の短縮化と在宅療養へ移行する患者の増大、そして患者のニーズの多様化などを背景に看護職者の役割の期待は高まっている。同時に医療事故が社会問題化し、医療技術の最終提供者となることの多い看護職者がこれに関与することもある。質の高い看護実践は安全な医療のもとに成り立つ。</p> <p>本科目では、我が国における医療安全の現状を概観し、医療事故防止に関する基本的な知識を身につける。また、看護職者としての責務と役割、およびリスクの予知と回避について学習するとともに、エラー事例の分析を通してその要因を検討し、医療事故防止について考察する。さらに一部、演習を行い、自己を深く知るとともにチームによる医療事故防止について学習する。</p> <p>なお、各教員の実務経験に基づいて授業内容を教授する。</p> <p>[授業目的]</p> <p>医療安全に関する基本的な知識を習得するとともに、質の高い看護実践のために医療事故防止の安全管理の在り方について説明することができる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全の意味と重要性について理解できる。</li> <li>2. 事故発生のメカニズム、ヒューマン・エラーについて理解できる。</li> <li>3. 医療事故の動向と医療安全への取り組みについて理解できる。</li> <li>4. 医療・看護場面での危険予知と対策について説明できる。</li> <li>5. 医療・看護場面でのリスクと事故防止について説明できる。</li> <li>6. エラーの要因と分析方法について説明できる。</li> <li>7. グループワークを通して、自己を知り、また互いの違いを理解、尊重し、チームによる医療事故防止について説明できる。</li> </ol>			
授業方法と留意点	<p>下記の授業計画に沿って進める。講義では、医療安全に関する基本的知識の教授を基本としながら、実際に起きた事例を引用し、また視覚教材の活用を通して学習内容のイメージ化を促進する。またグループワークを組み合わせることで、知識の定着を図り、主体的に学習に臨めるように授業を展開する。同時に、チームでの事故防止について知見を深め、互いの立場や役割を理解、尊重する姿勢を身につける。</p>			
科目学習の効果 (資格)	<p>本科目の内容は看護師国家試験の出題範囲に含まれます。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1回 医療安全・患者安全の意味と重要性 ・医療安全を学ぶ意味 ・医療安全の対象 ・医療安全に関する基礎知識	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。
	2	2回 医療事故の動向と医療安全への取り組み ・医療事故の動向 ・国と職能団体の取り組み ・医療事故の報告制度	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。
	3	3~4回 医療・看護場面での危険予知と対策 1) ・KYT トレーニング	グループワーク	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	4	5回 医療・看護場面での危険予知と対策 2) ・KYT トレーニング	プレゼンテーション・まとめ	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	5	6回 事故発生のメカニズム、ヒューマンエラーの発生 ・ヒューマンエラーとは ・エラーを発生しやすい環境	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。
	6	7回 医療・看護場面でのリスクと事故防止 1) ・看護業務に関連して発生する事故の実際	講義・ワークと発表	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。
	7	8回 医療・看護場面でのリスクと事故防止 2) ・看護業務と事故発生要因 ・インシデント・アクシデント	講義	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	8	9~10回 エラーの要因検討と対策 ・RCA 分析	グループワーク・プレゼンテーション・まとめ	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	9	11~15回 チームによる医療事故防止 1) 事例検討	グループワーク・プレゼンテーション	【事前学習】講義の内容を復習し、事例に関する自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	10			
	11			



	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目	看護学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(2)：医療安全 第5版	松下 由美子	メディカ出版
	2	ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド：医療安全学習にそのまま使える これだけは知っておきたい	相馬 孝博	メディカ出版
	3			
評価方法 (基準)	本科目では2/3以上の出席を成績評価の対象とする。定期試験(50%)、およびその他の成果物(50%)の内容から総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本科目は今後の実習や実践において医療者に必要な安全に関する基本的な学習内容です。スケジュールは変則ですので、配布する資料やポータルサイトの連絡に注意してください。筆記試験やレポート等については適宜フィードバックします。			
担当者の 研究室等	森谷：7号館3階(研究室29) 神谷：7号館3階(研究室2) 藤井：7号館3階(共同研究室2)			
備考				

科目名	患者コミュニケーション	科目名 (英文)	Communication for Patients
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	山本 智津子, 入江 眞理, 岩根 詩織, 櫻井 知賀, 田中 雅幸, 辻 敏和, 名草 みどり, 三浦 恭子, 村瀬 由貴
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2337a1		

授業概要・目的	チーム医療の場面における、患者と医療者のコミュニケーションの基本的概念を習得する。将来、医療現場で働く者として、患者・家族、医療者によりよい関係を築くためのコミュニケーション技法について学ぶ。また、医療者として患者が求めているケアを提供するには、患者が何を望んでいるのか、どう考えているのかを正確に理解する必要がある。よって、医療を受ける患者の理解（特に心理のプロセス）についても学習する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者・医療者間のコミュニケーションの特徴について説明できる。</li> <li>医療を受ける患者を理解し（特に心理プロセス）、コミュニケーション上の配慮を述べるができる。</li> <li>患者・医療者のコミュニケーションに必要な技法について述べるができる。</li> <li>上記の技法について模擬的な場面を設定し、体験的に学習し、発表（ロールプレイも含む）、リフレクションができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	講義と小グループでのディスカッションを通して学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	キャリア形成科目として、今後のチーム医療や様々な現場でのコミュニケーション場面での実践につながる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴、コミュニケーショントレーニングの必要性	合同講義を行う。 医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴、コミュニケーショントレーニングの必要性について解説する。	事前課題：課題に必要な内容を予習してきてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してきてください (30分)。
2	医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴 (1)	小グループ討議演習 ワーク：①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者家族の体験を共有し、患者・医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめる。	事前課題：講義内容を復習し、自分の意見を考えてきてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してきてください (30分)。
3	医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴 (2)	小グループ討議演習 ワーク：①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者家族の体験を共有し、患者・医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめる。	事前課題：講義内容を復習し、自分の意見を考えてきてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してきてください (30分)。
4	医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴 (3)	小グループ討議演習、発表会資料作成 ワーク：①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者家族の体験を共有し、患者・医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめる。	事前課題：講義内容を復習し、自分の意見を考えてきてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してきてください (30分)。
5	医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴 (4)	ワークの成果をグループ発表する。	事前課題：講義内容を復習し、自分の意見を考えてきてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してきてください (30分)。
6	医療を受ける患者の心理プロセス	合同講義を行う。 医療を受ける患者がどのような心理プロセスを経験するのかについて、事例を交えた講義で学ぶ。	事前課題：課題に必要な内容を予習してきてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してきてください (30分)。
7	患者の心理プロセスを体験的に理解する (1)	小グループ討議演習 ワーク：①心理プロセスを理解する事例を検討する。②患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーションについて、学びをまとめる。	事前課題：講義内容を復習し、自分の意見を考えてきてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してきてください (30分)。
8	患者の心理プロセスを体験的に理解する (2)	小グループ討議演習 ワーク：①心理プロセスを理解する事例を検討する。②患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上について、学びをまとめる。	事前課題：講義内容を復習し、自分の意見を考えてきてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してきてください (30分)。
9	患者の心理プロセスを体験的に理解する (3)	小グループ討議演習、発表会資料作成 ワーク：①心理プロセスを理解する事例を検討する。②患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーションについて、学びをまとめる。	事前課題：講義内容を復習し、自分の意見を考えてきてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してきてください (30分)。
10	患者の心理プロセスを体験的に理解する (4)	ワークの成果をグループ発表する。	事前課題：講義内容を復習し、自分の意見を考えてきてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してきてください。指定した成果物を提出してきてください (1時間)。
11	患者コミュニケーションの基本的技法	合同講義を行う。 患者コミュニケーションの基本的技法、体験的に学ぶポイントと設定作りについて解説する。	事前課題：課題に必要な内容を予習してきてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してきてください (30分)。
12	患者・医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ (1)	小グループ討議演習 ワーク：場面と台本づくり。その際、薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学ぶ。	事前課題：講義内容を復習し、自分の意見を考えてきてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してきてください (30分)。
13	患者・医療者のコミュニケー	小グループ討議演習、発表会資料作成	事前課題：講義内容を復習し、自分の意見を考えて

		シヨン場面作りとロールプレイ (2)	ワーク：場面と台本づくり。その際、薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学ぶ。	きてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してください (30分)。
	14	患者・医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ (3)	小グループ討議演習 ワーク：ロールプレイの練習。その際、薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学ぶ。	事前課題：講義内容を復習し、自分の意見を考えてきてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してください (30分)。
	15	患者・医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ (4)	ワークの成果をロールプレイする。 学びのまとめを行う。	事前課題：講義内容を復習し、自分の意見を考えてきてください (30分)。 事後課題：講義内容を復習してください。指定した成果物を提出してください (1時間)。
関連科目	看護対人関係論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	がん医療におけるコミュニケーション・スキル[DVD付]—悪い知らせをどう伝えるか	内富 庸介 藤森 麻衣子	医学書院
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全日程に出席することが単位取得の前提である。個人課題・グループ課題・発表用資料・振り返りレポート・最終課題の内容および提出状況に加え、ピア評価で評価する。 なお、学修状況 (受講態度等) が不良の場合、20点を限度に減点することがある。			
学生へのメッセージ	将来、医療に携わる者として、患者・医療者間のコミュニケーションについて学ぶとともに、チーム医療について互いに考えを深める機会にしましょう。 課題提出は必ず期限を守ってください。			
担当者の研究室等	山本智：7号館3階 (看護学部研究室18) 村瀬：7号館3階 (看護学部研究室4) 名草：7号館3階 (看護学部研究室13) 入江：7号館3階 (看護学部研究室14) 櫻井：7号館3階 (看護学部研究室8) 三浦：7号館3階 (看護学部共同研究室5) 上記の看護学部教員および薬学部教員 (3名) で授業を担当する。			
備考	グループ課題 (発表用資料等) についてはその成果を発表し、学生が互いにフィードバックしあい、教員が総括する。			

科目名	臨床医療演習	科目名 (英文)	Clinical Healthcare Practice
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	松本 葉子・青野 美里・畦西 克己・稲垣 範子・長沢 美和子・百木 和
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2338a1		

授業概要・目的	<p>[授業概要]</p> <p>看護の対象となる人々への看護実践する上で必要となる専門的知識について学習する。また、対象の観察やコミュニケーションを通して、対象を理解するための情報収集を行う。対象者のニーズについて、情報から科学的根拠に基づいてアセスメントし看護技術を提供する。さらに、医療チームの一員としての倫理観やチームワーク等の臨床実践に必要な基礎的能力を養う。</p> <p>[目的]</p> <p>看護の対象およびその家族のニーズについて、健康レベルや生活背景を踏まえ、科学的根拠に基づいてアセスメントし、アセスメントをもとにした模擬患者への看護実践ができる。模擬患者への看護実践や患者役の体験を通して、患者とのコミュニケーション・臨床判断・看護技術などの実践上の自身の課題に気付くことができる。また、演習を通じて、看護職者としての倫理観、保健医療チームの一員として意欲的に他者と協働関係を築くための基礎的能力を養う。</p>
到達目標	<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象のニーズを把握するために必要な対象の観察、対象とのコミュニケーションができる。</li> <li>2. 対象のニーズについて、収集した情報から科学的根拠に基づきアセスメントし、看護実践ができる。</li> <li>3. 対象のニーズを充足するために必要な知識及び看護技術について習得する。</li> <li>4. 多職種それぞれの役割を理解し、知識・技術を活かし合えるよう、看護の役割を説明できる。</li> <li>5. エンド・オブ・ライフにおける意思決定の意義と意思決定支援の在り方について説明できる。</li> <li>6. 多様なエンド・オブ・ライフの在り方について</li> </ol>
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って進める。授業方法は、学内演習を中心とする。
科目学習の効果 (資格)	食品栄養科の学生においては、医療現場における他職種の考え方や協働の在り方を学ぶことができる。看護学部生においては上記と同様の効果に加え、3年次以降の臨地実習で実際に活用できる能力を習得する科目であり、看護師国家試験内容にも関連している。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	専門的知識の活用①	【講義・演習】 ・摂食・嚥下障害、栄養管理の基本的考え方について学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
2	専門的知識の活用②	【講義・演習】 ・事例患者に生じている摂食・嚥下障害及び栄養障害を理解し、必要な治療・ケアについて学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
3	専門的知識の活用③	【講義・演習】 ・収集した情報から根拠に基づきアセスメントして、事例患者のニーズを把握し、優先すべき問題を明確にします。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
4	退院後を見据えた目標設定	【演習】 ・退院後の生活に向けた患者のニーズ、生活上の問題を明確にします。 ・退院に向けての医療チームの関わりについて学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
5	ケア立案①	【演習】 ・事例患者のニーズを満たすために、必要な計画についてグループで話しあい、根拠に基づく具体的な計画を立案します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
6	ケア立案②	【演習】 ・立案した計画を、グループごとに発表し、質疑応答をふまえて、計画を修正します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
7	援助の実施①	【演習】 ・模擬患者とコミュニケーションを図りながら、援助を実施します。 ・実践および患者体験により、実践上の課題について振り返り、改善策を検討します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
8	援助の実施②	【演習】 ・各グループの実践内容、振り返り、改善策についてグループごとに発表し、学びを共有します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
9	エンド・オブ・ライフと意思決定	【講義・演習】 エンド・オブ・ライフの概念と意思決定支援について学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
10	エンド・オブ・ライフの意思決定支援	【講義】 エンド・オブ・ライフ・ケアにおける意思決定支援の実践について学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
11	模擬人生会議①	【講義・演習】 人生の終末を想定し、グループメンバーで模擬人生会議を実施する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
12	模擬人生会議②	【演習】 人生の終末を想定し、グループメンバーで模擬人生会議を実施する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
13	意思決定支援に関する事例演習①	【演習】 人生の終末における食に関する意思決	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分)

			定支援について事例をもとに検討する。	事後課題：課題の提出(30分)
	14	意思決定支援に関する事例演習②	【演習】 人生の終末における食に関する意思決定支援について事例をもとに検討する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
	15	エンド・オブ・ライフの意思決定	【演習】 模擬人生会議と事例演習の成果について、発表およびディスカッションを行い、エンド・オブ・ライフの意思決定について考察する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
関連科目	これまで履修した専門基礎科目と専門科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 経過別成人看護学 4 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア	田村恵子	メヂカルフレンド社
	2	パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護 I 急性期・周術期<第2版>	井上智子	照林社
	3			
評価方法(基準)	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。演習課題(グループワークのプロダクトや課題レポート、記録等)の達成状況：80点、および演習態度(積極性や取り組みへの姿勢等)20点により総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	臨床現場で活躍する医療者としての価値観・態度・技術を養うことができるように期待しています。また、異なる学修過程にある者同士(看護師と管理栄養士)で自分自身について話し合ったり、コミュニケーション方法やケア方法を検討することで、多職種連携の基礎となる相手を尊重する態度を身に着けてほしいと考えています。 授業のスケジュールは、初回に具体的に別途説明します。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業中、もしくは授業終了後にフィードバックします。			
担当者の研究室等備考	第1回～第7回：7号館 3階 松本葉子 研究室(28) 第8回～第15回：7号館 3階 稲垣範子 研究室(25)			

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀧 千波, 江川 達郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NPH1341a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 健康に関する課題解決的な学びや、様々な背景を持つ人々の多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。(DP1)
授業方法と留意点	授業は、本学スポーツ施設において実技形式で行う(雨天の場合は、講義形式で行う場合もある)。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」: コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」: 自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」: 課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意を行う	運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30 分)
2	各コース別実技	コース分け、種目の概要、基礎知識の説明	事前: 基礎知識の収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
3	コース別実技	種目におけるルール・マナーの説明 種目の導入につながる運動	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
4	コース別実技	体力の向上に必要な基礎運動 基礎技術を応用した運動	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
5	コース別実技	体力の向上に必要な基礎運動 基礎技術を応用した運動	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
6	コース別実技	基礎技術練習、攻防練習(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
7	コース別実技	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
8	コース別実技	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
9	コース別実技	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
10	【講義】運動・スポーツが心身へ与える影響とそのメカニズム	講義(講義室) 運動・スポーツが心身へ及ぼす影響について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。	事前: 一般人における運動の必要性について調べる。 事後: 授業で学んだ内容を、どのように臨床へ応用できるか考え、レポートする。 (事前事後学習時間 30 分)
11	コース別実技	ルールの説明、基礎技術練習(グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
12	コース別実技	基礎技術練習、攻防練習(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
13	コース別実技	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
14	コース別実技	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
15	総括	後期授業の振り返りを行う	内容の振り返り、本授業の総まとめ (事後学習時間 30 分)

関連科目	人体の構造と機能 I、II、III、IV
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			

	3		
評価方法 (基準)	<p>対面授業：平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。          なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力を示す。</p>		
学生への メッセージ	<p>本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。          授業1回目(ガイダンス)は、教室(教室名は事前に連絡します)に集合してください。(更衣不要)          授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室(072-839-9187)へ問い合わせてください。          実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)</p>		
担当者の 研究室等	総合体育館1階		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと		

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀧 千波, 江川 達郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NPH1341a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 健康に関する課題解決的な学びや、様々な背景を持つ人々の多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。(DP1)
授業方法と留意点	授業は、本学スポーツ施設において実技形式で行う(雨天の場合は、講義形式で行う場合もある)。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」: コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」: 自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」: 課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意を行う	運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30 分)
2	各コース別実技	コース分け、種目の概要、基礎知識の説明	事前: 基礎知識の収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
3	コース別実技	種目におけるルール・マナーの説明 種目の導入につながる運動	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
4	コース別実技	体力の向上に必要な基礎運動 基礎技術を応用した運動	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
5	コース別実技	体力の向上に必要な基礎運動 基礎技術を応用した運動	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
6	コース別実技	基礎技術練習、攻防練習(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
7	コース別実技	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
8	コース別実技	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
9	コース別実技	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
10	【講義】運動・スポーツが心身へ与える影響とそのメカニズム	講義(講義室) 運動・スポーツが心身へ及ぼす影響について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。	事前: 一般人における運動の必要性について調べる。 事後: 授業で学んだ内容を、どのように臨床へ応用できるか考え、レポートする。 (事前事後学習時間 30 分)
11	コース別実技	ルールの説明、基礎技術練習(グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
12	コース別実技	基礎技術練習、攻防練習(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
13	コース別実技	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
14	コース別実技	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
15	総括	後期授業の振り返りを行う	内容の振り返り、本授業の総まとめ (事後学習時間 30 分)

関連科目	人体の構造と機能 I、II、III、IV
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			



	3		
評価方法 (基準)	<p>対面授業：平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。          なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力を示す。</p>		
学生への メッセージ	<p>本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。          授業1回目(ガイダンス)は、教室(教室名は事前に連絡します)に集合してください。(更衣不要)          授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室(072-839-9187)へ問い合わせてください。          実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)</p>		
担当者の 研究室等	総合体育館1階		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと		

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目名 (英文)	Sports Science II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀧 千波, 江川 達郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NPH1342a1		

授業概要・目的	運動およびスポーツは健康づくりにおいて欠かせない要素である。本科目では、スポーツ科学Ⅰで学修した技術や知識をさらに深め、生涯スポーツへ継続できる能力育成を目的とする。さらに運動療法を安全かつ効果的に進めることの重要性、疾病予防・介護予防における運動・スポーツの役割やメカニズムについて疫学・基礎・実践研究の観点から学修する。 健康に関する課題解決的な学びや、様々な背景を持つ人々の多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②生涯スポーツへ継続できる ③運動・スポーツの役割や、それらが生体へ及ぼすメカニズムについて理解できる ④多様な背景をもつ人々に対する運動・スポーツの実践方法を身につける
授業方法と留意点	授業は、本学スポーツ施設において実技形式で行う。 ※ 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる 汎用的技能：コミュニケーション・スキル、問題解決力 態度：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観 創造的思考力：課題解決能力を修得できる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意を行う	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める (事後学習時間 30分)
2	チームビルディング	チームビルディング 自分自身の体力を維持・向上させるために必要なスポーツ (次週から開始する「スポーツ①」) に関するディスカッション	事前：運動・スポーツの役割および重要性について理解する 事後：スポーツ①の背景、ルールを調べる (事前事後学習時間 30分)
3	スポーツ①	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ①の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習 (事前事後学習時間 30分)
4	スポーツ①	スポーツ①をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
5	スポーツ①	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ①をロールプレイ形式で実施	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
6	スポーツ①のまとめ	スポーツ①の成果について、グループワークで振り返る。 グループ代えを行い、スポーツ② (体脂肪量減少を目的としたスポーツ) の計画	事前：スポーツ①実践のまとめ 事後：グループワークのまとめ。スポーツ①実践内容をスポーツ②に活かす工夫を考える。 (事前事後学習時間 30分)
7	スポーツ②	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ②の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習 (事前事後学習時間 30分)
8	スポーツ②	スポーツ②をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
9	スポーツ②	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ②をロールプレイ形式で実施	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
10	スポーツ②のまとめ	スポーツ②の成果について、グループワークで振り返る。 グループ代えを行い、スポーツ③ ((1) 高齢者の体力および認知機能低下遅延 or (2) リラクゼーションを目的としたスポーツ) の計画。	事前：スポーツ②実践のまとめ 事後：グループワークのまとめ。スポーツ①②実践内容をスポーツ③に活かす工夫を考える。 (事前事後学習時間 30分)
11	スポーツ③	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ③の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習 (事前事後学習時間 30分)
12	スポーツ③	スポーツ③をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
13	スポーツ③のまとめ	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ③をロールプレイ形式で実施	事前：スポーツ③実践のまとめ 事後：グループワークのまとめ (事前事後学習時間 30分)
14	スポーツ③のまとめ	スポーツ③の成果について、グループワ	事前：スポーツ③実践のまとめ

			ークで振り返る	事後：グループワークのまとめ (事前事後学習時間 30分)
	15	スポーツ④ 総まとめ	ニューススポーツ体験と総まとめ	事前：スポーツ④の背景、ルールを調べる 事後：スポーツ④の内容、本授業全般についてまとめ (事前事後学習時間 30分)
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナースのためのメディカルフィットネス	鶴田 来美, 吉永 砂織, 田中 喜代次	ナッブ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	対面授業：平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力を示す。			
学生への メッセージ	授業1回目(ガイダンス)は、教室(教室名は事前に連絡します)に集合してください。(更衣不要) 授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室(072-839-9187)へ問い合わせてください。 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)			
担当者の 研究室等	総合体育館1階			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	山居 輝美, 北村 敦子, 松田 千登勢, 眞野 祥子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NKY1349a1		

授業概要・目的	<p>本科目の講義目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することである。授業では教養入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、及びコミュニケーション能力を身につけることを目指す。</p> <p>SDGs 1～17</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。</li> <li>2) ABDによる読書法を身につけている。</li> <li>3) チームワーク能力を身につけ、対話を通じて協働学習をすることができる。</li> <li>4) SDGs(Sustainable Development Goals)について基本的な知識を身につけている。</li> <li>5) 読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。</li> <li>6) コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。</li> </ol>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得する。アクティブ・ブック・ダイアログ(ABD)読書術を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験する。</li> <li>・ 本科目は、これまでの講義とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるため、学生が積極的に参加することが大切である。</li> <li>・ 1 限目では、受講者は事前学習で指定された教科書の箇所を読書したり、不明な用語など調べた内容について、理解度確認テスト I (moodle にアクセスして) を行う。同テスト終了後、引き続き、指定された教科書を ABD 読書術に沿って、各テーマ毎に、割り当てられた箇所を読み、サマリーシートにまとめ、グループ全員が発表し、それらの発表内容を共有する。</li> <li>・ 2 限目では、受講者は1 限目で学習した内容について、その学習内容のふりかえりをするために、新たに QFT (Question Formulation Technique) を用いて、質問作りワークを行う。授業で新たに学んだ内容について、各自が数多くの質問を作り、それらを書き出し、分類し、学修した内容についてグループ内で対話する。このワークで授業で学んだことを確認し、ふりかえりシートにまとめ、当日提出する。最後に、Moodle にアクセスし、理解度確認テスト II を行う。</li> <li>・ 事前学習：受講者は授業日に学習する内容を読書し、重要な箇所の書き出しや不明な語句などを調べる。</li> <li>・ 事前学習の評価については、授業の始めに行う理解度確認テスト I (moodle にアクセスして) を行う。</li> </ul> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『星の王子さま』は、様々な本があるが教科書として指定してある本を購入する。</li> <li>・ 授業時間中に Moodle へアクセスして理解度確認テストを受験する際、ICT ツールとしてスマホ若しくはタブレットを使用するため、それらを十分充電して持参する。</li> <li>・ 大学教養入門の各クラスの担当教員から Teams の連絡用チャンネルで連絡する。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識が身につく、ABD 読書法等の協働学習により、文章の要約、プレゼンテーション、対話の基本が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月6日 (9:20~10:50)	チームビルディングの研修プログラム (農学部・看護学部・薬学部合同) 枚方キャンパスの学生相互のワークを通して大学の学びについて考える。	
2	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月6日 (11:00~12:30)	チームビルディングの研修プログラム	
3	「星の王子さま」① 4月13日 (9:20~10:50)	アイスブレイク、授業のガイダンス  「星の王子さま」の指定箇所について読み、要約し、サマリーシート作成、発表する。  読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前：「星の王子さま」についての調べ学習 (約 1 時間) (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2) 不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle) として実施する。
4	「星の王子さま」① 4月13日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの説明と実践、ふりかえりシートの作成と提出  質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後：「星の王子さま」① (約 30 分) 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考え方などをメモする。
5	「星の王子さま」② 4月20日 (9:20~10:50)	「星の王子さま」の指定箇所について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。  読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前：「星の王子さま」② (約 1 時間) (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2) 不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle) として実施する。
6	「星の王子さま」② 4月20日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出  質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後：「星の王子さま」② (約 30 分) 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考え方などをメモする。
7	「星の王子さま」③ 4月27日 (9:20~10:50)	「星の王子さま」の指定箇所について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。  読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前：「星の王子さま」③ (約 1 時間) (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2) 不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle) として実施する。

8	「星の王子さま」③ 4月27日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「星の王子さま」③ (約30分) 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考え方をメモする。
9	「未来の年表」① 5月11日 (9:20~10:50)	「未来の年表」の指定箇所(人口減少カレンダー2033~2065 年前半)について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前:「未来の年表」① (約1時間) (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2) 不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle)として実施する。
10	「未来の年表」① 5月11日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「未来の年表」① (約30分) 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考え方をメモする。
11	「未来の年表」② 5月18日 (9:20~10:50)	「未来の年表」の指定箇所(人口減少カレンダー2033~2065 年後半)について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前:「未来の年表」② (約1時間) (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2) 不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle)として実施する。
12	「未来の年表」② 5月18日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「未来の年表」② (約30分) 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考え方をメモする。
13	3~12回の総括 5月25日 (11:00~12:30)	3~12回の総括 筆記試験に関するアナウンス	事前:授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。(約1時間) (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2) 不明な語句などを調べる。
14	「SDGs (持続可能な開発目標) SDGs のゲームの実践」 5月25日 (13:20~14:50)	「SDGs (持続可能な開発目標) SDGs ゲームの実践」 講義担当;認定ファシリテーター大塚正人	事前:「SDGs」(約1時間) (1) 「SDGs」について読むべき資料を Teams へアップする。各自通して読む。(2) 不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle)として実施する。
15	SDGs にかかる最新事情 5月25日 (15:00~16:30)	サマリーシート作成、発表する。 また、発表後、グループ内で対話し、ふりかえりシート作成と提出 講義担当;認定ファシリテーター大塚正人	事後:「SDGs」(約30分) 授業で学修した箇所を、再度学習する。自分が気になった箇所や、考え方をメモする。

関連科目 摂南大学で開講されている科目すべて。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	星の王子さま	サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)	新潮文庫
2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法 (基準) サマリーシート(10%)、ふりかえりシート (10%)、理解度確認テスト (前 10% :事前学習の評価、後 10% :ABD 実施による読書内容の理解度評価)、グループワーク取り組み姿勢の評価 (20% :グループワークでの討論を踏まえた共同作業・成果を含む)、期末テスト (40%)  
以上の評価点の合計で60%以上を合格する。原則全ての授業に出席していること。

学生へのメッセージ 大学生としてふさわしい教養の基礎と主体的な学習方法が身につく、さらに学部学科を超えて友人を作ることが出来るでしょう。

担当者の研究室等 山居 輝美 (看護学部 7号館 研究室3) 北村 敦子 (看護学部 7号館 共同研究室3)  
大塚 正人 (薬学部 1号館 5F 331)

備考 事前学習課題 (各時間約 1時間)・事後学習課題 (各時間約 30分)

科目名	海外医療セミナー	科目名 (英文)	International Health Care Seminar
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	森谷 利香, 西田 知代
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6◎		
科目ナンバリング	NDN2067a0		

授業概要・目的	実際に海外の臨床現場を訪れ、そこで行われている看護の実践について学ぶ。現地では病院見学・講義等を行い、看護・保健・医療をめぐる事情について学習する。日本とは異なる社会環境・文化の中で実践されている臨床現場での学習を通して、日本の看護とそのあり方について振り返り、看護と社会の関わり、看護のあるべき姿とその将来について考える機会とする。																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海外の医療制度や看護の状況について、その国・地域の社会環境・文化的特性を踏まえて説明することができる。</li> <li>2. 1. を通して、日本の医療や看護の現状および将来に向けた在り方について説明することができる。</li> <li>3. 異文化を理解し、他者を尊重する姿勢をもつとともに、リーダーシップ・メンバーシップを発揮し、積極的な態度かつ看護学生に相応しいマナーで取り組むことができる。</li> <li>4. 本科目を通して、自身の取り組みを振り返り、今後の課題を述べることができる。</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	海外に渡航し、病院等の医療・福祉施設の見学、および現地大学生との交流を中心としたフィールドワークを行い、その都度課題を提出するという学習方法とする。また、本学学生および広島国際大学の学生と共にグループ学習を通して、他者を尊重しながら協働するという医療者にとって重要な姿勢を学ぶ。本科目は数日間の宿泊を伴うため、ルール、マナーの順守を求める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>別途説明する。</td><td>別途説明する。</td><td>別途説明する。</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	別途説明する。	別途説明する。	別途説明する。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	別途説明する。	別途説明する。	別途説明する。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	国際看護学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	事前学習 (15%)、文化交流に関する取り組み (15%)、研修に関するレポート課題 (60%)、ポートフォリオ・学習態度 (10%) を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	海外における医療・看護の理解のみでなく、他大学学生との交流も含めて、異文化を体験することで、自身の属する文化や集団の理解を深める良い機会です。将来、海外での看護を目指す人もそうでない人も是非一緒に学びましょう。																																																																		
担当者の研究室等	森谷 研究室 29 足立 研究室 22																																																																		
備考																																																																			

科目名	基礎看護技術 I	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山居 輝美, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 佐久間 夕美子, 佃 真理子, 藤井 崇敬, 矢本 良江
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2027a0		

授業概要・目的	<p>多様な特性や状態を抱え療養環境の中で過ごす生活者に対し、科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を主体的に段階的に学ぶ。</p> <p>「基礎看護技術 I (1 年後期)」「基礎看護技術 II (2 年前期)」で構成されるが、基礎看護技術 I では、全ての看護技術に必要な知識および技術を修得することを目的とし、「感染予防の看護技術」「療養環境を整える看護技術」「活動と休息・睡眠を助ける看護技術」、科目の後半には、日常生活を整える援助技術「日常生活における対象者のニーズを整えるための看護技術」を学修する。</p> <p>学修過程においては、ブレンディッド・ラーニングを活用し学生自ら考え、学生が主導となって学修をすすめていく力を培うことを目指す。今年度は、農学部とのコラボレーション授業も行う。</p>
到達目標	<p>1) 看護技術の基本的な考え方を学び、療養環境を整え、活動休息を助ける看護技術を修得する。</p> <p>2) 対象者のニーズを捉えながら衣生活への援助、食事・栄養摂取への援助、排泄援助、苦痛緩和の援助、身体清潔援助を実践する。</p> <p>3) 自らが考え実践した援助を振り返り、メンバー間での意見交換を行い、よりよい援助を考える。</p>
授業方法と留意点	<p>・講義では日常生活を整える援助の根拠を学び、演習では対象者に関わりながら実習室にて看護実践能力を養う。講義は基本的には対面授業を行うが、台風など状況に応じてオンライン授業を行う。</p> <p>・授業では電子教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するための資料を適宜配布する。ICT ツールを活用し、看護実践能力を育成するための動画など視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。</p> <p>・演習では事前に配信された動画を視聴したのち参加する。動画では、教員がデモンストレーションを行い、臨床場面を模した形での援助場面を実践する。また、動画では説明が難しい場面やコツについては、教員が演習開始時や適宜デモンストレーションを行い説明する。</p> <p>・クラスは 2 つに分け、基本的に 1 ベッドに学生は 2~3 名、教員は 2~4 ベッドを 1 人で担当し、学生と共に検討・実践しながらより良い援助を目指す。また、看護師及び患者役の体験から看護実践に関するスモールグループディスカッションや発表等を行い、クラス全体で学びを深める。</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者として身だしなみを整える。</li> <li>・演習のための準備は、指定された時間までに行い、片付けなどについては別途指示する。</li> <li>・演習で使用する物品は大切に扱い、片付けや整理整頓をする。</li> <li>・分からないことについては、自己判断せず教員に相談する。</li> <li>・本科目は、基礎看護学実習 II の先修科目となり、また、再受験不許可科目である。(履修申請要領を確認のこと)</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎看護学実習 I、II の履修にかかわる科目</li> <li>・基礎看護技術 II の履修にかかわる科目</li> <li>・看護師国家試験受験資格にかかわる科目</li> </ul>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	コースオリエンテーション 看護技術とは 看護者の基本的態度	<b>【講義】</b> 看護技術の基盤となる考えについて学ぶ 看護者の基本的態度について理解する 実習室使用のルールについて知る	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み出席する (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
2	感染予防の看護技術 (1)	<b>【講義】</b> 感染予防 (スタンダードプリコーション) に関する原則および根拠となる考えを学ぶ	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み出席する (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
3	感染予防の看護技術 (2)	<b>【演習】</b> 衛生的な手洗いを実践する PPE の着脱を実践する	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
4	療養環境を整える看護技術 (1)	<b>【講義】</b> 環境整備に必要な原則および根拠となる考えを学び、安全で安楽な生活環境について理解する	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み出席する (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
5	療養環境を整える看護技術 (2)	<b>【演習】</b> ベッドメイキングを実践する 環境整備を実践する	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
6	療養環境を整える看護	<b>【演習】</b>	<b>【事前課題】</b>	

	技術 (3)	ベッドメイキングを実践する 環境整備を実践する	教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
7	療養環境を整える看護技術 (4)	【演習】 安全・安楽で自立を促すシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
8	療養環境を整える看護技術 (5)	【演習】 安全・安楽で自立を促すシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
9	活動と休息を助ける看護技術 (1)	【講義】 日常生活の基盤となる活動(運動)と休息(睡眠)について学ぶ 安全・安楽で自立を促す体位の整え、姿勢保持を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
10	活動と休息を助ける看護技術 (2)	【講義】 安全・安楽で自立を促す体位変換について学ぶ 移動・移送に関する基本を学ぶ 苦痛緩和について学ぶ 自分の身体の動かし方について学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
11	活動と休息を助ける看護技術 (3)	【演習】 安全・安楽で自立を促す体位への整え方、体位変換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
12	活動と休息を助ける看護技術 (4)	【演習】 安全・安楽で自立を促す体位への整え方、体位変換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
13	活動と休息を助ける看護技術 (5)	【演習】 車いす・ストレッチャーでの移動・移送を実践する 歩行による移動の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
14	活動と休息を助ける看護技術 (6)	【演習】 車いす・ストレッチャーでの移動・移送を実践する 歩行による移動の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
15	日常生活におけるニース・身体の清潔を保つ看護技術 (1)	【講義】 身体の清潔の原則および根拠を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。ま





	25	日常生活におけるニーズ・身体の清潔を保つ看護技術(11)	【演習】 身体清潔の援助：安全・安楽で自立を促す陰部洗浄を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	26	日常生活におけるニーズ・食事・栄養摂取を助ける援助(1)	【講義】 食事・栄養摂取のための原則および根拠を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	27	日常生活におけるニーズ・食事・栄養摂取を助ける援助(2)	【演習】 安全・安楽で自立を促す食事の援助を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	28	日常生活におけるニーズ・食事・栄養摂取を助ける援助(3)	【演習】 安全・安楽で自立を促す食事の援助を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	29	日常生活におけるニーズ・自然排泄を助ける援助(1)	【講義】 自然排泄を促すための原則および根拠を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	30	日常生活におけるニーズ・自然排泄を助ける援助(2)	【演習】 安全・安楽で自立を促す床上排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
関連科目	看護学概論、看護対人関係論、基礎看護技術Ⅱ、フィジカルアセスメント、看護過程論、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メジカルフレンド社
	2	【電子】新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メジカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	筆記テスト(60%)、ミニテスト(10%)、課題演習・レポート(20%)、授業参加態度；身だしなみ・課題提出状況(10%) ※ミニテストおよび課題演習の受験資格は、原則関連する全ての授業及び演習に出席していることとする。			
学生へのメッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護実践の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に修得していきましょう。自己学習には電子教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル、ナーシングチャンネル等を活用すると効果的です。また、この授業を通して、看護師としてふさわしい行動や振る舞いを身に付けてください。			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、研究室3(山居)、共同研究室(北村、佃、藤井)			
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については事前に別途指示する。			

科目名	基礎看護技術 I	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山居 輝美, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 佐久間 夕美子, 佃 真理子, 藤井 崇敬, 矢本 良江
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2027a0		

授業概要・目的	多様な特性や状態を抱え療養環境の中で過ごす生活者に対し、科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を主体的に段階的に学ぶ。 「基礎看護技術 I (1 年後期)」「基礎看護技術 II (2 年前期)」で構成されるが、基礎看護技術 I では、全ての看護技術に必要な知識および技術を修得することを目的とし、「感染予防の看護技術」「療養環境を整える看護技術」「活動と休息・睡眠を助ける看護技術」、科目の後半には、日常生活を整える援助技術「日常生活における対象者のニーズを整えるための看護技術」を学修する。学修過程においては、ブレンディッド・ラーニングを活用し学生自ら考え、学生が主導となって学修をすすめていく力を培うことを目指す。今年度は、農学部とのコラボレーション授業も行う。
到達目標	1) 看護技術の基本的な考え方を学び、療養環境を整え、活動休息を助ける看護技術を修得する。 2) 対象者のニーズを捉えながら衣生活への援助、食事・栄養摂取への援助、排泄援助、苦痛緩和の援助、身体清潔援助を実践する。 3) 自らが考え実践した援助を振り返り、メンバー間での意見交換を行い、よりよい援助を考える。
授業方法と留意点	・講義では日常生活を整える援助の根拠を学び、演習では対象者に関わりながら実習室にて看護実践能力を養う。講義は基本的には対面授業を行うが、台風など状況に応じてオンライン授業を行う。 ・授業では電子教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するための資料を適宜配布する。ICT ツールを活用し、看護実践能力を育成するための動画など視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 ・演習では事前に配信された動画を視聴したのち参加する。動画では、教員がデモンストレーションを行い、臨床場面を模した形式での援助場面を実践する。また、動画では説明が難しい場面やコツについては、教員が演習開始時や適宜デモンストレーションを行い説明する。 ・クラスは 2 つに分け、基本的に 1 ベッドに学生は 2~3 名、教員は 2~4 ベッドを 1 人で担当し、学生と共に検討・実践しながらより良い援助を目指す。また、看護師及び患者役の体験から看護実践に関するスモールグループディスカッションや発表等を行い、クラス全体で学びを深める。  【留意点】 ・学習者として身だしなみを整える。 ・演習のための準備は、指定された時間までに行い、片付けなどについては別途指示する。 ・演習で使用する物品は大切に扱い、片付けや整理整頓をする。 ・分からないことについては、自己判断せず教員に相談する。 ・本科目は、基礎看護学実習 II の先修科目となり、また、再受験不許可科目である。(履修申請要領を確認のこと)
科目学習の効果 (資格)	・基礎看護学実習 I、II の履修にかかわる科目 ・基礎看護技術 II の履修にかかわる科目 ・看護師国家試験受験資格にかかわる科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	コースオリエンテーション 看護技術とは 看護者の基本的態度	【講義】 看護技術の基盤となる考えについて学ぶ 看護者の基本的態度について理解する 実習室使用のルールについて知る	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する (1 時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
2	感染予防の看護技術 (1)	【講義】 感染予防 (スタンダードプリコーション) に関する原則および根拠となる考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する (1 時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
3	感染予防の看護技術 (2)	【演習】 衛生的な手洗いを実践する PPE の着脱を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
4	療養環境を整える看護技術 (1)	【講義】 環境整備に必要な原則および根拠となる考えを学び、安全で安楽な生活環境について理解する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する (1 時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
5	療養環境を整える看護技術 (2)	【演習】 ベッドメイキングを実践する 環境整備を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
6	療養環境を整える看護	【演習】	【事前課題】

	技術 (3)	ベッドメイキングを実践する 環境整備を実践する	教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
7	療養環境を整える看護技術 (4)	【演習】 安全・安楽で自立を促すシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
8	療養環境を整える看護技術 (5)	【演習】 安全・安楽で自立を促すシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
9	活動と休息を助ける看護技術 (1)	【講義】 日常生活の基盤となる活動(運動)と休息(睡眠)について学ぶ 安全・安楽で自立を促す体位の整え、姿勢保持を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
10	活動と休息を助ける看護技術 (2)	【講義】 安全・安楽で自立を促す体位変換について学ぶ 移動・移送に関する基本を学ぶ 苦痛緩和について学ぶ 自分の身体の動かし方について学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
11	活動と休息を助ける看護技術 (3)	【演習】 安全・安楽で自立を促す体位への整え方、体位変換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
12	活動と休息を助ける看護技術 (4)	【演習】 安全・安楽で自立を促す体位への整え方、体位変換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
13	活動と休息を助ける看護技術 (5)	【演習】 車いす・ストレッチャーでの移動・移送を実践する 歩行による移動の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
14	活動と休息を助ける看護技術 (6)	【演習】 車いす・ストレッチャーでの移動・移送を実践する 歩行による移動の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
15	日常生活におけるニース・身体の清潔を保つ看護技術 (1)	【講義】 身体の清潔の原則および根拠を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。ま



	25	日常生活におけるニーズ・身体の清潔を保つ看護技術(11)	【演習】 身体清潔の援助：安全・安楽で自立を促す陰部洗浄を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	26	日常生活におけるニーズ・食事・栄養摂取を助ける援助(1)	【講義】 食事・栄養摂取のための原則および根拠を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	27	日常生活におけるニーズ・食事・栄養摂取を助ける援助(2)	【演習】 安全・安楽で自立を促す食事の援助を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	28	日常生活におけるニーズ・食事・栄養摂取を助ける援助(3)	【演習】 安全・安楽で自立を促す食事の援助を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	29	日常生活におけるニーズ・自然排泄を助ける援助(1)	【講義】 自然排泄を促すための原則および根拠を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	30	日常生活におけるニーズ・自然排泄を助ける援助(2)	【演習】 安全・安楽で自立を促す床上排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
関連科目	看護学概論、看護対人関係論、基礎看護技術Ⅱ、フィジカルアセスメント、看護過程論、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メジカルフレンド社
	2	【電子】新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メジカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	筆記テスト(60%)、ミニテスト(10%)、課題演習・レポート(20%)、授業参加態度；身だしなみ・課題提出状況(10%) ※ミニテストおよび課題演習の受験資格は、原則関連する全ての授業及び演習に出席していることとする。			
学生へのメッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護実践の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に修得していきましょう。自己学習には電子教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル、ナーシングチャンネル等を活用すると効果的です。また、この授業を通して、看護師としてふさわしい行動や振る舞いを身に付けてください。			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、研究室3(山居)、共同研究室(北村、佃、藤井)			
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については事前に別途指示する。			

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子・神谷 美紀子・北村 敦子・佃 真理子・藤井 崇敬・山居 輝美・矢本 良江
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2028a0		

授業概要・目的	看護を実践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学ぶ。患者の立場に立ち、基本となる援助を安全安楽に提供できるよう、根拠を踏まえた技術を修得する。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、吸引、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護などについての知識と技術を修得する。
到達目標	1. 診療に伴う看護技術の意義と原理原則について説明することができる。 2. 診療に伴う看護技術の根拠と注意点を述べることができる。 3. 診療に伴う看護における基礎的な技術を修得することができる。 4. 検査・治療を受ける患者、家族の立場に立った関わりや倫理的側面、安全安楽について述べるができる。 5. 検査・治療を受ける患者の個性に配慮した看護について考察することができる。
授業方法と留意点	授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を追加する。技術演習では少人数グループとなり、教員がグループごとに担当し個別指導する。看護師及び患者役割を体験し、実施した看護技術に関する知識と根拠、患者の心情や状態から必要な看護について振り返る。また、事例課題を用いた演習を行い、グループワークやディスカッション、発表を通して今後の実践へつなぐ学びとする。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	診療に伴う看護技術	【講義】 ・オリエンテーション ・診療に伴う看護技術とは ・診療に伴う看護と法的規制	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
2	薬物療法の看護技術①	【講義】 ・薬物療法の看護技術 ・体温調整(電法等)の看護技術	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
3	薬物療法の看護技術②	【演習】 ・経口与薬/外用薬/座薬①	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
4	薬物療法の看護技術③	【演習】 ・経口与薬/外用薬/座薬②	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
5	呼吸・循環を整える看護技術①	【講義】 ・呼吸障害がある患者のアセスメント ・呼吸状態を整える援助方法	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
6	呼吸・循環を整える看護技術②	【演習】 ・吸引器・酸素ポンベの取り扱い/酸素吸入①	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
7	呼吸・循環を整える看護技術③	【演習】 ・吸引器・酸素ポンベの取り扱い/酸素吸入②	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(2時間)。

				すること (1 時間)。
8	感染予防の技術①	<b>【講義】</b> ・感染と感染予防の基礎知識 ・感染予防における看護師の責務と役割 ・感染源および感染経路への対策	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
9	感染予防の技術②	<b>【演習】</b> ・手指消毒法、マスク、ガウン等の装着	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
10	無菌操作①	<b>【演習】</b> ・無菌操作/ 滅菌手袋の着脱①	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
11	無菌操作②	<b>【演習】</b> ・無菌操作/ 滅菌手袋の着脱②	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
12	検査・与薬 (注射法)・輸血に伴う看護技術①	<b>【講義】</b> ・体液・組織の検査 ・検査時の援助方法および、検体の採取と取扱い ・採血時の看護	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
13	検査・与薬 (注射法)・輸血に伴う看護技術②	<b>【講義】</b> ・注射法の基礎知識 ・静脈内注射・輸液実施時の看護	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
14	検査・与薬 (注射法)・輸血に伴う看護技術③	<b>【演習】</b> ・注射器の取り扱い① ・薬液の吸い上げ/ 注射の準備①	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
15	検査・与薬 (注射法)・輸血に伴う看護技術④	<b>【演習】</b> ・注射器の取り扱い② ・薬液の吸い上げ/ 注射の準備②	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
16	検査・与薬 (注射法)・輸血に伴う看護技術⑤	<b>【演習】</b> ・末梢静脈血採血①	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
17	検査・与薬 (注射法)・輸血に伴う看護技術⑥	<b>【演習】</b> ・末梢静脈血採血②	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	



18	検査・与薬（注射法）・輸血に伴う看護技術⑦	【演習】 ・静脈内注射/ 輸液①	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
19	検査・与薬（注射法）・輸血に伴う看護技術⑧	【演習】 ・静脈内注射/ 輸液②	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
20	検査・与薬（注射法）・輸血に伴う看護技術⑨	【講義・演習】 ・筋肉内注射①	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
21	検査・与薬（注射法）・輸血に伴う看護技術⑩	【演習】 ・筋肉内注射②	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
22	検査・与薬（注射法）・輸血に伴う看護技術⑪	【講義・演習】 ・皮下注射①	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
23	検査・与薬（注射法）・輸血に伴う看護技術⑫	【講義・演習】 ・皮下注射②	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
24	食生活と栄養摂取の看護技術	【講義】 ・栄養状態のアセスメント ・栄養摂取への援助方法 ・経管栄養法	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
25	排泄障害の看護技術①	【講義】 ・排泄障害のアセスメント ・排泄障害に対する援助技術	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
26	排泄障害の看護技術②	【演習】 ・持続的導尿①	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
27	排泄障害の看護技術③	【演習】 ・持続的導尿②	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
28	創傷管理の看護技術①	【講義】	【事前課題】

			・創傷管理の基礎知識 ・創傷の観察と処置	教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	29	創傷管理の看護技術②	【演習】 ・滅菌操作と創傷管理、包帯法①	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	30	創傷管理の看護技術③	【演習】 ・滅菌操作と創傷管理、包帯法②	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
関連科目	看護学概論、看護対人関係論、基礎看護技術Ⅰ、フィジカルアセスメント、患者安全、患者コミュニケーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子(編)	メヂカルフレンド社
	2	【電子】新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子(編)	メヂカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護がみえる② 臨床看護技術	医療情報科学研究所	メディックメディア
	2			
	3			
評価方法(基準)	筆記試験(50%)、実技試験または小テスト(20%)、事例課題の提出及び達成状況(20%)、授業態度等(10%) 原則全ての授業及び演習に出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、進捗や感染状況等により評価方法を変更することがある。			
学生へのメッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術などが多く、患者への安全・安楽な技術を目指します。原理原則に基づく看護技術の修得には予習・復習が欠かせません。予習・復習には教科書や授業資料、演習動画の他、ナーシング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、研究室3(山居)、共同研究室2(北村・佃)、共同研究室2(藤井)			
備考	技術演習時の身だしなみ、準備物品等については、事前に別途指示します。			

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子・神谷 美紀子・北村 敦子・佃 真理子・藤井 崇敬・山居 輝美・矢本 良江
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2028a0		

授業概要・目的	看護を実践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学ぶ。患者の立場に立ち、基本となる援助を安全安楽に提供できるよう、根拠を踏まえた技術を修得する。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、吸引、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護などについての知識と技術を修得する。
到達目標	1. 診療に伴う看護技術の意義と原理原則について説明することができる。 2. 診療に伴う看護技術の根拠と注意点を述べることができる。 3. 診療に伴う看護における基礎的な技術を修得することができる。 4. 検査・治療を受ける患者、家族の立場に立った関わりや倫理的側面、安全安楽について述べるができる。 5. 検査・治療を受ける患者の個性に配慮した看護について考察することができる。
授業方法と留意点	授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を追加する。技術演習では少人数グループとなり、教員がグループごとに担当し個別指導する。看護師及び患者役割を体験し、実施した看護技術に関する知識と根拠、患者の心情や状態から必要な看護について振り返る。また、事例課題を用いた演習を行い、グループワークやディスカッション、発表を通して今後の実践へつなぐ学びとする。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	診療に伴う看護技術	【講義】 ・オリエンテーション ・診療に伴う看護技術とは ・診療に伴う看護と法的規制	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
2	薬物療法の看護技術①	【講義】 ・薬物療法の看護技術 ・体温調整(電法等)の看護技術	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
3	薬物療法の看護技術②	【演習】 ・経口与薬/外用薬/座薬①	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
4	薬物療法の看護技術③	【演習】 ・経口与薬/外用薬/座薬②	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
5	呼吸・循環を整える看護技術①	【講義】 ・呼吸障害がある患者のアセスメント ・呼吸状態を整える援助方法	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
6	呼吸・循環を整える看護技術②	【演習】 ・吸引器・酸素ポンベの取り扱い/酸素吸入①	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
7	呼吸・循環を整える看護技術③	【演習】 ・吸引器・酸素ポンベの取り扱い/酸素吸入②	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(2時間)。

				すること (1 時間)。
8	感染予防の技術①	<b>【講義】</b> ・感染と感染予防の基礎知識 ・感染予防における看護師の責務と役割 ・感染源および感染経路への対策	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
9	感染予防の技術②	<b>【演習】</b> ・手指消毒法、マスク、ガウン等の装着	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
10	無菌操作①	<b>【演習】</b> ・無菌操作/ 滅菌手袋の着脱①	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
11	無菌操作②	<b>【演習】</b> ・無菌操作/ 滅菌手袋の着脱②	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
12	検査・与薬 (注射法)・輸血に伴う看護技術①	<b>【講義】</b> ・体液・組織の検査 ・検査時の援助方法および、検体の採取と取扱い ・採血時の看護	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
13	検査・与薬 (注射法)・輸血に伴う看護技術②	<b>【講義】</b> ・注射法の基礎知識 ・静脈内注射・輸液実施時の看護	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
14	検査・与薬 (注射法)・輸血に伴う看護技術③	<b>【演習】</b> ・注射器の取り扱い① ・薬液の吸い上げ/ 注射の準備①	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
15	検査・与薬 (注射法)・輸血に伴う看護技術④	<b>【演習】</b> ・注射器の取り扱い② ・薬液の吸い上げ/ 注射の準備②	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
16	検査・与薬 (注射法)・輸血に伴う看護技術⑤	<b>【演習】</b> ・末梢静脈血採血①	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
17	検査・与薬 (注射法)・輸血に伴う看護技術⑥	<b>【演習】</b> ・末梢静脈血採血②	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 <b>【事後課題】</b> 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	

18	検査・与薬（注射法）・輸血に伴う看護技術⑦	【演習】 ・静脈内注射/ 輸液①	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
19	検査・与薬（注射法）・輸血に伴う看護技術⑧	【演習】 ・静脈内注射/ 輸液②	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
20	検査・与薬（注射法）・輸血に伴う看護技術⑨	【講義・演習】 ・筋肉内注射①	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
21	検査・与薬（注射法）・輸血に伴う看護技術⑩	【演習】 ・筋肉内注射②	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
22	検査・与薬（注射法）・輸血に伴う看護技術⑪	【講義・演習】 ・皮下注射①	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
23	検査・与薬（注射法）・輸血に伴う看護技術⑫	【講義・演習】 ・皮下注射②	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
24	食生活と栄養摂取の看護技術	【講義】 ・栄養状態のアセスメント ・栄養摂取への援助方法 ・経管栄養法	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
25	排泄障害の看護技術①	【講義】 ・排泄障害のアセスメント ・排泄障害に対する援助技術	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
26	排泄障害の看護技術②	【演習】 ・持続的導尿①	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
27	排泄障害の看護技術③	【演習】 ・持続的導尿②	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
28	創傷管理の看護技術①	【講義】	【事前課題】

			・創傷管理の基礎知識 ・創傷の観察と処置	教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナースィングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。	
	29	創傷管理の看護技術②	【演習】 ・滅菌操作と創傷管理、包帯法①	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナースィングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。	
	30	創傷管理の看護技術③	【演習】 ・滅菌操作と創傷管理、包帯法②	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナースィングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。	
関連科目	看護学概論、看護対人関係論、基礎看護技術Ⅰ、フィジカルアセスメント、患者安全、患者コミュニケーション				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	【電子】新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ		深井喜代子(編)	メヂカルフレンド社
	2	【電子】新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ		深井喜代子(編)	メヂカルフレンド社
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	看護がみえる② 臨床看護技術		医療情報科学研究所	メディックメディア
	2				
	3				
評価方法(基準)	筆記試験(50%)、実技試験または小テスト(20%)、事例課題の提出及び達成状況(20%)、授業態度等(10%) 原則全ての授業及び演習に出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、進捗や感染状況等により評価方法を変更することがある。				
学生へのメッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術などが多く、患者への安全・安楽な技術を目指します。原理原則に基づく看護技術の修得には予習・復習が欠かせません。予習・復習には教科書や授業資料、演習動画の他、ナースィング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。				
担当者の研究室等	7号館3階 研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、研究室3(山居)、共同研究室2(北村・佃)、共同研究室2(藤井)				
備考	技術演習時の身だしなみ、準備物品等については、事前に別途指示します。				

科目名	フィジカルアセスメント	科目名 (英文)	Physical Assessment
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子・神谷 美紀子・北村 敦子・佃 真理子・藤井 崇敬・山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2029a0		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学び、それらのアセスメントを看護過程のプロセスにつなげるために必要な理論と具体的な方法について学ぶ。また、事例患者において既習の知識と技術を統合し、より実践的に応用できる能力を培う。
到達目標	バイタルサイン測定、呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術および看護過程および看護展開に必要な基礎的知識を修得する。
授業方法と留意点	講義形式でフィジカルアセスメントの理論と看護展開の基礎的知識を学び、基礎看護学実習室にてフィジカルアセスメントの技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を追加する。技術演習では少人数グループとなり、教員がグループごとに担当し個別指導する。看護師及び患者役割を体験し、実施したフィジカルアセスメントの基本技術に関する知識と根拠、患者の心情や状態から必要な看護について振り返る。また、事例課題を用いたアセスメントの思考過程をレポートにまとめ、グループワークやディスカッション、発表を通して今後の実践へつなぐ学びとする。
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

授業計画	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	フィジカルアセスメントの考え方と基本的技術	【講義】 看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方、情報収集・整理等の基本的技術に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	2	バイタルサイン①	【講義】 バイタルサインに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	3	バイタルサイン②	【演習】 バイタルサイン測定を実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	4	バイタルサイン③	【演習】 バイタルサイン測定を実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	5	呼吸器系のフィジカルアセスメント①	【講義】 呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	6	呼吸器系のフィジカルアセスメント②	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	7	呼吸器系のフィジカルアセスメント③	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	8	循環器系のフィジカル	【講義】	【事前課題】

		アセスメント①	循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
9		循環器系のフィジカルアセスメント②	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
10		循環器系のフィジカルアセスメント③	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
11		統合トレーニングⅠ①	【演習】 健康障害をもつ患者のフィジカルアセスメントについてグループワークを行う。	【事前課題】 事例課題に取り組む(1時間)。 【事後課題】 グループワークを振り返り、課題レポートを作成すること(2時間)。
12		統合トレーニングⅠ②	【演習】 健康障害をもつ患者のフィジカルアセスメントについてグループワークを行う。	【事前課題】 事例課題に取り組む(1時間)。 【事後課題】 グループワークを振り返り、課題レポートを作成すること(2時間)。
13		消化器系のフィジカルアセスメント①	【講義】 消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
14		消化器系のフィジカルアセスメント②	【演習】 消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
15		消化器系のフィジカルアセスメント③	【演習】 消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
16		脳・神経系のフィジカルアセスメント①	【講義】 脳・神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
17		脳・神経系のフィジカルアセスメント②	【演習】 脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
18		脳・神経系のフィジカルアセスメント③	【演習】 脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。



19	筋・骨格系のフィジカルアセスメント①	【講義】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
20	筋・骨格系のフィジカルアセスメント②	【演習】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントを实践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
21	筋・骨格系のフィジカルアセスメント③	【演習】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントを实践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
22	フィジカルアセスメントと看護過程①	【講義】 ・フィジカルアセスメントと看護過程 ・看護過程の概要・構造 ・問題解決過程としての看護過程 ・看護過程に必要な能力	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 事例課題に取り組む。(2時間)
23	フィジカルアセスメントと看護過程②	【講義】 ・情報整理 ・看護アセスメントとその枠組み	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 事例課題に取り組む。(2時間)
24	フィジカルアセスメントと看護過程③	【講義】 ・患者の情報の分析と統合 ・看護上の問題と看護目標・優先順位	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 事例課題に取り組む。(2時間)
25	フィジカルアセスメントと看護過程④	【講義】 ・看護計画の実施と評価	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 事例課題に取り組む。(2時間)
26	フィジカルアセスメントと看護過程⑤	【講義】 ・看護記録とは ・看護記録の種類	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 事例課題に取り組む。(2時間)
27	技術確認/ 統合トレーニングⅡ①	【演習】 技術確認とグループワークを行う。	【事前課題】 技術確認について自己練習を行う。事例課題に取り組む。(1時間)。 【事後課題】 事例課題を追記・修正する(2時間)。
28	技術確認/ 統合トレーニングⅡ②	【演習】 技術確認とグループワークを行う。	【事前課題】 技術確認について自己練習を行う。事例課題に取り組む。(1時間)。 【事後課題】 事例課題を追記・修正する(2時間)。
29	統合トレーニングⅡ③	【演習】 既習の援助技術とフィジカルアセスメント技術を統合し、事例患者へのケアの実践を発表する。ディスカッションと評価を行う。	【事前課題】 事例課題に取り組む。発表の準備を行う(1時間)。 【事後課題】 実践を振り返り、ピア評価を行う。ディスカッションを基に課題を追記・修正する(2時間)。
30	統合トレーニングⅡ④	【演習】 既習の援助技術とフィジカルアセスメント技術を統合し、事例患者へのケアの実践を発表する。ディスカッションと評価を行う。	【事前課題】 事例課題に取り組む。発表の準備を行う(1時間)。 【事後課題】 実践を振り返り、ピア評価を行う。ディスカッションを基に課題を追記・修正する(2時間)。

関連科目

看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、看護過程論、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日常生活行動からみるヘルスアセスメント 看護形態機能学の枠組みを用いて	大久保暢子編	日本看護協会出版会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント	医療情報科学研究所	メディックメディア
2	新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ	深井 喜代子編	メヂカルフレンド社
3			

評価方法 (基準)	筆記試験 (50%)、実技試験または小テスト (20%)、事例課題の提出状況及びアセスメントの思考過程 (20%)、授業参加態度 (10%) 原則全ての授業及び演習に出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、進捗や感染状況等により評価方法を変更することがある。
学生への メッセージ	「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また、予習・復習には教科書や授業資料の他、演習動画とナーシング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1 (佐久間)、研究室2 (神谷)、研究室3 (山居)、共同研究室2 (北村・佃)、共同研究室2 (藤井)
備考	技術演習時の身だしなみ、準備物品等については、事前に別途指示します。

科目名	フィジカルアセスメント	科目名 (英文)	Physical Assessment
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子・神谷 美紀子・北村 敦子・佃 真理子・藤井 崇敬・山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2029a0		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学び、それらのアセスメントを看護過程のプロセスにつなげるために必要な理論と具体的な方法について学ぶ。また、事例患者において既習の知識と技術を統合し、より実践的に応用できる能力を培う。
到達目標	バイタルサイン測定、呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術および看護過程および看護展開に必要な基礎的知識を修得する。
授業方法と留意点	講義形式でフィジカルアセスメントの理論と看護展開の基礎的知識を学び、基礎看護学実習室にてフィジカルアセスメントの技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を追加する。技術演習では少人数グループとなり、教員がグループごとに担当し個別指導する。看護師及び患者役割を体験し、実施したフィジカルアセスメントの基本技術に関する知識と根拠、患者の心情や状態から必要な看護について振り返る。また、事例課題を用いたアセスメントの思考過程をレポートにまとめ、グループワークやディスカッション、発表を通して今後の実践へつなぐ学びとする。
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

授業計画	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	フィジカルアセスメントの考え方と基本的技術	【講義】 看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方、情報収集・整理等の基本的技術に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	2	バイタルサイン①	【講義】 バイタルサインに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	3	バイタルサイン②	【演習】 バイタルサイン測定を実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	4	バイタルサイン③	【演習】 バイタルサイン測定を実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	5	呼吸器系のフィジカルアセスメント①	【講義】 呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	6	呼吸器系のフィジカルアセスメント②	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	7	呼吸器系のフィジカルアセスメント③	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	8	循環器系のフィジカル	【講義】	【事前課題】

		アセスメント①	循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
9		循環器系のフィジカルアセスメント②	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
10		循環器系のフィジカルアセスメント③	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
11		統合トレーニングⅠ①	【演習】 健康障害をもつ患者のフィジカルアセスメントについてグループワークを行う。	【事前課題】 事例課題に取り組む(1時間)。 【事後課題】 グループワークを振り返り、課題レポートを作成すること(2時間)。
12		統合トレーニングⅠ②	【演習】 健康障害をもつ患者のフィジカルアセスメントについてグループワークを行う。	【事前課題】 事例課題に取り組む(1時間)。 【事後課題】 グループワークを振り返り、課題レポートを作成すること(2時間)。
13		消化器系のフィジカルアセスメント①	【講義】 消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
14		消化器系のフィジカルアセスメント②	【演習】 消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
15		消化器系のフィジカルアセスメント③	【演習】 消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
16		脳・神経系のフィジカルアセスメント①	【講義】 脳・神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
17		脳・神経系のフィジカルアセスメント②	【演習】 脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
18		脳・神経系のフィジカルアセスメント③	【演習】 脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。

19	筋・骨格系のフィジカルアセスメント①	【講義】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
20	筋・骨格系のフィジカルアセスメント②	【演習】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントを实践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
21	筋・骨格系のフィジカルアセスメント③	【演習】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントを实践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、演習動画とナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
22	フィジカルアセスメントと看護過程①	【講義】 ・フィジカルアセスメントと看護過程 ・看護過程の概要・構造 ・問題解決過程としての看護過程 ・看護過程に必要な能力	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 事例課題に取り組む。(2時間)
23	フィジカルアセスメントと看護過程②	【講義】 ・情報整理 ・看護アセスメントとその枠組み	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 事例課題に取り組む。(2時間)
24	フィジカルアセスメントと看護過程③	【講義】 ・患者の情報の分析と統合 ・看護上の問題と看護目標・優先順位	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 事例課題に取り組む。(2時間)
25	フィジカルアセスメントと看護過程④	【講義】 ・看護計画の実施と評価	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 事例課題に取り組む。(2時間)
26	フィジカルアセスメントと看護過程⑤	【講義】 ・看護記録とは ・看護記録の種類	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 事例課題に取り組む。(2時間)
27	技術確認/ 統合トレーニングⅡ①	【演習】 技術確認とグループワークを行う。	【事前課題】 技術確認について自己練習を行う。事例課題に取り組む。(1時間)。 【事後課題】 事例課題を追記・修正する(2時間)。
28	技術確認/ 統合トレーニングⅡ②	【演習】 技術確認とグループワークを行う。	【事前課題】 技術確認について自己練習を行う。事例課題に取り組む。(1時間)。 【事後課題】 事例課題を追記・修正する(2時間)。
29	統合トレーニングⅡ③	【演習】 既習の援助技術とフィジカルアセスメント技術を統合し、事例患者へのケアの実践を発表する。ディスカッションと評価を行う。	【事前課題】 事例課題に取り組む。発表の準備を行う(1時間)。 【事後課題】 実践を振り返り、ピア評価を行う。ディスカッションを基に課題を追記・修正する(2時間)。
30	統合トレーニングⅡ④	【演習】 既習の援助技術とフィジカルアセスメント技術を統合し、事例患者へのケアの実践を発表する。ディスカッションと評価を行う。	【事前課題】 事例課題に取り組む。発表の準備を行う(1時間)。 【事後課題】 実践を振り返り、ピア評価を行う。ディスカッションを基に課題を追記・修正する(2時間)。

関連科目

看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、看護過程論、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日常生活行動からみるヘルスアセスメント 看護形態機能学の枠組みを用いて	大久保暢子編	日本看護協会出版会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント	医療情報科学研究所	メディックメディア
2	新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ	深井 喜代子編	メヂカルフレンド社
3			

評価方法 (基準)	筆記試験 (50%)、実技試験または小テスト (20%)、事例課題の提出状況及びアセスメントの思考過程 (20%)、授業参加態度 (10%) 原則全ての授業及び演習に出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、進捗や感染状況等により評価方法を変更することがある。
学生への メッセージ	「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また、予習・復習には教科書や授業資料の他、演習動画とナーシング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1 (佐久間)、研究室2 (神谷)、研究室3 (山居)、共同研究室2 (北村・佃)、共同研究室2 (藤井)
備考	技術演習時の身だしなみ、準備物品等については、事前に別途指示します。

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1o, E科: Ao, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01452a1, L科: LL01354a1, D科・S科: IL01361a1, P科: YL01417a2, J科: JL01363a1, W科: WL01342a1, N科: NL01343a1		

授業概要・目的	地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のことを学ぶ意義を理解する。</li> <li>・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。</li> <li>・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。</li> <li>・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。</li> <li>・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めますので、グループのメンバーに迷惑がからならないよう責任のある行動をしてください。 講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>&lt;4月6日(土) 1~3限&gt; 第1回 「地域と私」への取り組み方; オリエンテーション 授業の進め方/ひとこと自己紹介 第2回 地域との関わり方 ~『調査されるという迷惑』を読む~ グループディスカッション/教室内での共有 第3回 地域のいまとその担い手 地域福祉の視点から概説/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p>&lt;4月20日(土) 1~3限&gt; 第4回 インタビューにチャレンジ ~聴く、掘り下げる、まとめる~ グループづくり/グループ内での相互インタビュー/インタビューで聞いた内容をメモする 第5回 質的データの分析にチャレンジ メモの内容を整理する/分析する 第6回 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション&amp;ディスカッション</p> <p>&lt;5月18日(土) 1, 2限&gt; 第7回 地域に関するテーマを選定しよう 『地域』に関する文献の整理』についてのグループ内プレゼンテーション/グループで取り組むテーマの決定/グループワークの実施スケジュールの検討 第8回 グループワークについてシェアしよう グループワークテーマの教室内での共有・対話</p> <p>&lt;6月1日(土) 1, 2限&gt; 第9回 グループワークの中間報告会 第10回 グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 「地域福祉」の実践事例から考える/選定したテーマを「具体的な地域」から考える</p> <p>&lt;6月15日(土) 1, 2限&gt; 第11回 グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう テーマごとに「登場人物」を考える 第12回 大学生は地域のためになにができるかを考えよう 地域と学生の協働の実践について概説/地域の担い手としての大学生の可能性/地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える 個人ワーク/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p>&lt;6月29日(土) 1~3限&gt; 第13回 最終報告会① 第14回 最終報告会② 第15回 講義のふりかえり</p> <p>本科目の受講にあたっては、講義準備および復習として事前、事後学習を各回2時間程度、合計60時間取り組んでいただきます。</p>																		
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>学びレポート(個人ワーク) 30%</p> <p>「身近な地域の課題解決・魅力磨き」『地域』に関する文献の整理 成果物(個人ワーク) 20%</p>																		

	<p>学びのグループワークレポート 30%</p> <p>最終報告会でのプレゼンテーション 20% (ルーブリック評価)</p> <p>なお、60%で合格とする。</p>
学生へのメッセージ	<p>地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。</p>
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス3号館3階 上野山研究室</p>
備考	



科目名	地域貢献実践演習	科目名(英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: A◎, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03457a1, L科: LL03366a1, D科・S科: IL03366a1, P科: YL03422a2, J科: JL03368a1, W科: WL0347a1, N科: NL03348a1		

授業概要・目的	この科目はソーシャル・イノベーション副専攻過程における実践科目です。4月・5月の半ばまではこれまでの講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証に至るまでを主体的に学ぶための準備を行います。5月後半(予定)からは連携先ご担当者様と密に連携しながら、課題の抽出、要因の理解、活動計画の立案を行い、課題解決・低減に向けて実践を行います。現地で実践と振り返りを繰り返しながら、当初立てた目標達成に向けた知識と技術の向上と責任ある行動を続けられる姿勢の確立を目的とします。																		
	SDGs 全般																		
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結びつけて、考察し行動することができる。 ②課題派遣から解決までのPDCAサイクルを回すことができる ③チームで活動することができる ④チーム内での役割を理解し協調的な行動ができる。 ⑤連携先の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																		
授業方法と留意点	4月・5月までは座学とディスカッションを行うため、講義内で課題が出ることもある。 また前期の途中より各連携先のフィールドに赴き、活動を行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	1. オリエンテーション/副専攻修了者のイメージ、受講方法 : 4月12日(金) 5限  ※2回目以降の講義の日時は初回の講義で決定する。なお開講曜日は金曜日5限を予定しているが履修学生の時間割次第で変更になることもある。  2. チームビルディングワーク  3. 連携先様に登壇いただき、連携先様の課題に関する話題提供  4. 連携先様のお話を踏まえ、調べたこと、今後取り組みたいこと等に関するプレゼンテーション  5. 以降は 現地に赴き、実践を繰り返す。 ※概ね3週間に一回、全員で集合し途中経過の報告会を行う。日時に关しては担当教員の指示に従うこと。 ※12月末(日時未定)に成果報告会を行う																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題提出物 30% 活動の取り組み状況 50% 最終報告等 20%																		
学生へのメッセージ	副専攻で学修した成果を実践活動で発揮しつつ、更に成長できるように主体的に取り組んでくんでほしい。																		
担当者の研究室等	水野武(寝屋川キャンパス7号館3階)																		
備考																			

科目名	地域実習	科目名 (英文)	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎, 古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。																
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。																
授業方法と留意点	教室での授業とグループワーク、フィールドワークです。通年授業なので毎週、教室で授業があるのではなく、詳しいスケジュールは第1回授業で案内します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【重要】</b> 第1回授業は前期の班決めなどをしますので、必ず出席してください。もし、出席できない時は必ず事前にTeamsのチャット機能で担当教員に連絡してください。また、授業の性質上、授業開始後、2~3回たってから参加するということもできません。その場合は履修辞退となります。授業開始後、欠席が続いたままの場合は単位認定できませんので、必ず初回から出席してください。</p> <p><b>【授業内容】</b> 1 チーム10名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の1~6の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第1回授業はで詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習に行くことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。</p> <p><b>【前期】</b> 開講時間はいずれも6時間目です。通年授業なので毎週教室で授業があるのではなく、前期は2週間に1回程度です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。具体的な日には調整中ですので、第1回授業で案内します。</p> <p>第1回「ガイダンス (授業概要の説明)」 第2回「寝屋川市の現状を考える(1)」 第3回「寝屋川市の現状を考える(2)」 第4回「寝屋川市まちあるき」(学外) 第5回「社会教育とは(1)」 第6回「社会教育とは(2)」 第7回「まちあるき報告会」 第8回「実習先挨拶」(学外) 第9回「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第10回~第18回 「実習」(学外) (主に夏季休暇中に行います)</p> <p><b>【後期】</b> 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせします。 第19回「実習ふりかえり(1)」 第20回「実習ふりかえり(2)」 第21回「全体報告会」</p>																
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	提出物 (20%)、活動への参画の程度 (40%)、最終報告プレゼンテーション (20%)、最終レポート (20%)																
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみよう！																
担当者の研究室等備考	朝田研究室 (寝屋川キャンパス、1号館7階)																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬 憲昭, 下元 一輝
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が協力してプロジェクトを進める経験を通じて、学生の社会人基礎力や人間力の向上を図る。プロジェクトの企画・運営においては、担当教員の指導の下で、必要な情報の収集方法や関係者との連絡調整方法、プロジェクトを円滑に進めるための「段取り」を習得する。</p> <p>①調査: 地域の現状や課題を調べ、プロジェクトの実現可能性を探る。  ②企画: プロジェクトの企画案を作成し、実現可能性、コスト、実施期間、有効性などに関する評価を行う。  ③関連する団体に企画案をプレゼンテーションし、必要に応じて修正した上で、詳細な実施計画を作成する。  ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関係機関に報告し計画の修正を行う。  ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関係機関に実施結果を報告し、次年度以降のプロジェクトの実施について話し合う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICTツールを活用した遠隔授業とする。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつ行うべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。</p> <p>具体的には①仕事の全体像を把握し各タスクに分割する、②優先順位を付けて作業手順を決定する、③分担したタスクを各グループが責任を持って行い、自分たちで評価・改善ができるようにする。また、各グループでの活動を通じて、グループをまとめる役割とサポートスタッフとしての役割の重要性を体感する。</p> <p>活動対象の地方自治体:  大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町</p> <p>SDGsゴール: 4・11・17</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間と協力して活動を進めていく中で、互いに率直に意見を出し合い、次の活動に向けて積極的に改善に取り組むことを期待しています。																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1号館7階 村瀬研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬 憲昭, 下元 一輝
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が協力してプロジェクトを進める経験を通じて、学生の社会人基礎力や人間力の向上を図る。プロジェクトの企画・運営においては、担当教員の指導の下で、必要な情報の収集方法や関係者との連絡調整方法、プロジェクトを円滑に進めるための「段取り」を習得する。</p> <p>①調査: 地域の現状や課題を調べ、プロジェクトの実現可能性を探る。  ②企画: プロジェクトの企画案を作成し、実現可能性、コスト、実施期間、有効性などに関する評価を行う。  ③関連する団体に企画案をプレゼンテーションし、必要に応じて修正した上で、詳細な実施計画を作成する。  ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関係機関に報告し計画の修正を行う。  ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関係機関に実施結果を報告し、次年度以降のプロジェクトの実施について話し合う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICTツールを活用した遠隔授業とする。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつ行うべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。</p> <p>具体的には①仕事の全体像を把握し各タスクに分割する、②優先順位を付けて作業手順を決定する、③分担したタスクを各グループが責任を持って行い、自分たちで評価・改善ができるようにする。また、各グループでの活動を通じて、グループをまとめる役割とサポートスタッフとしての役割の重要性を体感する。</p> <p>活動対象の地方自治体:  大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町</p> <p>SDGsゴール: 4・11・17</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間と協力して活動を進めていく中で、互いに率直に意見を出し合い、次の活動に向けて積極的に改善に取り組むことを期待しています。																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1号館7階 村瀬研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どもの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援</li> <li>点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習</li> <li>いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。</p> <p>授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）          科学技術教養C          教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）          水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス 1号館3階 石田研究室</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援</li> <li>点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習</li> <li>いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。</p> <p>授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）          科学技術教養C          教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）          水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス 1号館3階 石田研究室</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保, 大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01374a～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	食品ロスは世界でも課題になっていることですが、日本の食品ロス量は世界的に見ても多く、世界の食糧支援量よりも多いという現状があります。食品ロスは環境、貧困、経済等さまざまな分野の課題とも関連するものであり、食という日ごろ身近に行う行動とも関わりのあるもので、一人一人が意識をもって行動する必要がある課題です。その課題解決（食品ロス削減）に向けた取り組みを考え、実践し、多くの人にシェアする活動を行います。																
到達目標	<p>【PBLプロジェクト共通目標】</p> <p>参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>【本プロジェクト目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスの現状と関連する課題を理解する。</li> <li>・食品ロス削減に向けた活動を提案し、実施することができる。</li> <li>・プロジェクトに関わる多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関とも連携し、活動を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスについて</li> <li>・調査活動</li> <li>・イベント参加</li> <li>・小冊子等作成</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスについて：講義+演習形式</li> <li>・その他の内容：グループ活動</li> </ul> <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	鎌田講師室（寝屋川キャンパス 2号館 2階）																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保, 大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	食品ロスは世界でも課題になっていることですが、日本の食品ロス量は世界的に見ても多く、世界の食糧支援量よりも多いという現状があります。食品ロスは環境、貧困、経済等さまざまな分野の課題とも関連するものであり、食という日ごろ身近に行う行動とも関わりのあるもので、一人一人が意識をもって行動する必要がある課題です。その課題解決(食品ロス削減)に向けた取り組みを考え、実践し、多くの人にシェアする活動を行います。																
到達目標	<p>【PBLプロジェクト共通目標】</p> <p>参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>【本プロジェクト目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスの現状と関連する課題を理解する。</li> <li>・食品ロス削減に向けた活動を提案し、実施することができる。</li> <li>・プロジェクトに関わる多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関とも連携し、活動を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスについて</li> <li>・調査活動</li> <li>・イベント参加</li> <li>・小冊子等作成</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスについて：講義+演習形式</li> <li>・その他の内容：グループ活動</li> </ul> <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバルシチズンシップ論(応用)																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	各活動への貢献度60%、活動日誌・最終レポート40%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	鎌田講師室(寝屋川キャンパス2号館2階)																
備考																	



科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎 古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>プロジェクト名: キッズイベントイベントを創ろう!</p> <p><b>【概要】</b> 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2024年度は小学生を対象としたイベントを企画し、協力組織スタッフのご指導のもと企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。</p> <p><b>【目的】</b> アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。</p>																
到達目標	<p><b>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】</b> 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。</li> <li>2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。</li> <li>3. イベント後の処理を適切に行う。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<p>連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業計画】</b></p> <p>4月 ご挨拶 5月 企画会議 6月 自主事業内容の決定および出演交渉 7月 中間報告会 寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼 8月 チラシのデザイン作業 9月 チラシの印刷・配付およびチケット作成 10月 ポスターセッション チケット発売開始 11月 打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者) 12月 最終報告会 準備および本番</p> <p>この他に「基礎講座」全9回を受講すること</p> <p>これらの活動を通じて、以下のことを身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。</li> <li>2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。</li> <li>3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。</li> <li>4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。</li> <li>5. 他のイベント等に応用可能な一般的な知識を得る。</li> </ol>																
関連科目	すべての科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>普段のグループワークへの参加状況・貢献度(50%)、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度(30%)、発表会における評価(20%)を総合して判断する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>みなさまがこれからイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。</p>																
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス1号館7階(朝田)</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎 古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>プロジェクト名: キッズイベントイベントを創ろう!</p> <p><b>【概要】</b> 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2024年度は小学生を対象としたイベントを企画し、協力組織スタッフのご指導のもと企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。</p> <p><b>【目的】</b> アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。</p>																				
到達目標	<p><b>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】</b> 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。</li> <li>2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。</li> <li>3. イベント後の処理を適切に行う。</li> </ol>																				
授業方法と留意点	<p>連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。</p>																				
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業計画】</b></p> <table border="0"> <tr><td>4月</td><td>ご挨拶</td></tr> <tr><td>5月</td><td>企画会議</td></tr> <tr><td>6月</td><td>自主事業内容の決定および出演交渉</td></tr> <tr><td>7月</td><td>中間報告会</td></tr> <tr><td></td><td>寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼</td></tr> <tr><td>8月</td><td>チラシのデザイン作業</td></tr> <tr><td>9月</td><td>チラシの印刷・配付およびチケット作成</td></tr> <tr><td>10月</td><td>ポスターセッション チケット発売開始</td></tr> <tr><td>11月</td><td>打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)</td></tr> <tr><td>12月</td><td>最終報告会 準備および本番</td></tr> </table> <p>この他に「基礎講座」全9回を受講すること</p> <p>これらの活動を通じて、以下のことを身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。</li> <li>2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。</li> <li>3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。</li> <li>4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。</li> <li>5. 他のイベント等に活用可能な一般的な知識を得る。</li> </ol>	4月	ご挨拶	5月	企画会議	6月	自主事業内容の決定および出演交渉	7月	中間報告会		寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼	8月	チラシのデザイン作業	9月	チラシの印刷・配付およびチケット作成	10月	ポスターセッション チケット発売開始	11月	打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)	12月	最終報告会 準備および本番
4月	ご挨拶																				
5月	企画会議																				
6月	自主事業内容の決定および出演交渉																				
7月	中間報告会																				
	寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼																				
8月	チラシのデザイン作業																				
9月	チラシの印刷・配付およびチケット作成																				
10月	ポスターセッション チケット発売開始																				
11月	打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)																				
12月	最終報告会 準備および本番																				
関連科目	すべての科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3							
番号	書籍名	著者名	出版社名																		
1																					
2																					
3																					
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3							
番号	書籍名	著者名	出版社名																		
1																					
2																					
3																					
評価方法(基準)	<p>普段のグループワークへの参加状況・貢献度(50%)、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度(30%)、発表会における評価(20%)を総合して判断する。</p>																				
学生へのメッセージ	<p>みなさまがこれからイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。</p>																				
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス1号館7階(朝田)</p>																				
備考																					

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也, 工藤 隆則, 長田 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>寝屋川市では自治会加入率の低下と自治会の担い手不足に悩んでおり、とりわけ若年層の加入率上昇に向けた対策や、役職者の負担の軽減が必要となっている。本プロジェクトでは、寝屋川市内の自治会において、自治会活動を周知する手段としてLINE公式アカウント等の活用を支援する。</p> <p>学生が中心となって説明会の企画を立案し、円滑に説明会を運営し、参加して良かったと思ってもらえる説明会にするとともに、LINE公式アカウントの試験運用を通じて、地域への理解を深めるとともに、関係者との円滑なコミュニケーションを図ることを目指す。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月 オリエンテーション 5月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6~8月 説明会準備 9月 説明会実施 10~12月 LINE公式アカウントの試験運用</p> <p>説明会では、参加者との座談会形式でLINE公式アカウントの活用方法について学んでもらう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>主体性 25% 協調性 25% 課題発見・解決力 25% プロジェクトへの貢献 25%</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 10階 増田研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也, 工藤 隆則, 長田 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>寝屋川市では自治会加入率の低下と自治会の担い手不足に悩んでおり、とりわけ若年層の加入率上昇に向けた対策や、役職者の負担の軽減が必要となっている。本プロジェクトでは、寝屋川市内の自治会において、自治会活動を周知する手段としてLINE公式アカウント等の活用を支援する。</p> <p>学生が中心となって説明会の企画を立案し、円滑に説明会を運営し、参加して良かったと思ってもらえる説明会にするとともに、LINE公式アカウントの試験運用を通じて、地域への理解を深めるとともに、関係者との円滑なコミュニケーションを図ることを目指す。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>4月 オリエンテーション</p> <p>5月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ</p> <p>6~8月 説明会準備</p> <p>9月 説明会実施</p> <p>10~12月 LINE公式アカウントの試験運用</p> <p>説明会では、参加者との座談会形式でLINE公式アカウントの活用方法について学んでもらう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>主体性 25%</p> <p>協調性 25%</p> <p>課題発見・解決力 25%</p> <p>プロジェクトへの貢献 25%</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 10階 増田研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林 基, 中塚 華奈, 藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、地域を活性化する必要があるという認識が生じている。</p> <p>このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。</p> <p>(1) 枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。</p> <p>(2) 当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。</p>
到達目標	<p>(1) 主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。</p> <p>(2) チームワークに必要な能力（リーダーシップ/フォロワーシップ、スケジューリング/リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。</p> <p>(3) 現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。</p> <p>(4) 現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。</p> <p>(5) 海外からの訪問者に対して魅力ある、また、国際的にみて有意義な情報発信を行うための知識・視点を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は、おおまかに(1)学内での事前準備、(2)フィールドワーク、(3)成果の共有および企画提案、(4)成果発表の準備、(5)成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。</p> <p>(1) 事前準備 [学内]</p> <p>グループごとにテーマ設定、現地に関する情報（ウェブサイト・文献等）の収集、フィールドワークの計画立案、協力者へのアポ取り等を実施する。教員から情報提供が行われる場合もあるが、基本的に学生主体で</p> <p>授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。</p>
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【前期】</b></p> <p>(1) オリエンテーション</p> <p>授業の概要説明や自己紹介・アイスブレイク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) テーマ設定、フィールドワークの準備</p> <p>グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(3) フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等）</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(4) 成果の共有</p> <p>フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。</p> <p>(5) 発表資料作成</p> <p>グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル</p> <p>(6) 中間発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p> <p><b>【夏季休暇期間～後期】</b></p> <p>(1) フィールドワークの準備</p>

	<p>グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) フィールドワーク</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(3) 提案のブラッシュアップと発表資料作成</p> <p>成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。</p> <p>(4) 学内での発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>(1) グループワークへの貢献度 (40%)：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。</p> <p>(2) 成果報告・企画・制作物の完成度 (60%)：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。</p>																
学生への メッセージ	<p>本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。</p>																
担当者の 研究室等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川キャンパス：7号館5階 小林研究室</li> <li>・枚方キャンパス：8号館3階 中塚研究室</li> </ul>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林 基, 中塚 華奈, 藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、地域を活性化する必要があるという認識が生じている。</p> <p>このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。</p> <p>(1) 枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。</p> <p>(2) 当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。</p>
到達目標	<p>(1) 主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。</p> <p>(2) チームワークに必要な能力（リーダーシップ/フォロワーシップ、スケジューリング/リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。</p> <p>(3) 現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。</p> <p>(4) 現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。</p> <p>(5) 海外からの訪問者に対して魅力ある、また、国際的にみて有意義な情報発信を行うための知識・視点を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は、おおまかに(1)学内での事前準備、(2)フィールドワーク、(3)成果の共有および企画提案、(4)成果発表の準備、(5)成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。</p> <p>(1) 事前準備 [学内]</p> <p>グループごとにテーマ設定、現地に関する情報（ウェブサイト・文献等）の収集、フィールドワークの計画立案、協力者へのアポ取り等を実施する。教員から情報提供が行われる場合もあるが、基本的に学生主体で</p> <p>授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。</p>
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【前期】</b></p> <p>(1) オリエンテーション</p> <p>授業の概要説明や自己紹介・アイスブレイク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) テーマ設定、フィールドワークの準備</p> <p>グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(3) フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等）</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(4) 成果の共有</p> <p>フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。</p> <p>(5) 発表資料作成</p> <p>グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル</p> <p>(6) 中間発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p> <p><b>【夏季休暇期間～後期】</b></p> <p>(1) フィールドワークの準備</p>

	<p>グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) フィールドワーク</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(3) 提案のブラッシュアップと発表資料作成</p> <p>成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。</p> <p>(4) 学内での発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>(1) グループワークへの貢献度 (40%)：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。</p> <p>(2) 成果報告・企画・制作物の完成度 (60%)：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。</p>																
学生への メッセージ	<p>本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。</p>																
担当者の 研究室等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川キャンパス：7号館5階 小林研究室</li> <li>・枚方キャンパス：8号館3階 中塚研究室</li> </ul>																
備考																	



科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何かできるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトである。</p> <p>活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。</p> <p>門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本=ロールモデル」となることが期待される。</p>																		
到達目標	<p>■PBL プロジェクト到達目標 (共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。</p> <p>■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる</li> <li>・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く</li> <li>・子どもたちの非認知能力の向上に務める</li> <li>・子どもたちに喜んでもらえる企画を立案・提案できるようになる</li> <li>・スケジューリングを中心とした段取り力を発揮し、業務を最後までやり遂げることができる</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>現地での活動を必ず内省すること。</p> <p>能動的に参加すること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月: 連携先さまとの顔合わせ</p> <p>5月: 門真市の子どもたちの現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修</p> <p>6月・7月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>7月: 中間報告 (PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る)</p> <p>8月・9月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>10月: 子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮)</p> <p>11月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>12月: クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会</p>																		
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	日々の活動 40%, アセスメントの受検 10%, 中間報告 20%, 最終報告 30%																		
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。																		
担当者の研究室等備考	水野講師室 (寝屋川キャンパス 7号館 3階)																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何かができるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトである。</p> <p>活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。</p> <p>門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本=ロールモデル」となることが期待される。</p>																		
到達目標	<p>■PBLプロジェクト到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。</p> <p>■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる</li> <li>・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く</li> <li>・子どもたちの非認知能力の向上に務める</li> <li>・子どもたちに喜んでもらえる企画を立案・提案できるようになる</li> <li>・スケジューリングを中心とした段取り力を発揮し、業務を最後までやり遂げることができる</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>現地での活動を必ず内省すること。 能動的に参加すること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月: 連携先さまとの顔合わせ 5月: 門真市の子ども現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修 6月・7月: 子ども lobby での子ども支援活動 7月: 中間報告 (PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る) 8月・9月: 子ども lobby での子ども支援活動 10月: 子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮) 11月: 子ども lobby での子ども支援活動 12月: クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会</p>																		
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	日々の活動 40%, アセスメントの受検 10%, 中間報告 20%, 最終報告 30%																		
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。																		
担当者の研究室等備考	水野講師室(寝屋川キャンパス7号館3階)																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「甲津原援農活動プロジェクト」</p> <p>滋賀県米原市北部の姉川上流域に位置する甲津原地区を活動地域として、援農活動を通じて過疎・高齢化が進む地域社会の実態、直面する問題、土地管理の技法、地域資源(山の恵み)の豊かさ、人びととのコミュニケーションを学ぶ。地域貢献の余地や関わりのあり方を考える前段階としての現場感覚や感性を磨く。</p> <p>甲津原での学外活動(援農活動)は、4回(各回1泊2日)を予定。</p> <p>目的は以下の通り:</p> <p>(1) 過疎・高齢化が進む山間地域の実態を知る</p> <p>(2) 潜在的な地域資源や在来知を発掘し利活用する取り組みを発想する</p> <p>(3) 地域社会の人びとの暮らしの活性化とどれと連動する教育活動の実践事例を提案する</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	この授業は座学(基礎講座)とフィールドワーク(学外活動)、成果発信(討論、成果品の作成、発表)から構成される。フィールドワーク(学外活動)は、土曜日と日曜日の1泊2日で行われる。地域社会の人びとと協働する機会が多いため、礼節と敬意のある身だしなみや振る舞いが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 基礎講座①: オリエンテーション/事前学習: シラバスの理解</p> <p>2 基礎講座②: 「執事のダンドリ手帳」から段取りの基本を学ぶ/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>3 基礎講座③: 情報発信力を磨く/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>4~8 学外活動①: 甲津原地区での援農活動(田植え、獣害対策用電気柵の設置、つけもの加工部での手伝い/1泊2日)</p> <p>9 基礎講座④: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える①ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>10 基礎講座⑤: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える②ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>11~14 学外活動②: 甲津原地区での援農活動(梅の実の収穫、梅干しの漬け込み/1泊2日)</p> <p>15 基礎講座⑥: 活動内容をシェアしよう!/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>16~19 学外活動③: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の設置、山菜採り/1泊2日)</p> <p>20 基礎講座⑦: オーディエンスを惹きつけろ!ーポスターセッションの教室ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>21~22 中間発表会の準備、中間発表</p> <p>23~26 学外活動④: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の撤取り/1泊2日)</p> <p>27 基礎講座⑧: プレゼンの教室/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>28~30 最終報告会(PBL科目報告会での発表)/事後学習: 最終報告書の作成</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業ごとのリアクションペーパー(70%)と活動報告書(30%)で評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	この科目は、教育・研究(野外調査)・社会実践のすべての要素を含む包括的な取り組みです。既存の知識を教わるという受け身な姿勢ではなく、地域社会の自然環境や生業、人びとからさまざまなことを能動的に学び取ってください。若い感性に裏打ちされる柔らかな発想とそこから派生する地域活性化への具体案を形作ることを期待します。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス8号館(農学部棟)・環境農学研究室(213号室)																		
備考	フィールドワークでは、野外活動に適した服装(長靴、軍手、長袖シャツ、帽子など)を準備すること。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「甲津原援農活動プロジェクト」</p> <p>滋賀県米原市北部の姉川上流域に位置する甲津原地区を活動地域として、援農活動を通じて過疎・高齢化が進む地域社会の実態、直面する問題、土地管理の技法、地域資源(山の恵み)の豊かさ、人びととのコミュニケーションを学ぶ。地域貢献の余地や関わりのあり方を考える前段階としての現場感覚や感性を磨く。</p> <p>甲津原での学外活動(援農活動)は、4回(各回1泊2日)を予定。</p> <p>目的は以下の通り:</p> <p>(1) 過疎・高齢化が進む山間地域の実態を知る</p> <p>(2) 潜在的な地域資源や在来知を発掘し利活用する取り組みを発想する</p> <p>(3) 地域社会の人びとの暮らしの活性化とどれと連動する教育活動の実践事例を提案する</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	この授業は座学(基礎講座)とフィールドワーク(学外活動)、成果発信(討論、成果品の作成、発表)から構成される。フィールドワーク(学外活動)は、土曜日と日曜日の1泊2日で行われる。地域社会の人びとと協働する機会が多いため、礼節と敬意のある身だしなみや振る舞いが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 基礎講座①: オリエンテーション/事前学習: シラバスの理解</p> <p>2 基礎講座②: 「執事のダンドリ手帳」から段取りの基本を学ぶ/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>3 基礎講座③: 情報発信力を磨く/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>4~8 学外活動①: 甲津原地区での援農活動(田植え、獣害対策用電気柵の設置、つけもの加工部での手伝い/1泊2日)</p> <p>9 基礎講座④: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える①ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>10 基礎講座⑤: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える②ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>11~14 学外活動②: 甲津原地区での援農活動(梅の実の収穫、梅干しの漬け込み/1泊2日)</p> <p>15 基礎講座⑥: 活動内容をシェアしよう!/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>16~19 学外活動③: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の設置、山菜採り/1泊2日)</p> <p>20 基礎講座⑦: オーディエンスを惹きつけろ!ーポスターセッションの教室ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>21~22 中間発表会の準備、中間発表</p> <p>23~26 学外活動④: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の撤取り/1泊2日)</p> <p>27 基礎講座⑧: プレゼンの教室/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>28~30 最終報告会(PBL科目報告会での発表)/事後学習: 最終報告書の作成</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業ごとのリアクションペーパー(70%)と活動報告書(30%)で評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	この科目は、教育・研究(野外調査)・社会実践のすべての要素を含む包括的な取り組みです。既存の知識を教わるという受け身な姿勢ではなく、地域社会の自然環境や生業、人びとからさまざまなことを能動的に学び取ってください。若い感性に裏打ちされる柔らかな発想とそこから派生する地域活性化への具体案を形作ることを期待します。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス8号館(農学部棟)・環境農学研究室(213号室)																		
備考	フィールドワークでは、野外活動に適した服装(長靴、軍手、長袖シャツ、帽子など)を準備すること。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷 侑也, 小林 基
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本PBLプロジェクトの舞台は沖縄県の伊良部島である。伊良部島は宮古島(本島)の北西に約4kmほど離れた場所に位置し、いわば孤立した島であった。そのため橋が架かる(架橋化)以前の島民はフェリーで買い物や学校に行く必要があり、出産や急病の際にはヘリコプターで本島の病院に搬送されることもあった。その後、2015年に本島と伊良部島とを結ぶ「伊良部大橋」が完成し、車やバスで本島での買い出しや通院が可能となり島民の生活は大きく改善されたと言える。</p> <p>一方、島民の話の中では、橋の完成により観光客や犯罪が増加し、また島民間でのふれあいの場が喪失している、といった負の側面の声も聞かれている。したがって架橋化により島民の生活インフラへのアクセスは改善されたが、種々の問題が顕在化しており、それらの解決が喫緊の課題となっている。今回のPBLプロジェクトでは島民と対面・オンラインでコミュニケーションをとり、架橋化により地域で表面化している課題を把握した上でその課題解決策を考案する。そして実際に伊良部島でフィールドワークを行い、解決策を地域に実装し、島の課題解決の一端を担えるプロジェクトを目指す。</p>																
到達目標	<p>本PBLプロジェクトでの到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域の人々とコミュニケーションを取り、何が課題となっているかを把握できる。</li> <li>② 地域の施策の良い面と悪い面を理解し、物事をさまざまな角度から評価できる。</li> <li>③ 地域のニーズを踏まえた上で、適切な課題解決策を提示できる。</li> <li>④ 「島」の文化や環境を理解し、それらを自らの言葉で他者に伝えることができる。</li> <li>⑤ 普段とは異なる環境に住む人々を理解し、地域に溶け込むことができる。</li> </ol> <p>以上を到達目標とし、学内での活動や実際の現場でのフィールドワークを実施する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生間や教員と議論をしながら地域の課題解決策を考案していく。オンラインで現地の島民とコミュニケーションをとる。また夏季には実際に現地でフィールドワークを行い、考案したアイデアを現地に実装する予定である。</p> <p>本PBLでは「島」が持つ地域課題を学びながら、その解決策を学生・教員・島民との議論の中で提案していく。そのため普通の授業とは違い学生には積極的な議論への参加が求められる。また授業では実際に沖縄県伊良部島でフィールドワークを行うが、島民と共にアイデア出し・作業を行うためその場においても積極的な参加姿勢が求められる。</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>本PBLプロジェクトの大きな行程は以下の通りである。</p> <p>4月 キックオフミーティング、自己紹介、伊良部島の基礎知識習得。</p> <p>5月 連携先とのオンラインミーティングによる地域の現状の課題把握、ディスカッション(学生・教員は対面)。</p> <p>6月 課題解決策の考案、アイデア出し</p> <p>7月 中間報告会 アイデアの具体化、作業</p> <p>8月 アイデアの具体化、作業</p> <p>9月 伊良部島でのフィールドワーク</p> <p>10月 フィールドワークの詳細と成果のまとめ作業</p> <p>11月 活動の自己評価、良かった点と悪かった点の洗い出し、最終報告回準備</p> <p>12月 最終報告回準備・プレゼン練習</p> <p>1月 連携先とのオンラインによる成果報告会(学生・教員は対面)</p> <p>2月 まとめ作業(報告書の作成)</p> <p>3月 まとめ作業(報告書の作成)、解散ミーティング</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加姿勢(70%)、プロジェクトの成果物(30%)																
学生へのメッセージ	繰り返しになりますがPBLプロジェクトは通常の授業とは異なり、学生・教員・地域の人々と対話をしながら進めていくものになります。履修者・教員はひとつの「チーム」となって活動していきます。とはいえ単なる「作業」や「仕事」ではありませんので、楽しみながら地域の課題解決を目指していこうと思います。夏の伊良部島フィールドワークをめざして頑張ってください！																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館5階(大谷研究室)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷 俊也, 小林 基
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01374a1～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本PBLプロジェクトの舞台は沖縄県の伊良部島である。伊良部島は宮古島(本島)の北西に約4kmほど離れた場所に位置し、いわば孤立した島であった。そのため橋が架かる(架橋化)以前の島民はフェリーで買い物や学校に行く必要があり、出産や急病の際にはヘリコプターで本島の病院に搬送されることもあった。その後、2015年に本島と伊良部島とを結ぶ「伊良部大橋」が完成し、車やバスで本島での買い出しや通院が可能となり島民の生活は大きく改善されたと言える。</p> <p>一方、島民の話の中では、橋の完成により観光客や犯罪が増加し、また島民間でのふれあいの場が喪失している、といった負の側面の声も聞かれている。したがって架橋化により島民の生活インフラへのアクセスは改善されたが、種々の問題が顕在化しており、それらの解決が喫緊の課題となっている。今回のPBLプロジェクトでは島民と対面・オンラインでコミュニケーションをとり、架橋化により地域で表面化している課題を把握した上でその課題解決策を考案する。そして実際に伊良部島でフィールドワークを行い、解決策を地域に実装し、島の課題解決の一端を担えるプロジェクトを目指す。</p>																
到達目標	<p>本PBLプロジェクトでの到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域の人々とコミュニケーションを取り、何が課題となっているかを把握できる。</li> <li>② 地域の施策の良い面と悪い面を理解し、物事をさまざまな角度から評価できる。</li> <li>③ 地域のニーズを踏まえた上で、適切な課題解決策を提示できる。</li> <li>④ 「島」の文化や環境を理解し、それらを自らの言葉で他者に伝えることができる。</li> <li>⑤ 普段とは異なる環境に住む人々を理解し、地域に溶け込むことができる。</li> </ol> <p>以上を到達目標とし、学内での活動や実際の現場でのフィールドワークを実施する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生間や教員と議論をしながら地域の課題解決策を考案していく。オンラインで現地の島民とコミュニケーションをとる。また夏季には実際に現地でフィールドワークを行い、考案したアイデアを現地に実装する予定である。</p> <p>本PBLでは「島」が持つ地域課題を学びながら、その解決策を学生・教員・島民との議論の中で提案していく。そのため普通の授業とは違い学生には積極的な議論への参加が求められる。また授業では実際に沖縄県伊良部島でフィールドワークを行うが、島民と共にアイデア出し・作業を行うためその場においても積極的な参加姿勢が求められる。</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>本PBLプロジェクトの大きな行程は以下の通りである。</p> <p>4月 キックオフミーティング、自己紹介、伊良部島の基礎知識習得。</p> <p>5月 連携先とのオンラインミーティングによる地域の現状の課題把握、ディスカッション(学生・教員は対面)。</p> <p>6月 課題解決策の考案、アイデア出し</p> <p>7月 中間報告会 アイデアの具体化、作業</p> <p>8月 アイデアの具体化、作業</p> <p>9月 伊良部島でのフィールドワーク</p> <p>10月 フィールドワークの詳細と成果のまとめ作業</p> <p>11月 活動の自己評価、良かった点と悪かった点の洗い出し、最終報告回準備</p> <p>12月 最終報告回準備・プレゼン練習</p> <p>1月 連携先とのオンラインによる成果報告会(学生・教員は対面)</p> <p>2月 まとめ作業(報告書の作成)</p> <p>3月 まとめ作業(報告書の作成)、解散ミーティング</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加姿勢(70%)、プロジェクトの成果物(30%)																
学生へのメッセージ	繰り返しになりますがPBLプロジェクトは通常の授業とは異なり、学生・教員・地域の人々と対話をしながら進めていくものになります。履修者・教員はひとつの「チーム」となって活動していきます。とはいえ単なる「作業」や「仕事」ではありませんので、楽しみながら地域の課題解決を目指していこうと思います。夏の伊良部島フィールドワークをめざして頑張ってください！																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館5階(大谷研究室)																
備考																	

科目名	看護研究Ⅱ	科目名(英文)	Nursing Research II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN4070a0		

授業概要・目的	<p>「看護研究Ⅰ」の学びをもとに、人や看護に対して関心や疑問をもち、それらを探究できるような研究的・倫理的態度と方法論を修得する。具体的には、各自が関心のあるテーマを絞り、担当教員のもとで研究のプロセス（研究計画書の作成、研究への取り組み、論文作成、発表）を実施する。本研究にかかわる看護教員は全員が3年以上の臨床経験を有しており、臨床実践やその基礎となる課題をテーマに研究指導を行う。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人や看護に関する疑問を研究テーマにすることができる。</li> <li>2. 研究計画書を作成できる。</li> <li>3. 研究対象者に対し倫理的配慮ができる。</li> <li>4. テーマに沿った研究への取り組みができる。</li> <li>5. 研究成果を論文にすることができる。</li> <li>6. 研究成果を発表できる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>担当教員のもとで計画的に研究をすすめること。具体的な方法やスケジュール、教室は担当教員によって異なるため、担当教員からの授業に関する連絡事項（teams、ポータル、掲示）を見落とさないように留意すること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員の指示を受け研究をすすめる。</li> <li>・研究における倫理的配慮について考える。</li> <li>・研究計画書を作成する。</li> <li>・研究計画書に沿って研究を実施する。</li> <li>・人を対象とする研究の場合は必ず研究倫理審査を受ける。</li> <li>・倫理審査を受ける時には、指導教員から指導を受けて申請書類作成する。</li> <li>・論文作成時の不正（盗用、ねつ造、改ざん）について学修する。</li> <li>・研究結果に基づいて忠実に論文を作成し、発表する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">*事前事後課題としては、テーマに沿って文献検討、結果の分析、論文作成を行い、その内容に対して指導を受ける。</p>																		
関連科目	看護研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	成果物およびプレゼンテーションなどルーブリック指標を用いて評価を行う																		
学生へのメッセージ	担当教員と連絡を取り合い、自ら積極的・計画的に研究をすすめて下さい。																		
担当者の研究室等	各担当教員研究室																		
備考	看護研究Ⅰの後半とⅡは、原則として同じ領域の教員が担当する。																		

科目名	統合看護学実習	科目名(英文)	Clinical Practice in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3073a0		

授業概要・目的	<p><b>【授業の概要】</b>          自らが関心のある看護専門領域(対象領域；基礎看護学領域、成人看護学領域、老年看護学領域、小児看護学領域、母性看護学領域、精神看護学領域、在宅看護学領域、助産学領域)を選択し、臨地実習を行う。</p> <p><b>【実習目的】</b>          自らが関心のある看護領域において自己の課題解決を目指し、これまでに学習した看護を統合して、対象者の健康課題を明らかにするとともに、保健・医療・福祉チームの一員として他職種と協働・連携し、必要な看護を考え提供するための能力を養う。また、その看護実践の基盤となる看護観と倫理観を育み、自己の課題の達成状況を評価し、さらなる看護実践能力と問題解決能力を高めるため、専門職業人として自己研鑽する能力を身につける。</p> <p>実習を担当する全教員が看護職として3年以上の臨床および実践経験を有している。それらの経験を活かし、具体的で実践的な実習指導を行う。</p>																
到達目標	<p><b>【実習目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践上の自己の課題を明確にし、その解決をめざして主体的に実習に取り組むことができる。</li> <li>2. 既習の知識・技術・態度を統合して看護の対象者を全人的に捉え、健康課題を明らかにし、看護実践できる。</li> <li>3. 看護の機能と役割を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他の医療専門職者との協働・連携の必要性を説明できる。</li> <li>4. 実習を通して、自らの看護に対する考えを深め、看護観を説明できる。</li> <li>5. 倫理的視点で看護実践を捉え、人間の尊厳と権利を尊重した行動がとれ、自らの倫理観を説明できる。</li> <li>6. 生涯にわたり看護専門職者として成長し続けるために、自己の課題の達成状況および看護実践過程や方法を振り返ることを通して、主体的に自己研鑽に取り組む必要性を説明できる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<p><b>【授業方法】</b>          臨地での実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習1日目は、学内において領域別にオリエンテーション(内容・方法)を受ける。</li> <li>2. 実習2日目より、領域別臨地実習をおこなう。事例に基づきアセスメント、計画立案や実施、評価を行い看護を振り返る。</li> <li>4. 継続看護、チーム医療、看護倫理の視点から自らの看護を振り返り、グループで討議する。</li> <li>3. 実習最終日は、学内において領域別に目標の達成の成果、学びを深める。</li> </ol> <p><b>【留意事項】</b>          統合実習要綱を熟知し、授業に臨む。          本学で定めた感染予防対策を厳守すること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	担当教員の指示をうけること。																
関連科目	専門基礎科目・専門科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特に指定しない																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各領域で指定する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各領域で指定する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	各領域で指定する																
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業内容・態度・記録をルーブリック指標等を用いて評価する。																
学生へのメッセージ	これまでの学習内容を統合したまとめの実習です。自らの課題を克服できるよう目標を定め実習に臨んで下さい。																
担当者の研究室等備考	全ての看護系担当教員																



科目名	助産学実習	科目名(英文)	Clinical Practice in Midwifery and Maternity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	11	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	但馬 まり子・井田 歩美・入江 眞理・北野 美月・名草 みどり・三浦 恭子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3082a0		

授業概要・目的	<p>(概要) 妊婦、産婦、褥婦及び新生児とその家族への助産過程の展開を通して、助産診断及び助産技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。また、実践を通して個別的な援助方法について学び、医療・保健チームの中での助産師の役割や機能を考察する。そして、受け持ち事例を通して、地域におけるケア継続の必要性について理解を深め、地域における助産師の役割を考え、助産師としての職業的アイデンティティの形成を図れる素地を養う。</p> <p>(目的) 周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、助産診断・技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。実習を通して助産のあり方を考え、職業的アイデンティティの形成を図る。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊産褥婦と新生児及びその家族に対して、助産過程を展開し、母子とその家族のニーズに応じた援助ができる。</li> <li>2. 対象者の意思決定や価値観を尊重し、尊厳と人権を擁護する意識を持ち、行動できる。</li> <li>3. 助産活動を通じて、助産師としての役割と責任について理解できる。</li> <li>4. 助産実践の向上のため、常に主体的に学習する態度を養う。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	病院および助産所にて助産に関わる実習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	※詳細は、助産学実習要綱参照																		
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習 小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、地域看護学、家族看護学、精神看護学援助論Ⅰ 周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ 助産技術学演習、助産管理論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	分娩介助技術、受け持ち事例の展開等の実習内容、実習態度、実習記録、出席状況を基にした実習目標の達成度を総合的に評価する。詳細は、助産学実習要綱参照のこと。																		
学生へのメッセージ	教材は、関連科目の教科書、参考書を用いて学習する。実習時は必要時紹介します。少人数制で長期の実習となります。健康管理を十分行ってください。チームワークをもちながらも、個々に主体的・積極的な態度で臨んでください。																		
担当者の研究室等	井田(研究室12)、但馬(研究室20)、名草(研究室13)、入江(研究室14)、北野(共同研究室5)、三浦(共同研究室5)																		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習場所 1) 病院：市立ひらかた、大阪赤十字病院、大阪府済生会野江病院、関西医科大学附属病院、京都田辺中央病院、JCHO 大和郡山病院、フラワervalクリニック、八尾市立病院 2) 助産所：はるか助産院、ゆう助産院、橋本助産院</li> <li>2. 分娩介助実習では、分娩介助例数が10例に達するまで継続的に実習を行う。</li> </ol>																		

科目名	基礎看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	山居 輝美, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 佐久間 夕美子, 佃 真理子, 藤井 崇敏, 矢本 良江
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2032a0		

授業概要・目的	<p>看護学概論等の既習内容を踏まえ、看護の対象となる人を取り巻く環境を知り、健康障害をもった人々と直接関わる体験から、人が病むということ、病を持ちながら生活する人を理解する。また、看護師と患者とのかかわりの場面に同行し、看護の目的と役割、看護の機能および看護活動について理解を深め、看護を学ぶ動機とする。科目責任者および担当者は大学病院及び総合病院において看護師としての実務経験をもち、それらの経験をふまえ実践的な指導を行う。</p> <p>[実習目的] 人が疾患をもつという体験や、および、疾患を持ちながら生活する人を理解する。 看護の対象となる人を取り巻く環境を理解する。 看護の目的と役割、看護の機能する場および看護活動の理解を深める。 学習者として適切な態度を形成し、学修の動機付けとする。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病院の理念と目標、特徴を理解し、療養生活環境としての病棟、病室を知る。</li> <li>2) 看護の対象となる人の健康状態、療養生活やその思いを知る。</li> <li>3) 看護職者が患者に関心を寄せ援助する実際を知る。</li> <li>4) 看護職者およびその他の専門職者による連携の実際を知る。</li> <li>5) 看護の目的と役割、機能について、自己の意見と今後の課題を述べることができる。</li> <li>6) 看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<p>病院における臨地実習および学内実習を行う。 原則として学生配置は1グループ4～6人編成とし、各グループは教員から指導を受ける。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習時期 8月19～9月6日の間の1週間</li> <li>2. 事前学内オリエンテーション ○実習前に、実習目的・目標、実習計画、事前学習、留意事項等の説明を受ける。 ○実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。</li> <li>3. 臨地実習 ○臨床講義：看護部長より病院の概要および看護職者の役割についての講義を受ける。 ○病院見学：病院環境の見学を行い、各部署の機能について説明を受ける。 ○病院実習：病棟環境の見学を行い、実習病棟の特徴や機能について説明を受ける。 ○看護師またはその他専門職者が実施するケアを見学し、ケアの実際と対象者の反応を知る。 ○看護の対象者とのコミュニケーションから、健康状態、療養生活とその思いについて知る。 ○看護を学ぶ者として適切な態度で実習に参加する。</li> <li>4. 学内実習他 ○疾患をもつ患者の思いについて考え、討議する。 ○実習を通して学んだことを討議し、発表する。</li> </ol> <p>※原則上記を予定しているが、感染状況により実習内容を変更することもある。</p>																
関連科目	看護学概論、看護対人関係論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録を総合して評価する。																
学生へのメッセージ	看護学生として初めての实習です。看護学生としての心構えや態度をしっかりと学び、体調を整えて実習に臨みましょう。心配なことは基礎看護学の教員やグループを担当する教員に相談してください。																
担当者の研究室等	7号館3階 研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、研究室3(山居)、共同研究室(北村、佃、藤井)																
備考	実習病院：関西医科大学附属病院、星ヶ丘医療センター、関西電力病院																

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	佐久間 夕美子, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 佃 真理子, 藤井 崇敬, 山居 輝美, 矢本 良江
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2033a0		

授業概要・目的	<p>[実習目的] 看護の対象となる人を総合的に理解し、対象者の日常生活の援助に焦点をあて、看護過程を段階的に展開できる基礎的能力を培う。また、看護職者に必要な態度を養う。</p> <p>[概要] 病院で療養生活を送る対象者を受け持ち、既習の知識・看護技術を統合して、対象者が必要としている看護を実践する。 具体的には、対象者と人間関係を形成し、情報収集を行い、全体像を把握する。情報収集の枠組みでは、ヘンダーソンの14の項目で情報収集を行い、情報の分析から看護問題を抽出する。対象者の日常生活の援助に焦点をあて、必要な援助を明確にしたうえで、看護計画を立案してケアを実施する。実施したケアについて考察を行う。また、日々立案した日常生活上のケアの計画について実践・振り返り・修正を行う。これらの実践過程を通して、看護職者として不可欠な自己の看護観、倫理感について考えを深め、ふさわしい態度を身に付ける。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者と対人関係を築きながら発達段階、健康状態、日常生活に焦点を当てて情報を収集することができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 対象者とコミュニケーションを図り、対人関係を築くことができる。</li> <li>(2) 対象者の発達段階、健康状態、日常生活等を把握するために必要な情報を、記録やフィジカルイグザミネーション、問診やインタビュー、看護の場面への参加を通して収集することができる。</li> </ol> </li> <li>2) 対象者について、気づいたことに着目して情報を集め、日常生活上のケアの計画を立案することができる。</li> <li>3) 立案した日々のケアの計画を、教員、指導者の指導のもと、実施することができる。</li> <li>4) 実施した日々のケアの計画について考察を行うことができる。</li> <li>5) 収集した情報をヘンダーソンの14のノードの枠組みで整理・統合・分析し、対象者の状態を把握することができる。</li> <li>6) 実習を通して得た学びを振り返り、看護に対する自らの考えを明らかにすることができる。</li> <li>7) 主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 対象者の尊厳と権利を尊重し、プライバシーの保護を行うことができる。</li> <li>(2) 自ら学ぶ態度で情報を求め、注意事項を守り、積極的に実習することができる。</li> <li>(3) 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習を行うことができる。</li> <li>(4) グループのリーダーまたはメンバーとしての役割を果たし、協力しあうことができる。</li> <li>(5) 看護師・担当教員からの助言を適切に受け止め、実習に生かすことができる。</li> </ol> </li> </ol>																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習グループは、1グループ5～6名編成とし、担当教員および臨地実習指導者の指導を受ける。</li> <li>2. 実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。</li> <li>3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。</li> <li>4. 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習を行う。</li> <li>5. 実習にあたり、実習病院・病棟から、病棟の機能や看護職の役割について、オリエンテーションを受ける。</li> <li>6. 原則として、入院中の患者を1名受持ち、対象者の全体像を把握し日々の中で必要な看護を立案し実践・評価する。</li> <li>7.</li> </ol>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 実習前にオリエンテーションを受け、実習に必要な知識・技術の復習を行う。</li> <li>2. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 模擬患者を対象としたインタビューと健康観察、フィジカルイグザミネーションから看護計画を立案し、ケアの実践を行う。</li> <li>2) 実践した看護について考察を行い、病院実習における自身の課題と目標を明確にする。</li> </ol> </li> <li>3. 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1月～3月に、以下の内容で2週間の実習を行う。</li> <li>1) 対象者の紹介をうけ、人間関係を形成する。</li> <li>2) 対象者の発達段階、健康状態、日常生活を把握するために必要な情報を、インタビューや記録、フィジカルイグザミネーション、および看護の場面への参加を通して収集する。</li> <li>3) 収集した情報をヘンダーソンの14の項目に沿って整理・分析し、対象者の看護問題を抽出する。</li> <li>4) 抽出した看護問題から患者に必要な日常生活援助を導き出す。</li> <li>5) 得られた問題に対する日々の看護目標および実習目標を適切に設定する。</li> <li>6) 日々の看護目標を達成するためのケアの計画を立案する。</li> <li>7) 対象者が必要としている看護技術について気づき、対象者に応じた方法を検討する。</li> <li>8) 立案した看護計画および日々のケアの計画を、教員・臨地実習指導者の指導の下で実施する。</li> <li>9) 看護計画および実施したケアについて、指導教員の指導のもと、評価・修正する。</li> <li>10) 最終的に実習全体を通じた学びを振り返り、看護に対する自らの考えを述べる。</li> <li>11) 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習して実習の準備をする。</li> <li>12) 実習を行う上で必要な情報を積極的に求め、グループメンバーと共有し連携する。</li> <li>13) 臨地実習指導者・指導教員からの助言を適切にうけとめ、積極的に実習に生かす。</li> <li>14) 実施内容については臨地実習指導者・指導教員の指導を得てから行う。</li> <li>15) 観察・実施内容については、臨地実習指導者・指導教員に適切に報告を行う。</li> <li>16) 対象者の権利を尊重し、プライバシーの保護を行う。</li> <li>17) 看護職に必要な態度について看護職者の倫理綱領などに照らし合わせて自己の考えをまとめる。</li> </ol> </li> </ol> <p>※原則上記を予定しているが、学修の進捗や感染状況により実習内容および授業方法を変更することもある。</p>																
関連科目	看護学概論、看護対人関係論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント、看護過程論 人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、薬物治療学など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2							
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	

	3		
評価方法 (基準)	<p>レポート及び実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録、実習態度)を総合して評価する。          記録は最終的に提出された記録内容の評価だけではなく、日々の記録の記載状況等も評価の対象とする。          原則、実習期間は全日休まず実習に参加していることとする。          ※原則上記を予定しているが、感染状況により評価方法が変更となることもある。</p>		
学生への メッセージ	<p>初めて患者さんを受け持つ病院実習です。看護者として疾患をもつ対象者への関わりを通して、病態をふくめた個別性やその思い、必要な支援は何かについて考え、看護を実践できるようになりましょう。この実習で学んだこと、感じたことは、専門職者として大切な基盤の部分になると思います。</p>		
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、研究室3(山居)、共同研究室2(北村・佃)、共同研究室2(藤井)		
備考	<p>[実習場所]          星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属病院、関西電力病院</p>		

科目名	老年看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 千登勢・小川 宣子・西田 知代・村瀬 由貴
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2044a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 地域在住高齢者とのかかわりを通して、高齢者の理解を深める。</p> <p>【目的】 地域で暮らす高齢者とのかかわりを通して、高齢者の身体的・心理的・社会的変化や特徴を理解する。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の身体的特徴を理解できる。</li> <li>2. 地域で暮らす高齢者の「思い」を理解できる。</li> <li>3. 高齢者の地域での生活状況を理解できる。</li> <li>4. 老年看護のあり方について自己の考えをまとめることができる。</li> <li>5. 看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションで詳細を指示します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前の計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。</li> <li>2) 事前の情報をもとに、高齢者の特徴を事前に学習する。</li> </ol> <p>【実習計画】</p> <table border="1"> <tr> <td>1 日目</td> <td>地域</td> <td>地域で暮らす高齢者の生活の理解</td> </tr> <tr> <td>2 日目</td> <td>地域</td> <td>高齢者の集う地域活動に参加</td> </tr> <tr> <td>3 日目</td> <td>地域</td> <td>高齢者の集う地域活動に参加</td> </tr> <tr> <td>4 日目</td> <td>地域</td> <td>高齢者の集う地域活動に参加</td> </tr> <tr> <td>5 日目</td> <td>学内</td> <td>グループワーク・発表・個人面談</td> </tr> </table> <p>*状況によって日程や内容が変更になる可能性がある</p> <p>【事後の計画】 学習の振り返りを通じて、自己の看護観、高齢者観および今後の学生自身の課題を明確にする。</p>			1 日目	地域	地域で暮らす高齢者の生活の理解	2 日目	地域	高齢者の集う地域活動に参加	3 日目	地域	高齢者の集う地域活動に参加	4 日目	地域	高齢者の集う地域活動に参加	5 日目	学内	グループワーク・発表・個人面談	
1 日目	地域	地域で暮らす高齢者の生活の理解																	
2 日目	地域	高齢者の集う地域活動に参加																	
3 日目	地域	高齢者の集う地域活動に参加																	
4 日目	地域	高齢者の集う地域活動に参加																	
5 日目	学内	グループワーク・発表・個人面談																	
関連科目	老年看護学概論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座：老年看護学（電子教科書）</td> <td>北川公子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座：老年看護学（電子教科書）	北川公子	医学書院	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	系統看護学講座：老年看護学（電子教科書）	北川公子	医学書院																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価します。																		
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目で学んだ内容の確認をしてください。																		
担当者の研究室等	松田 千登勢 (7号館3階 研究室6) 小川 宣子 (7号館3階 研究室10) 村瀬 由貴 (7号館3階 研究室4) 西田 知代 (7号館3階 共同研究室2)																		
備考																			

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 千登勢・小川 宣子・西田 知代・村瀬 由貴
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2045a0		

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 施設で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者とその家族の理解を深めるとともに、個性に応じた日常生活の実際を知る。また、保健・医療・福祉チームの中での連携および看護の役割について学ぶ。</p> <p><b>【目的】</b> 施設で生活する高齢者・家族の身体・心理・社会的特徴を理解し、高齢者の生活を支える方法について考える力を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢に伴う身体・心理および社会的変化や生活背景・価値観を踏まえ、高齢者の生活状況を理解できる。</li> <li>2. 高齢者の個性に応じた日常生活援助が実施できる。</li> <li>3. 介護保険施設の特徴を踏まえ、看護師の役割について理解できる。</li> <li>4. 看護学生として、適切な態度で実習を行い、今後の自己の課題を明確にすることができる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を掲示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【事前の計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。</li> <li>2) 事前の情報をもとに、介護老人保健施設、高齢者の特徴を事前に学習する。</li> </ol> <p><b>【実習計画】</b></p> <p>1日目 実習施設 2日目 実習施設 3日目 実習施設 4日目 実習施設 5日目 学内 グループワーク・発表・個人面談</p> <p>*状況によって日程、内容が変更になります。</p> <p><b>【事後の計画】</b> 認知症高齢者等についての学習を追加する</p>																
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座：老年看護学（電子教科書）</td> <td>北川公子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座：老年看護学（電子教科書）	北川公子	医学書院	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	系統看護学講座：老年看護学（電子教科書）	北川公子	医学書院														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価表を用いて評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ老年看護学概論で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	松田 千登勢 (7号館3階 研究室6) 小川 宣子 (7号館3階 研究室10) 村瀬 由貴 (7号館3階 研究室4) 西田 知代 (7号館3階 共同研究室2)																
備考																	

科目名	老年看護学実習Ⅲ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	松田 千登勢・小川 宣子・西田 知代・村瀬 由貴
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3046a0		

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 疾患や障がいを持ち、治療を受けている高齢者の健康を回復・維持する過程における看護上の課題に対して、身体的・心理的・社会的側面からのアセスメントを行い、看護する方法を学ぶ。また、ケアにおいては老年看護に必要な基礎知識・技術を活用し、看護師として必要な倫理的態度を養う。</p> <p><b>【目的】</b> 入院治療を必要とする高齢者を総合的に理解し、その人らしい生活が退院後もできるよう対象者のニーズに合わせた看護を実践する能力を養う。</p>																																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢に伴う変化や、高齢者に生じやすい健康問題から高齢者を総合的に理解できる。</li> <li>2. 疾病や障がいをもつ高齢者の身体的・心理的・社会的機能をアセスメントし、健康上の課題を明確にすることができる。</li> <li>3. 健康問題を持つ高齢者の特性・個性性を考慮した看護計画が立案できる。</li> <li>4. 高齢者の状態に適した看護援助を実践し、評価・修正することができる。</li> <li>5. 高齢者の人権と権利を擁護する態度を身につけることができる。</li> <li>6. 適切な態度で実習に臨むことができる。</li> <li>7. 実習を通して、高齢者観や看護の役割について、自分の考えを深めることができる。</li> </ol>																																										
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																																										
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【事前の計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。</li> <li>2) 事前の情報をもとに、よく見られる高齢者の疾患の特徴を事前に学習する。</li> </ol> <p><b>【実習計画】</b></p> <p>1週目</p> <table border="1"> <tr> <td>月曜日</td> <td>実習施設</td> <td>実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>火曜日</td> <td>実習施設</td> <td>実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水曜日</td> <td>実習施設</td> <td>実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>木曜日</td> <td>学内</td> <td>対象理解のための記録整理</td> <td>看護の方向性の明確化</td> </tr> <tr> <td>金曜日</td> <td>実習施設</td> <td>実習</td> <td></td> </tr> </table> <p>2週目</p> <table border="1"> <tr> <td>月曜日</td> <td>実習施設</td> <td>実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>火曜日</td> <td>実習施設</td> <td>実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水曜日</td> <td>実習施設</td> <td>実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>木曜日</td> <td>学内</td> <td>計画修正 倫理カンファレンス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金曜日</td> <td>学内</td> <td>ケーススタディ発表</td> <td>記録整理・面談</td> </tr> </table> <p>*状況によって日程、内容が変更になります。</p> <p><b>【事後の計画】</b> 学習の振り返りを通じて、老年看護学の役割および今後の学生自身の課題を明確にする。</p>			月曜日	実習施設	実習		火曜日	実習施設	実習		水曜日	実習施設	実習		木曜日	学内	対象理解のための記録整理	看護の方向性の明確化	金曜日	実習施設	実習		月曜日	実習施設	実習		火曜日	実習施設	実習		水曜日	実習施設	実習		木曜日	学内	計画修正 倫理カンファレンス		金曜日	学内	ケーススタディ発表	記録整理・面談
月曜日	実習施設	実習																																									
火曜日	実習施設	実習																																									
水曜日	実習施設	実習																																									
木曜日	学内	対象理解のための記録整理	看護の方向性の明確化																																								
金曜日	実習施設	実習																																									
月曜日	実習施設	実習																																									
火曜日	実習施設	実習																																									
水曜日	実習施設	実習																																									
木曜日	学内	計画修正 倫理カンファレンス																																									
金曜日	学内	ケーススタディ発表	記録整理・面談																																								
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ																																										
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座：老年看護学</td> <td>北川公子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>老年看護学課程</td> <td>山田律子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座：老年看護学	北川公子	医学書院	2	老年看護学課程	山田律子	医学書院	3																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																								
1	系統看護学講座：老年看護学	北川公子	医学書院																																								
2	老年看護学課程	山田律子	医学書院																																								
3																																											
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																								
1																																											
2																																											
3																																											
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価表を用いて評価します。																																										
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。																																										
担当者の研究室等	松田 千登勢 (7号館3階 研究室6) 小川 宣子 (7号館3階 研究室10) 村瀬 由貴 (7号館3階 研究室4) 西田 知代 (7号館3階 共同研究室2)																																										
備考																																											

科目名	精神看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Psychiatric and Mental Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	眞野 祥子, 古川 圭子, 山本 智津子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN3058a0		

授業概要・目的	<p>精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、疾病・治療論Ⅵでの学習をもとに、精神疾患を持つ人とのかかわりを通し、精神看護について学ぶ。具体的には、精神に障害を持つ人および家族について理解し、人間性を尊重したかかわりを通して、健康段階やその変化に応じた基礎的知識、技術およびコミュニケーション能力を養う。</p> <p><b>【目的】</b> 精神に障害を持つ人と看護師との関係について学ぶとともに、その人の全体像を把握し、病気やセルフケア能力の回復過程に沿った援助に必要な看護実践能力を修得する。また、精神医療の現状を理解する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。</li> <li>・受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。</li> <li>・精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p><b>【実習期間】</b> 2024年10月～2025年6月の2週間</p> <p><b>【実習内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神に障害を持つ人と、患者-看護師関係の成立を目的としたコミュニケーションを図る。</li> <li>2. 看護場面を選択して、プロセスレコードを記載し、自己のコミュニケーションパターンと患者の気持ちの理解の振り返りを行う。</li> <li>3. 地域における精神科医療の現状を学ぶ。</li> <li>4. 精神障害者の権利擁護について考察する。</li> </ol> <p><b>【事前学習課題】</b> 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学習した知識と技術を活用できるように復習をしておくこと</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 患者との関わりにおいて、感じたことや考えたことを振り返ることができる。</li> <li>(2) 毎日の看護活動における患者-看護師関係を振り返ることによって、自らの対人関係の傾向に気づくことができる。</li> <li>(3) 対人援助技術を意図的に活用することができる。</li> <li>(4) 患者-看護師関係を振り返ることによって、患者と共働してきたことを意味づけすることができる。</li> </ol> </li> <li>2) 受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) セルフケアモデルによる看護の展開に必要な情報を収集することができる。</li> <li>(2) 精神機能の障害とその症状をアセスメントすることができる。</li> <li>(3) 生育歴、病歴、現在の疾患、精神・身体症状、社会的状況、治療が、患者のセルフケア能力に影響を及ぼしていることがわかり、普遍的セルフケア不足をアセスメントし、看護上の問題を明らかにすることができる。</li> <li>(4) 過去および現在のセルフケア能力、その回復と開発の可能性をアセスメントすることができる。</li> <li>(5) 患者とともに達成可能な目標を設定することができる。</li> <li>(6) 目標達成に向けた看護計画を立案することができる。</li> <li>(7) 看護計画を実施することができる。</li> <li>(8) 看護計画に基づいた実践を評価し、修正することができる。</li> </ol> </li> <li>3) 精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 精神医療チームにおける看護の役割・機能と独自性を理解することができる。</li> <li>(2) 精神医療チームにおける各職種の役割を理解することができる。</li> <li>(3) 精神医療チーム間の連携について理解することができる。</li> <li>(4) 精神医療における精神障害者の権利擁護について理解することができる。</li> <li>(5) 患者の退院に必要な社会資源を理解することができる。</li> </ol> </li> </ol>																
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、疾病・治療論Ⅵ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健</td> <td>岩崎弥生</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害を持つ人の看護</td> <td>岩崎弥生</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健	岩崎弥生	メヂカルフレンド社	2	新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害を持つ人の看護	岩崎弥生	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健	岩崎弥生	メヂカルフレンド社														
2	新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害を持つ人の看護	岩崎弥生	メヂカルフレンド社														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、レポートを総合して評価する。																
学生へのメッセージ	授業で学んだ知識と技術を臨床で生かしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本智)、共同研究室2(古川)																
備考	<b>【実習場所】</b> ハートランドしぎさん、大阪精神医療センター																



科目名	精神看護学実習	科目名(英文)	Clinical Practice in Psychiatric and Mental Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	眞野 祥子, 古川 圭子, 山本 智津子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN3058a0		

授業概要・目的	<p>精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、疾病・治療論Ⅵでの学習をもとに、精神疾患を持つ人とのかかわりを通し、精神看護について学ぶ。具体的には、精神に障害を持つ人および家族について理解し、人間性を尊重したかかわりを通して、健康段階やその変化に応じた基礎的知識、技術およびコミュニケーション能力を養う。</p> <p><b>【目的】</b> 精神に障害を持つ人と看護師との関係について学ぶとともに、その人の全体像を把握し、病気やセルフケア能力の回復過程に沿った援助に必要な看護実践能力を修得する。また、精神医療の現状を理解する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。</li> <li>・受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。</li> <li>・精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p><b>【実習期間】</b> 2024年10月～2025年6月の2週間</p> <p><b>【実習内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神に障害を持つ人と、患者-看護師関係の成立を目的としたコミュニケーションを図る。</li> <li>2. 看護場面を選択して、プロセスレコードを記載し、自己のコミュニケーションパターンと患者の気持ちの理解の振り返りを行う。</li> <li>3. 地域における精神科医療の現状を学ぶ。</li> <li>4. 精神障害者の権利擁護について考察する。</li> </ol> <p><b>【事前学習課題】</b> 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学習した知識と技術を活用できるように復習をしておくこと</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 患者との関わりにおいて、感じたことや考えたことを振り返ることができる。</li> <li>(2) 毎日の看護活動における患者-看護師関係を振り返ることによって、自らの対人関係の傾向に気づくことができる。</li> <li>(3) 対人援助技術を意図的に活用することができる。</li> <li>(4) 患者-看護師関係を振り返ることによって、患者と共働してきたことを意味づけすることができる。</li> </ol> </li> <li>2) 受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) セルフケアモデルによる看護の展開に必要な情報を収集することができる。</li> <li>(2) 精神機能の障害とその症状をアセスメントすることができる。</li> <li>(3) 生育歴、病歴、現在の疾患、精神・身体症状、社会的状況、治療が、患者のセルフケア能力に影響を及ぼしていることがわかり、普遍的セルフケア不足をアセスメントし、看護上の問題を明らかにすることができる。</li> <li>(4) 過去および現在のセルフケア能力、その回復と開発の可能性をアセスメントすることができる。</li> <li>(5) 患者とともに達成可能な目標を設定することができる。</li> <li>(6) 目標達成に向けた看護計画を立案することができる。</li> <li>(7) 看護計画を実施することができる。</li> <li>(8) 看護計画に基づいた実践を評価し、修正することができる。</li> </ol> </li> <li>3) 精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 精神医療チームにおける看護の役割・機能と独自性を理解することができる。</li> <li>(2) 精神医療チームにおける各職種の役割を理解することができる。</li> <li>(3) 精神医療チーム間の連携について理解することができる。</li> <li>(4) 精神医療における精神障害者の権利擁護について理解することができる。</li> <li>(5) 患者の退院に必要な社会資源を理解することができる。</li> </ol> </li> </ol>																
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、疾病・治療論Ⅵ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健</td> <td>岩崎弥生</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害を持つ人の看護</td> <td>岩崎弥生</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健	岩崎弥生	メヂカルフレンド社	2	新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害を持つ人の看護	岩崎弥生	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健	岩崎弥生	メヂカルフレンド社														
2	新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害を持つ人の看護	岩崎弥生	メヂカルフレンド社														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、レポートを総合して評価する。																
学生へのメッセージ	授業で学んだ知識と技術を臨床で生かしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本智)、共同研究室2(古川)																
備考	<b>【実習場所】</b> ハートランドしぎさん、大阪精神医療センター																